

平成30年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査
(令和元年度調査)

(4) 訪問看護サービス及び看護小規模多機能型居宅介護サービスの
提供の在り方に関する調査研究事業

報 告 書 (案)

訪問看護サービス及び看護小規模多機能型居宅介護サービス
の提供の在り方に関する調査研究事業 報告書

■ 目 次 ■

調査検討組織設置要綱

調査概要

第1章 調査実施概要.....	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 事業実施方法.....	1
第2章 回収結果.....	4
第3章 訪問看護調査の結果の詳細.....	5
第1節 訪問看護ステーション票と病院・診療所票.....	5
1. 基本情報.....	5
(1) 事業所.....	5
(2) 職員体制.....	14
(3) 算定・経営状況.....	19
(4) 利用者数と訪問状況.....	22
2. 加算等の算定状況.....	29
(1) 緊急時訪問看護加算など各種加算.....	29
(2) 同一建物等減算.....	33
(3) 退院後の訪問状況や退院時共同指導加算.....	34
(4) 退院当日の訪問看護.....	39
(5) 看護体制強化加算.....	48
(6) 24時間体制の整備状況.....	54
3. サービス提供等の状況.....	56
(1) 利用終了者・人生の最終段階における医療ケア.....	56
(2) 理学療法士、作業療法又は言語聴覚士による訪問看護.....	64
(3) 介護保険の利用者の情報提供.....	68
4. 業務の課題や改善.....	74
5. 地域での取組み等.....	77
6. 自由回答.....	83
(1) 訪問看護事業所を運営する上で負担になっている基準や仕組み.....	83
(2) 訪問看護の仕組みや報酬で改善してほしいこと.....	84
第2節 訪問看護 利用者調査票.....	87
1. 対象者の抽出理由.....	87
2. 要介護者.....	88
(1) 利用者の基本情報.....	88

(2) 訪問看護の提供状況	102
3. 要支援者	123
(1) 利用者の基本情報	123
(2) 訪問看護の提供状況	138
4. 死亡者	160
(1) 利用者の基本情報	160
(2) 訪問看護の提供状況	174
(3) 死亡に関する事項	196
第4章 看護小規模多機能型居宅介護事業所調査の結果の詳細	208
第1節 看護小規模多機能型居宅介護事業所票	208
1. 基本情報	208
(1) 事業所	208
(2) サテライト型事業所	213
(3) 職員体制	215
(4) 事業概要	216
2. 加算等の算定状況	223
3. サービス提供等の状況	227
(1) 利用者	227
(2) 看護業務の一環としてのリハビリテーション	231
(3) 利用終了者・人生の最終段階における医療ケア	233
(4) 短期利用	238
(5) 通いの人数の上限を超えた受入	240
(6) 訪問入浴の利用について	242
(7) 主治医・ケアマネジャーとの連携	244
4. 業務の課題や改善	246
第2節 看護小規模多機能居宅介護事業所 利用者調査票	251
1. 対象者の抽出理由	251
2. 共通項目	252
(1) 利用者の基本情報	252
(2) 事業所の利用状況・経緯	267
(3) サービスの利用状況	273
3. 退院直後の利用者	280
(1) 退院直後の利用状況	280
4. 看取りを行った利用者	296
(1) 看取りを行った利用者の利用状況	296
調査票	
結果概要	

訪問看護サービス及び看護小規模多機能型居宅介護サービスの提供の
在り方に関する調査研究事業の調査検討組織 設置要綱

1. 設置目的

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社は訪問看護サービス及び看護小規模多機能型居宅介護サービスの提供の在り方に関する調査研究事業の調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計、分析、検証、報告書の作成等の検討を行うため、以下のとおり訪問看護サービス及び看護小規模多機能型居宅介護サービスの提供の在り方に関する調査研究事業の調査検討組織（以下、「調査検討組織」という。）を設置する。

2. 実施体制

- (1) 本調査検討組織は、福井小紀子氏を委員長とし、その他の委員は以下のとおりとする。
- (2) 委員長が必要があると認めるときは、本調査検討組織において、関係者から意見を聴くことができる。

3. 調査検討組織の運営

- (1) 調査検討組織の運営は、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社が行う。
- (2) 前号に定めるもののほか、本調査検討組織の運営に関する事項その他必要な事項については、本調査検討組織が定める。

訪問看護サービス及び看護小規模多機能型居宅介護サービスの提供の在り方に関する調査研究事業の調査検討組織 委員等

委員長	福井 小紀子（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 地域包括ケア学・老年看護学研究室 教授）
副委員長	井上 由起子（日本社会事業大学専門職大学院 教授）
委員	市橋 正子（医療法人思葉会 MEIN HAUS 所長 緩和ケア認定看護師・症状緩和モデル特定看護師）
	上野 桂子（一般社団法人 全国訪問看護事業協会 副会長）
	江澤 和彦（公益社団法人 日本医師会 常任理事）
	小菅 紀子（医療法人財団 健和会 訪問看護ステーション 看護小規模多機能型居宅介護まいほ一む 統括所長）
	清水 準一（東京医療保健大学 千葉看護学部 教授）

（敬称略、五十音順）

【オブザーバー】

- 厚生労働省 老健局 老人保健課 介護保険データ分析室長 北原 加奈子
- 厚生労働省 老健局 老人保健課 看護専門官 杉田 塩
- 厚生労働省 老健局 老人保健課 看護係長 大竹 尊典

(4) 訪問看護サービス及び看護小規模多機能型居宅介護サービスの提供の在り方に関する調査研究事業

1 調査目的

平成30年度介護報酬改定においては、訪問看護サービスの中重度の要介護者の医療ニーズへの対応を強化する観点から24時間対応可能な事業所を評価したほか、利用者が希望する場所での看取りを支援するためターミナルケアを提供している事業所の評価を行った。また要支援者と要介護者に対する訪問看護費に一定の報酬差を設けるとともに、理学療法士等による訪問の適正化を行った。看護小規模多機能型居宅介護についても同様に、中重度の医療ニーズを有する利用者に対応できる体制やターミナルケアの充実等の評価を行った。

本事業では、これらの見直しが両サービスの提供にどのような影響を与えたかについて提供実態と共に把握し、次期介護報酬改定に向け、サービスの質を担保しながら効果的・効率的な事業運営の在り方の検討に資する基礎資料を得るための調査を行う。

2 調査対象

訪問看護ステーション【事業所調査、利用者調査】

訪問看護を実施している病院・診療所【事業所調査、利用者調査】

看護小規模多機能型居宅介護事業所【事業所調査、利用者調査】

3 調査の実施方法

調査紙を用いた郵送調査

4 調査項目

(1) 事業所票

基本情報、加算等の算定状況、24時間体制の整備状況、ターミナルケアの取組状況、理学療法士等による訪問看護の状況、介護支援専門員や医療機関への情報提供の状況、業務の課題や改善の取組、地域での取組等

(2) 利用者票

基本情報、サービスの提供状況（訪問回数、提供したケア、効果等）、理学療法士等との連携状況、ターミナルケアの取組状況等

第1章 調査実施概要

(1) 調査の目的

平成30年度介護報酬改定においては、訪問看護サービスの中重度の要介護者の医療ニーズへの対応を強化する観点から24時間対応可能な事業所を評価したほか、利用者が希望する場所での看取りを支援するためターミナルケアを提供している事業所の評価を行った。また要支援者と要介護者に対する訪問看護費に一定の報酬差を設けるとともに加え、理学療法士等による訪問の適正化を行った。看護小規模多機能型居宅介護についても同様に、中重度の医療ニーズを有する利用者に対応できる体制やターミナルケアの充実等の評価を行った。

本事業では、これらの見直しが両サービスの提供にどのような影響を与えたかについて提供実態と共に把握し、次期介護報酬改定に向け、サービスの質を担保しながら効果的・効率的な事業運営の在り方の検討に資する基礎資料を得るための調査を行うものである。

そこで、訪問看護ステーション、訪問看護を実施している病院・診療所、看護小規模多機能型居宅介護事業所を対象とする調査を行い、以下の点を明らかにすることを目的とする。

- 訪問看護ステーション、訪問看護を実施している病院・診療所及び看護小規模多機能型居宅介護におけるサービス提供状況等を把握し、平成30年度介護報酬改定による影響や課題等を検証
- 訪問看護と看護小規模多機能型居宅介護の両サービスにおける利用者の状態像も合わせて収集し、サービス内容を分析することで提供主体の特性（加算算定状況等）を活かした地域におけるサービス提供のあり方等を検証

(2) 事業実施方法

① 調査検討組織の設置と開催状況

訪問看護サービス及び看護小規模多機能型居宅介護サービスの提供の在り方に関する調査研究事業の調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計、分析、検証、報告書の作成等の検討を行うため、以下のとおり訪問看護サービス及び看護小規模多機能型居宅介護サービスの提供の在り方に関する調査研究事業の調査検討組織（以下、「調査検討組織」という。）を設置した。

調査検討組織の運営は、三菱UFJリサーチ&コンサルティングが行った。

1) 構成委員

○委員長

福井 小紀子（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 地域包括ケア学・老年看護学研究室 教授）

○副委員長

井上 由起子（日本社会事業大学専門職大学院 教授）

○委員（五十音順、敬称略）

市橋 正子（医療法人思葉会 MEIN HAUS 所長 緩和ケア認定看護師・症状緩和モデル特定看護師）

上野 桂子（一般社団法人 全国訪問看護事業協会 副会長）

江澤 和彦（公益社団法人 日本医師会 常任理事）

小菅 紀子（医療法人財団 健和会 訪問看護ステーション 看護小規模多機能型居宅介護まいほーむ 統括所長）

清水 準一（東京医療保健大学 千葉看護学部 教授）

○オブザーバー

厚生労働省 老健局 老人保健課 介護保険データ分析室長 北原 加奈子

厚生労働省 老健局 老人保健課 看護専門官 杉田 塩

厚生労働省 老健局 老人保健課 看護係長 大竹 尊典

2) 開催状況

<第1回>

○日時：令和元年7月5日

○場所：ベルサール八重洲 3階 Room6

○議題：

- ・事業の概要について
- ・調査票素案について
- ・その他

<第2回>

○日時：令和2年2月17日

○場所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング 中会議室

○議題：

- ・調査結果について
- ・その他

② アンケート調査実施概要

1) 調査対象

対象は、次のとおりとした。

①全国の訪問看護ステーションから（被災地を除き）無作為に抽出した 2,500 事業所

②全国の介護保険による訪問看護を実施している病院・診療所から（被災地を除き）無作為に抽出した 750 事業所

③上記①、②の対象事業所の利用者から次の条件で抽出。

1)要介護の利用者から①は約 30 分の 1（誕生日が 2 日の人全員）、②は約 20%（誕生日が 1 日～6 日の人全員）の抽出率

2)要支援の利用者から①は約 30 分の 1（誕生日が 2 日の人全員）、②は約 50%（誕生日が 11 日～25 日の人全員）の抽出率

3)訪問看護の利用者（40 歳以上に限る）で、①は令和元年 9 月 1 日～30 日に死亡した人全員、②令和元年 8 月 1 日～9 月 30 日に死亡した人全員（ただし、精神科訪問看護の対象は除く）

④全国の看護小規模多機能型居宅事業所全数（被災地を除く）、537 事業所

⑤上記④の事業所の利用者から次の条件で抽出

1)要介護の利用者から約 15 分の 1（誕生日が 2 日、28 日の全員）の抽出率

2)令和元年 6 月～8 月に病院または有床診療所を退院した直後に利用を開始した人全員

3) 令和元年 6 月～9 月の死亡者（在宅または事業所内で死亡した人、または、ターミナルケアを行った後 24 時間以内に在宅又は事業所以外の場所で死亡した人に限る）全員

2) 調査期間

令和元年 10 月 31 日～令和元年 11 月 25 日

ただし、回収状況を勘案し、①～③は 12 月 26 日、④と⑤は 1 月 6 日、回収分までを有効票として取り扱った。

3) 主な調査項目

- ・訪問看護ステーション、訪問看護を実施している病院・診療所、看護小規模多機能型居宅介護事業所の基本情報
- ・①②は、介護保険による訪問看護の加算等の算定回答数等、24 時間体制の整備状況、利用終了者等について、リハビリ職による訪問看護について（①のみ）、介護保険の利用者の情報提供、訪問看護事業所の業務の課題や改善に関する取組、地域での取組み
- ・③は、利用者の基本情報や心身の状況、訪問看護の提供状況
- ・④は、加算・減算算定状況、サービス提供等の状況、短期利用、その他の事項、事業所の業務の課題や改善
- ・⑤は、利用者の基本情報、事業所の利用状況や経緯、サービスの利用状況

第2章 回収結果

図表 2-1 回収状況

調査票名	母集団 (事業所)	発出数 (件)	回収数 (件)	回収率	有効回収 数 (件)	有効 回収率
訪問看護ステーション (事業所票)	10,273	2,500	1,391	55.6%	1,297	51.9%
訪問看護実施病院・ 診療所票 (事業所票)	1,470	750	307	40.9%	272	36.3%
訪問看護ステーション (利用者票)	-	-	2,610	-	2,610	-
訪問看護実施病院・ 診療所 (利用者票)	-	-	610	-	610	-
看護小規模多機能型居宅 介護 (事業所票)	554	537	241	44.9%	236	43.9%
看護小規模多機能型居宅 介護 (利用者票)	-	-	559	-	559	-

※利用者調査は、事業所ごとに対象数が異なり、確定できないため、回収率等は記載していない。

※事業所票では、「白紙」「調査辞退」「期限遅れでの回収」等を無効票とした。

【表記上の基準】

- ・回答事業所数を、回答数と表記した。
- ・複数回答は、(複数回答)と表記した。
- ・数量回答の回答数等は、無回答を除いている。
- ・比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのためパーセントの合計が100にならないことがある。

第3章 訪問看護調査の結果の詳細

第1節 訪問看護ステーション票と病院・診療所票

1. 基本情報

(1) 事業所

① 所在地

回答した訪問看護ステーションの所在地は、「大阪府」が9.8%、「東京都」が9.5%、「神奈川県」が7.1%であった。

図表 3-1-1 【訪問看護ステーション】所在地

都道府県名	発送数	有効回収数	有効回収率	構成比
北海道	112	63	56.3%	4.9%
青森県	26	11	42.3%	0.8%
岩手県	21	8	38.1%	0.6%
宮城県	35	21	60.0%	1.6%
秋田県	17	9	52.9%	0.7%
山形県	14	7	50.0%	0.5%
福島県	30	13	43.3%	1.0%
茨城県	40	16	40.0%	1.2%
栃木県	23	13	56.5%	1.0%
群馬県	50	22	44.0%	1.7%
埼玉県	95	45	47.4%	3.5%
千葉県	39	19	48.7%	1.5%
東京都	267	123	46.1%	9.5%
神奈川県	159	92	57.9%	7.1%
新潟県	28	21	75.0%	1.6%
富山県	15	9	60.0%	0.7%
石川県	27	12	44.4%	0.9%
福井県	18	13	72.2%	1.0%
山梨県	14	11	78.6%	0.8%
長野県	41	21	51.2%	1.6%
岐阜県	49	24	49.0%	1.9%
静岡県	51	33	64.7%	2.5%
愛知県	154	72	46.8%	5.6%
三重県	36	22	61.1%	1.7%
滋賀県	30	17	56.7%	1.3%
京都府	55	34	61.8%	2.6%

1. 基本情報

(続き)

大阪府	270	127	47.0%	9.8%
兵庫県	137	73	53.3%	5.6%
奈良県	33	24	72.7%	1.9%
和歌山県	30	16	53.3%	1.2%
鳥取県	14	6	42.9%	0.5%
島根県	23	11	47.8%	0.8%
岡山県	37	13	35.1%	1.0%
広島県	63	40	63.5%	3.1%
山口県	29	15	51.7%	1.2%
徳島県	21	9	42.9%	0.7%
香川県	26	14	53.8%	1.1%
愛媛県	34	22	64.7%	1.7%
高知県	14	6	42.9%	0.5%
福岡県	124	67	54.0%	5.2%
佐賀県	0	0	—	0.0%
長崎県	26	16	61.5%	1.2%
熊本県	57	32	56.1%	2.5%
大分県	29	8	27.6%	0.6%
宮崎県	24	14	58.3%	1.1%
鹿児島県	38	17	44.7%	1.3%
沖縄県	25	16	64.0%	1.2%
全体	2,500	1,297	64.9%	100.0%

回答した病院・診療所の所在地は、「大阪府」が5.9%、「北海道」が5.5%、「福岡県」が5.1%であった。

図表 3-1-2 【病院・診療所】所在地

都道府県名	発送数	有効回収数	有効回収率	構成比
北海道	42	15	35.7%	5.5%
青森県	11	7	63.6%	2.6%
岩手県	6	1	16.7%	0.4%
宮城県	9	4	44.4%	1.5%
秋田県	5	3	60.0%	1.1%
山形県	7	3	42.9%	1.1%
福島県	12	5	41.7%	1.8%
茨城県	10	3	30.0%	1.1%
栃木県	5	3	60.0%	1.1%
群馬県	10	5	50.0%	1.8%
埼玉県	19	2	10.5%	0.7%
千葉県	11	4	36.4%	1.5%
東京都	37	11	29.7%	4.0%
神奈川県	41	13	31.7%	4.8%
新潟県	10	3	30.0%	1.1%
富山県	6	2	33.3%	0.7%

第3章 訪問看護調査の結果の詳細
第1節 訪問看護ステーション票と病院・診療所票

(続き)

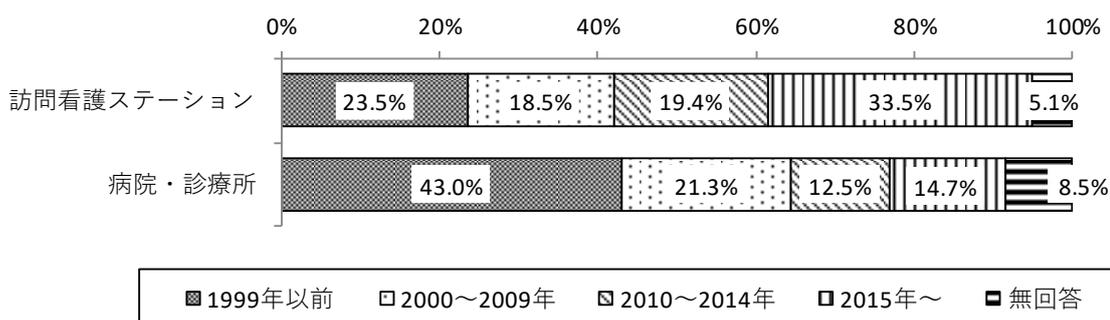
石川県	12	3	25.0%	1.1%
福井県	7	4	57.1%	1.5%
山梨県	3	1	33.3%	0.4%
長野県	16	7	43.8%	2.6%
岐阜県	24	13	54.2%	4.8%
静岡県	8	0	0.0%	0.0%
愛知県	30	6	20.0%	2.2%
三重県	6	2	33.3%	0.7%
滋賀県	8	3	37.5%	1.1%
京都府	25	10	40.0%	3.7%
大阪府	76	16	21.1%	5.9%
兵庫県	37	12	32.4%	4.4%
奈良県	10	7	70.0%	2.6%
和歌山県	9	4	44.4%	1.5%
鳥取県	3	2	66.7%	0.7%
島根県	9	7	77.8%	2.6%
岡山県	23	9	39.1%	3.3%
広島県	21	9	42.9%	3.3%
山口県	17	8	47.1%	2.9%
徳島県	14	3	21.4%	1.1%
香川県	11	4	36.4%	1.5%
愛媛県	11	6	54.5%	2.2%
高知県	6	3	50.0%	1.1%
福岡県	36	14	38.9%	5.1%
佐賀県	0	0	-	0.0%
長崎県	13	6	46.2%	2.2%
熊本県	15	7	46.7%	2.6%
大分県	11	6	54.5%	2.2%
宮崎県	14	2	14.3%	0.7%
鹿児島県	23	10	43.5%	3.7%
沖縄県	11	4	36.4%	1.5%
全体	750	272	36.3%	100.0%

1. 基本情報

② 開設年

開設年について、訪問看護ステーションでは、「2015年以降」が33.5%、「1999年以前」が23.5%、病院・診療所では、「1999年以前」が43.0%、「2000～2009年」が21.3%であった。

図表 3-1-3 【訪問看護ステーション】開設年
(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)



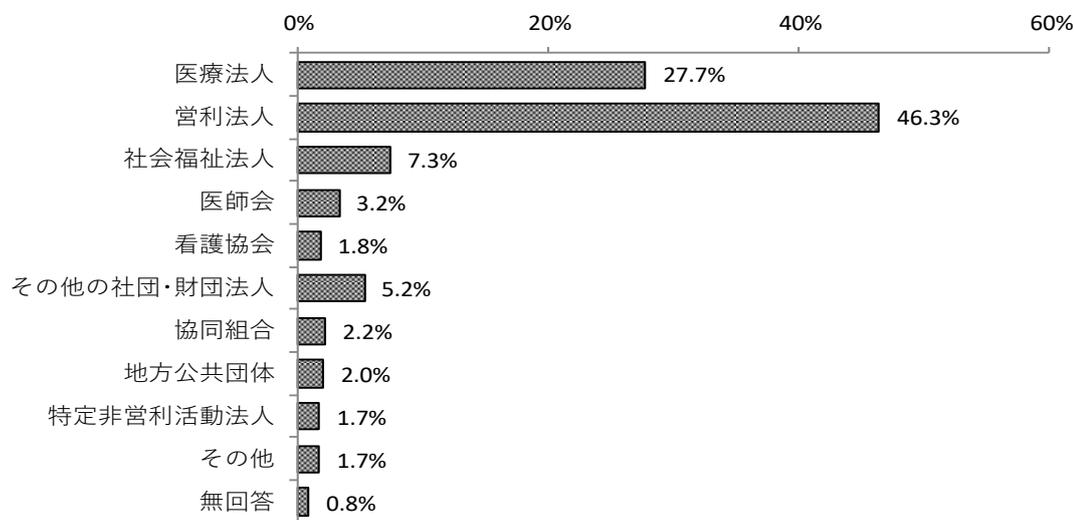
③ 開設主体

開設主体について、訪問看護ステーションでは、「営利法人」が46.3%、「医療法人」が27.7%、「社会福祉法人」が7.3%であった。

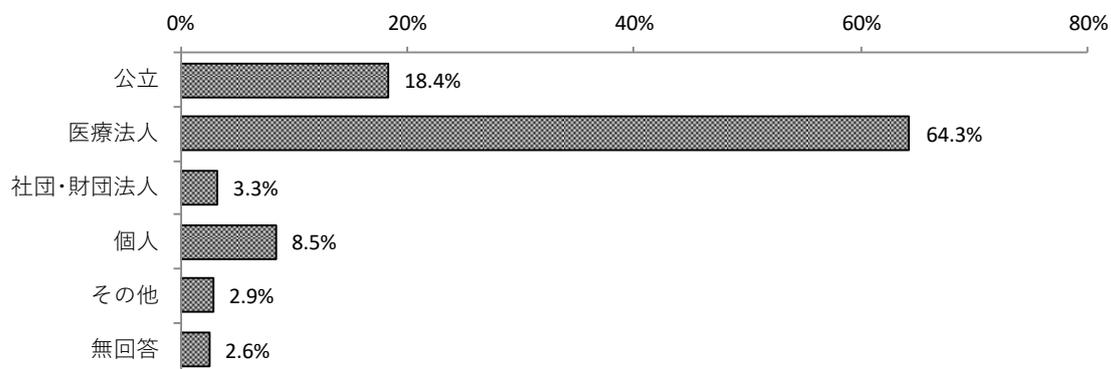
病院・診療所では、「医療法人」が64.3%、「公立」が18.4%、「個人」が8.5%であった。

母集団の事業所と比較して、特に差は認められず、本調査の客体の代表性について確認された。

図表 3-1-4 【訪問看護ステーション】開設主体 (回答数=1,297)



図表 3-1-5 【病院・診療所】開設主体（回答数=272）



参考図表 【訪問看護ステーション】母集団の開設主体（n=10,273）

合計	医療法人	営利法人	社会福祉法人	社団・財団法人	協同組合	地方公共団体	特定非営利活動法人	その他
10,273	2570	5437	654	787	246	188	153	238
100.0%	25.0%	52.9%	6.4%	7.7%	2.4%	1.8%	1.5%	2.3%

参考図表 【病院・診療所】母集団の開設主体（n=1,470）

合計	地方公共団体	医療法人	社団・財団法人	個人	その他
1,470	163	951	32	115	209
100.0%	11.1%	64.7%	2.2%	7.8%	14.2%

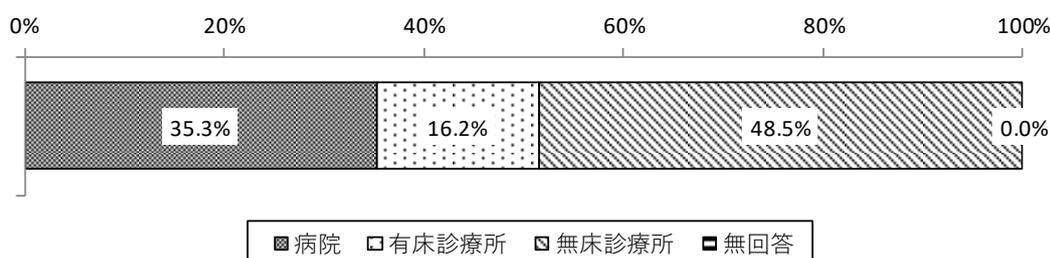
1. 基本情報

④ 施設の形態

病院・診療所の施設の形態について、「病院」が 35.3%、「有床診療所」が 16.2%、「無床診療所」が 48.5%であった。

病床数について、病院・診療所では平均は 160.5 床、中央値は 120.0 床であった。有床診療所の病床数については、平均は 15.8 床、中央値は 19.0 床であった。

図表 3-1-6 【病院・診療所】施設の形態（回答数=272）



図表 3-1-7 【病院・診療所】病床数（回答数=136）

単位：床

	回答数	平均	標準偏差	中央値
病院	93	160.5	126.4	120.0
有床診療所	43	15.8	5.1	19.0

⑤ 管理者の訪問看護事業所管理者としての経験年数

管理者としての経験年数について、訪問看護ステーションでは平均は5.7年、中央値は3.4年であった。

図表 3-1-8 【訪問看護ステーション】管理者の訪問看護事業所管理者としての経験年数

単位：年

	回答数	平均	標準偏差	中央値
経験年数	1,168	5.7	5.7	3.4

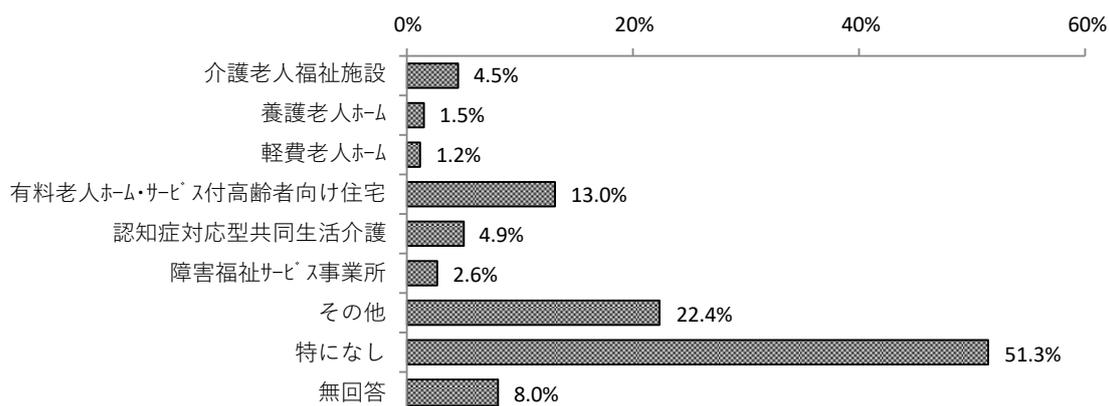
⑥ 同一敷地内または隣接、道を隔て立地している施設・事業所

同一敷地内または隣接、道を隔て立地している施設・事業所について、訪問看護ステーションでは、「有料老人ホーム・サービス付高齢者向け住宅」が13.0%、「認知症対応型共同生活介護」が4.9%、「介護老人福祉施設」が4.5%であった。

病院・診療所では、「有料老人ホーム・サービス付高齢者向け住宅」が12.9%、「認知症対応型共同生活介護」が5.1%であった。

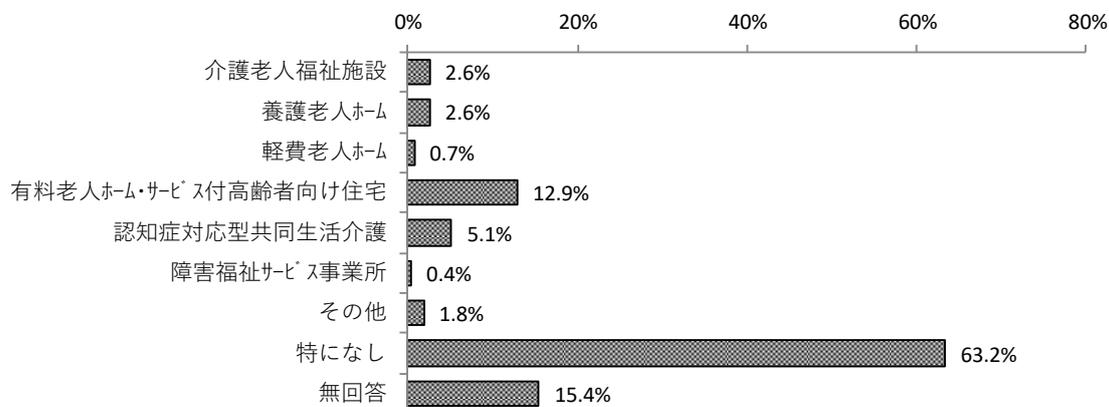
図表 3-1-9 【訪問看護ステーション】同一敷地内・隣接等の施設・事業所

(回答数=1,297、複数回答)



1. 基本情報

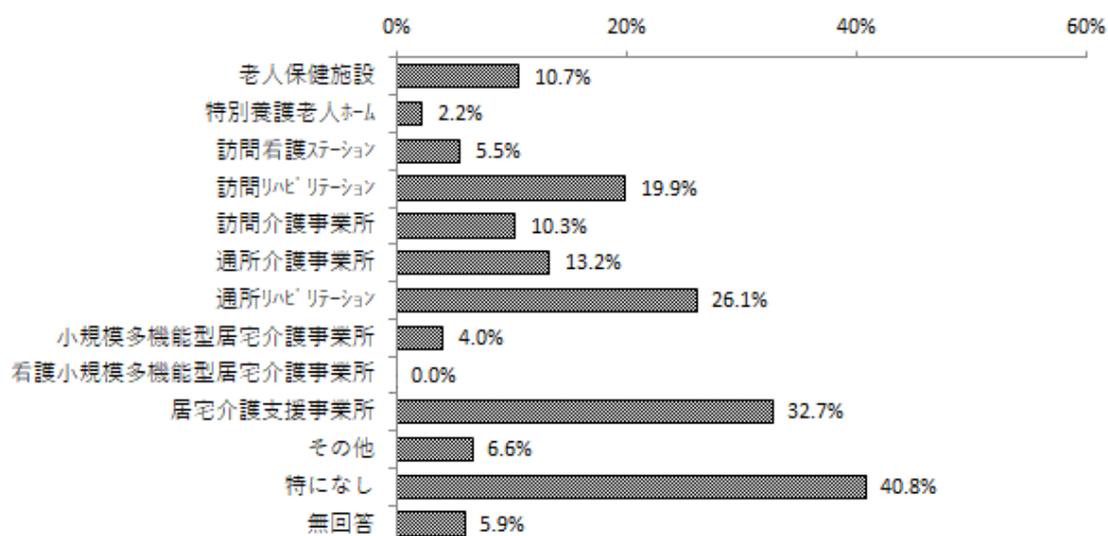
図表 3-1-10 【病院・診療所】同一敷地内・隣接等の施設・事業所（回答数=272、複数回答）



⑦ 医療機関と併設している医療・介護施設・事業所

医療機関と併設している医療・介護施設・事業所について、病院・診療所では、「居宅介護支援事業所」が 32.7%、「通所リハビリテーション」が 26.1%、「訪問リハビリテーション」が 19.9%、「通所介護事業所」が 13.2%であった。

表 3-1-11 【病院・診療所】医療機関と併設している医療・介護施設・事業所（回答数=272、複数回答）



⑧ サテライト事業所の有無・事業所数

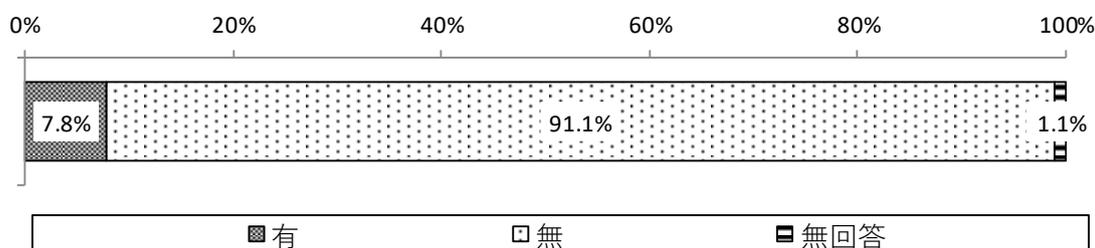
サテライト事業所の有無について、「有」が7.8%、「無」が91.1%であった。

サテライト事業所数について、訪問看護ステーションでは平均は1.4か所、中央値は1.0か所であった。

今後の設置意向については、「有」が7.5%であった。

サテライト設置に関する課題（自由回答）については、管理者間・職員間の情報共有とケアの統一、人材不足、自治体から認められていないなどの回答がみられた。

図表 3-1-12 【訪問看護ステーション】サテライト事業所の有無（回答数=1,297）

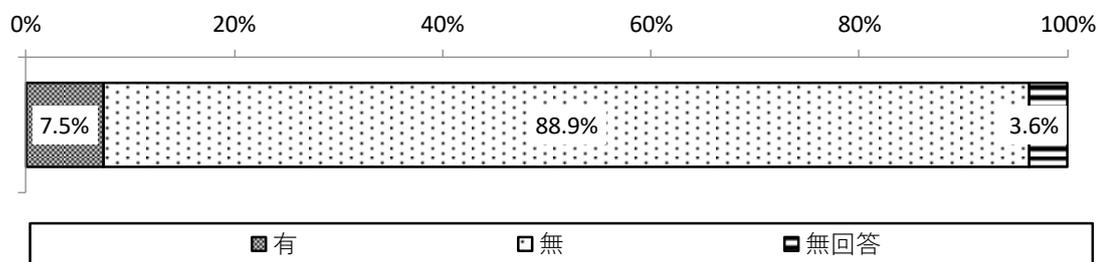


図表 3-1-13 【訪問看護ステーション】サテライト事業所の事業所数単位：か所

	回答数	平均	標準偏差	中央値
サテライト事業所数	101	1.4	0.8	1.0

図表 3-1-14 【訪問看護ステーション】今後のサテライト事業所の設置意向

(回答数=1,297)



1. 基本情報

(2) 職員体制

① 訪問看護ステーションの職員体制

訪問看護ステーションの職員体制について、常勤換算数職員数の平均について、保健師・助産師・看護師は 5.1 人、准看護師は 0.4 人、理学療法士は 1.1 人、作業療法士は 0.5 人、言語聴覚士は 0.1 人、事務職員は 0.6 人であった。中央値は、保健師・助産師・看護師は 4.0 人、准看護師は 0.0 人、理学療法士は 0.1 人、作業療法士は 0.0 人、言語聴覚士は 0.0 人、事務職員は 0.4 人であった。

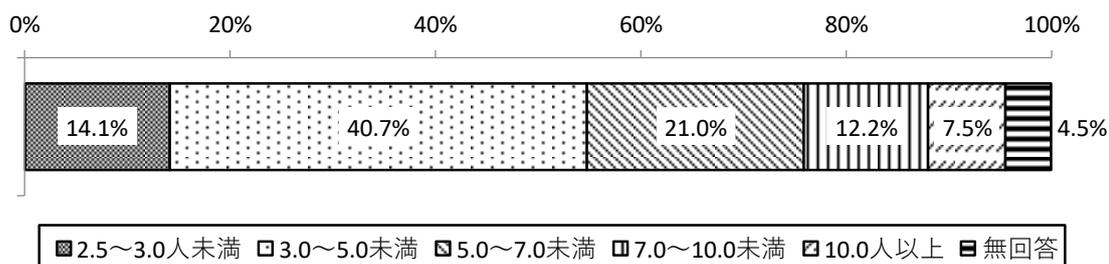
看護職員規模について、「3.0～5.0 認未満」が 40.7%であった。

図表 3-1-15 【訪問看護ステーション】常勤換算数職員数

単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
保健師・助産師・看護師	1,239	5.1	3.5	4.0
准看護師	1,239	0.4	0.8	0.0
理学療法士	1,239	1.1	2.1	0.1
作業療法士	1,239	0.5	1.6	0.0
言語聴覚士	1,239	0.1	0.4	0.0
事務職員	1,239	0.6	0.8	0.4
その他の職員	1,239	0.1	0.8	0.0
職員数の合計	1,239	7.8	6.4	6.0

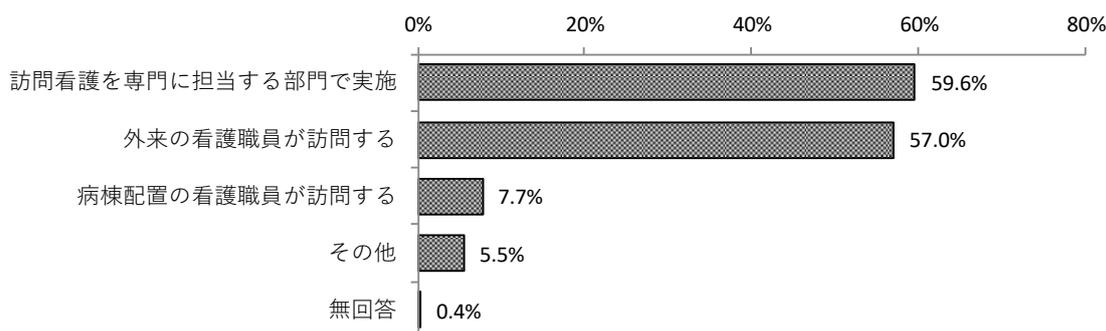
図表 3-1-16 【訪問看護ステーション】看護職員規模（常勤換算数）（回答数=1,239）



② 病院・診療所の訪問看護を実施している部署・職員体制

訪問看護を実施している部署について、病院・診療所では、「訪問看護を専門に担当する部門で実施」が59.6%、「外来の看護職員が訪問する」が57.0%、「病棟配置の看護職員が訪問する」が7.7%であった。

図表 3-1-17 【病院・診療所】訪問看護を実施している部署（回答数=272、複数回答）



訪問看護を専門に担当する部門で実施する病院・診療所の職員体制について、常勤換算数職員数の平均は、保健師・助産師・看護師は2.1人、准看護師は0.3人、看護補助者が0.0人、作業療法士・精神保健福祉士は0.0人であった。中央値は、保健師・助産師・看護師は2.0人、准看護師は0.0人、看護補助者が0.0人、作業療法士・精神保健福祉士は0.0人であった。

病院・診療所の60歳以上の職員の割合について、保健師・助産師・看護師は6.4%、准看護師は28.7%であった。

勤務形態について、常勤専従者の割合は、保健師・助産師・看護師で54.6%、准看護師で37.0%であった。

図表 3-1-18 【病院・診療所】常勤換算数職員数

単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
保健師・助産師・看護師	140	2.1	2.0	2.0
准看護師	140	0.3	0.7	0.0
看護補助者	140	0.0	0.1	0.0
作業療法士・精神保健福祉士	140	0.0	0.3	0.0
職員数合計	140	2.5	2.1	2.0

1. 基本情報

図表 3-1-19 【病院・診療所】60歳以上の職員の割合

	回答数	常勤換算 合計(人)	60歳以上 合計(人)	60歳以上 の割合
保健師・助産師・看護師	140	295.7	18.8	6.4%
准看護師	140	45.7	13.1	28.7%

看護補助者(常勤換算合計2.6人)、作業療法士・精神保健福祉士(常勤換算合計6.0人)は、回答者数が少なく非掲載

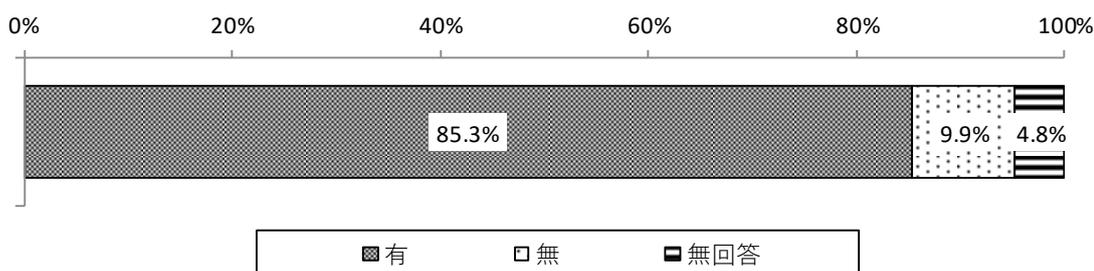
図表 3-1-20 【病院・診療所】勤務形態

	回答数	常勤専従者	常勤兼務者	非常勤
保健師・助産師・看護師	159	54.6%	22.3%	23.1%
准看護師	159	37.0%	37.0%	26.0%

③ 職員の定年制

職員の定年制について、病院・診療所では「有」が85.3%、「無」が9.9%であった。定年制がある事業所のうち職員の定年年齢について、病院・診療所では平均は61.1歳、中央値は60.0歳であった。

図表 3-1-21 【病院・診療所】職員の定年制の有無（回答数=272）



図表 3-1-22 【病院・診療所】職員の定年年齢

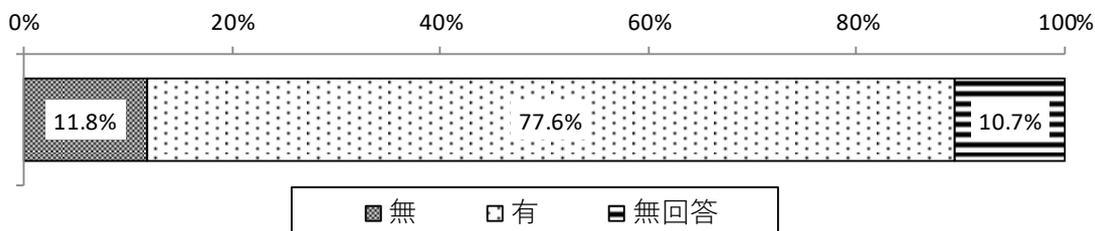
単位：歳

	回答数	平均	標準偏差	中央値
職員の定年年齢	224	61.1	2.1	60.0

④ 継続雇用制度

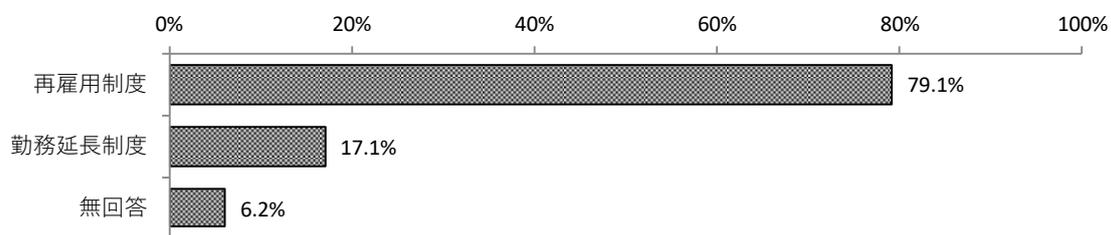
継続雇用制度について、病院・診療所では「有」が77.6%、「無」が11.8%であった。継続雇用制度の形態について、病院・診療所では「再雇用制度」が79.1%、「勤務延長制度」が17.1%であった。

図表 3-1-23 【病院・診療所】継続雇用制度の導入の有無（回答数=272）



1. 基本情報

図表 3-1-24 【病院・診療所】継続雇用制度の形態（回答数=211）



⑤ 看護職員の研修修了者数

看護職員の研修修了者数について、訪問看護ステーションでは、認知症対応力向上研修が平均は0.3人、看護特定行為研修は0.1人であった。病院・診療所では、認知症対応力向上研修が平均で0.3人、看護特定行為研修は0.1人であった。

図表 3-1-25 【訪問看護ステーション】看護職員の研修修了者数

単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
認知症対応力向上研修	1,293	0.3	1.2	0.0
看護の特定行為研修	1,287	0.1	0.3	0.0

図表 3-1-26 【病院・診療所】看護職員の研修修了者数

単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
認知症対応力向上研修	227	0.3	0.8	0.0
看護の特定行為研修	227	0.1	0.4	0.0

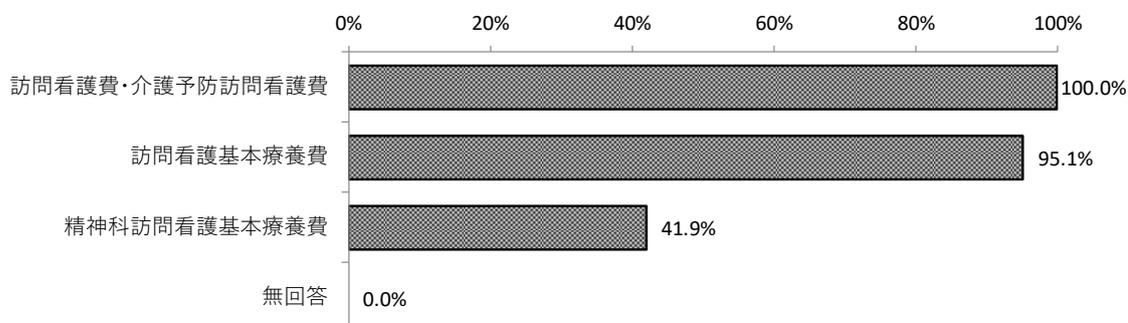
(3) 算定・経営状況

① 算定している報酬

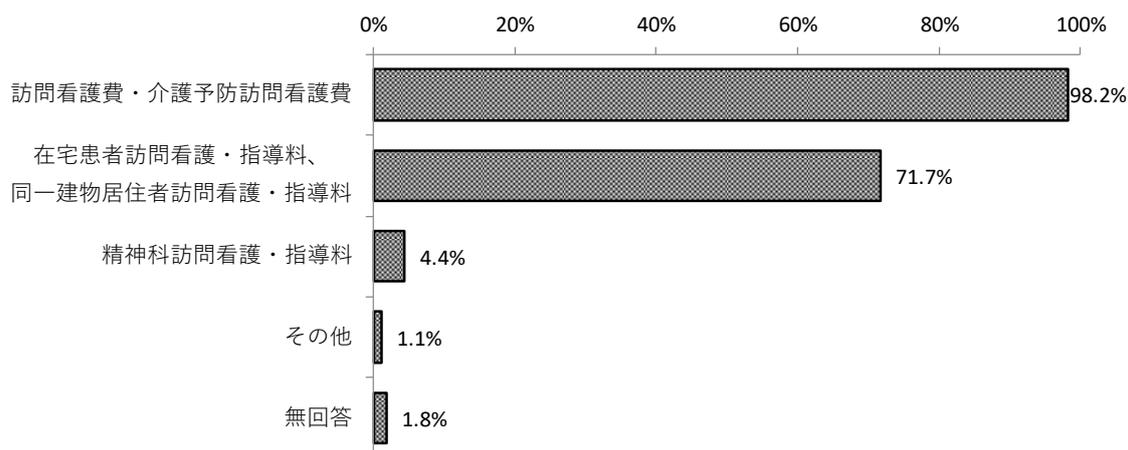
算定している報酬について、訪問看護ステーションでは「訪問看護費・介護予防訪問看護費」が100.0%、「訪問看護基本療養費」が95.1%、「精神科訪問看護基本療養費」が41.9%であった。

病院・診療所では、「介護保険による訪問看護」が98.2%、医療保険による訪問看護が71.7%であった。

図表 3-1-27 【訪問看護ステーション】算定している報酬（回答数=1,297、複数回答）



図表 3-1-28 【病院・診療所】算定している報酬（回答数=272、複数回答）

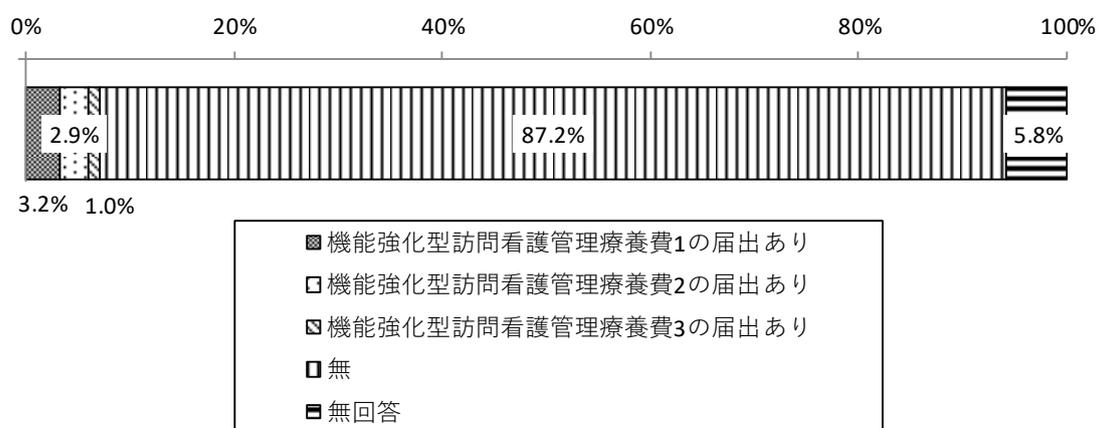


1. 基本情報

② 医療保険の機能強化型訪問看護管理療養費の届出

訪問看護ステーションでは、2019年9月分について「機能強化型訪問看護管理療養費1の届出あり」が3.2%、「機能強化型訪問看護管理療養費2の届出あり」が2.9%、「機能強化型訪問看護管理療養費3の届出あり」が1.0%であった。

図表 3-1-29 【訪問看護ステーション】医療保険の機能強化型訪問看護管理療養費の届出（回答数=1,297）



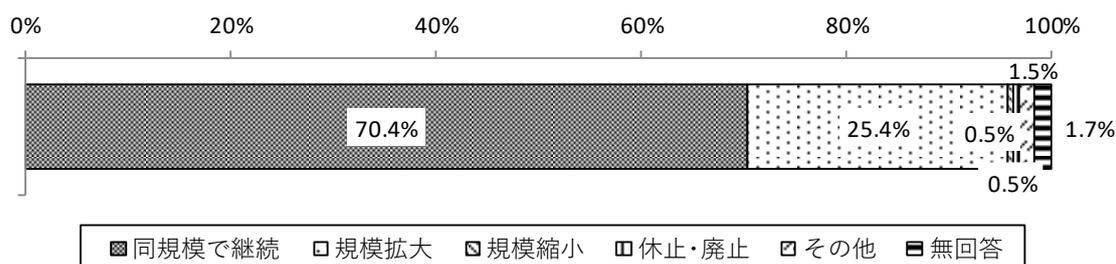
③ 今後の経営方針

今後の経営方針について、訪問看護ステーションでは「同規模で継続」が70.4%、「規模拡大」が25.4%であった。

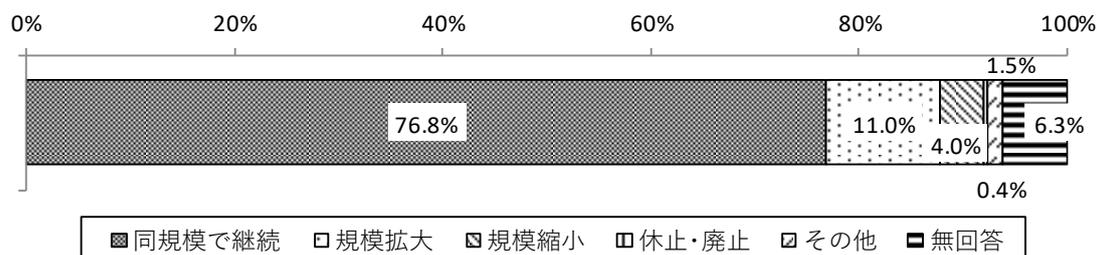
病院・診療所では、「同規模で継続」が76.8%、「規模拡大」が11.0%であった。

規模縮小、休止・廃止の理由（自由回答）については、看護師不足、算定要件を満たせないなどの回答がみられた。

図表 3-1-30 【訪問看護ステーション】今後の経営方針（回答数=1,297）



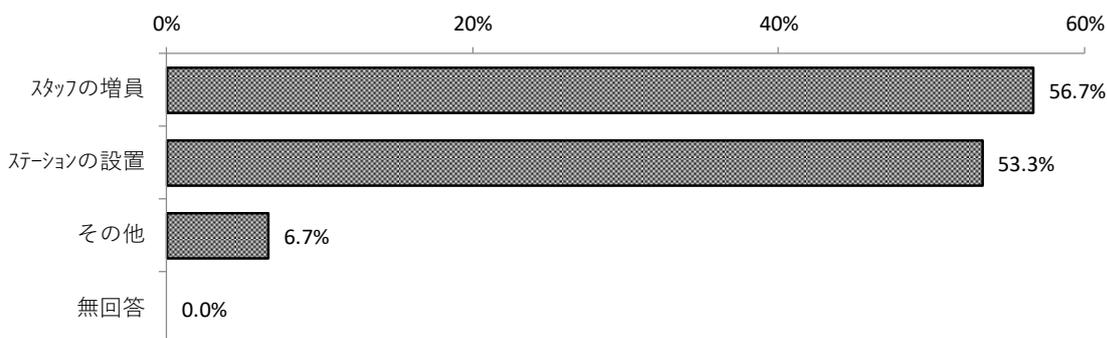
図表 3-1-31 【病院・診療所】今後の経営方針（回答数=272）



④ 今後の規模拡大方針

今後の規模拡大方針について、病院・診療所では、「スタッフの増員」が56.7%、「ステーションの設置」が53.3%であった。

図表 3-1-32 【病院・診療所】今後の規模拡大方針（回答数=30、複数回答）



1. 基本情報

(4) 利用者数と訪問状況

2019年9月（1か月間）の訪問看護の利用者数について、次の通りであった。

① 介護保険での利用者数

介護保険の利用者実人数について、訪問看護ステーションでは平均で要支援1が2.7人、要支援2が5.5人、要介護1が11.6人、要介護2が12.6人、要介護3が8.3人、要介護4が7.4人、要介護5が7.0人、合計は55.1人だった。

病院・診療所では、要支援1が0.6人、要支援2が0.9人、要介護1が2.9人、要介護2が2.7人、要介護3が1.8人、要介護4が1.9人、要介護5が2.0人、合計は平均12.6人だった。

図表 3-1-33 介護保険での利用実人員数

・訪問看護ステーション

単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
要支援1	1,154	2.7	3.9	2.0
要支援2	1,154	5.5	7.5	3.0
要介護1	1,154	11.6	11.6	9.0
要介護2	1,154	12.6	13.2	9.0
要介護3	1,154	8.3	8.8	6.0
要介護4	1,154	7.4	7.5	6.0
要介護5	1,154	7.0	7.9	5.0
合計	1,154	55.1	51.6	43.0

・病院・診療所

単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
要支援1	271	0.6	1.4	0.0
要支援2	271	0.9	1.8	0.0
要介護1	271	2.9	4.1	1.0
要介護2	271	2.7	4.0	1.0
要介護3	271	1.8	2.5	1.0
要介護4	271	1.9	3.5	1.0
要介護5	271	2.0	3.4	1.0
合計	271	12.6	16.2	7.0

② 介護保険の利用回数

介護保険での利用者1人当たり訪問回数について、訪問看護ステーションでは看護職員で4.0回、リハビリ職員で1.7回であった。

リハビリ職員の訪問1回当たりの算定回数について、訪問看護ステーションでは2.1回であった。

図表 3-1-34 【訪問看護ステーション】要介護度別の訪問回数（回答数=1,154）

	利用実 人員数 の合計 (人)	訪問回数計（回）			利用者1人当たり 訪問回数（回）		
		合計	看護職員	リハビリ 職員	合計	看護職員	リハビリ 職員
要支援1	3,158	12,485	7,534	4,951	4.0	2.4	1.6
要支援2	6,310	31,044	17,076	13,968	4.9	2.7	2.2
要介護1	13,395	69,499	50,730	18,769	5.2	3.8	1.4
要介護2	14,560	81,971	55,651	26,320	5.6	3.8	1.8
要介護3	9,607	55,728	38,626	17,102	5.8	4.0	1.8
要介護4	8,487	52,966	38,212	14,754	6.2	4.5	1.7
要介護5	8,126	61,018	48,884	12,134	7.5	6.0	1.5
合計	63,643	364,711	256,713	107,998	5.7	4.0	1.7

1. 基本情報

図表 3-1-35 【病院・診療所】要介護度別の訪問回数（回答数=271）

	利用実人員数の合計（人）	訪問回数（回）	利用者1人当たり訪問回数（回）
要支援1	152	457	3.4
要支援2	236	807	3.8
要介護1	789	2,965	3.9
要介護2	733	2,877	4.2
要介護3	476	1,997	4.5
要介護4	507	2,274	5.5
要介護5	532	2,906	4.2
合計	3,425	14,283	3.4

③ 介護保険利用者に対する医療保険の訪問看護の利用者数・回数

介護保険の利用者に対する医療保険による訪問看護の回数について、訪問看護ステーションでは1人当たり12.1回、病院・診療所では8.7回であった。

図表 3-1-36 介護保険の利用者に対する医療保険の訪問看護

（訪問看護ステーションの回答数=1,154、病院・診療所の回答数=271）

	訪問看護ステーション			病院・診療所		
	利用実人員数の合計（人）	医療保険による訪問回数（回）	利用者1人当たり訪問回数（回）	利用実人員数の合計（人）	医療保険による訪問回数（回）	利用者1人当たり訪問回数（回）
要支援1	24	155	6.5	4	3	0.8
要支援2	55	453	8.2	10	56	5.6
要介護1	136	1,345	9.9	29	178	6.1
要介護2	187	1,880	10.1	25	250	10.0
要介護3	191	2,015	10.5	28	276	9.9
要介護4	254	3,007	11.8	39	368	9.4
要介護5	378	5,948	15.7	43	421	9.8
合計	1,225	14,803	12.1	178	1,552	8.7

④ 医療保険のみの利用者数・回数

医療保険のみの利用者について、訪問看護ステーションでは利用実人員数は平均が24.2人、中央値が14.0人、訪問回数合計は平均が185.5回、中央値が116.0回だった。

病院・診療所では、利用実人員数は平均4.0人、中央値は1.0人、訪問回数合計は平均19.0回、中央値は4.0回だった。

図表 3-1-37 医療保険のみの利用者数・訪問回数

・訪問看護ステーション

	回答数	合計	平均	標準偏差	中央値
利用実人員数（人）	1,154	27,980	24.2	40.9	14.0
訪問回数（回）	1,154	214,020	185.5	226.5	116.0

・病院・診療所

	回答数	合計	平均	標準偏差	中央値
利用実人員数（人）	271	1,092	4.0	10.8	1.0
訪問回数（回）	271	5,142	19.0	48.6	4.0

⑤ 精神科訪問看護・指導料算定者数・回数

精神科訪問看護・指導料算定者について、訪問看護ステーションでは介護保険利用者の内数の1人当たりの訪問回数は5.5回、医療保険の1人当たりの訪問回数は5.0回であった。

病院・診療所では介護保険利用者の内数の1人当たりの訪問回数は3.8回、医療保険の1人当たりの訪問回数は3.5回であった。

図表 3-1-38 精神科訪問看護・指導料算定者

(訪問看護ステーションの回答数=1,154、病院・診療所の回答数=271)

	介護保険利用者の内数			医療保険のみの利用者		
	利用実人員数（人）	訪問回数 の合計 (回)	1人当 り訪問回 数（回）	利用実人員数（人）	訪問回数 の合計 (回)	1人当 り訪問回 数（回）
訪問看護ステーション	32	177	5.5	8,300	41,855	5.0
病院・診療所	5	19	3.8	147	520	3.5

1. 基本情報

⑥ 利用者宅への距離・移動時間

訪問対象としている地域の事業所からの距離・移動時間について、病院・診療所では、「訪問対象としている地域の事業所からの距離」は平均が 12.0 km、中央値が 10.0 km、「事業所から移動時間に一番時間を要する利用者宅までの移動時間」は平均が 21.4 分、中央値が 20.0 分であった。

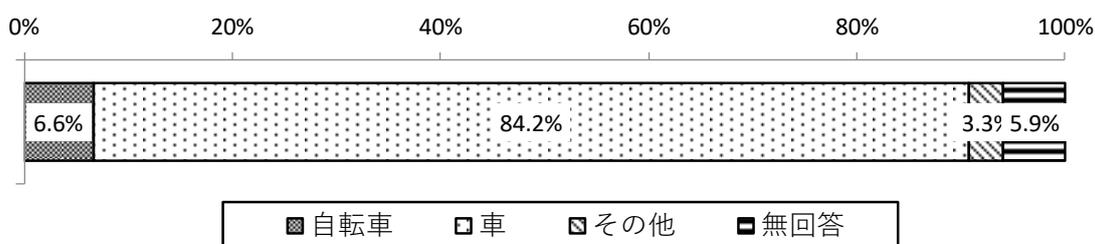
図表 3-1-39 【病院・診療所】訪問対象としている地域の事業所からの距離・移動時間

	回答数	平均	標準偏差	中央値
訪問対象としている地域の事業所からの距離 (km)	224	12.0	8.4	10.0
事業所から移動時間に一番時間を要する利用者宅までの移動時間 (分)	239	21.4	13.9	20.0

⑦ 事業所から移動時間に一番時間を要する利用者宅までの移動手段

事業所から移動時間に一番時間を要する利用者宅までの移動手段について、病院・診療所では、「車」が 84.2% だった。

図表 3-1-40 【病院・診療所】事業所から移動時間に一番時間を要する利用者宅までの移動手段 (回答数=272)

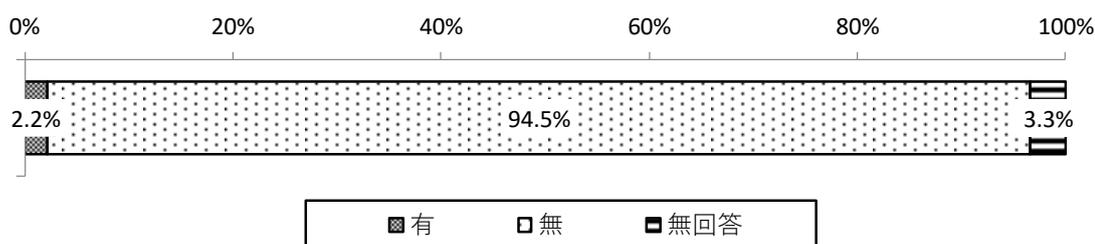


⑧ オンライン診療

オンライン診療の実施の有無について、病院・診療所では、「有」が2.2%、「無」が94.5%だった。

オンライン診療の課題や改善したいこと（自由回答）として、利用者からの手続をわかりやすく簡単にしてほしい、との回答がみられた。

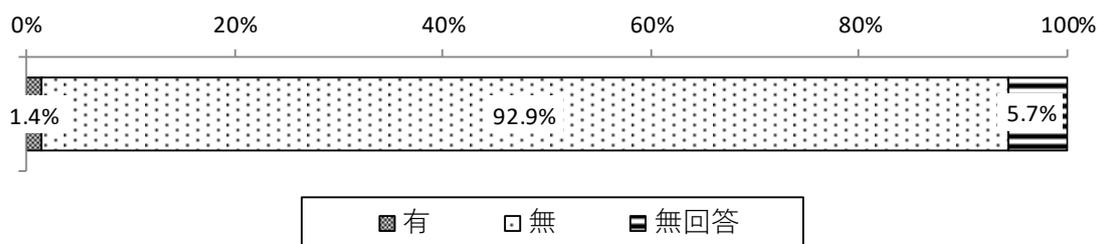
図表 3-1-41 【病院・診療所】オンライン診療の実施の有無（回答数=272）



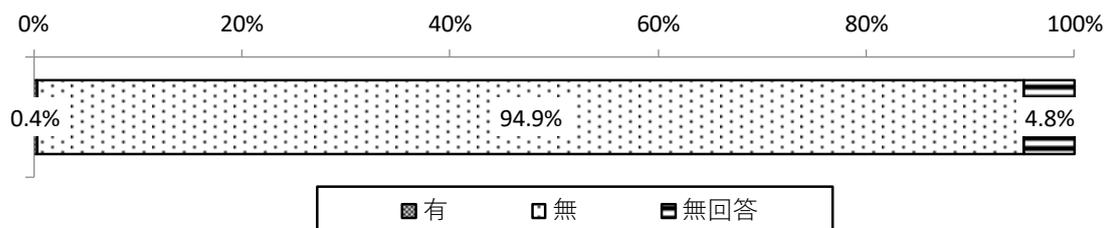
⑨ 訪問看護によるオンライン診療支援

訪問看護によるオンライン診療支援の実施について、訪問看護ステーションでは「有」が1.4%、病院・診療所では、「有」が0.4%であった。

図表 3-1-42 【訪問看護ステーション】訪問看護によるオンライン診療支援の実施の有無（回答数=1,297）



図表 3-1-43 【病院・診療所】訪問看護によるオンライン診療支援の実施の有無（回答数=272）



1. 基本情報

⑩ サービス担当者会議への参加回数

全ての利用者に対するサービス担当者会議への参加回数(9月の1か月間)について、病院・診療所では平均は1.5回、中央値は1.0回であった。

図表 3-1-44 【病院・診療所】全ての利用者に対するサービス担当者会議への参加回数

単位：回

	回答数	平均	標準偏差	中央値
全ての利用者に対するサービス担当者会議への参加回数	272	1.5	2.1	1.0

2. 加算等の算定状況

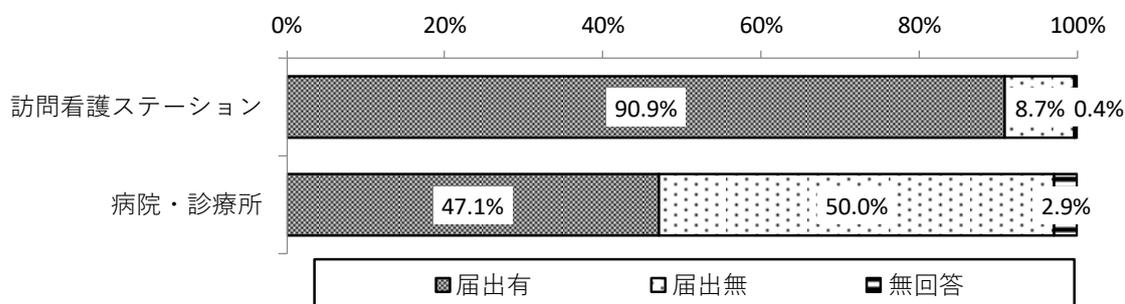
(1) 緊急時訪問看護加算など各種加算

① 緊急時訪問看護加算

緊急時訪問看護加算の届出の有無について、訪問看護ステーションでは「届出有」が90.9%、「届出無」が8.7%だった。病院・診療所では「届出有」が47.1%、「届出無」が50.0%であった。

図表 3-1-45 緊急時訪問看護加算の届出の有無

(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)



緊急時訪問看護加算の届出有の病院・診療所では、「緊急時訪問看護加算算定件数」は平均が12.4件、中央値が6.0件、「緊急時介護予防訪問介護加算算定件数」が平均1.0件、中央値が0.0件であった。

図表 3-1-46 【病院・診療所】緊急時訪問看護加算の算定件数

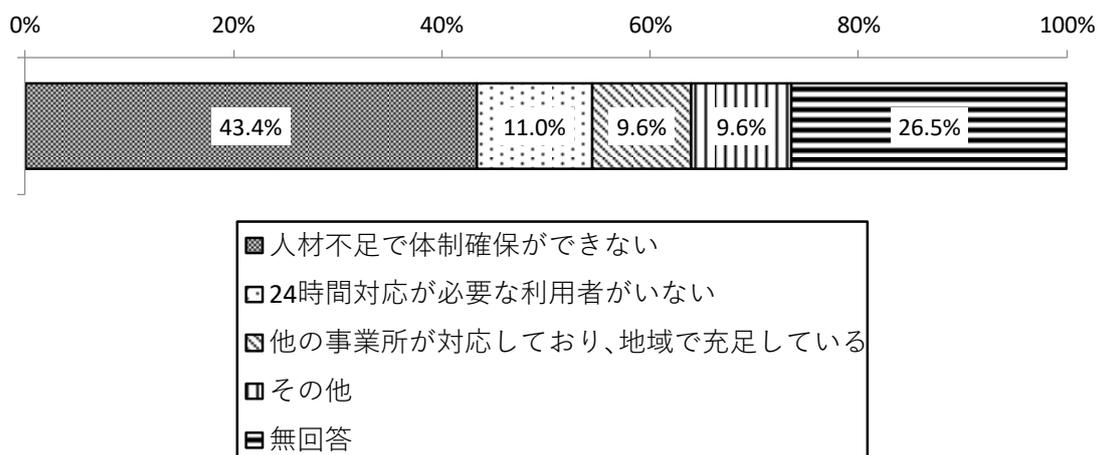
単位：件

	回答数	平均	標準偏差	中央値
緊急時訪問看護加算算定件数	122	12.4	17.6	6.0
緊急時介護予防訪問看護加算算定件数	122	1.0	1.9	0.0

2. 加算等の算定状況

緊急時訪問看護加算を届出していない理由について、病院・診療所では「人材不足で体制確保ができない」が43.4%であった。

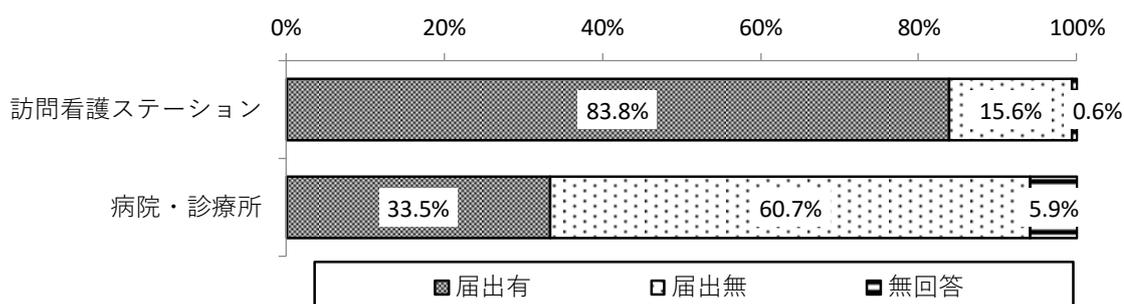
図表 3-1-47 【病院・診療所】緊急時訪問看護加算を届出していない理由（回答数=136）



② ターミナルケア加算

ターミナルケア加算の届出の有無（2019年9月における介護保険の算定状況）について、訪問看護ステーションでは、「届出有」が83.8%、病院・診療所では「届出有」が33.5%だった。

図表 3-1-48 ターミナルケア加算の届出の有無
(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)



ターミナルケア加算の届出有の病院・診療所では、2018年10月～2019年9月の1年間の「在宅ターミナルケア加算イ（医療保険）」の算定は平均が3.5件、中央値が0.0件、「死亡前14日以内に在宅ターミナルケア加算イの算定した件数は平均が1.7件、中央値が0.0件であった。

図表 3-1-49 【病院・診療所】ターミナルケア加算の算定件数

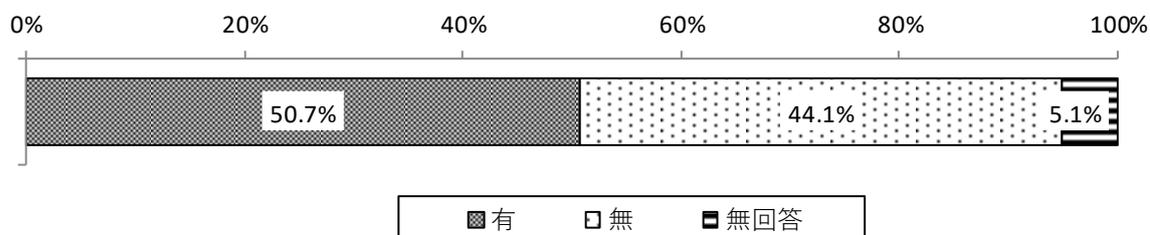
単位：件

	回答数	平均	標準偏差	中央値
ターミナルケア加算(介護保険)	87	0.8	2.3	0.0
在宅ターミナルケア加算イ(医療保険)	83	3.5	12.8	0.0
在宅ターミナルケア加算ロ(医療保険)	72	0.5	3.1	0.0
死亡前14日以内に在宅ターミナルケア加算イを算定した件数	69	1.7	8.9	0.0

③ 特別管理加算

特別管理加算の届出（2019年9月における介護保険の算定状況）について、病院・診療所では「有」が50.7%、「無」が44.1%であった。

図表 3-1-50 【病院・診療所】特別管理加算の届出（回答数=272）



特別管理加算の届出有の病院・診療所では、加算の算定件数（2019年9月）について、病院・診療所ではⅠ訪問看護（要介護者）では平均が1.9件、中央値が1.0件、Ⅱ訪問看護（要介護者）の算定件数では平均が1.9件、中央値が1.0件であった。

図表 3-1-51 【病院・診療所】特別管理加算の算定件数

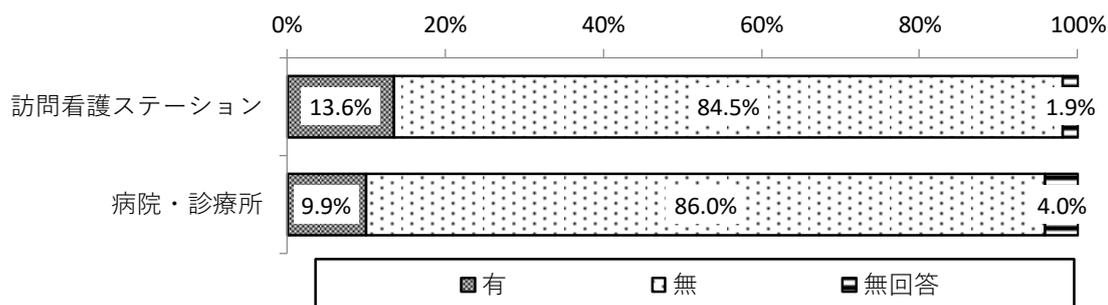
単位：件

	回答数	平均	標準偏差	中央値
Ⅰ 訪問看護(要介護者)	136	1.9	3.1	1.0
Ⅱ 訪問看護(要介護者)	136	1.9	2.9	1.0
Ⅰ 介護予防訪問看護(要支援者)	136	0.0	0.2	0.0
Ⅱ 介護予防訪問看護(要支援者)	136	0.3	0.7	0.0

(2) 同一建物等減算

同一建物等減算の有無について、訪問看護ステーションでは、「有」が13.6%、「無」が84.5%だった。病院・診療所では、「有」が9.9%、「無」が86.0%だった。

図表 3-1-52 同一建物等減算の有無
(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)



同一建物等減算の利用者数について、訪問看護ステーションでは3,961人で利用実人数に占める割合は6.2%、病院・診療所では606人で利用実人数に占める割合は17.7%であった。

図表 3-1-53 同一建物等減算の利用者数
(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)

	訪問看護ステーション		病院・診療所	
	合計人数	利用実人数に占める割合	合計人数	利用実人数に占める割合
訪問看護事業所と同一敷地内、隣接敷地内、同一建物に居住する利用者数（利用者が20人以上及び50人以上居住する建物の利用者を除く）	2,204	3.5%	287	8.4%
利用者50人以上が同一建物等に居住する建物に訪問し減算を行っている人数	251	0.4%	54	1.6%
利用者20人以上が同一建物に居住する建物に訪問し減算を行っている人数（50人以上が居住する建物の利用者を除く）	1,506	2.4%	265	7.7%
減算の利用者数計	3,961	6.2%	606	17.7%
介護保険の訪問看護の利用実人数の合計※	63,643	100.0%	3,425	100.0%

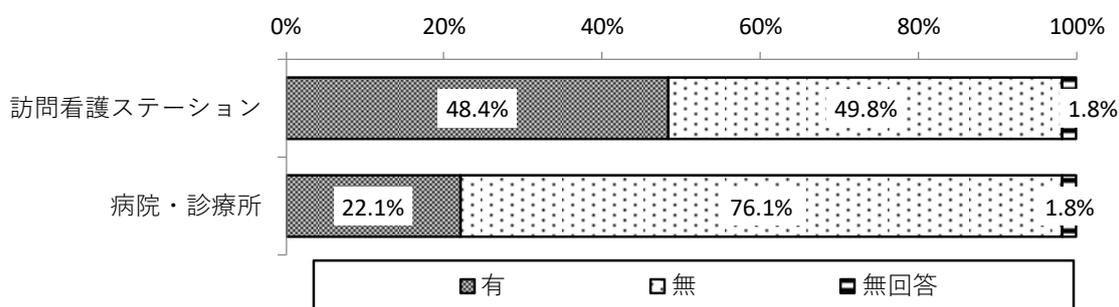
※図表 3-1-34 における利用実人数

(3) 退院後の訪問状況や退院時共同指導加算

① 退院後の訪問看護の利用状況

退院・退所後に介護保険の訪問看護サービスの利用を開始した利用者(2019年9月)について、訪問看護ステーションでは「有」が48.4%だった。病院・診療所では、「有」が22.1%だった。

図表 3-1-54 退院・退所後に介護保険の訪問看護サービスの利用を開始した利用者の有無
(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)



退院・退所後に介護保険の訪問看護サービスの利用を開始した利用者の人数(2019年9月)について、訪問看護ステーションでは平均は2.5人、中央値は2.0人、病院・診療所では平均は2.0人、中央値は1.0人だった。

図表 3-1-55 退院・退所後に介護保険の訪問看護サービスの利用を開始した利用者の人数

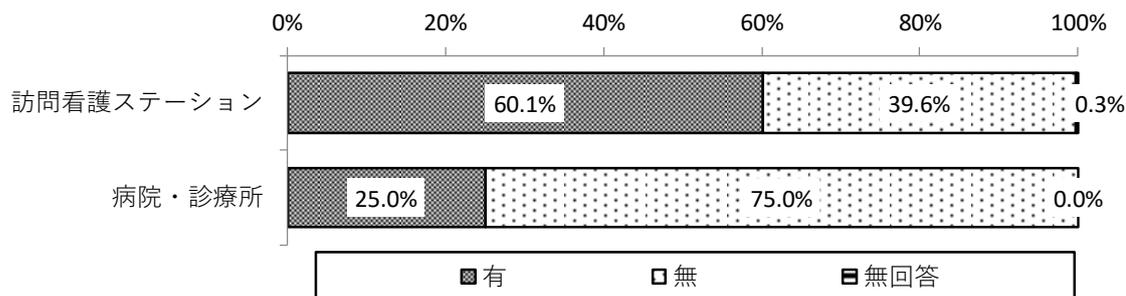
単位：人

	回答事業 所数	利用者数 の合計	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	593	1,491	2.5	2.6	2.0
病院・診療所	55	108	2.0	1.5	1.0

② 退院時共同指導を実施した利用者

退院後に介護保険の訪問看護サービスの利用を開始した利用者有の事業所を対象に、退院時共同指導を実施した利用者の有無を尋ねたところ、訪問看護ステーションでは「有」が60.1%、病院・診療所では「有」が25.0%だった。

図表 3-1-56 退院時共同指導を実施した利用者の有無
(訪問看護ステーションの回答数=629、病院・診療所の回答数=60)



退院時共同指導を実施した利用人数について、訪問看護ステーションでは平均は1.9人、中央値は1.0人、病院・診療所では平均は1.6人、中央値は1.0人だった。

図表 3-1-57 退院時共同指導を実施した利用人数

単位：人

	回答事業所数	利用者数の合計	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	359	676	1.9	1.6	1.0
病院・診療所	13	21	1.6	1.1	1.0

③ 退院時共同指導の未実施理由

退院時共同指導の未実施理由について、訪問看護ステーションでは、「共同指導の必要がない利用者であった」が 38.1%、「急な退院であった」が 18.0%、「スケジュール調整ができなかった」が 15.7%であった。病院・診療所では、「共同指導の必要がない利用者であった」が 43.6%、「スケジュール調整ができなかった」が 25.6%だった。

図表 3-1-58 退院時共同指導未実施理由

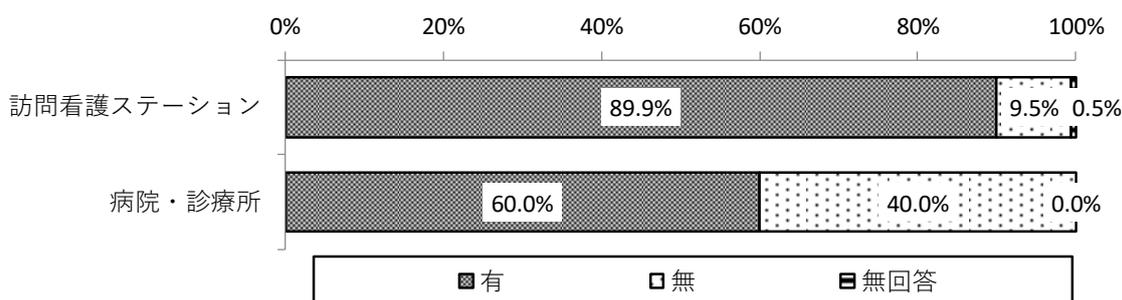
(訪問看護ステーションの回答数=229、病院・診療所の回答数=25)

	訪問看護ステーション		病院・診療所	
	人数の 合計	割合	人数の 合計	割合
退院の連絡がなかった	54	12.6%	3	7.7%
急な退院であった	77	18.0%	4	10.3%
医療機関が遠かった	11	2.6%	0	0.0%
スケジュール調整ができなかった	67	15.7%	10	25.6%
手間と報酬が見合わない	3	0.7%	0	0.0%
共同指導の必要がない利用者であった	163	38.1%	17	43.6%
その他	53	12.4%	5	12.8%
合計	428	100.0%	39	100.0%

④ 退院時共同指導加算を算定した利用者

退院時共同指導を実施した事業所を対象に、退院時共同指導加算を算定した利用者の有無を尋ねたところ、訪問看護ステーションでは「有」が89.9%、病院・診療所では「有」が60.0%であった。

図表 3-1-59 退院時共同指導加算を算定した利用者の有無
(訪問看護ステーションの回答数=378、病院・診療所の回答数=15)



退院時共同指導加算を算定した利用者の人数について、訪問看護ステーションでは合計で609人で、平均は1.9人、中央値は1.0人であった。病院・診療所では合計で16人、平均は1.8人、中央値は1.0人であった。退院時共同指導を実施した人に占める割合は、訪問看護ステーション90.0%、病院・診療所で76.2%であった。

図表 3-1-60 退院時共同指導加算を算定した人数

単位：人

	回答事業所数	算定人数の合計	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	327	609	1.9	1.6	1.0
病院・診療所	9	16	1.8	1.3	1.0

図表 3-1-61 【病院・診療所】退院時共同指導に要した時間別人数 (回答数=9)

	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 1時間半未満	1時間半以上
人数	8	8	0	0

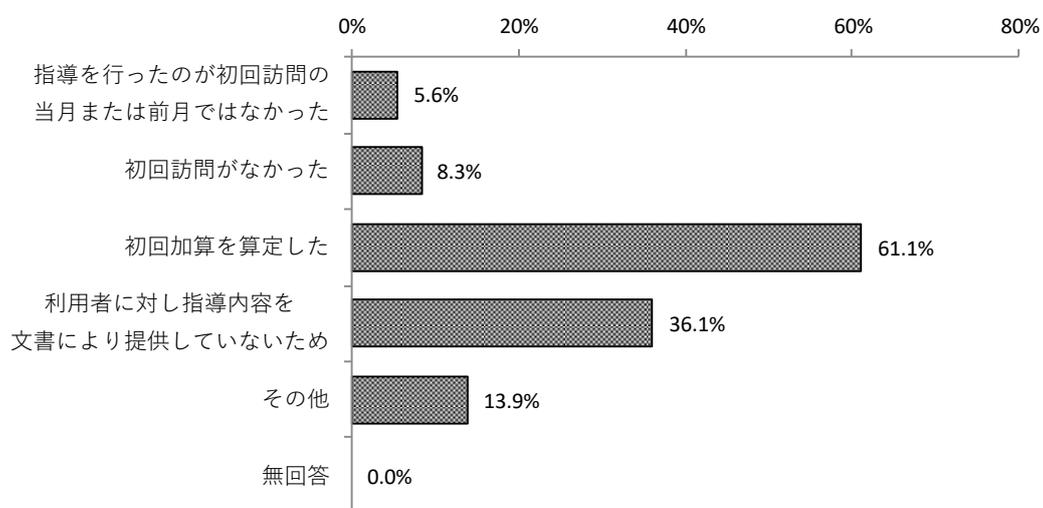
図表 3-1-62 【病院・診療所】指導を実施した場所への移動時間 (回答数=8)

	同一敷地内の医療機関	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 1時間半未満	1時間半以上
人数	8	5	1	0	0

⑤ 退院時共同指導加算を算定した利用者がいない理由

退院時共同指導を実施したが指導加算を算定した利用者がいない理由について、訪問看護ステーションでは「初回加算を算定した」が61.1%、「利用者に対し指導内容を文書により提供していないため」が36.1%であった。

図表 3-1-63 【訪問看護ステーション】退院時共同指導加算を算定した利用者がいない理由
(回答数=36、複数回答)



病院・診療所では、6事業所が回答し、「その他」が4件、「初回加算を算定した」が2件

(4) 退院当日の訪問看護

① 退院当日の介護保険の訪問看護

退院後に介護保険の訪問看護サービスの利用を開始した利用者有の事業所を対象に、退院当日の介護保険の訪問看護について尋ねたところ、退院当日に訪問し、訪問看護費を算定した人数は 36.9%、退院当日に訪問したが、訪問看護費を算定しなかった人数が 31.8%、退院当日に訪問しなかったが、訪問できなかった人数が 31.3%であった。

図表 3-1-64 退院当日の介護保険の訪問看護について
(訪問看護ステーションの回答数=629、病院・診療所の回答数=60)

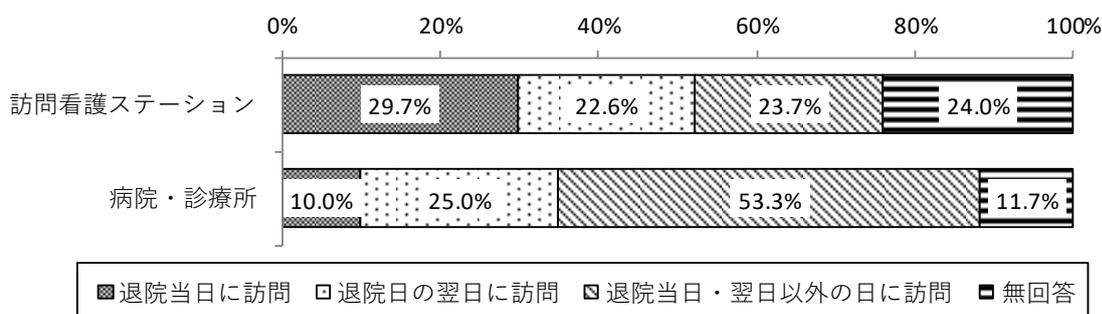
	訪問看護ステーション		病院・診療所	
	人数	割合	人数	割合
退院当日に訪問し、訪問看護費を算定した実人数	158	36.9%	5.0	27.8%
退院当日に訪問したが、訪問看護費を算定しなかった実人数	136	31.8%	9.0	50.0%
退院当日に訪問しなかったが、訪問できなかった実人数	134	31.3%	4.0	22.2%
実人数の合計	428	100.0%	18	100.0%

※②～⑨は退院当日に訪問の必要があった直近の利用者 1 人について、該当事業所から回答を得た

② 退院後 1 週間の当該利用者への初回の訪問看護の状況

退院当日に訪問の必要があった直近の利用者について、退院後 1 週間の当該利用者への初回の訪問看護の状況は、訪問看護ステーションでは「退院当日に訪問」が 29.7%、「退院当日・翌日以外の日に訪問」が 23.7%、「退院当日・翌日に訪問」が 22.6%であった。病院・診療所では「退院当日・翌日以外の日に訪問」が 53.3%であった。

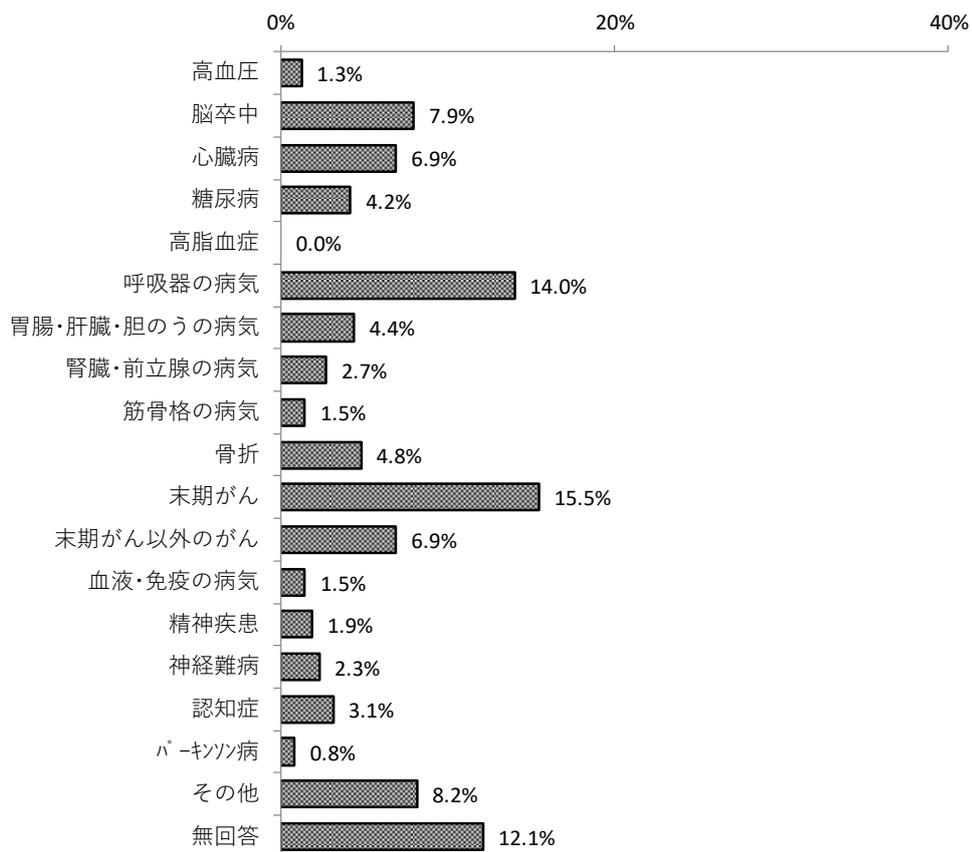
図表 3-1-65 退院後 1 週間の当該利用者への初回の訪問看護の状況
(訪問看護ステーションの回答数=629、病院・診療所の回答数=60)



③ 入院・入所する原因・理由となった疾患

退院当日に訪問の必要があった直近の利用者の入院・入所する原因・理由となった疾患について、「末期がん」が15.5%、「呼吸器の病気」が14.0%であった。

図表 3-1-66 【訪問看護ステーション】入院・入所する原因・理由となった疾患
(回答数=478)

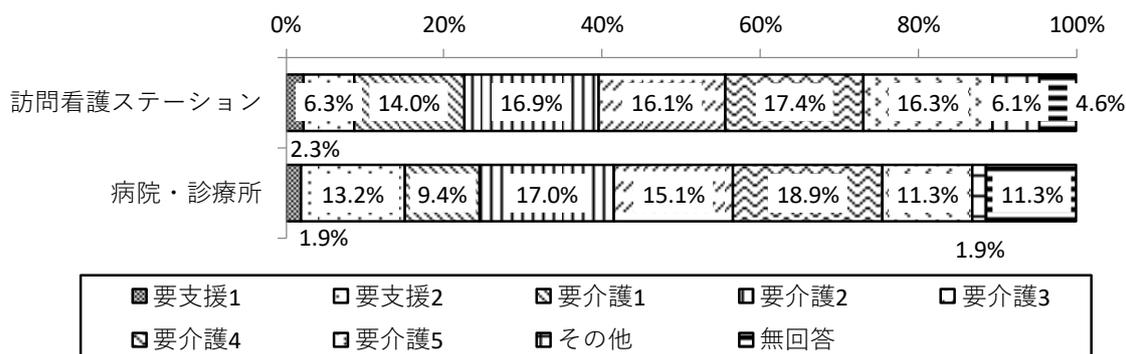


病院・診療所の回答は53人で、うち「呼吸器の病気」が11人、「心臓病」が8人、「胃腸・肝臓・胆のうの病気」が6人であった。

④ 退院当日に訪問の必要があった利用者の要介護度

退院当日に訪問の必要があった直近の利用者の要介護度について、訪問看護ステーションでは「要介護4」が17.4%、「要介護2」が16.9%、「要介護5」が16.3%であった。病院・診療所では「要介護4」が18.9%であった。

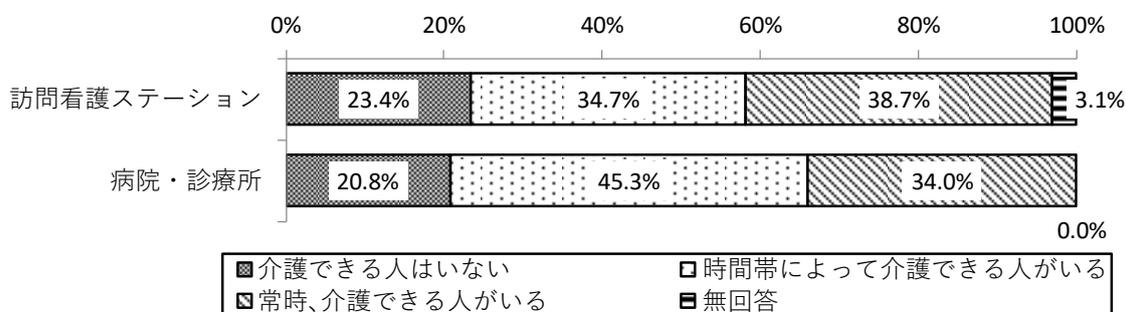
図表 3-1-67 退院当日に訪問の必要があった利用者の要介護度
(訪問看護ステーションの回答数=478、病院・診療所の回答数=53)



⑤ 退院当日に訪問の必要があった利用者への介護力

退院当日に訪問の必要があった直近の利用者への介護力について、訪問看護ステーションでは「常時、介護できる人がいる」が38.7%、「時間帯によって介護できる人がいる」が34.7%、「介護できる人はいない」が23.4%であった。病院・診療所では「時間帯によって介護できる人がいる」45.3%であった。

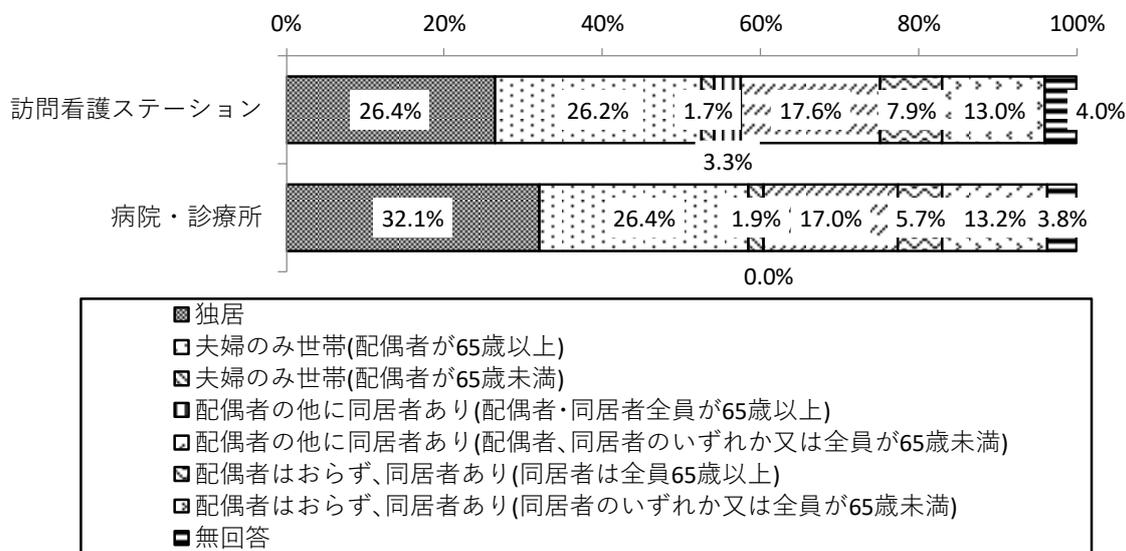
図表 3-1-68 退院当日に訪問の必要があった利用者への介護力
(訪問看護ステーションの回答数=478、病院・診療所の回答数=53)



⑥ 退院当日に訪問の必要があった利用者の世帯構成

退院当日に訪問の必要があった直近の利用者の世帯構成について、訪問看護ステーションでは「独居」が26.4%、「夫婦のみ世帯(配偶者が65歳以上)」が26.2%であった。病院・診療所では「独居」が32.1%、「夫婦のみ世帯(配偶者が65歳以上)」が26.4%であった。

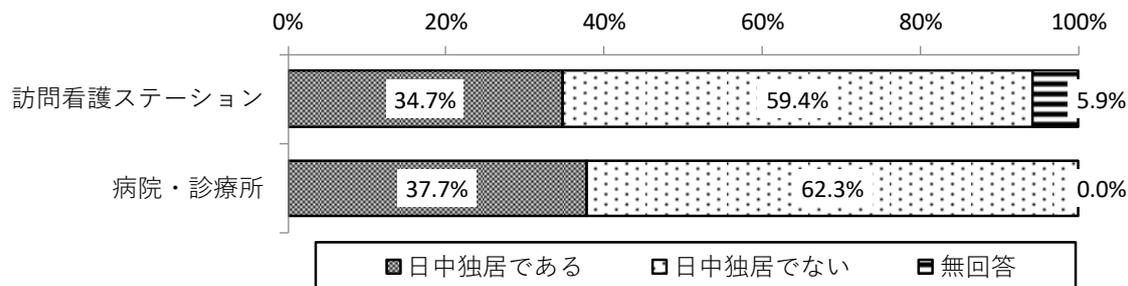
図表 3-1-69 退院当日に訪問の必要があった利用への世帯構成
(訪問看護ステーションの回答数=478、病院・診療所の回答数=53)



⑦ 退院当日に訪問の必要があった利用者の日中の独居状況

退院当日に訪問の必要があった直近の利用者の日中の独居状況について、「日中独居である」が訪問看護ステーションでは34.7%、病院・診療所では37.7%であった。

図表 3-1-70 退院当日に訪問の必要があった利用への日中の独居状況
(訪問看護ステーションの回答数=478、病院・診療所の回答数=53)

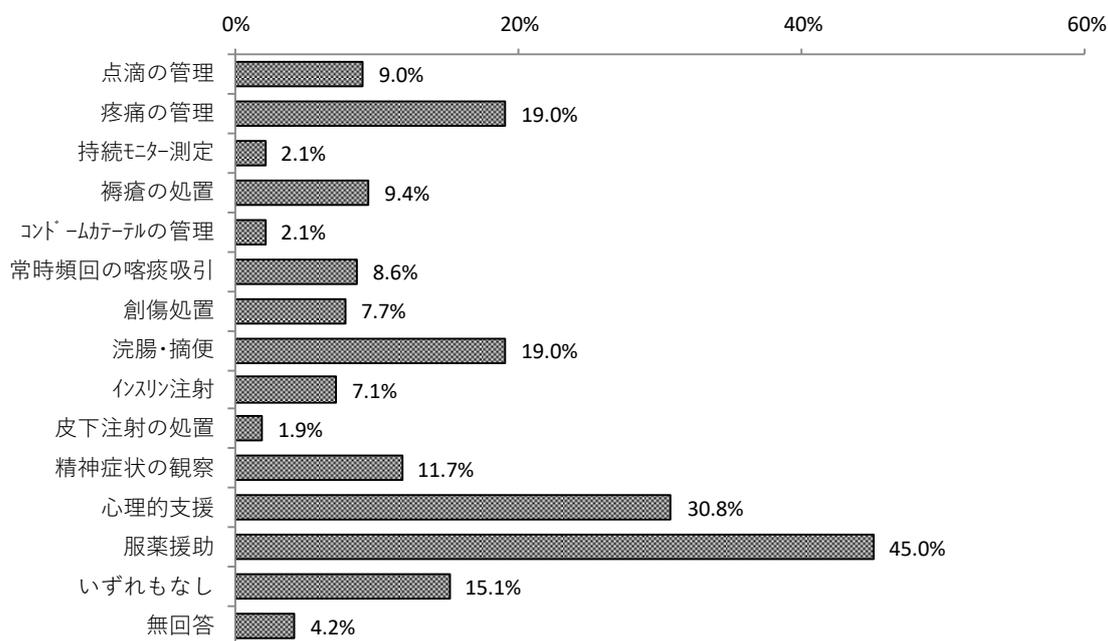


⑧ 処置や医療機器の管理が必要な状態

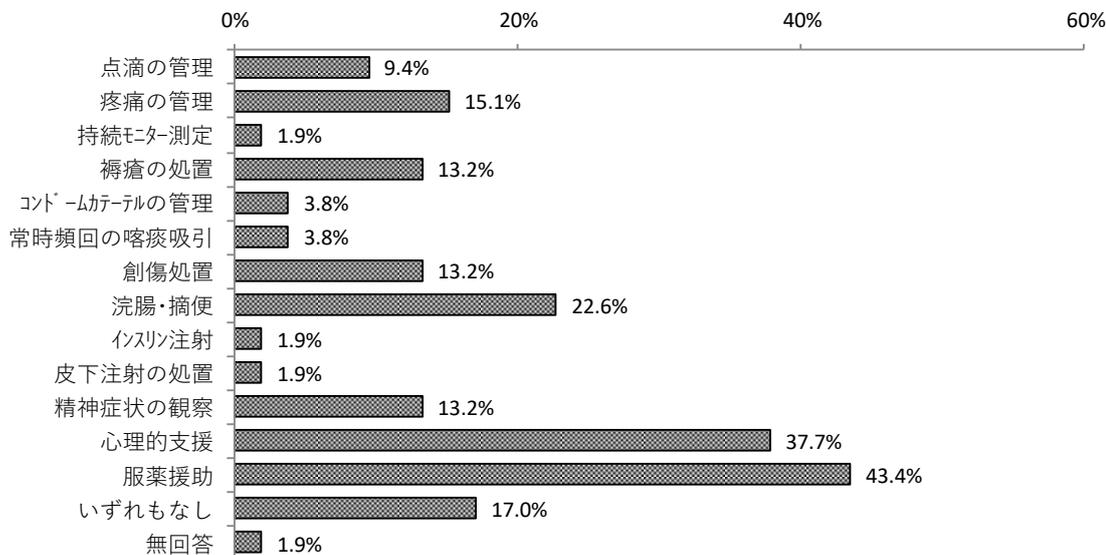
退院当日に訪問の必要があった直近の利用者の処置や医療機器の管理が必要な状態について、訪問看護ステーションでは「服薬援助」が45.0%、「心理的支援」が30.8%、「疼痛の管理」が19.0%、「浣腸・摘便」が19.0%、病院・診療所では、「服薬援助」が43.4%、「心理的支援」が37.7%であった。

図表 3-1-71 退院当日に訪問の必要があった利用の処置や医療機器の管理が必要な状態
(訪問看護ステーションの回答数=478、病院・診療所の回答数=53、複数回答)

・ 訪問看護ステーション



・ 病院・診療所

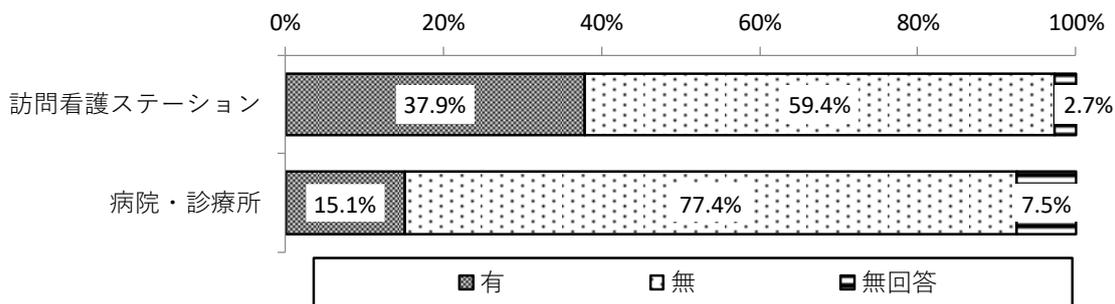


⑨ 入院・入所施設からの退院当日の訪問の要請状況

退院当日に訪問の必要があった直近の利用者の入院・入所施設からの退院当日の訪問の要請状況について、訪問看護ステーションでは「有」が 37.9%、病院・診療所では、15.1%であった。

図表 3-1-72 入院・入所施設からの退院当日の訪問の要請の有無

(回答数=478、病院・診療所の回答数=53)

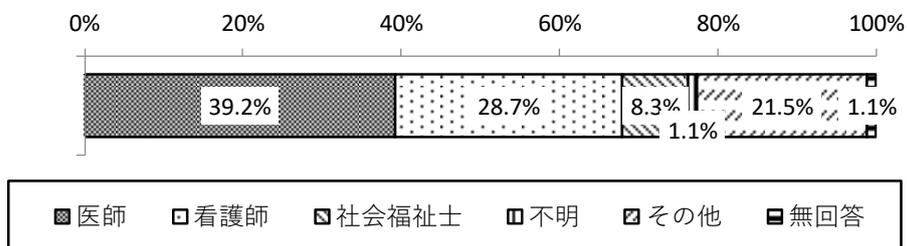


⑩ 入院・入所施設からの退院当日の訪問要請者

退院当日に訪問の必要があった直近の利用者の入院・入所施設からの退院当日の訪問要請者について、訪問看護ステーションでは「医師」が 39.2%、「看護師」が 28.7%であった。

図表 3-1-73 入院・入所施設からの退院当日の訪問要請者

(訪問看護ステーションの回答数=181)



病院・診療所では、全体で8人で、内訳は「医師」が4人、「看護師」が3人、「社会福祉士」が1人

⑪ 訪問看護提供状況

退院1週間の当該利用者への初回の訪問看護から起算した訪問看護提供状況について、初回訪問日～7日以内のうち緊急訪問の割合は訪問看護ステーションで7.7%、病院・診療所では6.1%であった。

図表 3-1-74 訪問看護提供状況

(訪問看護ステーションの回答数=441、病院・診療所の回答数=48)

	訪問看護ステーション			病院・診療所		
	回答数(提供人数) (人)	訪問看護提供回数 (回)	1人当たりの回数 (回)	回答数(提供人数) (人)	訪問看護提供回数 (回)	1人当たりの回数 (回)
初回訪問日～7日以内	441	1,228	2.8	48	99	2.1
8～14日	441	880	2.0	48	63	0.1
15～28日	441	1,186	2.7	48	62	1.3
28日間の訪問回数計	441	4,285	7.5	48	224	3.5

	訪問看護ステーション			病院・診療所		
	訪問看護提供回数 (回)	うち、緊急訪問回数 (回)	緊急訪問の割合	訪問看護提供回数 (回)	うち、緊急訪問回数 (回)	緊急訪問の割合
初回訪問日～7日以内	1,228	111	9.0%	99	6	6.1%
8～14日	880	53	6.0%	63	1	1.6%
15～28日	1,186	52	4.4%	62	2	3.2%
28日間の訪問回数計	4,285	331	7.7%	224	9	4.0%

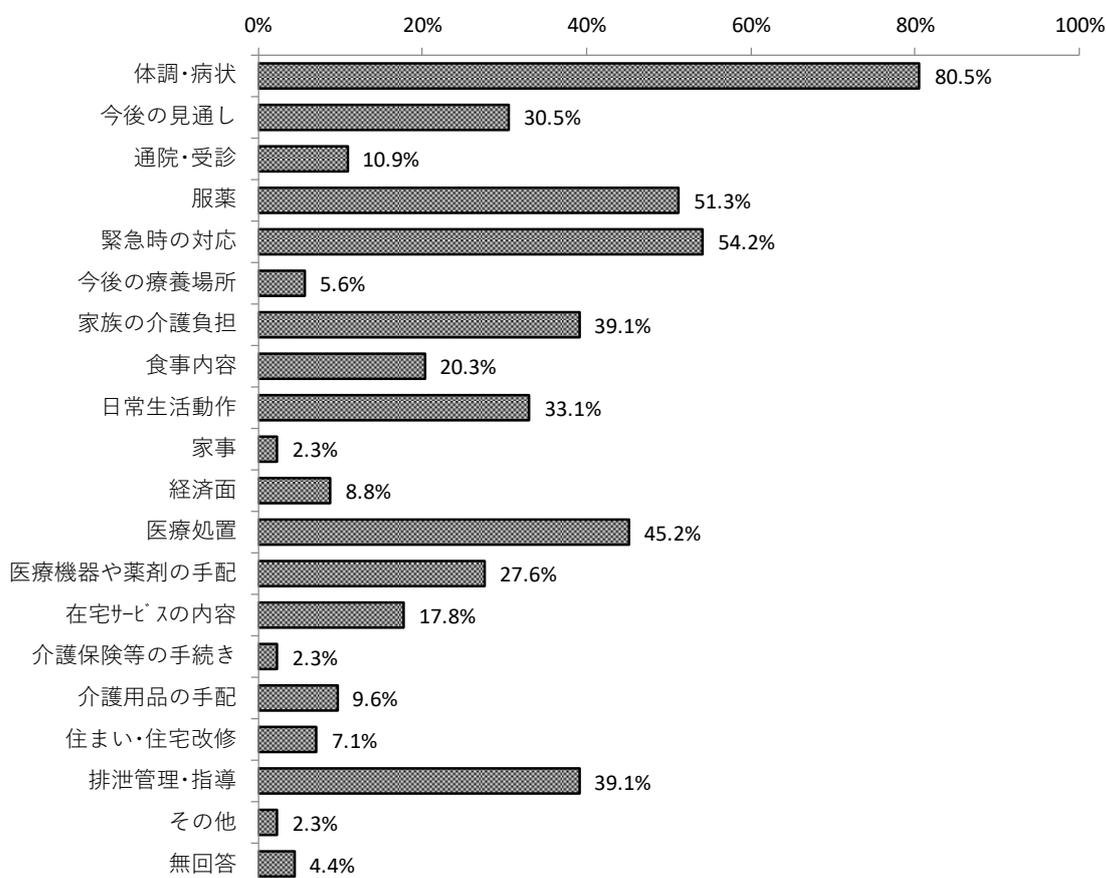
⑫ 退院当日に訪問看護が必要な利用者・家族の困りごとや心配事

退院当日に訪問看護が必要な利用者・家族の困りごとや心配事について、訪問看護ステーションでは「体調・病状」が 80.5%、「緊急時の対応」が 54.2%、「服薬」が 51.3%、「医療処置」が 45.2%であった。病院・診療所では、「体調・病状」が 81.1%、「服薬」が 50.9%、「緊急時の対応」が 41.5%であった。

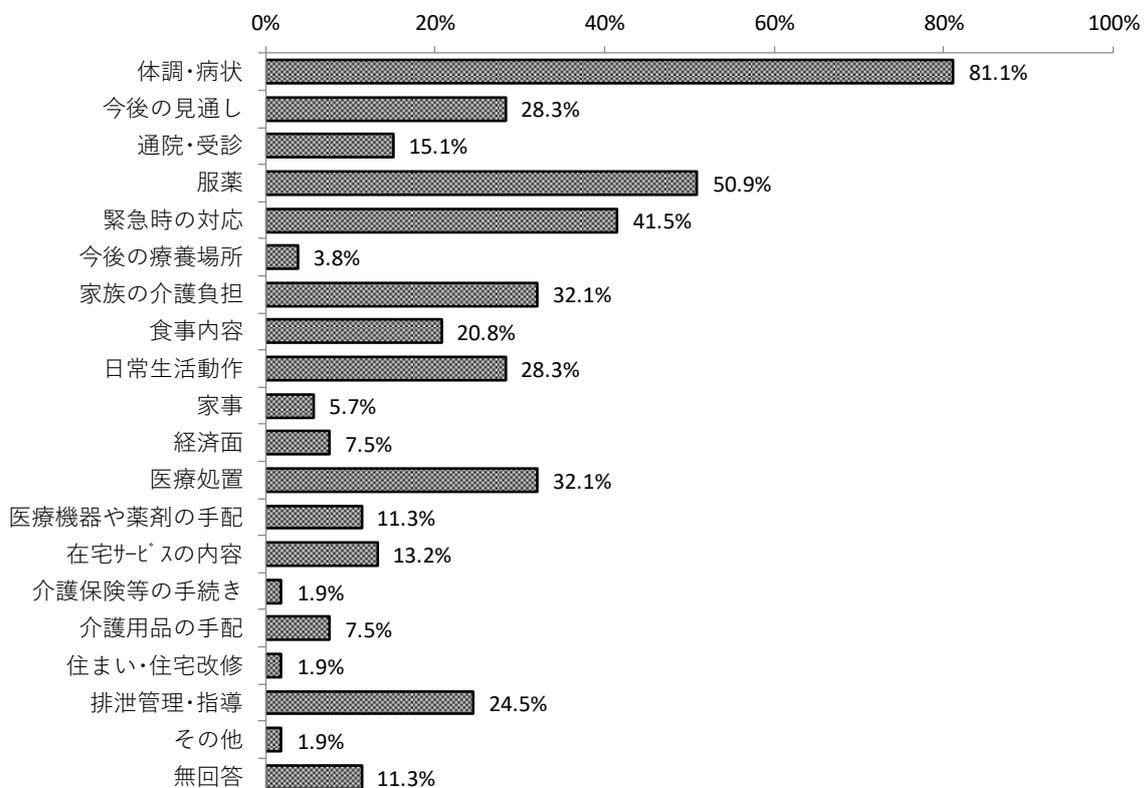
図表 3-1-75 退院当日に訪問看護が必要な利用者・家族の困りごとや心配事

(訪問看護ステーションの回答数=803、病院・診療所の回答数=53、複数回答)

・ 訪問看護ステーション



・病院・診療所



(5) 看護体制強化加算

① 加算等の算定者数

2019年8月の介護保険の利用者のうち加算等の算定者数(要介護1～5)について、訪問看護ステーションでは、緊急時訪問看護加算を算定した実利用者数について平均は31.1人、中央値は24.0人であった。特別管理加算については、訪問看護ステーションでは平均は9.2人、中央値は7.0人であった。

図表 3-1-76 【訪問看護ステーション】加算等の算定者数(要介護1～5、2019.8)

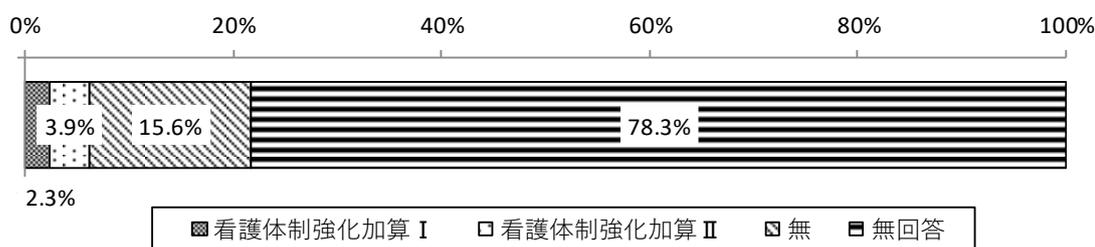
単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
緊急時訪問看護加算	1,066	31.1	31.5	24.0
特別管理加算	1,066	9.2	9.8	7.0
ターミナルケア加算	1,066	0.2	0.6	0.0
ターミナルケア療養費 1,2	1,066	0.3	0.8	0.0
各月の実利用者数	1,066	54.8	50.0	41.0

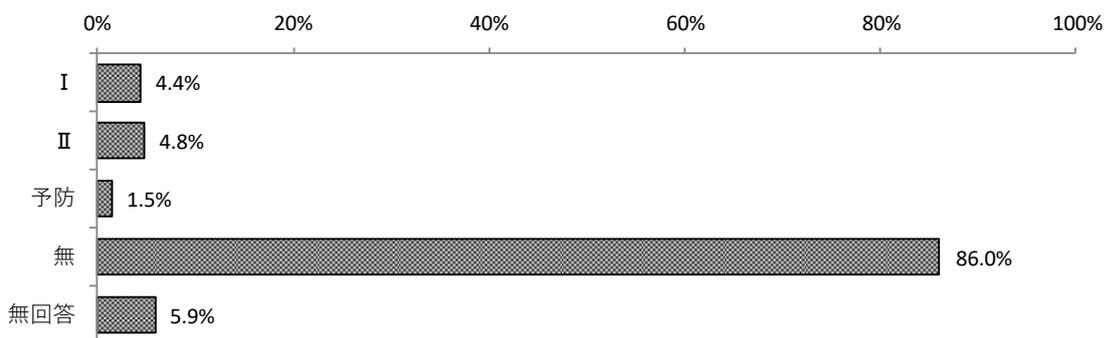
② 看護体制強化加算の算定状況

2019年9月の看護体制強化加算の算定者数（要介護1～5）について、訪問看護ステーションでは、看護体制強化加算Ⅰは2.3%、看護体制強化加算Ⅱは3.9%であった。病院・診療所（複数回答）では、看護体制強化加算Ⅰは4.4%、看護体制強化加算Ⅱは4.8%であった。

図表 3-1-77 【訪問看護ステーション】看護体制強化加算の算定
 （要介護1～5、2019.9）（回答数=1,297）



図表 3-1-78 【病院・診療所】看護体制強化加算の届出（回答数=272）



③ 看護体制強化加算にかかる加算等の状況

2019年9月の看護体制強化加算に係る算定（2019年3月～8月の実績、要介護1～5）について、訪問看護ステーションでは緊急時訪問看護加算を算定した実利用者数は平均は46.1人、中央値は34.0人であった。特別管理加算を算定した利用者数について、平均は15.8人、中央値は11.0人であった。

図表 3-1-79 【訪問看護ステーション】看護体制強化加算の算定者数
（要介護1～5、2019.8）（回答数=282）

単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
緊急時訪問看護加算を算定した実利用者数	282	46.1	53.6	34.0
特別管理加算を算定した利用者数	282	15.8	17.4	11.0
実利用者数	282	61.4	53.3	50.0

2018年9月から2019年8月のターミナルケア加算等の算定者数（要介護1～5）について、訪問看護ステーションでは平均は2.5人、中央値は1.0人であった。ターミナルケア療養費1・2算定者数について、訪問看護ステーションでは平均は4.4人、中央値は1.0人であった。

図表 3-1-80 【訪問看護ステーション】ターミナルケア加算等の算定者数（要介護1～5、2018.9～2019.8）（回答数=282）

単位：人	回答数	平均	標準偏差	中央値
ターミナルケア加算算定者数	282	2.5	5.1	1.0
ターミナルケア療養費1・2算定者数	282	4.4	7.4	1.0

④ 看護体制強化加算を算定できない理由

看護体制強化加算が一度でも「無」であった場合、算定できない理由について、訪問看護ステーションでは、「特別管理加算の対象となる利用者が少ない」が30.2%、「ターミナルケア加算の算定要件を満たせないため」が18.9%であった。病院・診療所では、「算定対象となる利用者が少ない」が28.2%、「特別管理加算の対象となる利用者が少ない」が24.8%であった。

図表 3-1-81 看護体制強化加算が一度でも「無」であった場合、算定できない理由
(訪問看護ステーションの回答数=1,219、病院・診療所の回答数=234、複数回答)

	訪問看護 ステーシ ョン	病院・診 療所
算定対象となる利用者が少ない	13.4%	28.2%
緊急時訪問看護加算算定者が多い	0.9%	5.1%
医療保険での24時間対応体制加算算定者が多い	5.6%	5.1%
特別管理加算の対象となる利用者が少ない	30.2%	24.8%
特別管理加算算定者が多い	0.4%	0.4%
医療保険での特別管理加算算定者が多い	7.2%	3.0%
特別管理加算の算定者割合の変動が大きく維持が難しい	7.2%	3.0%
ターミナルケア加算の算定要件を満たせないため	18.9%	20.5%
ターミナル期で在宅看取り希望利用者・家族が少ないため	16.0%	17.5%
毎月届出を変更したくないから	16.4%	12.4%
その他	10.2%	15.8%
無回答	40.0%	16.2%

2. 加算等の算定状況

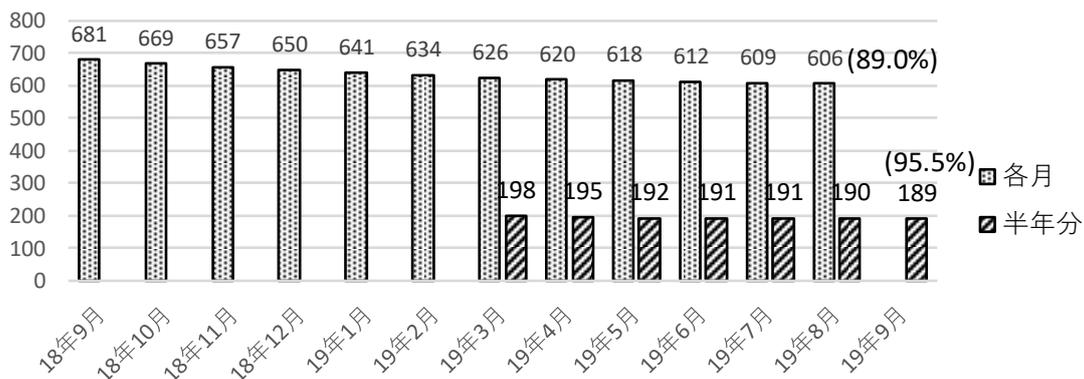
⑤ 加算の継続状況について

緊急時訪問看護加算について、2018年9月に50%以上であった事業所(681事業所)が継続して50%以上を維持していたかをみたところ、2019年8月には606事業所(89.0%)が維持していた。半年分でみたところ、2019年3月は198事業所で、2019年9月は189事業所(95.5%)であった。

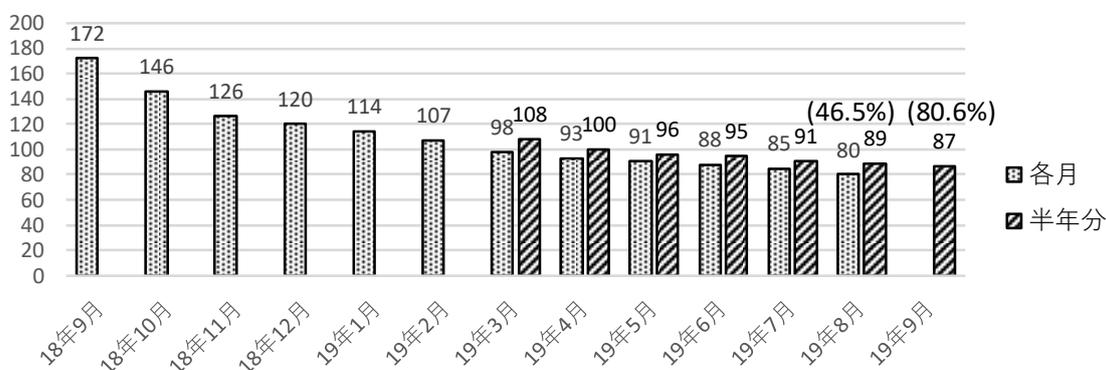
特別管理加算について、2018年9月に30%以上であった事業所(172事業所)が継続して30%以上を維持していたかをみたところ、2019年8月には80事業所(46.5%)が維持していた。半年分でみたところ、2019年3月は108事業所で、2019年9月は87事業所(80.6%)であった。

ターミナルケア加算について、2018年9月に1人以上であった事業所(131事業所)が継続して1人以上を維持していたかをみたところ、2019年8月には5事業所(3.8%)が維持していた。1年分でみたところ、2019年3月は159事業所で、2019年9月は145事業所(80.6%)であった。さらに5人以上の維持をみたところ、2018年9月で3事業所が2019年8月には1事業所(33.3%)であった。1年分でみたところ、2019年3月は51事業所で、2019年9月は34事業所(66.7%)であった。

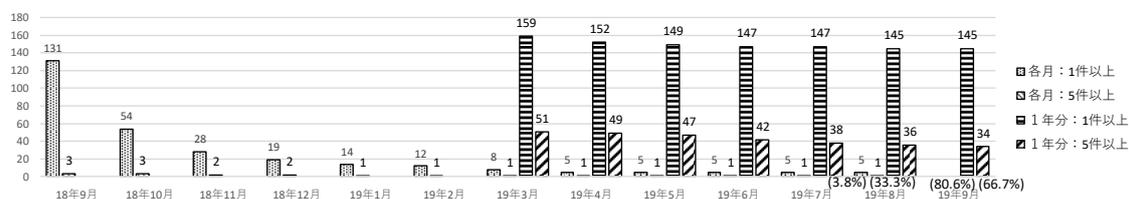
図表 3-1-82 2018年9月および2018年9月～2019年2月の緊急時訪問看護加算の算定者割合が50%以上であった事業所が、継続して50%以上を維持していた事業所数の推移
(回答数は各月分は1,055、半年分は265)



図表 3-1-83 2018年9月および2018年9月～2019年2月の特別管理加算の算定者割合が30%以上であった事業所が、継続して30%以上を維持していた事業所数の推移
(回答数は各月分は1,066、半年分は277)



図表 3-1-84 2018年9月および2018年3月～2019年ターミナルケア加算の算定者人数が1あるいは5人以上であった事業所が、継続して1あるいは5人以上を維持していた事業所数の推移(回答数は各月分は1,066、1年分は262)



(6) 24時間体制の整備状況

① 緊急訪問

訪問看護ステーションでは、緊急訪問の利用実人員数に占める加算算定者の割合は、早朝は 35.0%、夜間は 35.4%、深夜は 45.5%、特別管理加算算定者の割合は早朝は 41.4%、夜間は 41.1%、深夜は 42.2%であった。訪問回数に占める加算算定者の割合は、早朝・夜間・深夜合計で 40.5%、特別管理加算算定者の割合は早朝・夜間・深夜合計で 38.0%であった。

図表 3-1-85 【訪問看護ステーション】緊急訪問について（回答数=1,153）

・緊急訪問の利用実人員数・訪問回数

	利用実人員数（人）			訪問回数（回）		
	うち、早朝・夜間・深夜加算算定者の人数	特別管理加算算定者の人数		うち、早朝・夜間・深夜加算算定回数	特別管理加算算定回数	
早朝	237	83	98	286	100	110
夜間	721	255	296	864	335	329
深夜	301	137	127	383	186	144
合計				1,533	621	583

・緊急訪問の利用実人員数・訪問回数のうち加算算定者等割合

	利用実人員数（人）		訪問回数（回）	
	うち、早朝・夜間・深夜加算算定者の割合	特別管理加算算定者の割合	うち、早朝・夜間・深夜加算回数の割合	特別管理加算算定回数の割合
早朝	35.0%	41.4%	35.0%	38.5%
夜間	35.4%	41.1%	38.8%	38.1%
深夜	45.5%	42.2%	48.6%	37.6%
合計			40.5%	38.0%

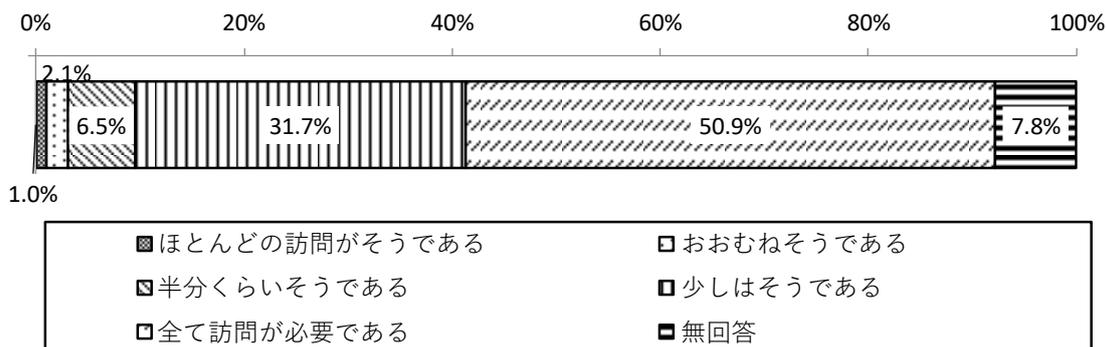
・緊急訪問の利用人員数（人）

	回答事業所数	合計値	平均	標準偏差	中央値
利用実人員数：早朝	1,153	237	0.2	0.6	0.0
利用実人員数：夜間	1,153	721	0.6	1.3	0.0
利用実人員数：深夜	1,153	301	0.3	0.8	0.0
うち、早朝・夜間・深夜の加算算定者：早朝	1,153	83	0.1	0.3	0.0
うち、早朝・夜間・深夜の加算算定者：夜間	1,153	255	0.2	0.7	0.0
うち、早朝・夜間・深夜の加算算定者：深夜	1,153	137	0.1	0.4	0.0
特別管理加算算定者：早朝	1,153	98	0.1	0.3	0.0
特別管理加算算定者：夜間	1,153	296	0.3	0.7	0.0
特別管理加算算定者：深夜	1,153	127	0.1	0.4	0.0

② ビデオ通話が可能であった場合、訪問せずに対応できた訪問

ビデオ通話が可能であった場合、訪問せずに対応できた訪問について、「少しはそうである」が31.7%、「半分くらいそうである」が6.5%であった。

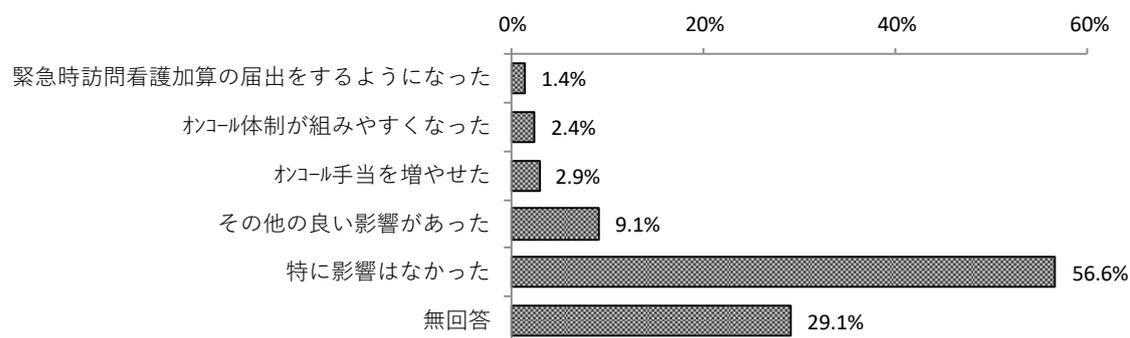
図表 3-1-86 【訪問看護ステーション】ビデオ通話が可能であった場合、訪問せずに対応できた訪問（回答数=1,297）



③ 2回目以降の緊急時訪問でも加算ができるようになったことによる影響

2回目以降の緊急時訪問でも加算ができるようになったことによる影響について、「特に影響はなかった」が56.6%、「その他の良い影響があった」が9.1%であった。

図表 3-1-87 【訪問看護ステーション】2回目以降の緊急時訪問でも加算ができるようになったことによる影響（回答数=1,297、複数回答）



3. サービス提供等の状況

(1) 利用終了者・人生の最終段階における医療ケア

① 要介護度別の訪問看護利用終了者数

要介護度別の訪問看護利用終了者の割合（2019年4月～9月）について、病院・診療所では「1か月未満」が要支援1で20.0%、要介護5で20.2%であった。

図表 3-1-88 【病院・診療所】要介護度別の訪問看護利用終了者の利用期間（回答数=205）

・ 要介護別の利用終了者数（人）

	1か月未満	1か月以上 3か月未満	3か月以上 6か月未満	6か月以上 1年未満	1年以上	合計
要支援1	7	6	6	5	11	35
要支援2	4	16	11	10	22	63
要介護1	25	48	17	23	64	177
要介護2	42	34	50	40	95	261
要介護3	34	21	32	20	91	198
要介護4	41	31	25	26	111	234
要介護5	52	39	33	22	111	257
合計	205	195	174	146	505	1,225

・ 利用終了者の要介護度別の利用期間の割合

	1か月未満	1か月以上 3か月未満	3か月以上 6か月未満	6か月以上 1年未満	1年以上	合計
要支援1	20.0%	17.1%	17.1%	14.3%	31.4%	100.0%
要支援2	6.3%	25.4%	17.5%	15.9%	34.9%	100.0%
要介護1	14.1%	27.1%	9.6%	13.0%	36.2%	100.0%
要介護2	16.1%	13.0%	19.2%	15.3%	36.4%	100.0%
要介護3	17.2%	10.6%	16.2%	10.1%	46.0%	100.0%
要介護4	17.5%	13.2%	10.7%	11.1%	47.4%	100.0%
要介護5	20.2%	15.2%	12.8%	8.6%	43.2%	100.0%
合計	16.7%	15.9%	14.2%	11.9%	41.2%	100.0%

② 転帰別人数

訪問看護の利用を終了した人についての転帰（2019年4月～9月）について、訪問看護ステーションでは、「在宅死亡」が20.3%、「病院・有床診療所への入院」が40.7%であった。病院・診療所では、「在宅死亡」が20.7%、「病院・有床診療所への入院」が40.7%であった。

図表 3-1-89 訪問看護の利用を終了した人についての転帰別人数
(訪問看護ステーションの回答数=1,160、病院・診療所の回答数=212) (単位:人)
・訪問看護ステーション

	人数の 合計	人数の 割合	平均	標準偏差	中央値
在宅死亡	3,179	20.3%	2.7	4.0	1.0
病院・有床診療所への入院	6,370	40.7%	5.5	7.6	3.0
入院後死亡者のうち 入院後24時間以内での死亡	273	1.7%	0.2	0.6	0.0
入院後死亡者のうち 入院後24時間超48時間以内での死亡	172	1.1%	0.1	0.5	0.0
入院後死亡者のうち 入院後48時間超での死亡	2,338	14.9%	2.0	3.4	1.0
老人保健施設・介護医療院への入所	1,328	8.5%	1.1	2.0	0.0
特別養護老人ホームへの入所	822	5.3%	0.7	1.5	0.0
在宅継続	2,388	15.3%	2.1	3.4	1.0
うち他の介護保険サービスを利用	1,519	9.7%	1.3	2.5	0.0
うち医療保険による訪問看護を利用	236	1.5%	0.2	1.0	0.0
転居	342	2.2%	0.3	0.7	0.0
その他	1,213	7.8%	1.0	2.8	0.0
合計	15,642	100.0%	13.5	14.8	10.0

3. サービス提供等の状況

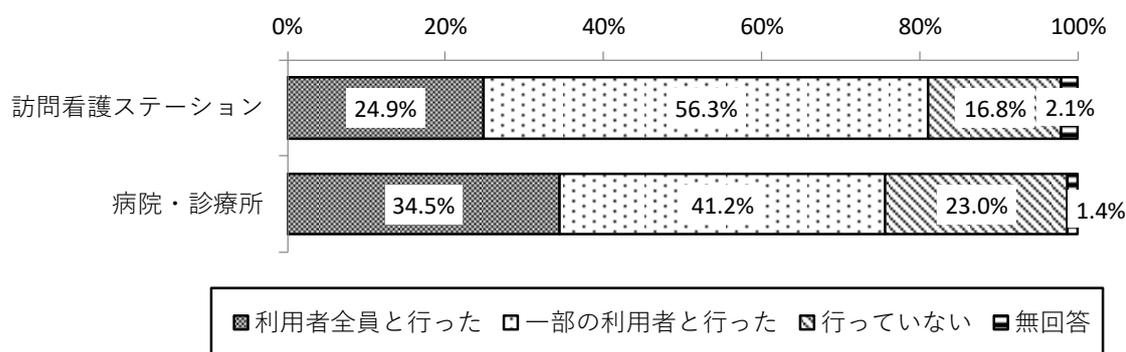
・病院・診療所

	人数の 合計	人数の 割合	平均	標準偏差	中央値
在宅死亡	186	20.7%	0.9	2.0	0.0
病院・有床診療所への入院	365	40.7%	1.7	2.5	1.0
入院後死亡者のうち 入院後 24 時間以内での死亡	23	2.6%	0.1	0.4	0.0
入院後死亡者のうち 入院後 24 時間超 48 時間以内での死亡	6	0.7%	0.0	0.2	0.0
入院後死亡者のうち 入院後 48 時間超での 死亡	187	20.8%	0.9	1.9	0.0
老人保健施設・介護医療 院への入所	83	9.3%	0.4	1.1	0.0
特別養護老人ホームへ の入所	45	5.0%	0.2	0.6	0.0
在宅継続	174	19.4%	0.8	1.8	0.0
うち他の介護保険サ- ビスを利用	112	12.5%	0.5	1.6	0.0
うち医療保険による 訪問看護を利用	14	1.6%	0.1	0.5	0.0
転居	11	1.2%	0.1	0.3	0.0
その他	33	3.7%	0.2	0.5	0.0
合計	897	100.0%	4.2	4.8	2.0

③ 人生の最終段階の医療・ケアについて、死亡した利用者自身との生前の話し合い

人生の最終段階の医療・ケアについて、死亡した利用者自身との生前の話し合いを行ったかについて、訪問看護ステーションでは、「一部の利用者で行った」が56.3%、「利用者全員で行った」が24.9%、病院・診療所では、「一部の利用者で行った」が41.2%、「利用者全員で行った」が34.5%であった。

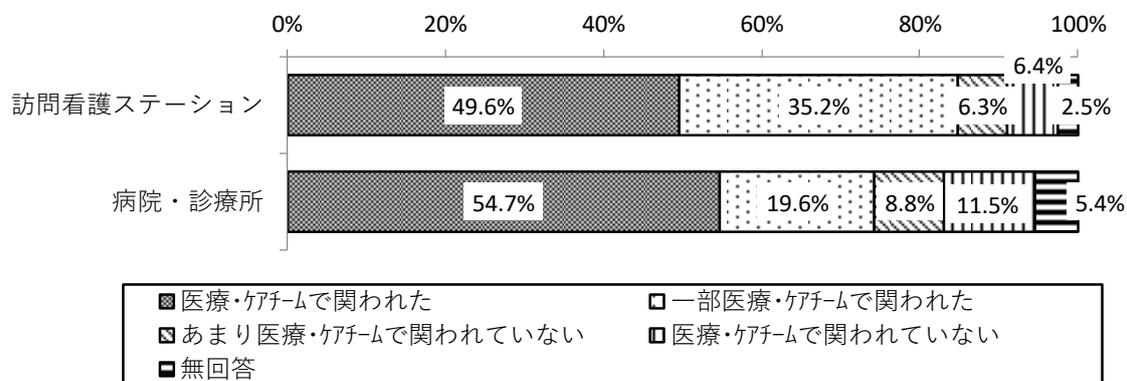
図表 3-1-90 人生の最終段階の医療・ケアについて、死亡した利用者自身との生前の話し合い
(訪問看護ステーションの回答数=1,086、病院・診療所の回答数=148)



④ 人生の最終段階の医療・ケアは、医療・ケアチームで関わられたか

人生の最終段階の医療・ケアは、医療・ケアチームで関わられたかについて、訪問看護ステーションでは、「医療・ケアチームで関わられた」が49.6%、「一部医療・ケアチームで関わられた」が35.2%、病院・診療所では、「医療・ケアチームで関わられた」が54.7%であった。

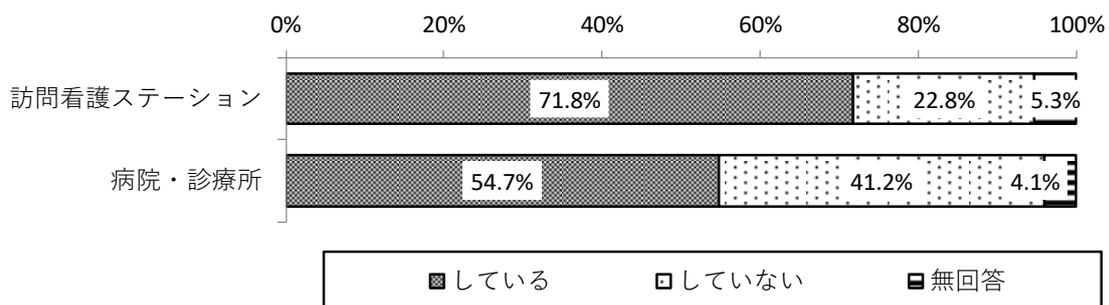
図表 3-1-91 人生の最終段階の医療・ケアは、医療・ケアチームで関わられたか
(訪問看護ステーションの回答数=1,086、病院・診療所の回答数=148)



⑤ 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン

人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインを参考にしているかについて、訪問看護ステーションでは「している」が71.8%、病院・診療所では「している」が54.7%であった。

図表 3-1-92 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインを参考にしているか（訪問看護ステーションの回答数=1,086、病院・診療所の回答数=148）

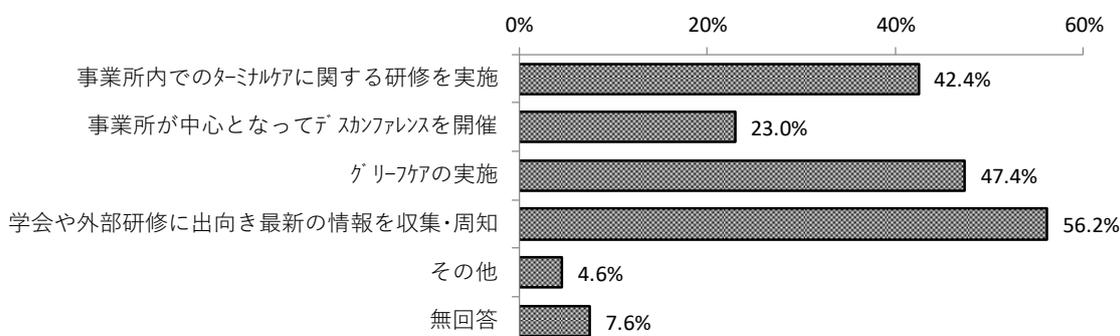


⑥ ターミナルケアに関するケアの質の向上や充実に向けた取組み

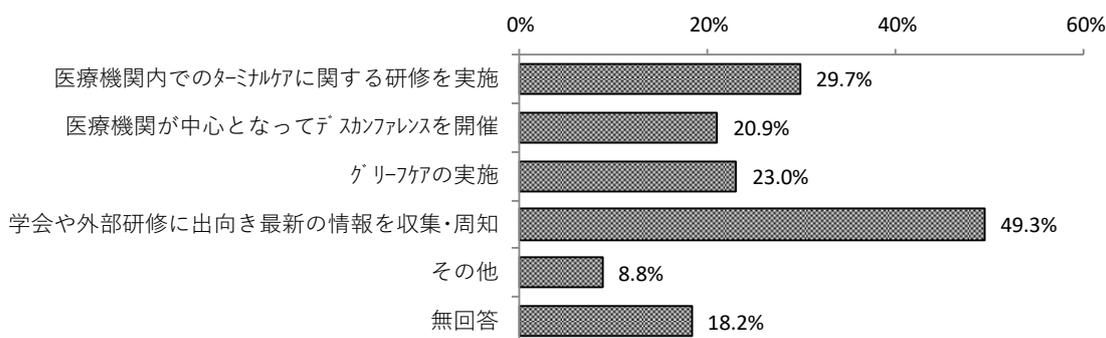
ターミナルケアに関するケアの質の向上や充実に向けた取組みについて、訪問看護ステーションでは、「学会や外部研修に出向き最新の情報を収集・周知」が56.2%、「グリーフケアの実施」が47.4%、「事業所内でのターミナルケアに関する研修を実施」が42.4%であった。病院・診療所では、「学会や外部研修に出向き最新の情報を収集・周知」が49.3%であった。

図表 3-1-93 ターミナルケアに関するケアの質の向上や充実に向けた取組み
(訪問看護ステーションの回答数=1,086、病院・診療所の回答数=148、複数回答)

・訪問看護ステーション



・病院・診療所

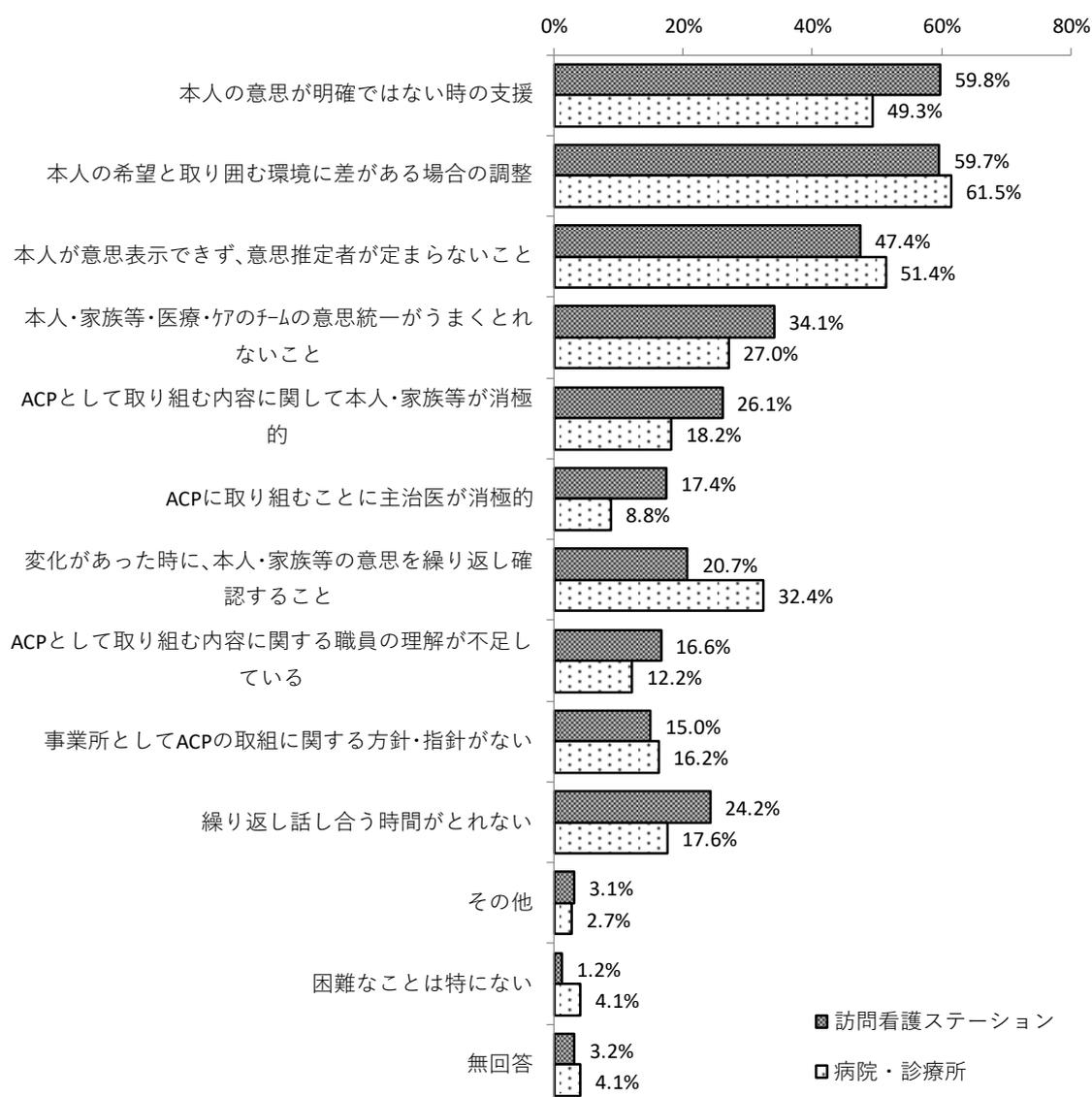


⑦ アドバンス・ケア・プランニングに取り組む上で困難なこと

アドバンス・ケア・プランニングに取り組む上で困難なことについて、訪問看護ステーションでは、「本人の意思が明確ではない時の支援」が59.8%、「本人の希望と取り囲む環境に差がある場合の調整」が59.7%、「本人が意思表示できず、意思推定者が定まらないこと」が47.4%であった。

病院・診療所では、「本人の希望と取り囲む環境に差がある場合の調整」が61.5%、「本人が意思表示できず、意思推定者が定まらないこと」が51.4%、「本人の意思が明確ではない時の支援」が49.3%であった。

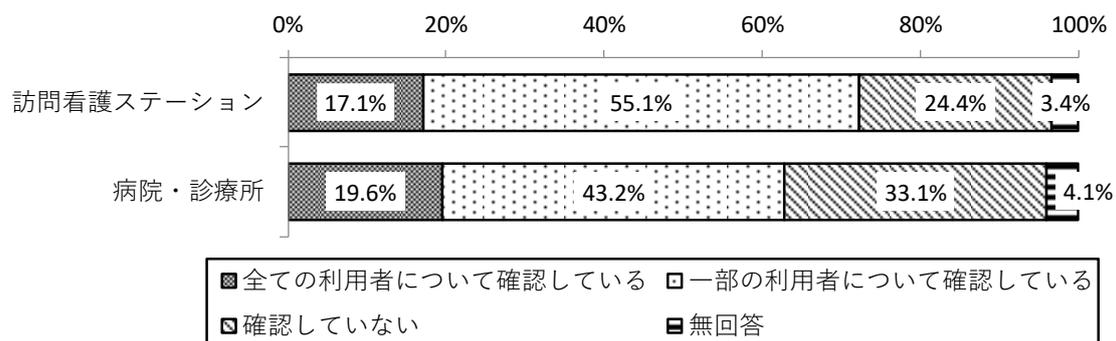
図表 3-1-94 アドバンス・ケア・プランニングに取り組む上で困難なこと
(訪問看護ステーションの回答数=1,086、病院・診療所の回答数=148、複数回答)



⑧ 利用前の医療機関や介護サービス等で ACP が実施されていたかの確認

利用前の医療機関や介護サービス等で ACP が実施されていたかの確認について、訪問看護ステーションでは「一部の利用者について確認している」が 55.1%、病院・診療所では「一部の利用者について確認している」が 43.2%であった。

図表 3-1-95 利用前の医療機関や介護サービス等で ACP が実施されていたかの確認
(訪問看護ステーションの回答数=1,086、病院・診療所の回答数=148)

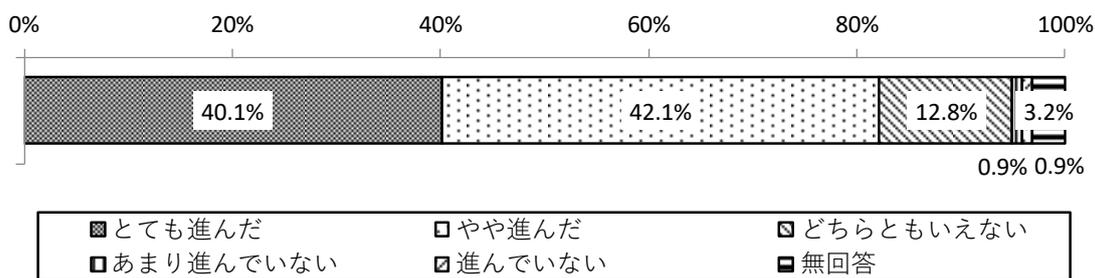


(2) 理学療法士、作業療法又は言語聴覚士による訪問看護

① 看護職員とリハビリ職員の連携や協働の進捗状況

看護職員とリハビリ職員の連携や協働の進捗状況について、訪問看護ステーションでは「やや進んだ」が42.1%、「とても進んだ」が40.1%であった。

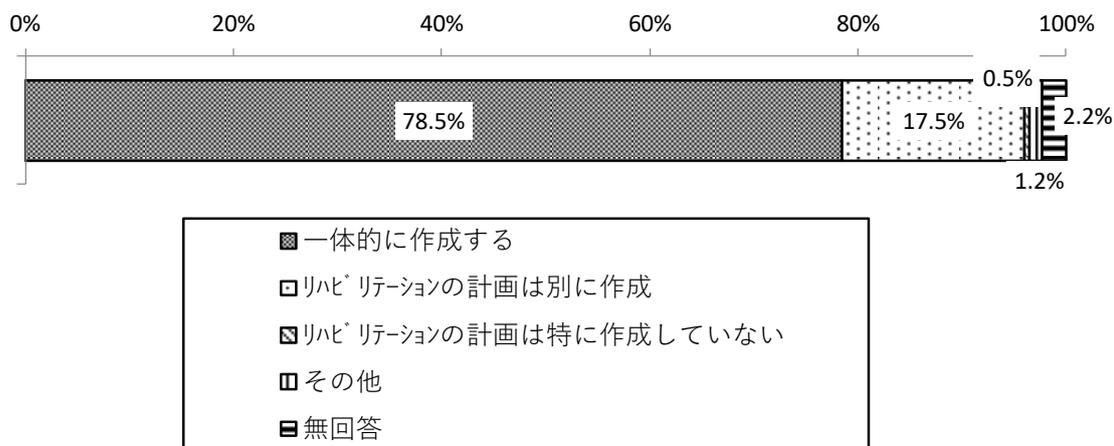
図表 3-1-96 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員の連携や協働の進捗状況
(回答数=758)



② 訪問看護計画書の作成方法

訪問看護計画書の作成方法について、訪問看護ステーションでは「一体的に作成する」が78.5%であった。

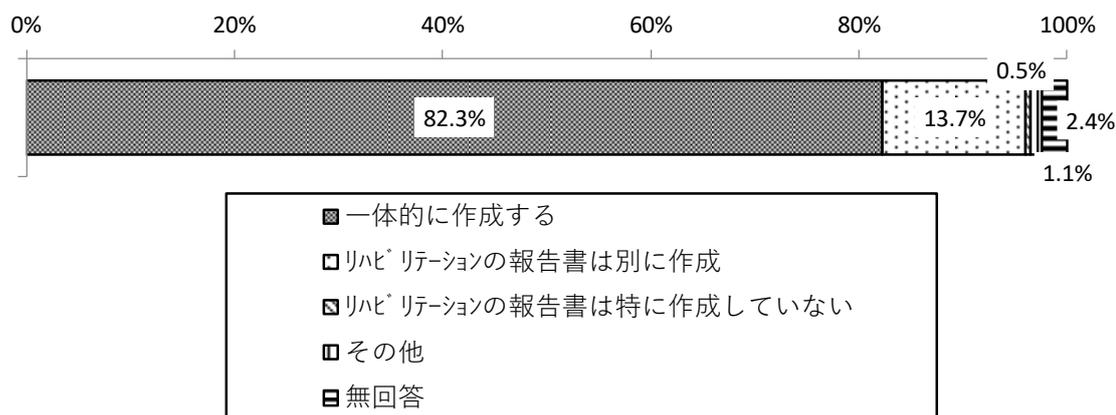
図表 3-1-97 【訪問看護ステーション】訪問看護計画書の作成方法 (回答数=758)



③ 訪問看護報告書の作成方法

訪問看護報告書の作成方法について、訪問看護ステーションでは「一体的に作成する」が82.3%であった。

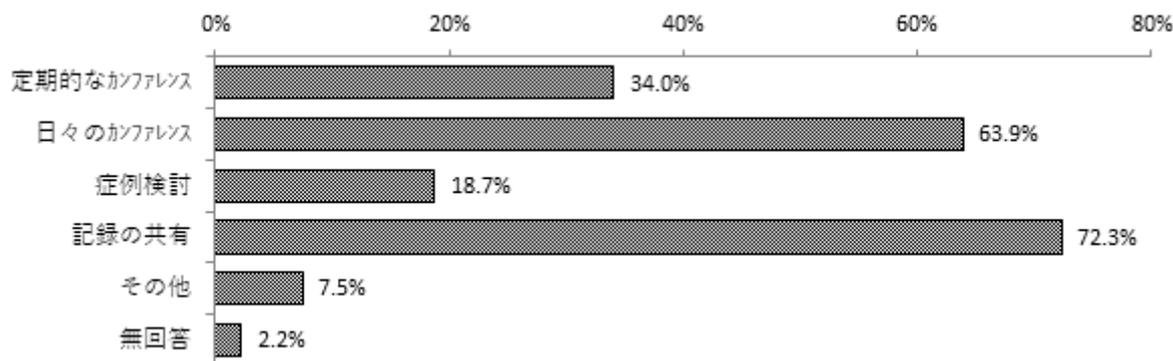
図表 3-1-98 【訪問看護ステーション】訪問看護報告書の作成方法（回答数=758）



④ 看護職員とリハビリ職員の情報共有

看護職員とリハビリ職員の情報共有について、訪問看護ステーションでは「記録の共有」が72.3%、「日々のカンファレンス」が63.9%であった。

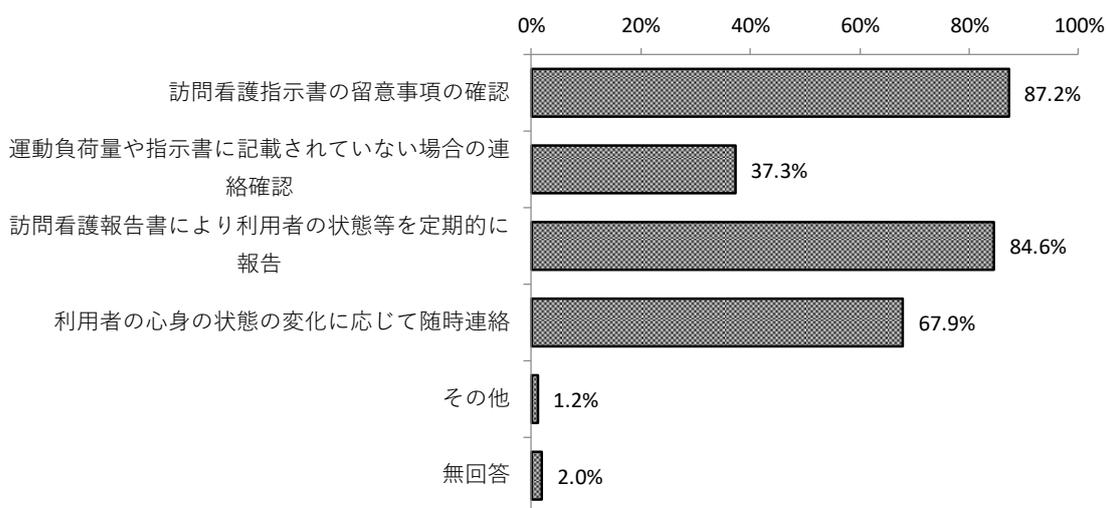
図表 3-1-99 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員の情報共有
(回答数=758、複数回答)



⑤ リハビリテーションの提供にあたっての主治医との連携

リハビリテーションの提供にあたっての主治医との連携について、訪問看護ステーションでは「訪問看護指示書の留意事項の確認」が87.2%、「訪問看護報告書により利用者の状態等を定期的に報告」が84.6%であった。

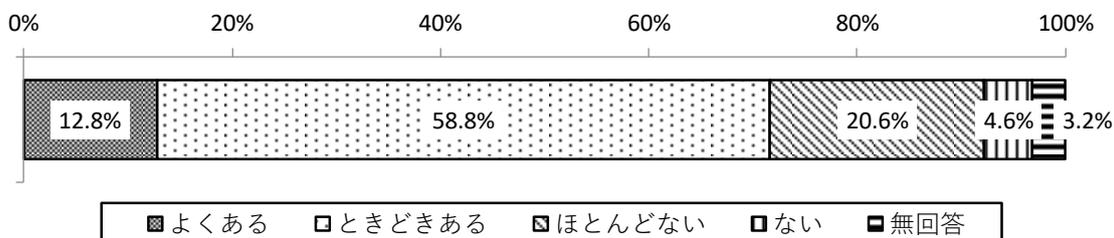
図表 3-1-100 【訪問看護ステーション】リハビリテーションの提供にあたっての主治医との連携（回答数=758、複数回答）



⑥ 看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問すること

看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問することについて、訪問看護ステーションでは「ときどきある」が58.8%であった。

図表 3-1-101 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問することの有無（回答数=758）

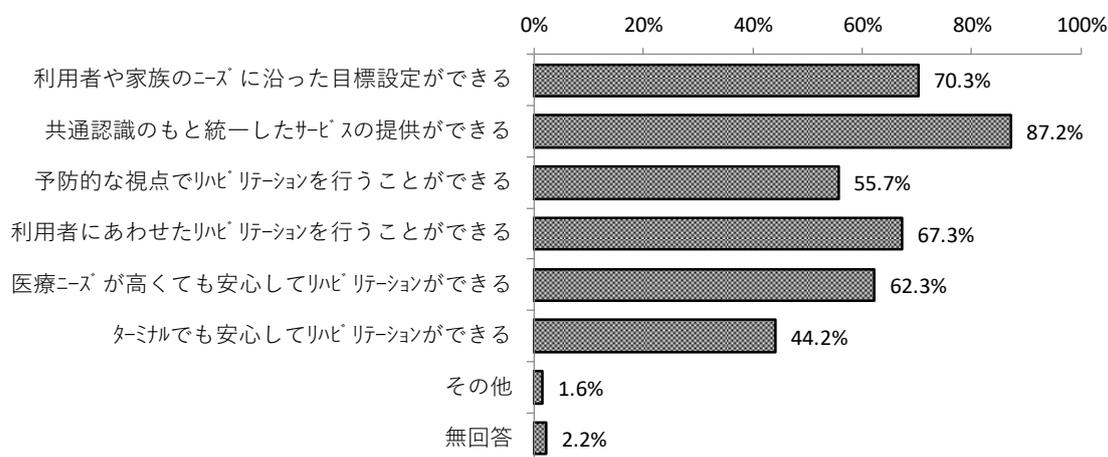


⑦ 看護職員とリハビリ職員で連携することでのサービスの質への効果

看護職員とリハビリ職員で連携することでのサービスの質への効果について、訪問看護ステーションでは「共通認識のもと統一したサービスの提供ができる」が87.2%であった。

一緒に訪問する利用者の状態（自由回答）として、3か月に1回など定期的な訪問、初回訪問時、状態変化時、介助方法の統一のため、看護やリハビリの視点が必要と判断した時などの回答がみられた。

図表 3-1-102 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員で連携することでのサービスの質への効果（回答数=758、複数回答）

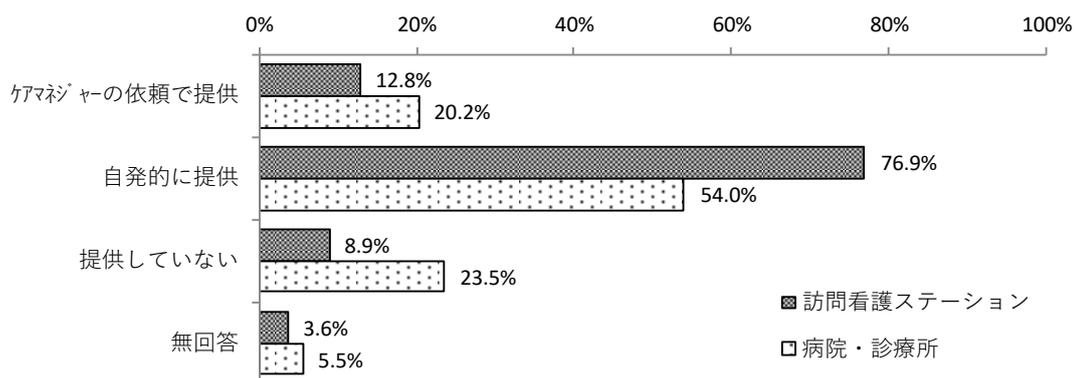


(3) 介護保険の利用者の情報提供

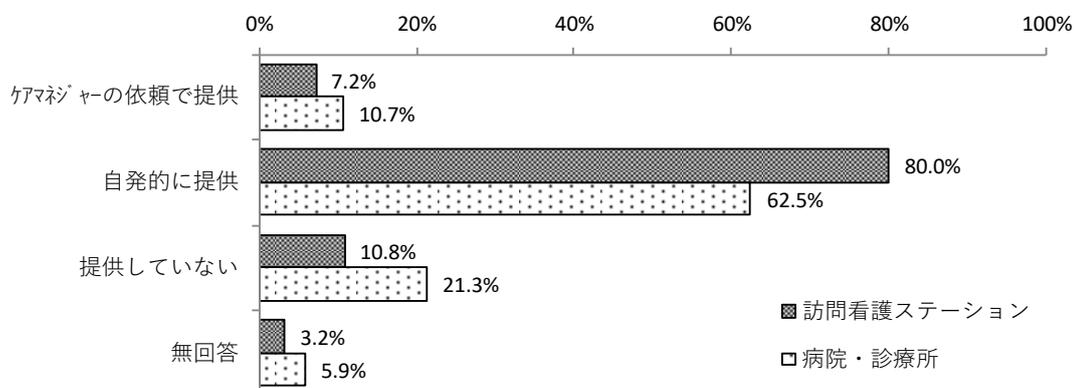
① ケアマネジャーへの情報提供

ケアマネジャーへの情報提供として、訪問看護計画書については、「自発的に提供」が訪問看護ステーションで76.9%、病院・診療所で54.0%であった。訪問看護報告書については、「自発的に提供」が訪問看護ステーションで80.0%、病院・診療所で62.5%であった。訪問看護サマリーについては、「提供していない」が訪問看護ステーションでは68.3%、病院・診療所では77.9%であった。入院時情報提供書作成のための情報提供については、「提供していない」が訪問看護ステーションでは61.3%、病院・診療所では66.9%であった。

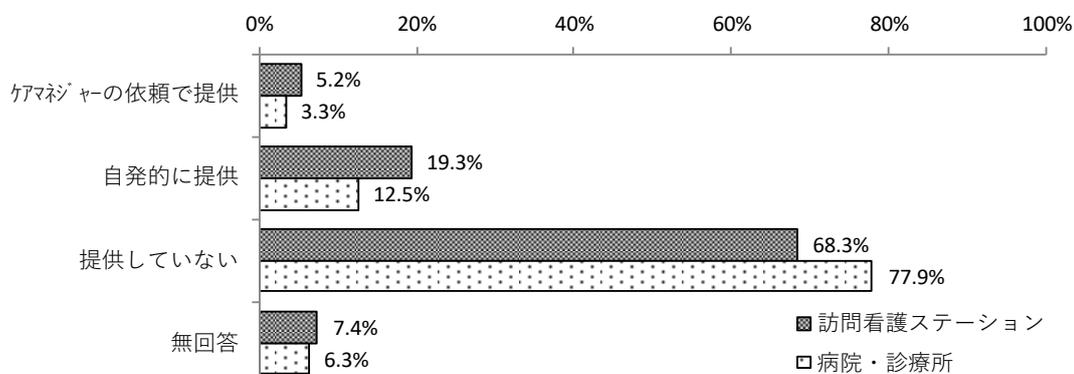
図表 3-1-103 ケアマネジャーへの情報提供・訪問看護計画書の提供
(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)



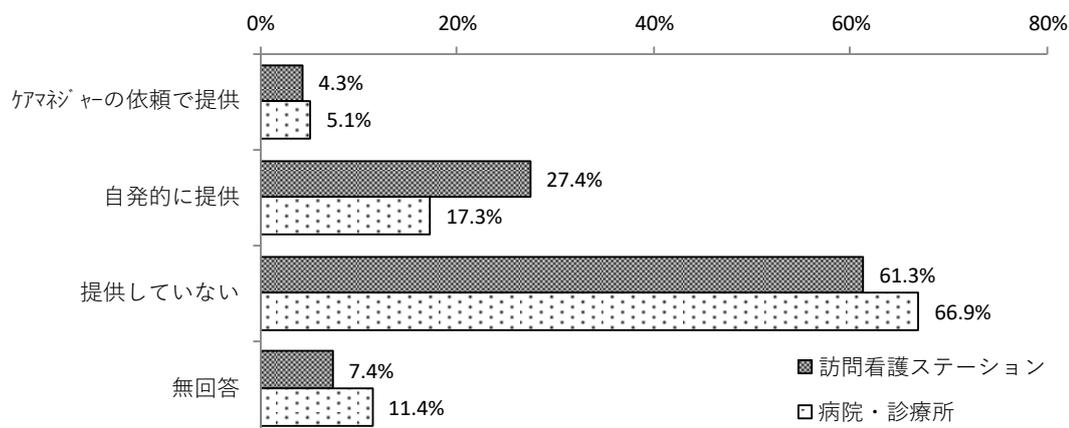
図表 3-1-104 ケアマネジャーへの情報提供・訪問看護報告書の提供
(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)



図表 3-1-105 ケアマネジャーへの訪問看護サマリーの提供
(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)



図表 3-1-106 ケアマネジャーへの入院時情報提供書作成のための情報提供
(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)



ケアマネジャーからの依頼により上記以外で情報提供しているもの（自由回答）として、通院状況と内容・訪問時の状況、利用者への指導パンフレット、ポジショニング表、薬剤情報などの回答がみられた。

ケアマネジャーへの情報提供の活用方法（自由回答）として、ケアプランへの反映、スタッフのケアの統一などの回答がみられた。

3. サービス提供等の状況

ケアマネジャーへの情報提供について、訪問看護ステーションでは、訪問看護計画書の自発的提供について、平均は38.2件、中央値は23.0件であった。病院・診療所では、平均は9.2件、中央値は4.0件であった。

図表 3-1-107 ケアマネジャーへの情報提供（単位：件）

・訪問看護ステーション

	回答数	提供件数の合計	平均	標準偏差	中央値
訪問看護計画書					
ケアマネジャーの依頼で提供	141	2,474	17.5	29.0	5.0
自発的に提供	764	29,177	38.2	53.9	23.0
訪問看護報告書					
ケアマネジャーの依頼で提供	81	2,182	26.9	35.4	14.0
自発的に提供	791	41,249	52.1	56.2	39.0
訪問看護サマリー					
ケアマネジャーの依頼で提供	40	93	2.3	4.1	1.5
自発的に提供	145	770	5.3	9.7	2.0
入院時情報提供書作成のための情報提供					
ケアマネジャーの依頼で提供	27	85	3.1	5.7	1.0
自発的に提供	214	592	2.8	3.2	2.0

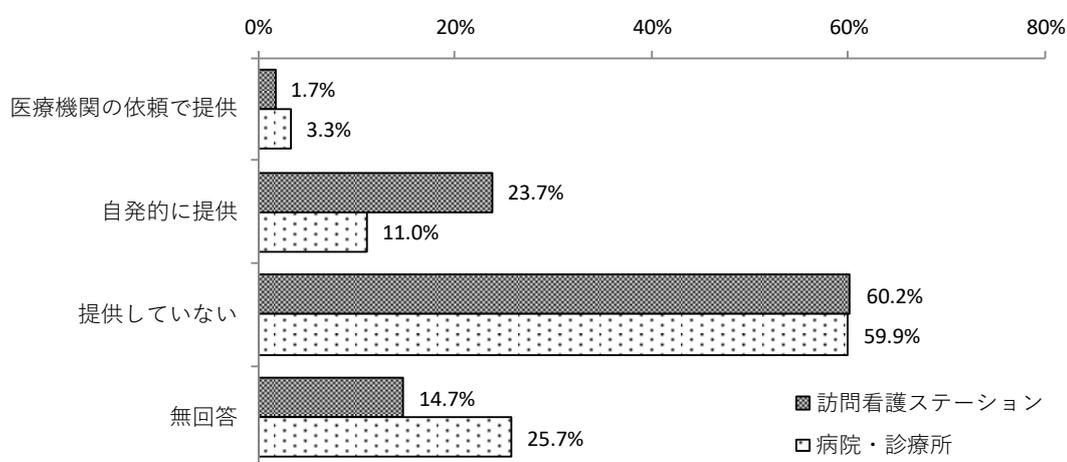
・病院・診療所

	回答数	提供件数の合計	平均	標準偏差	中央値
訪問看護計画書					
ケアマネジャーの依頼で提供	50	324	6.5	9.8	3.0
自発的に提供	125	1,153	9.2	12.4	4.0
訪問看護報告書					
ケアマネジャーの依頼で提供	27	190	7.0	8.0	4.0
自発的に提供	145	1,730	11.9	13.6	7.0
訪問看護サマリー					
ケアマネジャーの依頼で提供	6	20	3.3	1.6	3.5
自発的に提供	24	92	3.8	4.2	2.0
入院時情報提供書作成のための情報提供					
ケアマネジャーの依頼で提供	10	38	3.8	5.5	1.5
自発的に提供	28	60	2.1	1.6	1.0

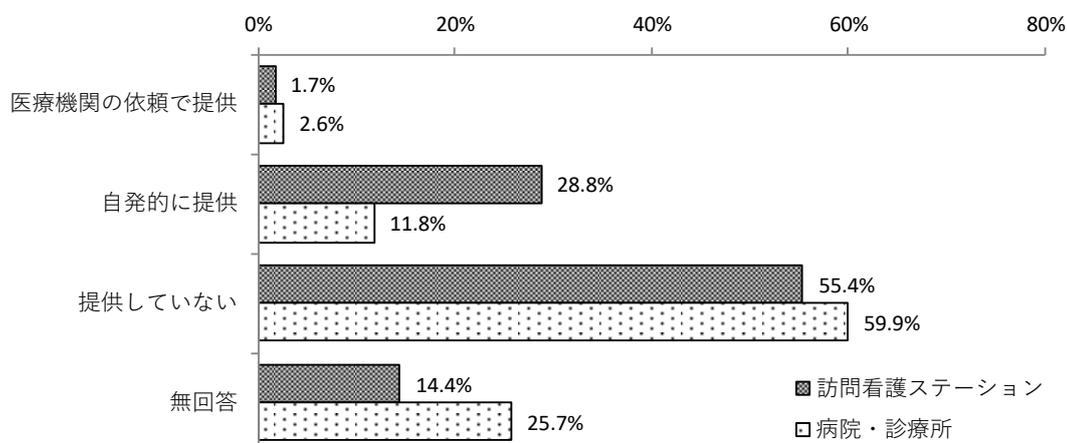
② 介護保険の利用者が入院した場合の医療機関への情報提供

介護保険の利用者が入院した場合の医療機関への情報提供として、訪問看護計画書については、「提供していない」が訪問看護ステーションで60.2%、病院・診療所で59.9%であった。訪問看護報告書については、「提供していない」が訪問看護ステーションで55.4%、病院・診療所で59.9%であった。訪問看護サマリーについては、「自発的に提供」が訪問看護ステーションでは、56.4%、病院・診療所では17.3%であった。

図表 3-1-108 介護保険の利用者が入院した場合の医療機関への情報提供・訪問看護計画書
(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)

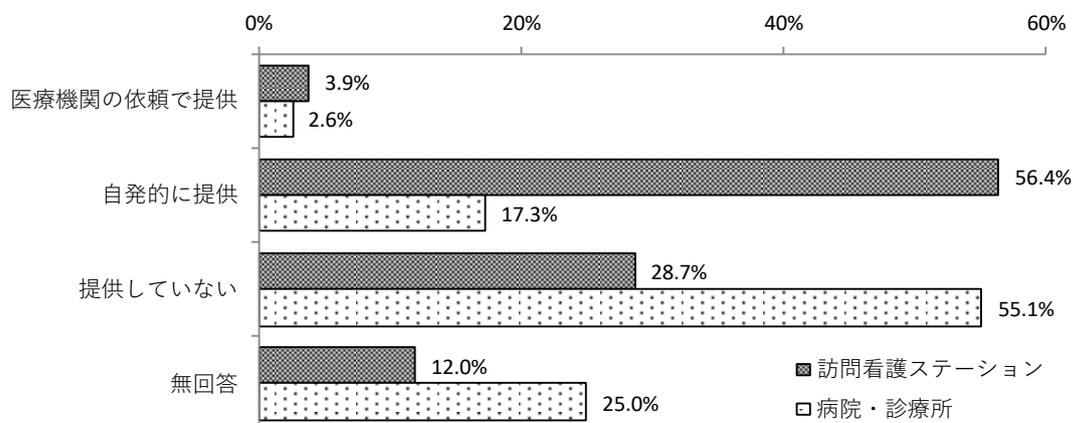


図表 3-1-109 介護保険の利用者が入院した場合の医療機関への情報提供・訪問看護報告書
(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)



3. サービス提供等の状況

図表 3-1-110 介護保険の利用者が入院した場合の医療機関への情報提供・訪問看護サマリー
 (訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)



医療機関からの依頼により情報提供しているもの（自由回答）として、訪問看護サマリー、リハサマリー、在宅医療介護連携シート、創・褥瘡・皮膚病変などの画像などの回答がみられた。

医療機関への情報提供の活用方法（自由回答）として、看看連携、医療処置、入院生活がスムーズに送れるように、在宅での看護が継続されること、また退院時に向けてなどの回答がみられた。

図表 3-1-111 介護保険の利用者が入院した場合の医療機関への情報提供（単位：件）
（訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272）

・訪問看護ステーション

	回答数	提供件数の合計	平均	標準偏差	中央値
訪問看護計画書					
医療機関の依頼で提供	13	238	18.3	22.9	10.0
自発的に提供	211	5,505	26.1	70.3	4.0
訪問看護報告書					
医療機関の依頼で提供	14	235	16.8	22.6	4.5
自発的に提供	260	7,215	27.8	69.6	4.0
訪問看護メモ					
医療機関の依頼で提供	30	102	3.4	6.0	1.0
自発的に提供	547	1,722	3.1	3.1	2.0

・病院・診療所

	回答数	提供件数の合計	平均	標準偏差	中央値
訪問看護計画書					
医療機関の依頼で提供	4	35	8.8	9.0	6.5
自発的に提供	19	90	4.7	7.4	2.0
訪問看護報告書					
医療機関の依頼で提供	3	32	10.7	10.0	10.0
自発的に提供	23	117	5.1	8.1	2.0
訪問看護メモ					
医療機関の依頼で提供	1	2	2.0	-	2.0
自発的に提供	39	98	2.5	2.0	2.0

4. 業務の課題や改善

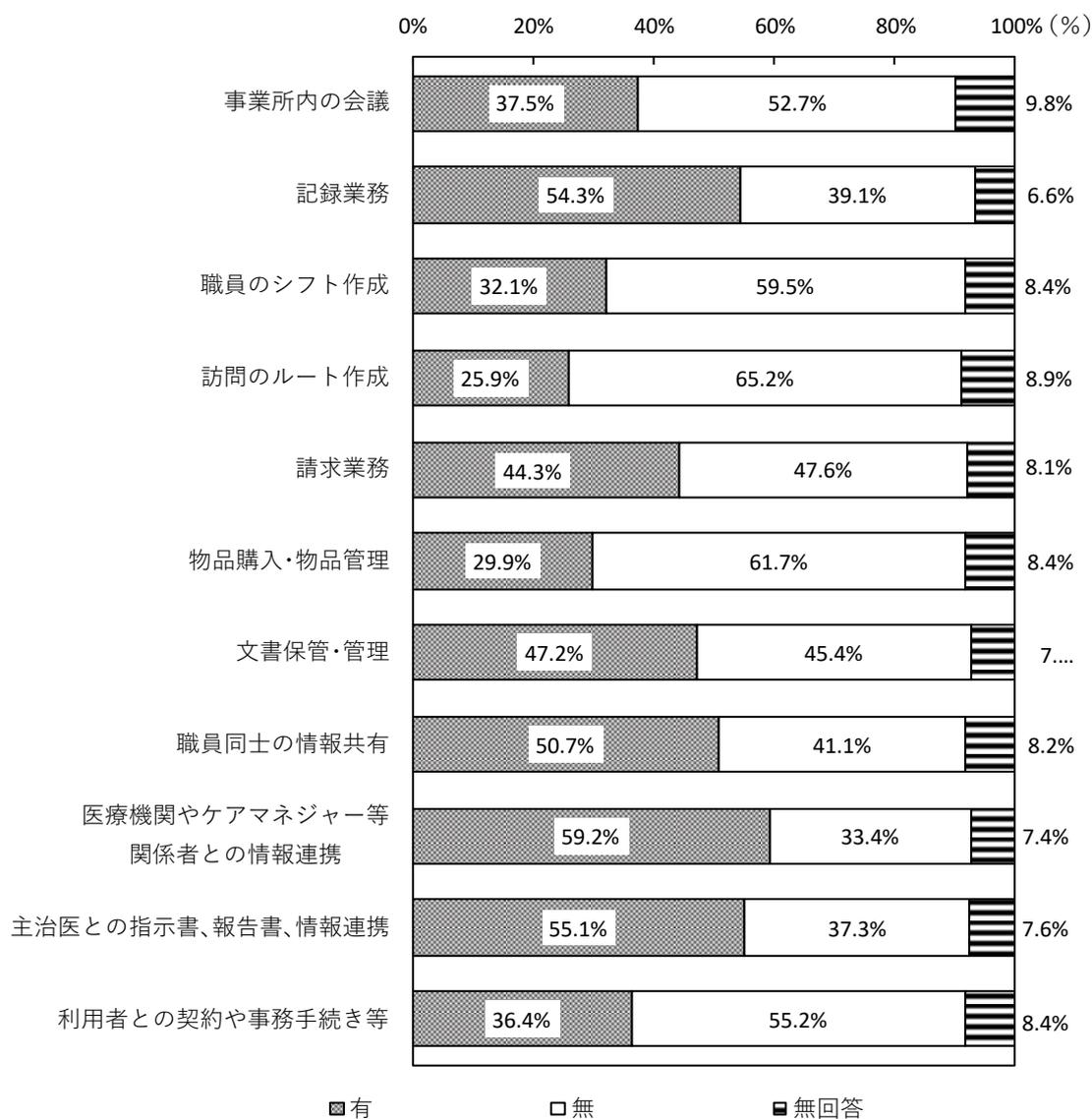
① 今後改善や効率化したい内容

今後改善や効率化したい内容について、訪問看護ステーションで「有」は、医療機関やケアマネジャー等関係者との情報連携が 59.2%、主治医との指示書、報告書、情報連携で 55.1%、記録業務で 54.3%であった。病院・診療所で「有」は、医療機関やケアマネジャー等関係者との情報連携が 47.1%であった。

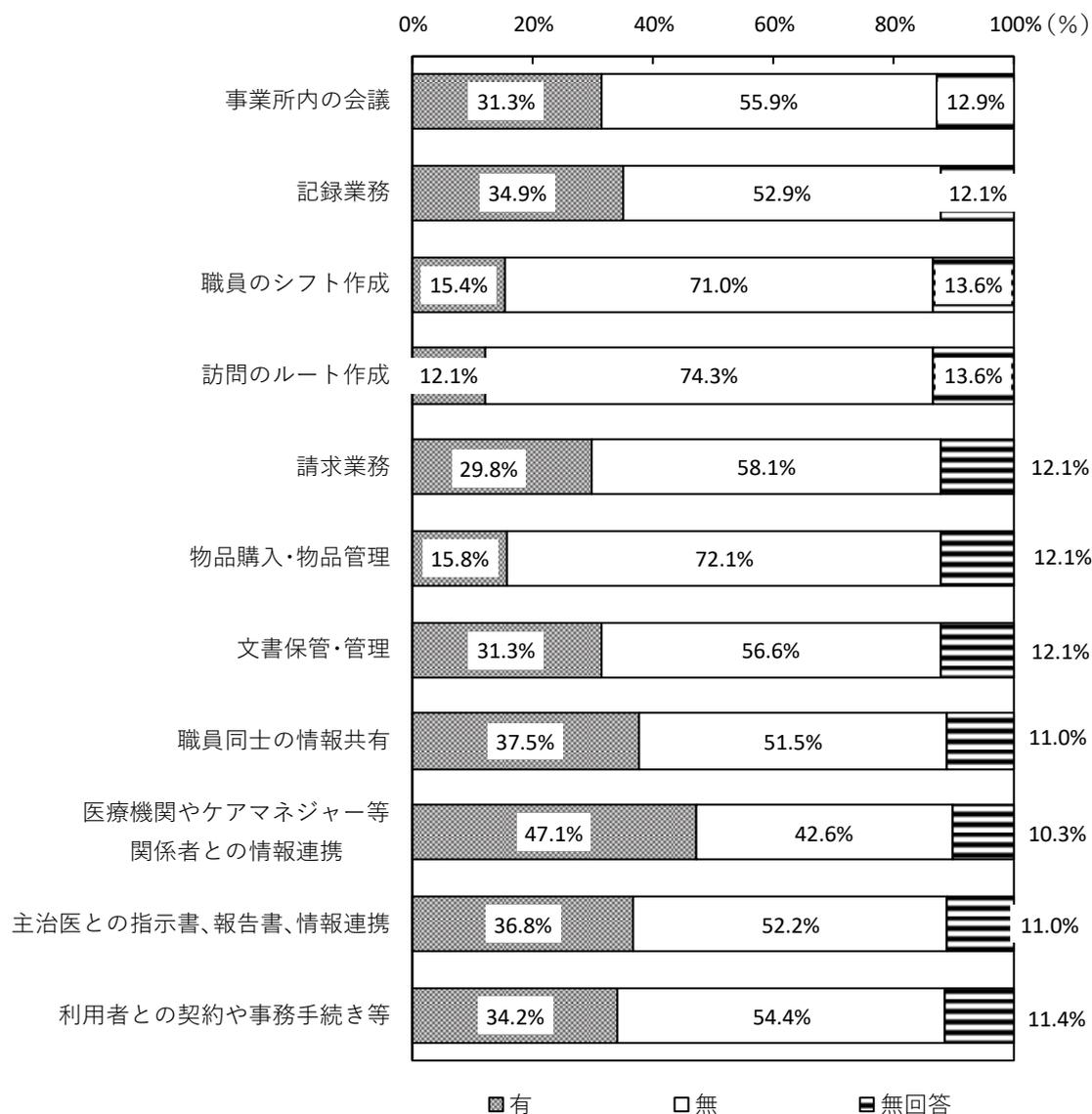
図表 3-1-112 今後改善や効率化したい内容

(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)

・ 訪問看護ステーション



・病院・診療所



他職種への業務移譲できる業務（自由回答）として、記録業務、請求業務、物品購入・物品管理など選択肢の具体的な内容についての回答がみられた。また、ヘルパー、栄養士、薬剤師、PSW、事務職等との業務移譲に関する回答がみられた。

4. 業務の課題や改善

② 改善・効率化方法

改善・効率化方法について、訪問看護ステーションでは、ICT導入で「記録業務」が44.6%、「医療機関やケアマネジャー等関係者との情報連携」が43.3%、「主治医との指示書、報告書、情報連携」が43.3%、他事業所との連携で「医療機関やケアマネジャー等関係者との情報連携」が21.3%だった。病院・診療所では、ICT導入で「記録業務」が23.2%、「医療機関やケアマネジャー等関係者との情報連携」が23.2%、他事業所との連携で「医療機関やケアマネジャー等関係者との情報連携」が23.9%だった。

図表 3-1-113 改善・効率化方法

(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272、複数回答)

・ 訪問看護ステーション

	ICT 導入	他事業所との連携	他職種へ業務委譲
事業所内の会議	19.0%	15.1%	4.2%
記録業務	44.6%	8.3%	3.7%
職員のシフト作成	25.1%	2.1%	3.4%
訪問のルート作成	20.4%	2.56%	2.8%
請求業務	26.4%	2.6%	18.4%
物品購入・物品管理	11.9%	3.7%	14.3%
文書保管・管理	30.4%	3.0%	14.8%
職員同士の情報共有	40.9%	9.2%	2.2%
医療機関やケアマネジャー等関係者との情報連携	43.3%	21.3%	4.2%
主治医との指示書、報告書、情報連携	43.3%	13.2%	5.5%
利用者との契約や事務手続き等	19.2%	4.4%	14.6%

・ 病院・診療所

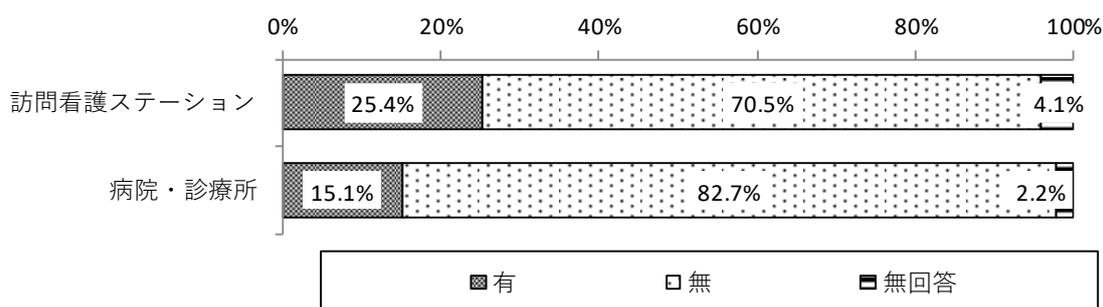
	ICT 導入	他事業所との連携	他職種へ業務委譲
事業所内の会議	9.2%	20.6%	2.6%
記録業務	23.2%	8.8%	1.8%
職員のシフト作成	8.1%	3.7%	1.8%
訪問のルート作成	7.7%	2.2%	0.4%
請求業務	13.6%	2.2%	11.8%
物品購入・物品管理	5.9%	2.2%	5.9%
文書保管・管理	16.9%	5.5%	8.1%
職員同士の情報共有	20.6%	13.6%	3.3%
医療機関やケアマネジャー等関係者との情報連携	23.2%	23.9%	4.8%
主治医との指示書、報告書、情報連携	17.6%	17.3%	5.1%
利用者との契約や事務手続き等	11.0%	10.7%	11.8%

5. 地域での取組み等

① 利用者宅に集まる緊急時カンファレンスへの参加

利用者宅に集まる緊急時カンファレンスへの参加について、訪問看護ステーションでは「有」が25.4%、病院・診療所では「有」が15.1%であった。

図表 3-1-114 利用者宅に集まり緊急時カンファレンスへの参加の有無
(訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272)



② 緊急時カンファレンスへの参加回数

カンファレンスに参加している事業所を対象に、利用者宅に集まる緊急時カンファレンスへの参加回数について、訪問看護ステーションでは平均は3.0回、中央値は2.0回、病院・診療所では平均は2.3回、中央値は2.0回であった。

図表 3-1-115 利用者宅に集まり緊急時カンファレンスへの参加回数

単位：回

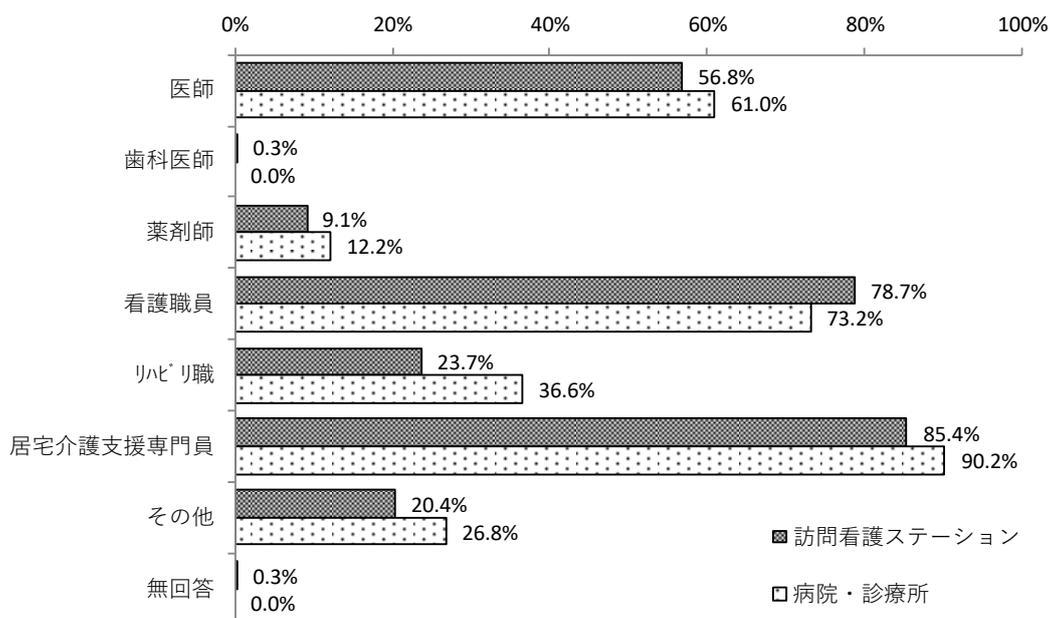
	回答数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	290	3.0	4.4	2.0
病院・診療所	36	2.3	1.6	2.0

5. 地域での取組み等

主に利用者宅に集まる職種について、訪問看護ステーションでは「居宅介護支援専門員」が85.4%、「看護職員」が78.7%、「医師」が56.8%、病院・診療所では「居宅介護支援専門員」が90.2%、「看護職員」が73.2%、「医師」が61.0%であった。

図表 3-1-116 主に利用者宅に集まる職種

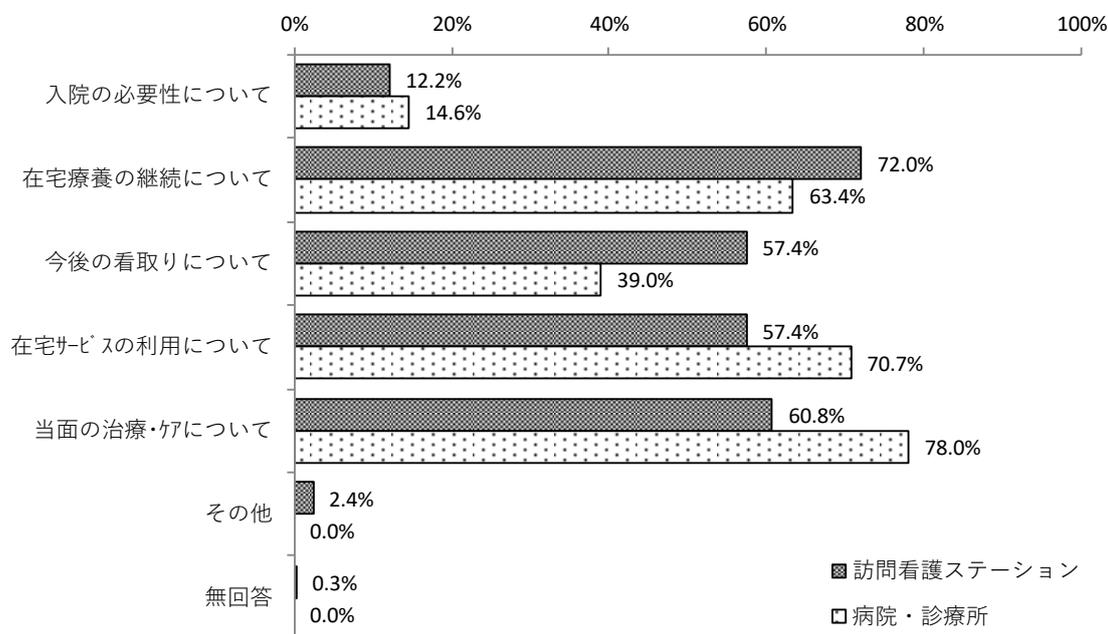
(訪問看護ステーションの回答数=329、病院・診療所の回答数=41、主な職種2つまで)



③ カンファレンスで決めている方針

カンファレンスを行いどのような内容について方針を決めているかについて、訪問看護ステーションでは、「在宅療養の継続について」が72.0%、「当面の治療・ケアについて」が60.8%、「今後の看取りについて」が57.4%、「在宅サービスの利用について」が57.4%、病院・診療所では「当面の治療・ケアについて」が78.0%、「在宅サービスの利用について」が70.7%、「在宅療養の継続について」が63.4%であった。

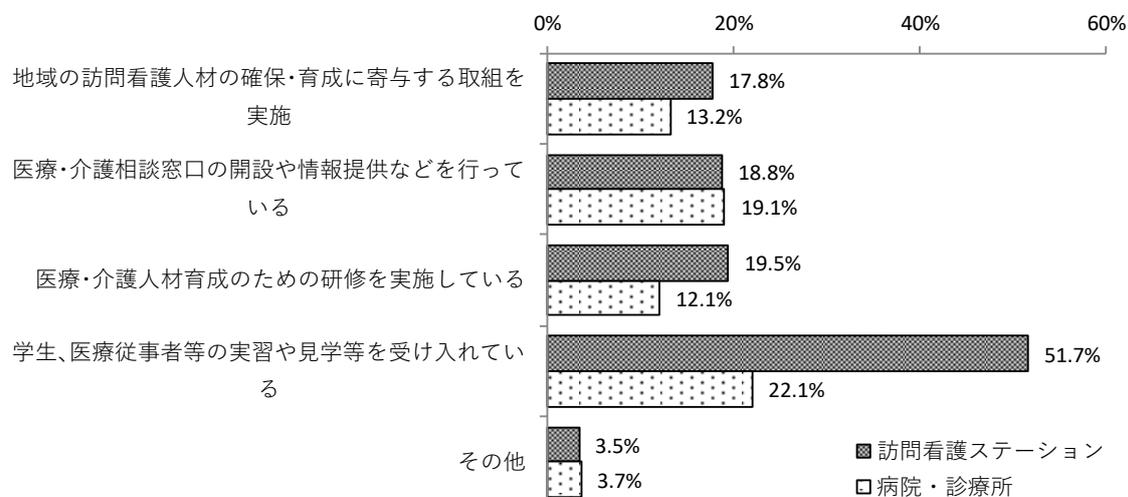
図表 3-1-117 カンファレンスを行いどのような内容について方針を決めているか
(訪問看護ステーションの回答数=329、病院・診療所の回答数=41、複数回答)



④ 過去1年以内に実施したこと

過去1年以内に実施したことについて、訪問看護ステーションでは「学生、医療従事者等の実習や見学等を受け入れている」が51.7%、病院・診療所では「学生、医療従事者等の実習や見学等を受け入れている」が22.1%だった。

図表 3-1-118 過去1年以内に実施したこと
 (訪問看護ステーションの回答数=1,297、病院・診療所の回答数=272、複数回答)

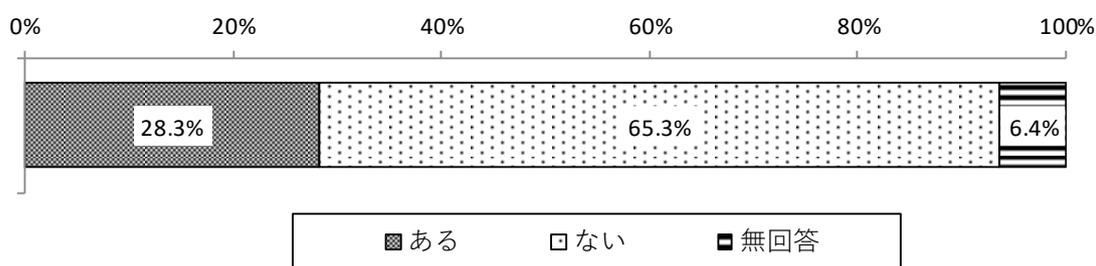


⑤ 災害対策について

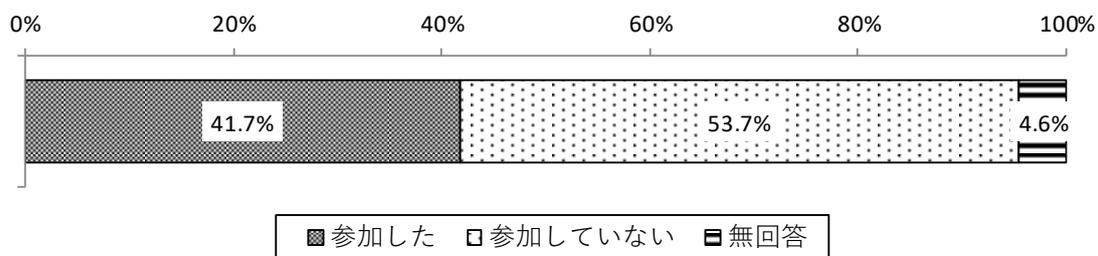
必要な対応策等を取り決めた防災・業務継続計画について、訪問看護ステーションでは「ある」が28.3%であった。

過去1年に地域の防災会議や防災訓練に参加したかについて、訪問看護ステーションでは「参加した」が41.7%であった。

図表 3-1-119 【訪問看護ステーション】必要な対応策等を取り決めた防災・業務継続計画
(回答数=1,297)



図表 3-1-120 【訪問看護ステーション】過去1年に地域の防災会議や防災訓練に参加したか
(回答数=1,297)

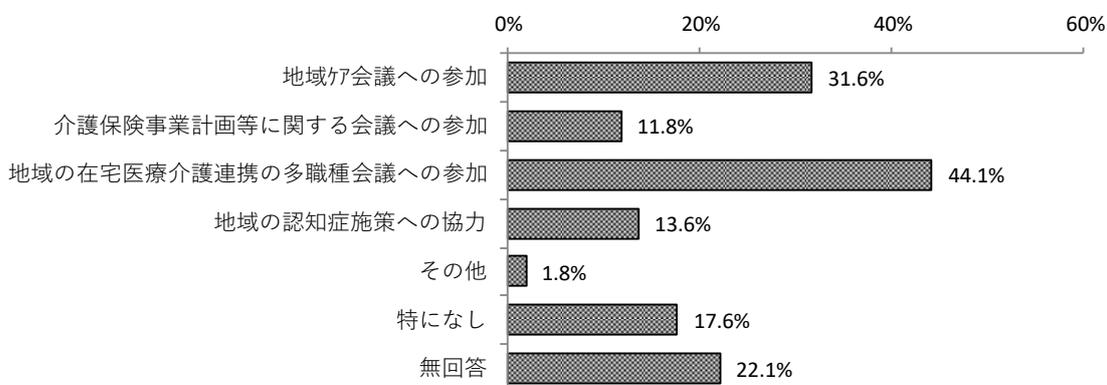


⑥ 自治体への協力または会議への参加について、過去1年以内に実施したこと

自治体への協力または会議への参加について、過去1年以内に実施したことについて、病院・診療所では、「地域の在宅医療介護連携の多職種会議への参加」が44.1%、「地域ケア会議への参加」が31.6%であった。

地域ケア会議への参加している病院・診療所について、参加回数は平均で4.6回、中央値で2.0回だった。

図表 3-1-121 【病院・診療所】自治体への協力または会議への参加について、過去1年以内に実施したこと（回答数=272、複数回答）



図表 3-1-122 【病院・診療所】地域ケア会議への参加回数（回答数=272）

単位：回

	回答数	平均	標準偏差	中央値
参加回数	79	4.6	6.3	2.0

6. 自由回答

(1) 訪問看護事業所を運営する上で負担になっている基準や仕組み

訪問看護事業所を運営する上で負担になっている基準や仕組みとしては主に以下のような、「人員基準・24時間対応等」「保険の請求・加算の複雑さ、記録、文書の作成・の保管等」「職種、事業所との連携」「駐車場の確保」などが挙げられた。

【主な回答内容】

(人員基準・24時間対応等)
人員基準
看護師が2.5以上であること。
看護職員常勤換算2.5。・ステーション開設にあたっては、法人格を有すること。
少人数で24時間対応体制を続けるのが負担。夜間に連携会を開催される事が多く、体力的に負担あり。
常勤換算の維持・労務管理・人材維持
24時間対応を行っているが、看護スタッフは小人数のため、訪問回数が増えると負担となる
24時間対応
(2つの保険制度の請求・加算等の複雑さや、記録、文書の作成・保管等)
医療保険と介護保険、2つの保険制度を利用するため、事務作業が複雑。
医療保険と違い介護保険は書類や看護計画書の記録が細かい。
記録物や訪問以外の業務の負担が多いこと。
毎月の看護計画や報告書が大きな負担になっている。月1回や4回の訪問で毎回の看護計画が負担。
紙がどんどん増えてしまうため、必要などきだけ印刷すればよいとしてほしい。
文書の保管(データ保管にしたい)
保険の改正での書類の変更や説明受領までが大変。
請求業務がわかりづらい。
いろんな加算や制度が、次々にできるが、どう活用できるのか、わかりにくいため対応できていない。
(他職種、事業所との連携)
主治医や他職種との連携に時間を要している。ICTの導入を検討しているが、費用の問題で導入できていない。
訪問看護指示書を医師がコンスタントに提供しなかったり、指示書の発行に時間がかかる(特に大きな病院)。指示書の郵送料がはまだ、事業所負担であったり、病院や医療機関に取りに行く手間がある。
介護保険ではケアプランにより必要なケアを必要な量だけ提供できないケースがある。
(駐車場の確保)
車で訪問するが多いが、駐車場の確保や、駐車料金が事業所負担であること。
駐車禁止の基準、本市ではそもそも許可書が全くでない。
訪問車が、緊急時等に駐車するスペースがないこと

(2) 訪問看護の仕組みや報酬で改善してほしいこと

訪問看護の仕組みや報酬で改善してほしいこととしては主に以下の点が挙げられた。回答が比較的多かったのは、サービス担当者会議へ参加に報酬つけてほしい、退院日の訪問を対象者の制限なく行いたい、緊急訪問について1回目から算定してほしい、看護体制強化加算の算定条件が厳しい／等であった。

また、病院・診療所からはみなし訪問で単価が安かったり、算定できない加算があるがステーションと同じにしてほしい、という回答があった。

【主な回答内容】

サービス担当者会議への参加も報酬としてつけてもらいたい。
退院日の訪問に特別管理などの条件をなくしてほしい。
どの利用者に対しても退院日に訪問ができるようにしてほしい。
(複数の訪看事業所が入っている場合) 緊急時訪問看護加算を、算定する事業所は双方の話し合いで決めるのではなく、基準を明確化して欲しい。
夜間の緊急対応時に女性一人での訪問は道中もふくめ不安感が大きいです。2人で訪問できる報酬にしてもらいたいです。
訪問看護は介護と医療の報酬がありとても複雑です。医療に1本化してほしいです。
受診へのつきそいを報酬とみとめてほしい。
“特別の関係”で算定できないものがあるが、同じ手間をかけているので算定できるようにしてほしい。
夜、朝、深夜加算は1回目から算定できるようにしてほしい。
1日目の緊急対応から報酬が欲しい。
看取りの利用者であって家族の介護力不足のため、深夜・早朝に訪問することがあるが、深夜・早朝加算が各1回ずつしか算定できないこと。
緊急は、1回目からつけてもらいたい。夜・朝は、1回/月だが、早朝や夕方コールがある時があるので、加算のとり方を緩和してもらいたい。
早朝・夜間・深夜の加算は1回目から算定可能にしてほしい。
24時間連絡体制加算について再検討してほしい。
30分(I2)の設定があるが、45分の訪問時間があるといいと思います。(30分では療養相談には短く、60分では長いため)。
グループホームへの訪問看護は、医療保険で訪問できる利用者にも制限があり、必要な回数を入れることができない。
スタッフは日中の勤務をしながら、夜間の待機も行っている病棟のスタッフと違い、労働条件が悪すぎる。夜間の報酬を上げてほしい。
ターミナルケア加算について、前日、午前中に訪問看護を行い、入院し、24時間以上は経過してしまいましたが、次の日の夜に亡くなられた場合。24時間の幅を広げて頂きたい。
介護保険も休日加算の設定ができるようにしてほしい。
レスパイト入院日に訪問看護費(基本療養費)を算定できない。
別表7-8の利用者に対して、同一日に2事業の看護ステーションは算定できない。
医療機関と同様に情報提供を間接的でなく、直接報酬にしてほしい。
特別訪問看護指示書の拡大(適応を増やす)。

グリーフケアの加算
介護保険でターミナルケア加算を算定できるケースは極めて稀であり、看護体制強化加算を取得しづらい。体制強化加費の算定において、特別管理加算の算定割合が30%は到底不可能。当事業所のように、医療利用者が多い場合、看取りも多く、重度者のケアに積極的に取り組んでいるが、評価されていない感がある。
看護体制強化加算の介護保険でのターミナルケア加算の算定人数（医療保険に切りかわる方が多い）。
看護体制強化加算はリハビリのみ利用者が多いと基準に満たない。（看護師の訪問基準にしてほしい。）
介護保険でのサービス提供で、ケアマネから看護内容の指示や看取りに向けた意向変更を誘導されたりすることがある。
医療と介護の連携推進以前に看々連携に評価をつけると共に、訪問看護は、医療保険に一本化してもらいたい。
介護保険と医療保険で、単価や算定要件が異なること。
介護保険について地域の金額が違うため統一してほしい。
医療保険と違い介護保険は安いので依頼を受けるのに抵抗がある。
介護保険の利用者の夜間（1回めから）休日加算。
介護保険の臨時訪問時の早朝・夜間・深夜加算の算定の方法（18時以降2回目から）は複雑で、実績の算定が難しい。
看護サマリーを施設、病院へ提供した際に報酬がほしい。利用者の継続看護、安心して治療を受けられる情報等、医療・介護の保険に関らず必要と判断し作成している。
癌末期の方が退院日や翌日に死亡された場合に何も精求できないこと。
・介護保険で介入している方で慢性疾患を抱え急に在宅で看取りをしてもターミナル加算に結びつかないこと。
介護保険利用者でも重症度の高い人は、カンファレンス加算を、つけてもらいたい。
長時間加算は、特別管理のない方でも付けてもらいたい。
災害時、近隣の訪問看護ステーション同士で、利用者情報の共有ができる仕組みの構築。（個人情報取り扱いも含め）
・初回加算、退院時共同指導加算限度額外にしてほしい。
訪問看護認定看護師に対する算定があるとよい
退院時共同指導加算：入院施設の主治医やその他の職員と連携していいと文言はありますが病院に行ってカンファレンスをする時に主治医が忙しくて来れなかった時は、加算がとれないことがあるので主治医又はその関わっている職員とかにしてほしいです。遠方の病院へいってのカンファレンスは大変です。
退院前カンファレンス（共同指導）退院日カンファレンスを全ての利用者が利用できるようにしてほしい。
休日訪問の自費請求ができるようにしてほしいです。
要支援と介護の差をなくしてほしい。
介護保険サービス同士の時間が重なってはいけないこと。緊急で訪問する時、ヘルパーや他のサービスの時間をぬって行くと遅くなることもあり、ヘルパーと看護は業務が重ならなければ同一時間に入っても良いとして欲しい。
指示書の発行毎に計画書のサインを家族にもらうこと。毎月、同じ内容の指示でも必要なため。本人署名できず遠方の家族に伝えたり、又利用者も書類が増えることを嫌がります。

6. 自由回答

介護保険で理学療法士と言語聴覚士が同日に入ると減算で単価×0.9での計算となるがそれぞれ独立のサービスとして認めてほしい。

リハビリの看護師のアセスメント訪問の期間を長くしてほしい。

リハビリ職の報酬が低い点

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の加算の充実

第2節 訪問看護 利用者調査票

1. 対象者の抽出理由

訪問看護利用者調査票は、訪問看護ステーションでは、2,610件回収できた。

対象者の抽出理由別には、「要介護者として、無作為抽出で対象となった」が1,534件、「要支援者として、抽出の対象となった」が361件、「H31.9中に亡くなったため、対象となった」が715件であった。

病院・診療所では、610件回収できた。

対象者の抽出理由別には、「要介護者として、無作為抽出で対象となった」が441件、「要支援者として、抽出の対象となった」が82件、「H31.8～9中に亡くなったため、対象となった」が87件であった。

図表 3-2-1 対象者の抽出理由

	回答利用者数	要介護者として、無作為抽出で対象となった	要支援者として、抽出の対象となった	H31.9中に亡くなったため、対象となった
訪問看護ステーション	2,610 100.0%	1,534 58.8%	361 13.8%	715 27.4%

	回答利用者数	要介護者として、無作為抽出で対象となった	要支援者として、抽出の対象となった	H31.8～9中に亡くなったため、対象となった
病院・診療所	610 100.0%	441 72.3%	82 13.4%	87 14.3%

2. 要介護者

2. 要介護者

ここでは、訪問看護ステーションで1,534件、病院・診療所で441件の要介護者についての集計結果を報告する。

(1) 利用者の基本情報

① 年齢

年齢について、訪問看護ステーションでは、「85～94歳」が40.6%、「75～84歳」が32.6%、「65～74歳」が14.3%であった。

病院・診療所では、「85～94歳」が46.0%、「75～84歳」が28.1%、「95歳以上」が12.5%であった。

図表 3-2-2 年齢

	回答利用者数	40～64歳	65～74歳	75～84歳	85～94歳	95歳以上	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	75 4.9%	220 14.3%	500 32.6%	623 40.6%	109 7.1%	7 0.5%
病院・診療所	441 100.0%	12 2.7%	42 9.5%	124 28.1%	203 46.0%	55 12.5%	5 1.1%

② 住まい

住まいについて、訪問看護ステーションでは、「本人の家」が85.3%、「居住系サービス」が13.4%であった。

病院・診療所では、「本人の家」が77.1%、「居住系サービス」が21.8%であった。

図表 3-2-3 住まい

	回答利用者数	本人の家	居住系サービス	その他	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	1,309 85.3%	206 13.4%	4 0.3%	15 1.0%
病院・診療所	441 100.0%	340 77.1%	96 21.8%	1 0.2%	4 0.9%

③ 世帯構成

世帯構成について、訪問看護ステーションでは、「独居」が28.8%、「夫婦のみ世帯(配偶者が65歳以上)」が22.6%、「配偶者はおらず、同居者あり(同居者のいずれか又は全員が65歳未満)」が16.2%であった。

病院・診療所では、「独居」が34.5%、「夫婦のみ世帯(配偶者が65歳以上)」が22.2%、「配偶者はおらず、同居者あり(同居者のいずれか又は全員が65歳未満)」が15.0%であった。

図表 3-2-4 世帯構成

	回答利用者数	独居	夫婦のみ世帯(配偶者が65歳以上)	夫婦のみ世帯(配偶者が65歳未満)	配偶者の他に同居者あり(配偶者・同居者全員が65歳以上)	配偶者の他に同居者あり(配偶者、同居者のいずれか又は全員が65歳未満)	配偶者はおらず、同居者あり(同居者は全員65歳以上)
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	442 28.8%	347 22.6%	44 2.9%	31 2.0%	231 15.1%	142 9.3%
病院・診療所	441 100.0%	152 34.5%	98 22.2%	2 0.5%	14 3.2%	57 12.9%	46 10.4%

	回答利用者数	配偶者はおらず、同居者あり(同居者のいずれか又は全員が65歳未満)	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	249 16.2%	48 3.1%
病院・診療所	441 100.0%	66 15.0%	6 1.4%

2. 要介護者

④ 日中の状態

日中の状態について、訪問看護ステーションでは、「日中独居ではない」が 60.7%、「日中独居」が 37.3%であった。

病院・診療所では、「日中独居ではない」が 58.3%、「日中独居」が 39.7%であった。

図表 3-2-5 日中の状態

	回答利用者数	日中独居	日中独居ではない	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	572 37.3%	931 60.7%	31 2.0%
病院・診療所	441 100.0%	175 39.7%	257 58.3%	9 2.0%

⑤ 介護力

介護力について、訪問看護ステーションでは、「常時、介護できる人がいる」が 42.3%、「時間帯によって介護できる人がいる」が 36.6%、「介護できる人はいない」が 17.9%であった。

病院・診療所では、「常時、介護できる人がいる」が 47.4%、「時間帯によって介護できる人がいる」が 29.9%、「介護できる人はいない」が 19.7%であった。

図表 3-2-6 介護力

	回答利用者数	介護できる人はいない	時間帯によって介護できる人がいる	常時、介護できる人がいる	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	274 17.9%	562 36.6%	649 42.3%	49 3.2%
病院・診療所	441 100.0%	87 19.7%	132 29.9%	209 47.4%	13 2.9%

⑥ 訪問看護の利用開始時期

訪問看護の利用開始時期について、訪問看護ステーションでは、「2年以上前」が40.0%、「1年以上2年以内」が21.8%であった。病院・診療所では、「2年以上前」が39.2%、「1年以上2年以内」が20.6%であった。

図表 3-2-7 訪問看護の利用開始時期

(10月1日時点)

	回答利用者数	3か月以内	3か月以上6か月以内	6か月以上1年以内	1年以上2年以内	2年以上前	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	154 10.0%	163 10.6%	231 15.1%	334 21.8%	614 40.0%	38 2.5%
病院・診療所	441 100.0%	46 10.4%	46 10.4%	79 17.9%	91 20.6%	173 39.2%	6 1.4%

⑦ 訪問看護利用開始前の入院・入所状況

訪問看護利用開始前の入院・入所の有無について、訪問看護ステーションでは、「なし」が50.1%、「病院・有床診療所」が38.2%であった。

病院・診療所では、「なし」が44.9%、「病院・有床診療所」が41.5%であった。

図表 3-2-8 訪問看護利用開始前の入院・入所の有無

	回答利用者数	病院・有床診療所	介護老人保健施設・介護医療院	その他	なし	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	586 38.2%	37 2.4%	99 6.5%	768 50.1%	44 2.9%
病院・診療所	441 100.0%	183 41.5%	21 4.8%	32 7.3%	198 44.9%	7 1.6%

2. 要介護者

⑧ 他の介護保険サービス利用実績

他の介護保険サービス利用実績について、訪問看護ステーションでは、「福祉用具貸与」が55.2%、「訪問介護」が43.9%、「通所介護」が40.5%であった。

病院・診療所では、「福祉用具貸与」が58.3%、「訪問介護」が46.5%、「通所介護」が39.2%であった。

図表 3-2-9 他の介護保険サービス利用実績（複数回答）

(9月の実績)

	回答利用者数	訪問介護	訪問入浴介護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	673 43.9%	156 10.2%	226 14.7%	622 40.5%	202 13.2%	125 8.1%
病院・診療所	441 100.0%	205 46.5%	50 11.3%	79 17.9%	173 39.2%	84 19.0%	27 6.1%

	回答利用者数	短期入所療養介護	福祉用具貸与	その他	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	27 1.8%	847 55.2%	33 2.2%	141 9.2%
病院・診療所	441 100.0%	10 2.3%	257 58.3%	30 6.8%	32 7.3%

⑨ 受診状況

受診状況について、訪問看護ステーションでは、「外来受診した」が54.0%、「訪問診療・往診を受けた」が40.0%、「いずれもなし」が3.9%であった。

病院・診療所では、「訪問診療・往診を受けた」が54.6%、「外来受診した」が41.3%、「いずれもなし」が4.1%であった。

図表 3-2-10 受診状況

	回答利用者数	訪問診療・往診を受けた	外来受診した	いずれもなし	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	614 40.0%	828 54.0%	60 3.9%	45 2.9%
病院・診療所	441 100.0%	241 54.6%	182 41.3%	18 4.1%	6 1.4%

⑩ 直近の要介護度

直近の要介護度について、訪問看護ステーションでは、「要介護 1」が 23.9%、「要介護 2」が 23.8%、「要介護 5」が 18.6%であった。

病院・診療所では、「要介護 1」が 24.0%、「要介護 2」が 21.5%、「要介護 5」が 20.6%であった。

図表 3-2-11 直近の要介護度

	回答利用者数	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	366 23.9%	365 23.8%	240 15.6%	255 16.6%	286 18.6%	22 1.4%
病院・診療所	441 100.0%	106 24.0%	95 21.5%	69 15.6%	74 16.8%	91 20.6%	6 1.4%

⑪ 利用開始時の要介護度

利用開始時の要介護度について、訪問看護ステーションでは、「要介護 1」が 23.7%、「要介護 2」が 20.9%、「要介護 4」が 15.6%、「要介護 3」が 14.1%であった。

病院・診療所では、「要介護 1」が 23.4%、「要介護 2」が 22.0%、「要介護 4」が 16.8%、「要介護 3」が 15.9%であった。

図表 3-2-12 利用開始時の要介護度

	回答利用者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	49 3.2%	83 5.4%	363 23.7%	321 20.9%	217 14.1%	239 15.6%	215 14.0%	47 3.1%
病院・診療所	441 100.0%	14 3.2%	24 5.4%	103 23.4%	97 22.0%	70 15.9%	74 16.8%	50 11.3%	9 2.0%

2. 要介護者

⑫ 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度について、訪問看護ステーションでは、「I」が20.0%、「II b」が17.5%、「自立」が15.8%であった。

病院・診療所では、「II b」が22.2%、「II a」が16.6%、「I」が13.4%であった。

図表 3-2-13 認知症高齢者の日常生活自立度

	回答利用者数	自立	I	II a	II b	III a	III b
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	243 15.8%	307 20.0%	222 14.5%	268 17.5%	185 12.1%	69 4.5%
病院・診療所	441 100.0%	58 13.2%	59 13.4%	73 16.6%	98 22.2%	57 12.9%	26 5.9%

	回答利用者数	IV	M	不明	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	131 8.5%	25 1.6%	34 2.2%	50 3.3%
病院・診療所	441 100.0%	45 10.2%	8 1.8%	8 1.8%	9 2.0%

⑬ 日常生活自立度

日常生活自立度について、訪問看護ステーションでは、「A 2」が19.2%、「A 1」が15.6%、「B 1」が13.3%であった。

病院・診療所では、「A 2」が17.5%、「B 2」が15.9%、「C 2」が13.8%であった。

図表 3-2-14 日常生活自立度

	回答利用者数	自立	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	47 3.1%	88 5.7%	139 9.1%	239 15.6%	295 19.2%	204 13.3%
病院・診療所	441 100.0%	13 2.9%	20 4.5%	41 9.3%	60 13.6%	77 17.5%	55 12.5%

	回答利用者数	B 2	C 1	C 2	不明	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	198 12.9%	102 6.6%	161 10.5%	18 1.2%	43 2.8%
病院・診療所	441 100.0%	70 15.9%	32 7.3%	61 13.8%	1 0.2%	11 2.5%

⑭ ADL の状況

訪問看護ステーションでは、入浴で「一部介助」が45.0%、「全面介助」が35.9%、着替で「一部介助」が34.9%、「全面介助」が26.9%であった。病院・診療所では入浴で「一部介助」が41.3%、「全面介助」が45.1%、着替で「一部介助」が35.4%、「全面介助」が33.1%であった。

図表 3-2-15 【訪問看護ステーション】ADL の状況

	回答利用者数	自立	一部介助	全面介助	その他	無回答
移動	1,534 100.0%	499 32.5%	598 39.0%	393 25.6%	8 0.5%	36 2.3%
食事	441 100.0%	785 51.2%	489 31.9%	209 13.6%	13 0.8%	38 2.5%
排泄	1,534 100.0%	699 45.6%	397 25.9%	395 25.7%	6 0.4%	37 2.4%
入浴	441 100.0%	232 15.1%	690 45.0%	551 35.9%	20 1.3%	41 2.7%
着替	1,534 100.0%	547 35.7%	536 34.9%	412 26.9%	2 0.1%	37 2.4%
整容	441 100.0%	637 41.5%	484 31.6%	368 24.0%	3 0.2%	42 2.7%
意思疎通	1,534 100.0%	949 61.9%	401 26.1%	104 6.8%	38 2.5%	42 2.7%

図表 3-2-16 【病院・診療所】ADL の状況

	回答利用者数	自立	一部介助	全面介助	その他	無回答
移動	441 100.0%	125 28.3%	167 37.9%	139 31.5%	3 0.7%	7 1.6%
食事	441 100.0%	228 51.7%	132 29.9%	72 16.3%	5 1.1%	4 0.9%
排泄	441 100.0%	179 40.6%	108 24.5%	145 32.9%	4 0.9%	5 1.1%
入浴	441 100.0%	51 11.6%	182 41.3%	199 45.1%	4 0.9%	5 1.1%
着替	441 100.0%	134 30.4%	156 35.4%	146 33.1%	0 0.0%	5 1.1%
整容	441 100.0%	155 35.1%	139 31.5%	142 32.2%	0 0.0%	5 1.1%
意思疎通	441 100.0%	260 59.0%	122 27.7%	43 9.8%	8 1.8%	8 1.8%

2. 要介護者

⑮ 在宅療養を続けている原因の病名

在宅療養を続けている原因の病名について、訪問看護ステーションでは、「高血圧」が35.5%、「認知症」が28.3%、「脳卒中」が26.1%であった。

病院・診療所では、「高血圧」が45.6%、「認知症」が35.4%、「心臓病」が32.4%であった。

図表 3-2-17 在宅療養を続けている原因の病名(複数回答)

	回答利用者数	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	545 35.5%	400 26.1%	337 22.0%	291 19.0%	108 7.0%	168 11.0%	114 7.4%	194 12.6%
病院・診療所	441 100.0%	201 45.6%	108 24.5%	143 32.4%	101 22.9%	51 11.6%	60 13.6%	43 9.8%	70 15.9%

	回答利用者数	筋骨格の病気	骨折	末期がん	末期がん以外のがん	血液・免疫の病気	精神疾患	神経難病	認知症
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	236 15.4%	125 8.1%	31 2.0%	128 8.3%	37 2.4%	97 6.3%	47 3.1%	434 28.3%
病院・診療所	441 100.0%	96 21.8%	42 9.5%	3 0.7%	25 5.7%	7 1.6%	23 5.2%	7 1.6%	156 35.4%

	回答利用者数	パーキンソン病	その他	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	61 4.0%	369 24.1%	13 0.8%
病院・診療所	441 100.0%	19 4.3%	101 22.9%	3 0.7%

⑩ 在宅療養を続けている原因の病名（主傷病）

在宅療養を続けている原因の病名（主傷病）について、訪問看護ステーションでは、「脳卒中」が15.9%、「認知症」が11.8%、「心臓病」が7.6%であった。

病院・診療所では、「認知症」が14.3%、「心臓病」が13.2%、「脳卒中」が12.0%であった。

図表 3-2-18 在宅療養を続けている原因の病名（主傷病）

	回答利用者数	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	80 5.2%	244 15.9%	116 7.6%	63 4.1%	4 0.3%	68 4.4%	26 1.7%	50 3.3%
病院・診療所	441 100.0%	36 8.2%	53 12.0%	58 13.2%	25 5.7%	1 0.2%	21 4.8%	10 2.3%	21 4.8%

	回答利用者数	筋骨格の病気	骨折	末期がん	末期がん以外のがん	血液・免疫の病気	精神疾患	神経難病	認知症
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	61 4.0%	36 2.3%	28 1.8%	60 3.9%	16 1.0%	27 1.8%	34 2.2%	181 11.8%
病院・診療所	441 100.0%	14 3.2%	4 0.9%	3 0.7%	12 2.7%	4 0.9%	3 0.7%	5 1.1%	63 14.3%

	回答利用者数	パーキンソン病	その他	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	43 2.8%	132 8.6%	265 17.3%
病院・診療所	441 100.0%	9 2.0%	25 5.7%	74 16.8%

2. 要介護者

⑰ 利用者の状態

利用者の状態について、訪問看護ステーションでは、「服薬援助」が 35.5%、「心理的支援」が 25.7%、「精神症状の観察」が 16.9%であった。

病院・診療所では、「服薬援助」が 47.6%、「心理的支援」が 26.8%、「浣腸・摘便」が 16.6%であった。

図表 3-2-19 利用者の状態（複数回答）

	回答利用者数	点滴の管理	中心静脈栄養	透析	stomach の処置	酸素療法	人工呼吸器	気管切開の処置	疼痛の管理
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	49 3.2%	5 0.3%	31 2.0%	47 3.1%	94 6.1%	20 1.3%	20 1.3%	116 7.6%
病院・診療所	441 100.0%	19 4.3%	3 0.7%	15 3.4%	14 3.2%	30 6.8%	3 0.7%	5 1.1%	47 10.7%

	回答利用者数	経鼻経管栄養・管理	胃ろう・腸ろうからの栄養・管理	持続モニター測定	褥瘡の処置	カテーテル	常時頻回の喀痰吸引	創傷処置	浣腸・摘便
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	9 0.6%	86 5.6%	1 0.1%	105 6.8%	124 8.1%	35 2.3%	105 6.8%	244 15.9%
病院・診療所	441 100.0%	1 0.2%	24 5.4%	3 0.7%	40 9.1%	38 8.6%	13 2.9%	30 6.8%	73 16.6%

	回答利用者数	インスリン注射	導尿	精神症状の観察	心理的支援	服薬援助	いずれもなし	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	59 3.8%	12 0.8%	260 16.9%	395 25.7%	545 35.5%	254 16.6%	96 6.3%
病院・診療所	441 100.0%	21 4.8%	2 0.5%	73 16.6%	118 26.8%	210 47.6%	53 12.0%	14 3.2%

⑱ 利用している薬剤

利用者の使用している薬剤について、訪問看護ステーションでは、「降圧薬」が48.2%、「睡眠薬・抗不安薬」が22.9%であった。

病院・診療所では、「降圧薬」が48.3%、「抗血栓薬」が29.0%であった。

図表 3-2-20 利用している薬剤（複数回答）

	回答利用者数	抗血小板	免疫抑制剤	ステロイド	抗がん剤	抗精神病薬	睡眠薬・抗不安薬	利尿剤	降圧薬
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	19 1.2%	12 0.8%	88 5.7%	19 1.2%	128 8.3%	352 22.9%	304 19.8%	740 48.2%
病院・診療所	441 100.0%	4 0.9%	3 0.7%	21 4.8%	1 0.2%	39 8.8%	114 25.9%	102 23.1%	213 48.3%

	回答利用者数	狭心症治療薬	心不全治療薬	抗血栓薬	抗不整脈薬	輸血	その他	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	139 9.1%	148 9.6%	345 22.5%	63 4.1%	3 0.2%	732 47.7%	136 8.9%
病院・診療所	441 100.0%	46 10.4%	59 13.4%	128 29.0%	26 5.9%	1 0.2%	205 46.5%	25 5.7%

2. 要介護者

⑱ 利用者の症状

利用者の症状について、訪問看護ステーションでは、「便秘」が 32.5%、「疼痛」が 26.3%、「易疲労」が 20.3%であった。

病院・診療所では、「便秘」が 37.0%、「疼痛」が 25.2%、「浮腫」が 23.6%であった。

図表 3-2-21 利用者の症状（複数回答）

	回答利用者数	疼痛	易疲労	混乱	摂食・嚥下障害	食思不振	うつ	不安	脱水
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	404 26.3%	312 20.3%	167 10.9%	210 13.7%	160 10.4%	109 7.1%	275 17.9%	85 5.5%
病院・診療所	441 100.0%	111 25.2%	71 16.1%	37 8.4%	53 12.0%	58 13.2%	38 8.6%	89 20.2%	44 10.0%

	回答利用者数	呼吸苦	不眠	便秘	浮腫	その他	いずれもなし	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	135 8.8%	141 9.2%	499 32.5%	296 19.3%	218 14.2%	138 9.0%	62 4.0%
病院・診療所	441 100.0%	42 9.5%	56 12.7%	163 37.0%	104 23.6%	55 12.5%	35 7.9%	14 3.2%

⑳ 訪問看護指示書の内容

訪問看護指示書の内容について、訪問看護ステーションでは、「療養生活指導」が 68.1%、「リハビリテーション」が 56.8%であった。

病院・診療所では、「療養生活指導」が 70.1%、「リハビリテーション」が 24.0%であった。

図表 3-2-22 訪問看護指示書の内容（複数回答）

	回答利用者数	療養生活指導	リハビリテーション	褥瘡の処置等	装着・使用医療機器等の操作援助・管理	点滴・注射	その他	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	1,045 68.1%	872 56.8%	163 10.6%	218 14.2%	68 4.4%	317 20.7%	38 2.5%
病院・診療所	441 100.0%	309 70.1%	106 24.0%	43 9.8%	46 10.4%	20 4.5%	114 25.9%	61 13.8%

⑪ターミナル期であるかの主治医による訪問看護指示書への記載状況

ターミナル期であるかの主治医による訪問看護指示書への記載の有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が96.0%、「有」が2.0%であった。

病院・診療所では、「無」が91.6%、「有」が2.3%であった。

図表 3-2-23 ターミナル期であるかの主治医による訪問看護指示書への記載の有無

	回答利用者数	有	無	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	31 2.0%	1,472 96.0%	31 2.0%
病院・診療所	441 100.0%	10 2.3%	404 91.6%	27 6.1%

⑫余命の見込みに関する説明状況

余命の見込みに関する説明の有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が94.3%、「有」が2.8%であった。病院・診療所では、「無」が91.4%、「有」が3.9%であった。

図表 3-2-24 余命の見込みに関する説明の有無

	回答利用者数	有	無	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	43 2.8%	1,446 94.3%	45 2.9%
病院・診療所	441 100.0%	17 3.9%	403 91.4%	21 4.8%

2. 要介護者

(2) 訪問看護の提供状況

① 利用している保険

利用している保険について、訪問看護ステーションでは、「介護保険」が92.4%、「医療保険」が9.3%であった。病院・診療所では、「介護保険」が95.5%、「医療保険」が4.8%であった。

図表 3-2-25 利用している保険(複数回答)

	回答利用者数	介護保険	医療保険	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	1,418 92.4%	142 9.3%	11 0.7%
病院・診療所	441 100.0%	421 95.5%	21 4.8%	5 1.1%

② 特別訪問看護指示書の交付状況

9月における特別訪問看護指示書の交付の有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が91.8%、「有」が6.6%であった。病院・診療所では、「無」が87.3%、「有」が8.4%であった。

図表 3-2-26 特別訪問看護指示書の交付の有無

	回答利用者数	有	無	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	101 6.6%	1,408 91.8%	25 1.6%
病院・診療所	441 100.0%	37 8.4%	385 87.3%	19 4.3%

③ 介護保険での看護職員の訪問回数

介護保険での看護職員の訪問回数について、訪問看護ステーションでは、30分以上1時間未満が平均2.3回であった。病院・診療所では、30分未満が平均2.5回であった。

図表 3-2-27 介護保険での看護職員の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

訪問看護ステーション	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
20分未満	1485	0.1	1.1	0.0
30分未満	1485	1.7	4.0	0.0
30分以上1時間未満	1485	2.3	3.6	0.0
1時間以上1時間30分未満	1485	0.2	1.3	0.0

病院・診療所	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
20分未満	428	0.2	2.9	0.0
30分未満	428	2.5	4.2	2.0
30分以上1時間未満	428	1.8	2.9	0.0
1時間以上1時間30分未満	428	0.2	0.9	0.0

④ 介護保険でのリハビリ職員の訪問回数

介護保険でのリハビリ職員の訪問回数について、訪問看護ステーションでは、理学療法士で平均1.2回であった。病院・診療所においても理学療法士で平均2.5回であった。

図表 3-2-28 介護保険でのリハビリ職員の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

訪問看護ステーション	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
理学療法士	1485	1.2	2.7	0.0
作業療法士	1485	0.5	1.8	0.0
言語聴覚士	1485	0.1	0.8	0.0

病院・診療所	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
理学療法士	428	2.5	5.2	0.0
作業療法士	428	1.0	3.4	0.0
言語聴覚士	428	0.2	1.3	0.0

2. 要介護者

⑤ 他の訪問看護事業所の看護職員の訪問状況

他の訪問看護事業所の看護職員の訪問の有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が 90.9%、「有」が 2.5%であった。病院・診療所では、「無」が 90.2%、「有」が 4.1%であった。

図表 3-2-29 他の訪問看護事業所の看護職員の訪問の有無

(9月1か月間の実績)

	回答利用者数	有	無	不明	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	39 2.5%	1,395 90.9%	18 1.2%	82 5.3%
病院・診療所	441 100.0%	18 4.1%	398 90.2%	6 1.4%	19 4.3%

他の訪問看護事業所の看護職員の訪問回数について、訪問看護ステーションでは平均は 5.5 回、中央値は 4.0 回であった。病院・診療所では平均は 4.1 回、中央値は 4.0 回であった。

図表 3-2-30 【病院・診療所】他の訪問看護事業所の看護職員の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	31	5.5	5.4	4.0
病院・診療所	17	4.1	2.9	4.0

⑥ 他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問状況

他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問の有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が90.0%、「有」が3.3%であった。病院・診療所では、「無」が85.3%、「有」が8.8%であった。

図表 3-2-31 他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問の有無

(9月1か月間の実績)

	回答利用者数	有	無	不明	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	51 3.3%	1,381 90.0%	15 1.0%	87 5.7%
病院・診療所	441 100.0%	39 8.8%	376 85.3%	7 1.6%	19 4.3%

他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問回数について、訪問看護ステーションでは平均は5.2回、中央値は4.0回であった。病院・診療所では平均は4.8回、中央値は4.0回であった。

図表 3-2-32 他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	47	5.2	2.2	4.0
病院・診療所	36	4.8	2.1	4.0

2. 要介護者

⑦ 看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問したことの有無（訪問看護ステーションのみ）

看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問したことの有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が90.5%、「有」が4.1%であった。看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問した回数について、平均は1.7回、中央値は1.0回であった。

図表 3-2-33 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問したことの有無

(9月1か月間の実績)

	回答利用者数	有	無	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	63 4.1%	1,389 90.5%	82 5.3%

図表 3-2-34 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問した回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	63	1.7	2.6	1.0

⑧ 医療保険での訪問看護の訪問回数

医療保険での訪問看護の訪問回数について、訪問看護ステーションでは平均は1.4回、中央値は0.0回であった。病院・診療所では平均は0.5回、中央値は0.0回であった。

医療保険での訪問看護の算定回数について、訪問看護ステーションでは平均は1.3回、中央値は0.0回であった。病院・診療所では平均は0.5回、中央値は0.0回であった。

図表 3-2-35 医療保険での訪問看護の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	1485	1.4	7.7	0.0
病院・診療所	428	0.5	3.7	0.0

図表 3-2-36 医療保険での訪問看護の算定回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	1485	1.3	6.8	0.0
病院・診療所	428	0.5	3.0	0.0

⑨ 訪問看護の加算等の状況

訪問看護の加算等の状況について、訪問看護ステーションでは、「緊急時訪問看護加算」が60.4%、「特別管理加算」が21.6%、「初回加算」が16.2%であった。病院・診療所では、「緊急時訪問看護加算」が46.3%、「特別管理加算」が19.0%、「初回加算」が15.0%であった。

図表 3-2-37 訪問看護の加算等の状況(複数回答)

	回答利用者数	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業と連携した訪問看護	緊急時訪問看護加算	特別管理加算	初回加算	退院時共同指導加算	複数名訪問加算	夜間・早朝訪問看護加算	深夜訪問看護加算
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	25 1.6%	926 60.4%	331 21.6%	249 16.2%	57 3.7%	29 1.9%	33 2.2%	27 1.8%
病院・診療所	441 100.0%	32 7.3%	204 46.3%	84 19.0%	66 15.0%	2 0.5%	5 1.1%	1 0.2%	1 0.2%

	回答利用者数	長時間訪問看護加算	看護体制強化加算	看護・介護職員連携強化加算	特別地域訪問看護加算	中山間地域等における小規模事業所加算	中山間地域等に居住する者へのサービス提供加算	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	25 1.6%	146 9.5%	3 0.2%	16 1.0%	2 0.1%	10 0.7%	387 25.2%
病院・診療所	441 100.0%	2 0.5%	41 9.3%	3 0.7%	29 6.6%	35 7.9%	5 1.1%	120 27.2%

⑩ 看護体制強化加算

看護体制強化加算について、訪問看護ステーションでは、「Ⅰ」が52.1%、「Ⅱ」が39.7%であった。病院・診療所では、「Ⅰ」が51.2%、「Ⅱ」が34.1%であった。

図表 3-2-38 看護体制強化加算

	回答利用者数	Ⅰ	Ⅱ	予防	無回答
訪問看護ステーション	146 100.0%	76 52.1%	58 39.7%	0 0.0%	12 8.2%
病院・診療所	41 100.0%	21 51.2%	14 34.1%	0 0.0%	6 14.6%

2. 要介護者

⑪ 訪問看護を利用する目的

訪問看護を利用する目的について、訪問看護ステーションでは、「定期的な療養生活状況の確認」が 80.8%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が 51.8%、「ADL の維持・低下防止」が 47.6%であった。病院・診療所では、「定期的な療養生活状況の確認」が 84.4%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が 47.4%、「服薬管理の向上」が 45.4%であった。

図表 3-2-39 訪問看護を利用する目的(複数回答)

	回答利用者数	医療的なケア	定期的な療養生活状況の確認	今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要	療養環境の調整	運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能の向上	膝痛・腰痛対策
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	528 34.4%	1,240 80.8%	795 51.8%	599 39.0%	557 36.3%	196 12.8%	137 8.9%	251 16.4%
病院・診療所	441 100.0%	166 37.6%	372 84.4%	209 47.4%	150 34.0%	63 14.3%	73 16.6%	31 7.0%	70 15.9%

	回答利用者数	閉じこもり予防・支援	認知機能の低下予防・支援	うつ予防・支援	ADL/IALDLの改善	ADLの維持・低下防止	服薬管理の向上	感染予防	本人が望む生活の実現
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	155 10.1%	389 25.4%	126 8.2%	236 15.4%	730 47.6%	525 34.2%	140 9.1%	204 13.3%
病院・診療所	441 100.0%	41 9.3%	122 27.7%	25 5.7%	26 5.9%	134 30.4%	200 45.4%	59 13.4%	77 17.5%

	回答利用者数	家族の介護負担の軽減	他サービスの調整	その他	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	603 39.3%	177 11.5%	72 4.7%	25 1.6%
病院・診療所	441 100.0%	144 32.7%	27 6.1%	25 5.7%	7 1.6%

⑫ 訪問看護を利用する目的の中で達成できたもの

訪問看護を利用する目的の中で達成できたものについて、訪問看護ステーションでは、「定期的な療養生活状況の確認」が37.9%、「ADLの維持・低下防止」が18.8%、「医療的なケア」が16.3%、「服薬管理の向上」が13.5%であった。病院・診療所では、「定期的な療養生活状況の確認」が45.1%、「医療的なケア」が20.6%、「服薬管理の向上」が20.2%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が15.9%であった。

図表 3-2-40 訪問看護を利用する目的の中で達成できたもの（複数回答）

	回答利用者数	医療的なケア	定期的な療養生活状況の確認	今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要	療養環境の調整	運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能の向上	膝痛・腰痛対策
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	250 16.3%	582 37.9%	197 12.8%	129 8.4%	114 7.4%	39 2.5%	25 1.6%	50 3.3%
病院・診療所	441 100.0%	91 20.6%	199 45.1%	70 15.9%	34 7.7%	9 2.0%	12 2.7%	6 1.4%	14 3.2%

	回答利用者数	閉じこもり予防・支援	認知機能の低下予防・支援	うつ予防・支援	ADL/IA DLの改善	ADLの維持・低下防止	服薬管理の向上	感染予防	本人が望む生活の実現
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	36 2.3%	71 4.6%	26 1.7%	41 2.7%	288 18.8%	207 13.5%	35 2.3%	48 3.1%
病院・診療所	441 100.0%	11 2.5%	20 4.5%	7 1.6%	1 0.2%	43 9.8%	89 20.2%	10 2.3%	21 4.8%

	回答利用者数	家族の介護負担の軽減	他サービスの調整	その他	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	161 10.5%	40 2.6%	40 2.6%	87 5.7%
病院・診療所	441 100.0%	53 12.0%	7 1.6%	13 2.9%	30 6.8%

⑬ 訪問看護を利用する主な目的

訪問看護を利用する目的について、訪問看護ステーションでは、「定期的な療養生活状況の確認」が32.9%、「医療的なケア」が13.8%、「ADLの維持・低下防止」が12.0%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が9.9%であった。病院・診療所では、「定期的な療養生活状況の確認」が33.8%、「医療的なケア」が18.8%、「服薬管理の向上」が13.4%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が12.2%であった。

図表 3-2-41 訪問看護を利用する主な目的

	回答利用者数	医療的なケア	定期的な療養生活状況の確認	今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要	療養環境の調整	運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能の向上	膝痛・腰痛対策
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	212 13.8%	504 32.9%	152 9.9%	9 0.6%	95 6.2%	7 0.5%	4 0.3%	11 0.7%
病院・診療所	441 100.0%	83 18.8%	149 33.8%	54 12.2%	4 0.9%	2 0.5%	5 1.1%	0 0.0%	1 0.2%

	回答利用者数	閉じこもり予防・支援	認知機能の低下予防・支援	うつ予防・支援	ADL/IALDLの改善	ADLの維持・低下防止	服薬管理の向上	感染予防	本人が望む生活の実現
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	8 0.5%	39 2.5%	7 0.5%	24 1.6%	184 12.0%	108 7.0%	8 0.5%	16 1.0%
病院・診療所	441 100.0%	3 0.7%	6 1.4%	2 0.5%	1 0.2%	21 4.8%	59 13.4%	2 0.5%	5 1.1%

	回答利用者数	家族の介護負担の軽減	他サービスの調整	その他	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	36 2.3%	1 0.1%	37 2.4%	72 4.7%
病院・診療所	441 100.0%	7 1.6%	0 0.0%	13 2.9%	24 5.4%

⑭ 訪問看護を利用する目的の中で最も達成できたもの

訪問看護を利用する目的について、訪問看護ステーションでは、「定期的な療養生活状況の確認」が28.4%、「ADLの維持・低下防止」が13.9%、「医療的なケア」が11.9%、「服薬管理の向上」が9.2%であった。病院・診療所では、「定期的な療養生活状況の確認」が31.7%、「医療的なケア」が15.0%、「服薬管理の向上」が14.5%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が7.0%であった。

図表 3-2-42 訪問看護を利用する目的の中で最も達成できたもの

	回答利用者数	医療的なケア	定期的な療養生活状況の確認	今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要	療養環境の調整	運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能の向上	膝痛・腰痛対策
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	182 11.9%	436 28.4%	100 6.5%	35 2.3%	64 4.2%	13 0.8%	7 0.5%	19 1.2%
病院・診療所	441 100.0%	66 15.0%	140 31.7%	31 7.0%	12 2.7%	2 0.5%	3 0.7%	1 0.2%	4 0.9%

	回答利用者数	閉じこもり予防・支援	認知機能の低下予防・支援	うつ予防・支援	ADL/IALの改善	ADLの維持・低下防止	服薬管理の向上	感染予防	本人が望む生活の実現
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	18 1.2%	28 1.8%	15 1.0%	22 1.4%	213 13.9%	141 9.2%	11 0.7%	26 1.7%
病院・診療所	441 100.0%	2 0.5%	6 1.4%	5 1.1%	1 0.2%	26 5.9%	64 14.5%	5 1.1%	7 1.6%

	回答利用者数	家族の介護負担の軽減	他サービスの調整	その他	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	74 4.8%	4 0.3%	36 2.3%	90 5.9%
病院・診療所	441 100.0%	23 5.2%	1 0.2%	12 2.7%	30 6.8%

2. 要介護者

⑮ サービス担当者会議への参加回数

サービス担当者会議への参加回数について、訪問看護ステーションでは平均は1.2回、中央値は1.0回であった。病院・診療所では平均は0.9回、中央値は1.0回であった。

図表 3-2-43 サービス担当者会議への参加回数

(4月～9月の実績) 単位：回

	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	1361	1.2	3.2	1.0
病院・診療所	417	0.9	1.2	1.0

⑩ 事業所において提供したケア

事業所において提供したケアについて、訪問看護ステーションでは、「服薬指導・管理」が64.4%、「医師と連携した服薬調整」が48.1%であった。

病院・診療所では、「排便」と「その他のリハビリテーション」が48.3%であった。

図表 3-2-44 事業所において提供したケア(複数回答)

	回答利用者数	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	輸血	カテーテルの管理	ストーマの管理	喀痰吸引	ネブライザー
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	102 6.6%	29 1.9%	30 2.0%	3 0.2%	156 10.2%	75 4.9%	120 7.8%	25 1.6%
病院・診療所	441 100.0%	31 7.0%	6 1.4%	10 2.3%	2 0.5%	53 12.0%	25 5.7%	44 10.0%	7 1.6%

	回答利用者数	酸素療法	気管切開のケア	人工呼吸器の管理	静脈内注射	皮内、皮下及び筋肉内注射	簡易血糖測定	インスリン注射	疼痛管理(麻薬なし)
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	114 7.4%	38 2.5%	38 2.5%	79 5.1%	42 2.7%	75 4.9%	73 4.8%	163 10.6%
病院・診療所	441 100.0%	35 7.9%	11 2.5%	9 2.0%	36 8.2%	21 4.8%	41 9.3%	26 5.9%	60 13.6%

	回答利用者数	疼痛管理(麻薬使用)	服薬指導・管理	医師と連携した服薬調整	創傷処置	褥瘡処置	褥瘡予防のための介護用品の導入	浣腸	排便
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	15 3.4%	284 64.4%	212 48.1%	79 17.9%	71 16.1%	50 11.3%	70 15.9%	97 22.0%
病院・診療所	441 100.0%	4 0.9%	3 0.7%	21 4.8%	1 0.2%	39 8.8%	114 25.9%	102 23.1%	213 48.3%

2. 要介護者

	回答利用者数	排泄の援助	導尿	口腔ケア	身体機能維持を目的とした付き添いや見守り	経口栄養へ向けたリハビリテーション	呼吸理学療法	四肢の自動運動及び関節可動域維持のリハビリテーション	その他のリハビリテーション
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	109 24.7%	8 1.8%	61 13.8%	69 15.6%	8 1.8%	16 3.6%	101 22.9%	32 7.3%
病院・診療所	441 100.0%	4 0.9%	3 0.7%	21 4.8%	1 0.2%	39 8.8%	114 25.9%	102 23.1%	213 48.3%

	回答利用者数	清拭浴・陰部洗浄	入浴介助	本人の精神的な状態の変化への対応	家族等への認知症の症状に合わせた関わり方の指導	家族等への介護に関する技術的な指導	在宅看取りへ向けた本人・家族との調整	ターミナルケア	睡眠のためのケア
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	411 26.8%	237 15.4%	509 33.2%	301 19.6%	401 26.1%	72 4.7%	46 3.0%	75 4.9%
病院・診療所	441 100.0%	153 34.7%	46 10.4%	131 29.7%	74 16.8%	113 25.6%	28 6.3%	16 3.6%	21 4.8%

	回答利用者数	意欲向上や気分転換を促すケア	外出の支援	本人への療養指導	家屋の改善・療養環境整備の支援	その他	無回答
訪問看護ステーション	1,534 100.0%	449 29.3%	129 8.4%	477 31.1%	258 16.8%	45 2.9%	42 2.7%
病院・診療所	441 100.0%	129 29.3%	19 4.3%	144 32.7%	61 13.8%	22 5.0%	10 2.3%

⑰ (リハビリテーションを実施した場合) 実施した内容

実施したリハビリテーションについて、訪問看護ステーションでは、看護職員で「機能回復訓練」が74.5%、「基本的動作訓練」が64.7%となっており、理学療法士で「機能回復訓練」が96.3%、「基本的動作訓練」が93.9%であった。

病院・診療所では、「基本的動作訓練」が73.3%、「機能回復訓練」が54.5%、「自己訓練練習」が10.9%、「応用的動作訓練」が4.0%であった。

図表 3-2-45 【訪問看護ステーション】実施した内容(複数回答)

	回答利用者数	機能回復訓練	基本的動作訓練	応用的動作訓練	社会適応練習	コミュニケーション訓練	自己訓練練習
看護職員	447 100.0%	333 74.5%	289 64.7%	70 15.7%	29 6.5%	79 17.7%	99 22.1%
理学療法士	376 100.0%	362 96.3%	353 93.9%	193 51.3%	43 11.4%	53 14.1%	163 43.4%
作業療法士	190 100.0%	185 97.4%	166 87.4%	118 62.1%	29 15.3%	28 14.7%	83 43.7%
言語聴覚士	41 100.0%	36 87.8%	9 22.0%	13 31.7%	7 17.1%	24 58.5%	17 41.5%

図表 3-2-46 【病院・診療所】実施した内容(複数回答)

	回答利用者数	機能回復訓練	基本的動作訓練	応用的動作訓練	社会適応練習	コミュニケーション訓練	自己訓練練習
病院・診療所	101 100.0%	55 54.5%	74 73.3%	4 4.0%	0 0.0%	4 4.0%	11 10.9%

2. 要介護者

⑩ (リハビリテーションを実施した場合) 実施した経緯

リハビリテーションが開始となった経緯について、訪問看護ステーションでは、「医師からリハビリテーションの指示があったため」が 31.1%、「ケアマネジャーからの依頼があったため」が 24.5%、「利用者や家族からリハビリの希望があったため」が 21.6%であった。病院・診療所では、「医師からリハビリテーションの指示があったため」が 33.6%、「利用者の病状等のアセスメントを踏まえて必要と判断したため」が 23.8%、「利用者や家族からリハビリの希望があったため」が 17.2%であった。

リハビリテーションを指示した医師の所属について、訪問看護ステーションでは、「病院」が 53.9%、「診療所」が 35.8%、「介護保険施設」が 0.7%であった。病院・診療所では、「診療所」が 63.4%、「病院」が 31.7%であった。

図表 3-2-47 実施した経緯

	回答利用者数	医師からリハビリテーションの指示があったため	ケアマネジャーからの依頼があったため	利用者や家族からリハビリの希望があったため	利用者の病状等のアセスメントを踏まえて必要と判断したため	その他	無回答
訪問看護ステーション	871 100.0%	271 31.1%	213 24.5%	188 21.6%	114 13.1%	1 0.1%	84 9.6%
病院・診療所	122 100.0%	41 33.6%	9 7.4%	21 17.2%	29 23.8%	1 0.8%	21 17.2%

図表 3-2-48 リハビリテーションを指示した医師の所属 (医師から指示があった場合のみ)

	回答利用者数	病院	診療所	介護保険施設	無回答
訪問看護ステーション	271 100.0%	146 53.9%	97 35.8%	2 0.7%	26 9.6%
病院・診療所	41 100.0%	13 31.7%	26 63.4%	0 0.0%	2 4.9%

⑱ (リハビリテーションを実施した場合) 利用者の病期

リハビリテーションを提供するにあたっての利用者の病期について、訪問看護ステーションでは、「維持期・生活期」が84.7%、「回復期」が5.2%、「終末期」が1.8%であった。病院・診療所では、「維持期・生活期」が78.7%、「回復期」が4.9%、「終末期」が3.3%であった。

図表 3-2-49 利用者の病期

	回答利用者数	急性期	回復期	維持期・生活期	終末期	無回答
訪問看護ステーション	871 100.0%	8 0.9%	45 5.2%	738 84.7%	16 1.8%	64 7.3%
病院・診療所	122 100.0%	0 0.0%	6 4.9%	96 78.7%	4 3.3%	16 13.1%

⑳ (リハビリテーションを実施した場合) リハビリテーションの目標

リハビリテーションの目標について、訪問看護ステーションでは、「機能の維持・悪化予防」が72.8%、「機能の改善・向上」が18.4%であった。病院・診療所では、「機能の維持・悪化予防」が78.7%、「機能の改善・向上」が6.6%であった。

図表 3-2-50 リハビリテーションの目標

	回答利用者数	機能の改善・向上	機能の維持・悪化予防	無回答
訪問看護ステーション	871 100.0%	160 18.4%	634 72.8%	77 8.8%
病院・診療所	122 100.0%	8 6.6%	96 78.7%	18 14.8%

2. 要介護者

㉑ (リハビリテーションを実施した場合) リハビリテーションの効果

利用者への効果について、訪問看護ステーションでは、「ADL の維持改善」が 79.8%、「生活習慣の維持」が 46.6%、「QOL の維持改善」が 35.9%であった。病院・診療所では、「ADL の維持改善」が 71.3%、「生活習慣の維持」が 44.3%、「QOL の維持改善」が 28.7%であった。

図表 3-2-51 リハビリテーションの効果 (複数回答)

	回答利用者数	ADL の維持改善	社会性維持改善	IADL の向上	生活習慣の維持	機能回復	記憶認知機能の改善向上	BPSD の軽減適応	QOL の維持改善
訪問看護ステーション	871 100.0%	695 79.8%	126 14.5%	130 14.9%	406 46.6%	232 26.6%	86 9.9%	34 3.9%	313 35.9%
病院・診療所	122 100.0%	87 71.3%	8 6.6%	8 6.6%	54 44.3%	13 10.7%	9 7.4%	2 1.6%	35 28.7%

	回答利用者数	その他	無回答
訪問看護ステーション	871 100.0%	11 1.3%	57 6.5%
病院・診療所	122 100.0%	0 0.0%	14 11.5%

㉒ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 定期的な状態の評価として看護職員が訪問した直近のタイミング

定期的な状態の評価として看護職員が訪問した直近のタイミングについて、「2 週間以内」が 40.6%、「2~4 週間前」が 17.5%、「8 週間以上前」が 15.2%となっている。

図表 3-2-52 【訪問看護ステーション】次定期的な状態の評価として看護職員が訪問した直近のタイミング

	回答利用者数	2 週間以内	2~4 週間前	4~6 週間前	6~8 週間前	8 週間以上前	無回答
訪問看護ステーション	468 100.0%	190 40.6%	82 17.5%	52 11.1%	22 4.7%	71 15.2%	51 10.9%

②③ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 次回の定期的な状態の評価として看護職員が訪問する予定

次回の定期的な状態の評価として看護職員が訪問する予定について、訪問看護ステーションでは、「1か月以内」が44.8%、「3か月以内」が37.6%、「4～6か月以内」が3.0%であった。

図表 3-2-53 【訪問看護ステーション】次回の定期的な状態の評価として看護職員が訪問する予定

	回答利用者数	次回の訪問看護指示書発行時に合わせて	1か月以内	2か月以内	3か月以内	4～6か月以内	無回答
訪問看護ステーション	498 100.0%	11 2.2%	223 44.8%	12 2.4%	187 37.6%	15 3.0%	50 10.0%

②④ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 看護職員とリハビリ職員の連携のタイミング

看護職員とリハビリ職員の連携のタイミングについて、訪問看護ステーションでは、「訪問看護計画策定時」が50.4%、「計画見直し時」が44.4%、「リハビリ実施後」が43.2%であった。

図表 3-2-54 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員の連携のタイミング (複数回答)

	回答利用者数	訪問看護計画策定時	リハビリ実施後	計画見直し時	その他	なし	無回答
訪問看護ステーション	498 100.0%	251 50.4%	215 43.2%	221 44.4%	142 28.5%	4 0.8%	30 6.0%

2. 要介護者

㊸ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 看護職員とリハビリ職員が相談・確認した事項

看護職員とリハビリ職員が相談・確認した事項について、訪問看護ステーションでは、「リハビリテーション開始前にチェックすべきこと」が 65.5%、「訓練中の留意事項」が 62.2%、「運動負荷量」が 25.9%であった。

図表 3-2-55 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員が相談・確認した事項（複数回答）

	回答利用者数	リハビリテーション開始前にチェックすべきこと	運動負荷量	訓練中の留意事項	中止基準	その他	無回答
訪問看護ステーション	498 100.0%	326 65.5%	129 25.9%	310 62.2%	77 15.5%	83 16.7%	38 7.6%

㊹ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 看護職員とリハビリ職員が共有している内容

看護職員とリハビリ職員が共有している内容について、訪問看護ステーションでは、「利用者の病状」が 91.2%、「訓練中の留意事項に関すること」が 60.4%、「訓練内容」が 57.0%であった。

図表 3-2-56 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員が共有している内容（複数回答）

	回答利用者数	利用者の病状	訓練中の留意事項に関すること	訓練内容	訓練実施後の効果と副作用に関すること	その他	なし	無回答
訪問看護ステーション	498 100.0%	454 91.2%	301 60.4%	284 57.0%	141 28.3%	37 7.4%	1 0.2%	35 7.0%

⑳ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 看護職員とリハビリ職員の連携による効果

看護職員と理学療法士等が連携をして訪問看護を提供することによる効果について、訪問看護ステーションでは、「看護職員とリハビリ職が統一したサービスの提供ができる」が71.7%、「利用者や家族のニーズにそった目標設定ができる」が60.8%、「利用者にあわせたリハビリテーションを行うことができる」が53.6%であった。

図表 3-2-57 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員の連携による効果（複数回答）

	回答利用者数	利用者や家族のニーズにそった目標設定ができる	看護職員とリハビリ職が統一したサービスの提供ができる	予防的な視点でリハビリテーションを行うことができる	利用者にあわせたリハビリテーションを行うことができる	医療ニーズが高くても安心してリハビリテーションができる	ターミナルでも安心してリハビリテーションができる	その他	無回答
訪問看護ステーション	498 100.0%	303 60.8%	357 71.7%	226 45.4%	267 53.6%	155 31.1%	34 6.8%	9 1.8%	31 6.2%

㉑ 看護職員による定期的な訪問を行う中での課題

以下のような回答を得ている。※要支援の利用者における回答も含む。

【訪問看護ステーション】

- ・ 看護師が訪問することに、必要性を感じていない利用者への介入の仕方。
- ・ コストが発生しないので、人員確保による事業所の負担が大きい。
- ・ 日程を調整するのが容易でない。
- ・ 専門的なリハビリを要すケースでは、NSでは評価と程度が難しい。
- ・ スタッフが替わることがあるので同一者からの経時的変化をとらえにくい。
- ・ 週1回の訪問では療養生活の指導がなかなか本人やヘルパーに浸透しない。

⑳訪問看護を提供することにより得られた効果

訪問看護を提供することにより得られた効果について、病院・診療所では、「家族の介護負担が軽減し、在宅療養が継続できた」が 40.8%、「不要な入院を回避できた」が 38.8%、「服薬量を減らすことができた」が 23.1%であった。

図表 3-2-58 【病院・診療所】訪問看護を提供することにより得られた効果(複数回答)

	回答利用者数	排泄行動の自立度が改善した	経口摂取が可能となった	服薬量を減らすことができた	痰の吸引回数が減った、呼吸状態を改善できた	褥瘡の治癒または改善が認められた	運動機能に改善が図れた	訪問看護利用前と比べて自己負担額を軽減できた	不要な入院を回避できた
病院・診療所	441 100.0%	30 6.8%	19 4.3%	102 23.1%	15 3.4%	67 15.2%	59 13.4%	13 2.9%	171 38.8%

	回答利用者数	家族の介護負担が軽減し、在宅療養が継続できた	認知症の行動・心理症状が改善した	在宅療養生活へのスムーズな移行ができた	該当なし	無回答
病院・診療所	441 100.0%	180 40.8%	35 7.9%	92 20.9%	51 11.6%	29 6.6%

3. 要支援者

ここでは、訪問看護ステーションで 361 件、病院・診療所で 82 件の要支援者についての集計結果を報告する。

(1) 利用者の基本情報

① 年齢

年齢について、訪問看護ステーションでは、「75～84 歳」が 36.6%、「85～94 歳」が 33.8%、「65～74 歳」が 20.2%であった。病院・診療所では、「85～94 歳」が 46.3%、「75～84 歳」が 32.9%、「65～74 歳」が 11.0%、「95 歳以上」が 7.3%であった。

図表 3-2-59 年齢

	回答利用者数	40～64 歳	65～74 歳	75～84 歳	85～94 歳	95 歳以上	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	20 5.5%	73 20.2%	132 36.6%	122 33.8%	8 2.2%	6 1.7%
病院・診療所	82 100.0%	1 1.2%	9 11.0%	27 32.9%	38 46.3%	6 7.3%	1 1.2%

② 住まい

住まいについて、訪問看護ステーションでは、「本人の家」が 92.8%、「居住系サービス」が 5.5%、「その他」が 0.3%であった。病院・診療所では、「本人の家」が 89.0%、「居住系サービス」が 9.8%であった。

図表 3-2-60 住まい

	回答利用者数	本人の家	居住系サービス	その他	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	335 92.8%	20 5.5%	1 0.3%	5 1.4%
病院・診療所	82 100.0%	73 89.0%	8 9.8%	0 0.0%	1 1.2%

③ 世帯構成

世帯構成について、訪問看護ステーションでは、「独居」が42.1%、「夫婦のみ世帯(配偶者が65歳以上)」が21.1%、「配偶者はおらず、同居者あり(同居者のいずれか又は全員が65歳未満)」が14.4%であった。病院・診療所では、「独居」が51.2%、「夫婦のみ世帯(配偶者が65歳以上)」が18.3%、「配偶者はおらず、同居者あり(同居者のいずれか又は全員が65歳未満)」が17.1%であった。

図表 3-2-61 世帯構成

	回答利用者数	独居	夫婦のみ世帯(配偶者が65歳以上)	夫婦のみ世帯(配偶者が65歳未満)	配偶者の他に同居者あり(配偶者・同居者全員が65歳以上)	配偶者の他に同居者あり(配偶者、同居者のいずれか又は全員が65歳未満)	配偶者はおらず、同居者あり(同居者は全員65歳以上)
訪問看護ステーション	361 100.0%	152 42.1%	76 21.1%	3 0.8%	8 2.2%	49 13.6%	17 4.7%
病院・診療所	82 100.0%	42 51.2%	15 18.3%	0 0.0%	1 1.2%	4 4.9%	4 4.9%

	回答利用者数	配偶者はおらず、同居者あり(同居者のいずれか又は全員が65歳未満)	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	52 14.4%	4 1.1%
病院・診療所	82 100.0%	14 17.1%	2 2.4%

④ 日中の状態

日中の状態について、訪問看護ステーションでは、「日中独居」が55.1%、「日中独居ではない」が43.2%であった。病院・診療所では、「日中独居」が64.6%、「日中独居ではない」が34.1%であった。

図表 3-2-62 日中の状態

	回答利用者数	日中独居	日中独居ではない	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	199 55.1%	156 43.2%	6 1.7%
病院・診療所	82 100.0%	53 64.6%	28 34.1%	1 1.2%

⑤ 介護力

介護力について、訪問看護ステーションでは、「時間帯によって介護できる人がいる」が39.6%、「介護できる人はいない」が34.3%、「常時、介護できる人がいる」が22.4%であった。病院・診療所では、「介護できる人はいない」が41.5%、「時間帯によって介護できる人がいる」が36.6%、「常時、介護できる人がいる」が19.5%であった。

図表 3-2-63 介護力

	回答利用者数	介護できる人はいない	時間帯によって介護できる人がいる	常時、介護できる人がいる	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	124 34.3%	143 39.6%	81 22.4%	13 3.6%
病院・診療所	82 100.0%	34 41.5%	30 36.6%	16 19.5%	2 2.4%

3. 要支援者

⑥ 訪問看護の利用開始時期

訪問看護の利用開始時期について、訪問看護ステーションでは、「2年以上前」が30.5%、「1年以上2年以内」が26.6%、「6か月以上1年以内」18.3%であった。病院・診療所では、「2年以上前」が32.9%、「3か月以内」が25.6%、「1年以上2年以内」が20.7%であった。

図表 3-2-64 訪問看護の利用開始時期

(10月1日時点)

	回答利用者数	3か月以内	3か月以上6か月以内	6か月以上1年以内	1年以上2年以内	2年以上前	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	42 11.6%	40 11.1%	66 18.3%	96 26.6%	110 30.5%	7 1.9%
病院・診療所	82 100.0%	21 25.6%	6 7.3%	9 11.0%	17 20.7%	27 32.9%	2 2.4%

⑦ 訪問看護利用開始前の入院・入所状況

訪問看護利用開始前の入院・入所の有無について、訪問看護ステーションでは、「なし」が59.8%、「病院・有床診療所」が28.8%であった。病院・診療所では、「なし」が59.8%、「病院・有床診療所」が36.6%であった。

図表 3-2-65 訪問看護利用開始前の入院・入所の有無

	回答利用者数	病院・有床診療所	介護老人保健施設・介護医療院	その他	なし	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	104 28.8%	2 0.6%	23 6.4%	216 59.8%	16 4.4%
病院・診療所	82 100.0%	30 36.6%	0 0.0%	2 2.4%	49 59.8%	1 1.2%

⑧ 他の介護保険サービス利用実績

他の介護保険サービス利用実績について、訪問看護ステーションでは、「訪問介護」が29.6%、「福祉用具貸与」が26.3%、「通所介護」が19.7%であった。病院・診療所では、「訪問介護」が36.6%、「通所介護」が26.8%、「福祉用具貸与」が22.0%であった。

図表 3-2-66 他の介護保険サービス利用実績（複数回答）

(9月の実績)

	回答利用者数	訪問介護	訪問入浴介護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護
訪問看護ステーション	361 100.0%	107 29.6%	4 1.1%	30 8.3%	71 19.7%	34 9.4%	3 0.8%
病院・診療所	82 100.0%	30 36.6%	0 0.0%	4 4.9%	22 26.8%	11 13.4%	0 0.0%

	回答利用者数	短期入所療養介護	福祉用具貸与	その他	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	2 0.6%	95 26.3%	8 2.2%	105 29.1%
病院・診療所	82 100.0%	0 0.0%	18 22.0%	2 2.4%	24 29.3%

3. 要支援者

⑨ 受診状況

受診の有無について、訪問看護ステーションでは、「外来受診した」が77.3%、「訪問診療・往診を受けた」が13.0%、「いずれもなし」が5.3%であった。病院・診療所では、「外来受診した」が75.6%、「訪問診療・往診を受けた」が17.1%、「いずれもなし」が4.9%であった。

図表 3-2-67 受診の有無

	回答利用者数	訪問診療・往診を受けた	外来受診した	いずれもなし	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	47 13.0%	279 77.3%	19 5.3%	19 5.3%
病院・診療所	82 100.0%	14 17.1%	62 75.6%	4 4.9%	2 2.4%

⑩ 利用開始時の要介護度

利用開始時の要介護度について、訪問看護ステーションでは、「要支援2」が46.8%、「要支援1」が31.3%、「要介護1」が9.1%、「要介護2」が5.8%であった。病院・診療所では、「要支援1」が43.9%、「要支援2」が34.1%、「要介護1」が11.0%、「要介護2」が6.1%であった。

図表 3-2-68 利用開始時の要介護度

	回答利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	113 31.3%	169 46.8%	33 9.1%	21 5.8%	5 1.4%	3 0.8%	3 0.8%	14 3.9%
病院・診療所	82 100.0%	36 43.9%	28 34.1%	9 11.0%	5 6.1%	2 2.4%	1 1.2%	0 0.0%	1 1.2%

⑪ 直近の要介護度

直近の要介護度について、訪問看護ステーションでは、「要支援2」が61.2%、「要支援1」が37.7%であった。病院・診療所では、「要支援2」が56.1%、「要支援1」が43.9%であった。

図表 3-2-69 直近の要介護度

	回答利用者数	要支援1	要支援2
訪問看護ステーション	361 100.0%	136 37.7%	221 61.2%
病院・診療所	82 100.0%	36 43.9%	46 56.1%

⑫ 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度について、訪問看護ステーションでは、「自立」が40.7%、「Ⅰ」が34.3%、「Ⅱa」が10.0%であった。病院・診療所では、「Ⅰ」が36.6%、「自立」が29.3%、「Ⅱb」が15.9%であった。

図表 3-2-70 認知症高齢者の日常生活自立度

	回答利用者数	自立	Ⅰ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb
訪問看護ステーション	361 100.0%	147 40.7%	124 34.3%	36 10.0%	25 6.9%	6 1.7%	2 0.6%
病院・診療所	82 100.0%	24 29.3%	30 36.6%	10 12.2%	13 15.9%	1 1.2%	0 0.0%

	回答利用者数	Ⅳ	M	不明	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	2 0.6%	0 0.0%	7 1.9%	12 3.3%
病院・診療所	82 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%	3 3.7%

3. 要支援者

⑬ 日常生活自立度

日常生活自立度について、訪問看護ステーションでは、「J 2」が 22.7%、「J 1」が 19.1%、「A 1」が 19.1%であった。病院・診療所では、「J 2」が 25.6%、「自立」が 18.3%、「A 1」が 18.3%であった。

図表 3-2-71 日常生活自立度

	回答利用者数	自立	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1
訪問看護ステーション	361 100.0%	66 18.3%	69 19.1%	82 22.7%	69 19.1%	48 13.3%	14 3.9%
病院・診療所	82 100.0%	15 18.3%	11 13.4%	21 25.6%	15 18.3%	14 17.1%	1 1.2%

	回答利用者数	B 2	C 1	C 2	不明	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	2 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	5 1.4%	6 1.7%
病院・診療所	82 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%	4 4.9%

⑭ ADL の状況

訪問看護ステーションでは、入浴で「一部介助」が 31.0%、移動で「一部介助」が 17.5%であった。病院・診療所では入浴で「一部介助」が 35.4%、移動で「一部介助」が 20.7%であった。

図表 3-2-72 ADL の状況（訪問看護ステーション）

	回答利用者数	自立	一部介助	全面介助	その他	無回答
移動	361 100.0%	293 81.2%	63 17.5%	1 0.3%	0 0.0%	4 1.1%
食事	361 100.0%	326 90.3%	30 8.3%	0 0.0%	1 0.3%	4 1.1%
排泄	361 100.0%	339 93.9%	15 4.2%	1 0.3%	0 0.0%	6 1.7%
入浴	361 100.0%	230 63.7%	112 31.0%	10 2.8%	2 0.6%	7 1.9%
着替	361 100.0%	317 87.8%	35 9.7%	2 0.6%	0 0.0%	7 1.9%
整容	361 100.0%	331 91.7%	22 6.1%	0 0.0%	0 0.0%	8 2.2%
意思疎通	361 100.0%	328 90.9%	25 6.9%	0 0.0%	1 0.3%	7 1.9%

図表 3-2-73 ADL の状況（病院・診療所）

	回答利用者数	自立	一部介助	全面介助	その他	無回答
移動	82 100.0%	63 76.8%	17 20.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.4%
食事	82 100.0%	66 80.5%	15 18.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%
排泄	82 100.0%	76 92.7%	3 3.7%	0 0.0%	2 2.4%	1 1.2%
入浴	82 100.0%	50 61.0%	29 35.4%	2 2.4%	0 0.0%	1 1.2%
着替	82 100.0%	69 84.1%	12 14.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%
整容	82 100.0%	67 81.7%	14 17.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%
意思疎通	82 100.0%	72 87.8%	9 11.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%

3. 要支援者

⑮ 在宅療養を続けている原因の病名

在宅療養を続けている原因の病名について、訪問看護ステーションでは、「高血圧」が41.6%、「その他」が22.2%、「心臓病」が21.6%であった。病院・診療所では、「高血圧」が58.5%、「糖尿病」が29.3%、「心臓病」が28.0%であった。

図表 3-2-74 在宅療養を続けている原因の病名(複数回答)

	回答利用者数	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気
訪問看護ステーション	361 100.0%	150 41.6%	66 18.3%	78 21.6%	66 18.3%	42 11.6%	38 10.5%	18 5.0%	30 8.3%
病院・診療所	82 100.0%	48 58.5%	15 18.3%	23 28.0%	24 29.3%	13 15.9%	15 18.3%	3 3.7%	13 15.9%

	回答利用者数	筋骨格の病気	骨折	末期がん	末期がん以外のがん	血液・免疫の病気	精神疾患	神経難病	認知症
訪問看護ステーション	361 100.0%	71 19.7%	25 6.9%	1 0.3%	28 7.8%	14 3.9%	22 6.1%	3 0.8%	33 9.1%
病院・診療所	82 100.0%	14 17.1%	6 7.3%	3 3.7%	10 12.2%	2 2.4%	6 7.3%	0 0.0%	10 12.2%

	回答利用者数	パーキンソン病	その他	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	8 2.2%	80 22.2%	3 0.8%
病院・診療所	82 100.0%	5 6.1%	12 14.6%	1 1.2%

⑯ 在宅療養を続けている原因の病名（主傷病）

在宅療養を続けている原因の病名（主傷病）について、訪問看護ステーションでは、「心臓病」が11.1%、「脳卒中」が10.2%、「筋骨格の病気」が10.0%であった。病院・診療所では、「高血圧」が18.3%、「心臓病」が9.8%、「糖尿病」が9.8%であった。

図表 3-2-75 在宅療養を続けている原因の病名（主傷病）

	回答利用者数	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気
訪問看護ステーション	361 100.0%	28 7.8%	37 10.2%	40 11.1%	28 7.8%	2 0.6%	21 5.8%	5 1.4%	7 1.9%
病院・診療所	82 100.0%	15 18.3%	4 4.9%	8 9.8%	8 9.8%	1 1.2%	8 9.8%	0 0.0%	4 4.9%

	回答利用者数	筋骨格の病気	骨折	末期がん	末期がん以外のがん	血液・免疫の病気	精神疾患	神経難病	認知症
訪問看護ステーション	361 100.0%	36 10.0%	9 2.5%	1 0.3%	15 4.2%	9 2.5%	11 3.0%	3 0.8%	13 3.6%
病院・診療所	82 100.0%	0 0.0%	1 1.2%	3 3.7%	6 7.3%	1 1.2%	4 4.9%	0 0.0%	2 2.4%

	回答利用者数	パーキンソン病	その他	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	7 1.9%	36 10.0%	53 14.7%
病院・診療所	82 100.0%	3 3.7%	5 6.1%	9 11.0%

3. 要支援者

⑰ 利用者の状態

利用者の状態について、訪問看護ステーションでは、「いずれもなし」が30.2%、「服薬援助」が28.8%、「心理的支援」が26.9%であった。病院・診療所では、「服薬援助」が48.8%、「心理的支援」が39.0%、「いずれもなし」が15.9%であった。

図表 3-2-76 利用者の状態（複数回答）

	回答利用者数	点滴の管理	中心静脈栄養	透析	stomach の処置	酸素療法	人工呼吸器	気管切開の処置	疼痛の管理
訪問看護ステーション	361 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 2.8%	14 3.9%	15 4.2%	0 0.0%	3 0.8%	33 9.1%
病院・診療所	82 100.0%	2 2.4%	0 0.0%	2 2.4%	6 7.3%	4 4.9%	1 1.2%	0 0.0%	2 2.4%

	回答利用者数	経鼻経管栄養・管理	胃ろう・腸ろうからの栄養・管理	持続モニター測定	褥瘡の処置	カテーテル	常時頻回の喀痰吸引	創傷処置	浣腸・摘便
訪問看護ステーション	361 100.0%	0 0.0%	2 0.6%	0 0.0%	4 1.1%	4 1.1%	0 0.0%	8 2.2%	3 0.8%
病院・診療所	82 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.4%	0 0.0%

	回答利用者数	インスリン注射	導尿	精神症状の観察	心理的支援	服薬援助	いずれもなし	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	17 4.7%	0 0.0%	36 10.0%	97 26.9%	104 28.8%	109 30.2%	29 8.0%
病院・診療所	82 100.0%	5 6.1%	0 0.0%	10 12.2%	32 39.0%	40 48.8%	13 15.9%	3 3.7%

⑱ 利用している薬剤

利用者の使用している薬剤について、訪問看護ステーションでは、「降圧薬」が57.3%、「抗血栓薬」が23.0%であった。病院・診療所では、「降圧薬」が65.9%、「抗血栓薬」が28.0%であった。

図表 3-2-77 利用している薬剤（複数回答）

	回答利用者数	抗血小板薬	免疫抑制剤	ステロイド	抗がん剤	抗精神病薬	睡眠薬・抗不安薬	利尿剤	降圧薬
訪問看護ステーション	361 100.0%	4 1.1%	5 1.4%	21 5.8%	6 1.7%	17 4.7%	75 20.8%	54 15.0%	207 57.3%
病院・診療所	82 100.0%	1 1.2%	1 1.2%	6 7.3%	0 0.0%	6 7.3%	19 23.2%	21 25.6%	54 65.9%

	回答利用者数	狭心症治療薬	心不全治療薬	抗血栓薬	抗不整脈薬	輸血	その他	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	33 9.1%	36 10.0%	83 23.0%	25 6.9%	0 0.0%	145 40.2%	28 7.8%
病院・診療所	82 100.0%	9 11.0%	13 15.9%	23 28.0%	2 2.4%	0 0.0%	36 43.9%	2 2.4%

⑲ 利用者の症状

利用者の症状について、訪問看護ステーションでは、「疼痛」が31.0%、「易疲労」が23.0%、「不安」が22.4%であった。病院・診療所では、「不安」が29.3%、「浮腫」が25.6%、「疼痛」が23.2%であった。

図表 3-2-78 利用者の症状（複数回答）

	回答利用者数	疼痛	易疲労	混乱	摂食・嚥下障害	食思不振	うつ	不安	脱水
訪問看護ステーション	361 100.0%	112 31.0%	83 23.0%	15 4.2%	15 4.2%	35 9.7%	25 6.9%	81 22.4%	9 2.5%
病院・診療所	82 100.0%	19 23.2%	19 23.2%	3 3.7%	1 1.2%	5 6.1%	5 6.1%	24 29.3%	1 1.2%

	回答利用者数	呼吸苦	不眠	便秘	浮腫	その他	いずれもなし	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	35 9.7%	38 10.5%	38 10.5%	54 15.0%	56 15.5%	64 17.7%	13 3.6%
病院・診療所	82 100.0%	12 14.6%	9 11.0%	12 14.6%	21 25.6%	6 7.3%	13 15.9%	2 2.4%

3. 要支援者

⑩ 訪問看護指示書の内容

訪問看護指示書の内容について、訪問看護ステーションでは、「療養生活指導」が61.8%、「リハビリテーション」が52.4%であった。病院・診療所では、「療養生活指導」が81.7%、「リハビリテーション」が19.5%であった。

図表 3-2-79 訪問看護指示書の内容（複数回答）

	回答利用者数	療養生活指導	リハビリテーション	褥瘡の処置等	装着・使用医療機器等の操作援助・管理	点滴・注射	その他	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	223 61.8%	189 52.4%	10 2.8%	30 8.3%	4 1.1%	60 16.6%	14 3.9%
病院・診療所	82 100.0%	67 81.7%	16 19.5%	0 0.0%	8 9.8%	3 3.7%	20 24.4%	6 7.3%

⑪ ターミナル期であるかの主治医による訪問看護指示書への記載状況

ターミナル期であるかの主治医による訪問看護指示書への記載の有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が97.2%、「有」が0.3%であった。病院・診療所では、「無」が90.2%、「有」が2.4%であった。

図表 3-2-80 ターミナル期であるかの主治医による訪問看護指示書への記載の有無

	回答利用者数	有	無	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	1 0.3%	351 97.2%	9 2.5%
病院・診療所	82 100.0%	2 2.4%	74 90.2%	6 7.3%

⑫余命の見込みに関する説明状況

余命の見込みに関する説明の有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が96.4%、「有」が0.6%であった。病院・診療所では、「無」が95.1%、「有」が2.4%であった。

図表 3-2-81 余命の見込みに関する説明の有無

	回答利用者数	有	無	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	2 0.6%	348 96.4%	11 3.0%
病院・診療所	82 100.0%	2 2.4%	78 95.1%	2 2.4%

3. 要支援者

(2) 訪問看護の提供状況

① 利用している保険

訪問看護で利用している保険について、訪問看護ステーションでは、「介護保険」が97.0%、「医療保険」が4.4%であった。病院・診療所では、「介護保険」が91.5%、「医療保険」が7.3%であった。

図表 3-2-82 利用している保険(複数回答)

(9月1か月間の実績)

	回答利用者数	介護保険	医療保険	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	350 97.0%	16 4.4%	0 0.0%
病院・診療所	82 100.0%	75 91.5%	6 7.3%	1 1.2%

② 特別訪問看護指示書の交付状況

9月における特別訪問看護指示書の交付の有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が94.5%、「有」が5.0%であった。病院・診療所では、「無」が92.7%、「有」が6.1%であった。

図表 3-2-83 特別訪問看護指示書の交付の有無

(9月1か月間の実績)

	回答利用者数	有	無	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	18 5.0%	341 94.5%	2 0.6%
病院・診療所	82 100.0%	5 6.1%	76 92.7%	1 1.2%

③ 介護保険での看護職員の訪問回数

介護保険での看護職員の訪問回数について、訪問看護ステーションでは、「30分以上1時間未満」が平均1.6回であった。病院・診療所では、「30分以上1時間未満」が平均1.3回であった。

図表 3-2-84 介護保険での看護職員の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

訪問看護ステーション	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
20分未満	353	0.0	0.4	0.0
30分未満	353	1.5	2.3	0.0
30分以上1時間未満	353	1.6	2.6	0.0
1時間以上1時間30分未満	353	0.1	0.6	0.0

病院・診療所	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
20分未満	81	0.1	0.5	0.0
30分未満	81	0.1	0.5	0.0
30分以上1時間未満	81	1.3	2.0	0.0
1時間以上1時間30分未満	81	0.0	0.3	0.0

3. 要支援者

④ 介護保険でのリハビリ職員の訪問回数（訪問看護ステーションのみ）

介護保険でのリハビリ職員の訪問回数について、理学療法士で平均 1.2 回、作業療法士で平均 0.5 回、言語聴覚士で平均 0.1 回であった。

介護保険でのリハビリ職員の算定回数について、理学療法士で平均 2.5 回、作業療法士で平均 1.1 回、言語聴覚士で平均 0.1 回であった。

図表 3-2-85 【訪問看護ステーション】介護保険でのリハビリ職員の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回／月

	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
理学療法士	353	1.2	2.4	0.0
作業療法士	353	0.5	1.6	0.0
言語聴覚士	353	0.1	0.5	0.0

図表 3-2-86 【訪問看護ステーション】介護保険でのリハビリ職員の算定回数

(9月1か月間の実績) 単位：回／月

	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
理学療法士	353	2.5	4.9	0.0
作業療法士	353	1.1	3.4	0.0
言語聴覚士	353	0.1	0.8	0.0

⑤ 他の訪問看護事業所の看護職員の訪問状況

他の訪問看護事業所の看護職員の訪問の有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が94.5%、「有」が0.6%であった。

病院・診療所では、「無」が91.5%、「有」が2.4%であった。

図表 3-2-87 他の訪問看護事業所の看護職員の訪問の有無

(9月1か月間の実績)

	回答利用者数	有	無	不明	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	2 0.6%	341 94.5%	0 0.0%	18 5.0%
病院・診療所	82 100.0%	2 2.4%	75 91.5%	2 2.4%	3 3.7%

他の訪問看護事業所の看護職員の訪問回数について、訪問看護ステーションでは平均は3.3回、中央値は3.5回であった。病院・診療所では平均は2.0回、中央値は2.0回であった。

図表 3-2-88 【病院・診療所】他の訪問看護事業所の看護職員の訪問回数

単位：回／月

	回答利用者数	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	4	13.0	3.3	1.0	3.5
病院・診療所	1	2.0	2.0	-	2.0

3. 要支援者

⑥ 他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問状況

他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問の有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が 94.5%、「有」が 0.6%であった。病院・診療所では、「無」が 91.5%、「有」が 2.4%であった。

図表 3-2-89 他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問の有無

(9月1か月間の実績)

	回答利用者数	有	無	不明	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	2 0.6%	341 94.5%	0 0.0%	18 5.0%
病院・診療所	82 100.0%	2 2.4%	75 91.5%	2 2.4%	3 3.7%

他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問回数について、訪問看護ステーションでは平均は 8.0 回、中央値は 8.0 回であった。病院・診療所では平均は 3.0 回、中央値は 3.0 回であった。

図表 3-2-90 他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	1	8.0	-	8.0
病院・診療所	2	3.0	1.4	3.0

⑦ 看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問したことの有無（訪問看護ステーションのみ）

看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問したことの有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が89.8%、「有」が6.4%であった。

看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問した回数について、訪問看護ステーションでは平均は1.1回、中央値は1.0回であった。

図表 3-2-91 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問したことの有無

(9月1か月間の実績)

	回答利用者数	有	無	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	23 6.4%	324 89.8%	14 3.9%

図表 3-2-92 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問したこと回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	21	1.1	0.3	1.0

⑧ 医療保険での訪問看護の訪問回数

医療保険での訪問看護の訪問回数について、訪問看護ステーションでは平均は0.2回、中央値は0.0回であった。病院・診療所では平均は0.3回、中央値は0.0回であった。

医療保険での訪問看護の算定回数について、訪問看護ステーションでは平均は0.2回、中央値は0.0回であった。病院・診療所では平均は0.3回、中央値は0.0回であった。

図表 3-2-93 医療保険での訪問看護の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	353	0.2	1.3	0.0
病院・診療所	81	0.3	1.2	0.0

図表 3-2-94 医療保険での訪問看護の算定回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	353	0.2	1.4	0.0
病院・診療所	81	0.3	1.2	0.0

3. 要支援者

⑨ 訪問看護の加算等の状況

訪問看護の加算等の状況について、訪問看護ステーションでは、「緊急時訪問看護加算」が41.8%、「初回加算」が24.1%、「特別管理加算」が10.5%であった。病院・診療所では、「緊急時訪問看護加算」が34.1%、「初回加算」が18.3%、「特別管理加算」が12.2%であった。

図表 3-2-95 訪問看護の加算等の状況(複数回答)

	回答利用者数	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業と連携した訪問看護	緊急時訪問看護加算	特別管理加算	初回加算	退院時共同指導加算	複数名訪問加算	夜間・早朝訪問看護加算	深夜訪問看護加算
訪問看護ステーション	361 100.0%	7 1.9%	151 41.8%	38 10.5%	87 24.1%	12 3.3%	2 0.6%	2 0.6%	1 0.3%
病院・診療所	82 100.0%	4 4.9%	28 34.1%	10 12.2%	15 18.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

	回答利用者数	長時間訪問看護加算	看護体制強化加算	看護・介護職員連携強化加算	特別地域訪問看護加算	中山間地域等における小規模事業所加算	中山間地域等に居住する者へのサービス提供加算	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	1 0.3%	19 5.3%	0 0.0%	5 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	116 32.1%
病院・診療所	82 100.0%	0 0.0%	7 8.5%	0 0.0%	5 6.1%	5 6.1%	0 0.0%	27 32.9%

⑩ 訪問看護を利用する目的

訪問看護を利用する目的について、訪問看護ステーションでは、「定期的な療養生活状況の確認」が72.3%、「ADLの維持・低下防止」が45.2%、「運動器の機能向上」が38.2%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が37.4%であった。病院・診療所では、「定期的な療養生活状況の確認」が89.0%、「服薬管理の向上」が51.2%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が45.1%であった。

図表 3-2-96 訪問看護を利用する目的(複数回答)

	回答利用者数	医療的なケア	定期的な療養生活状況の確認	今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要	療養環境の調整	運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能の向上	膝痛・腰痛対策
訪問看護ステーション	361 100.0%	55 15.2%	261 72.3%	135 37.4%	92 25.5%	138 38.2%	34 9.4%	11 3.0%	77 21.3%
病院・診療所	82 100.0%	18 22.0%	73 89.0%	37 45.1%	22 26.8%	11 13.4%	12 14.6%	1 1.2%	14 17.1%

	回答利用者数	閉じこもり予防・支援	認知機能の低下予防・支援	うつ予防・支援	ADL/IA DLの改善	ADLの維持・低下防止	服薬管理の向上	感染予防	本人が望む生活の実現
訪問看護ステーション	361 100.0%	52 14.4%	42 11.6%	27 7.5%	56 15.5%	163 45.2%	111 30.7%	11 3.0%	77 21.3%
病院・診療所	82 100.0%	19 23.2%	16 19.5%	5 6.1%	3 3.7%	22 26.8%	42 51.2%	8 9.8%	21 25.6%

	回答利用者数	家族の介護負担の軽減	他サービスの調整	その他	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	53 14.7%	23 6.4%	18 5.0%	4 1.1%
病院・診療所	82 100.0%	14 17.1%	9 11.0%	3 3.7%	2 2.4%

3. 要支援者

⑪ 訪問看護を利用する目的の中で達成できたもの

訪問看護を利用する目的の中で達成できたものについて、訪問看護ステーションでは、「定期的な療養生活状況の確認」が31.3%、「ADLの維持・低下防止」が24.7%、「服薬管理の向上」が11.6%、「運動器の機能向上」が10.8%であった。病院・診療所では、「定期的な療養生活状況の確認」が43.9%、「服薬管理の向上」が26.8%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が14.6%、「医療的なケア」が11.0%であった。

図表 3-2-97 訪問看護を利用する目的の中で達成できたもの(複数回答)

	回答利用者数	医療的なケア	定期的な療養生活状況の確認	今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要	療養環境の調整	運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能の向上	膝痛・腰痛対策
訪問看護ステーション	361 100.0%	26 7.2%	113 31.3%	36 10.0%	27 7.5%	39 10.8%	6 1.7%	3 0.8%	18 5.0%
病院・診療所	82 100.0%	9 11.0%	36 43.9%	12 14.6%	5 6.1%	1 1.2%	2 2.4%	0 0.0%	3 3.7%

	回答利用者数	閉じこもり予防・支援	認知機能の低下予防・支援	うつ予防・支援	ADL/IALDLの改善	ADLの維持・低下防止	服薬管理の向上	感染予防	本人が望む生活の実現
訪問看護ステーション	361 100.0%	17 4.7%	4 1.1%	13 3.6%	16 4.4%	89 24.7%	42 11.6%	4 1.1%	23 6.4%
病院・診療所	82 100.0%	5 6.1%	3 3.7%	2 2.4%	1 1.2%	8 9.8%	22 26.8%	0 0.0%	9 11.0%

	回答利用者数	家族の介護負担の軽減	他サービスの調整	その他	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	9 2.5%	3 0.8%	8 2.2%	18 5.0%
病院・診療所	82 100.0%	7 8.5%	5 6.1%	2 2.4%	4 4.9%

⑫ 訪問看護を利用する主な目的

訪問看護を利用する目的について、訪問看護ステーションでは、「定期的な療養生活状況の確認」が29.4%、「ADLの維持・低下防止」が15.8%、「運動器の機能向上」が10.2%、「医療的なケア」が8.0%であった。病院・診療所では、「定期的な療養生活状況の確認」が35.4%、「医療的なケア」が15.9%、「服薬管理の向上」が14.6%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が13.4%であった。

図表 3-2-98 訪問看護を利用する主な目的

	回答利用者数	医療的なケア	定期的な療養生活状況の確認	今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要	療養環境の調整	運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能の向上	膝痛・腰痛対策
訪問看護ステーション	361 100.0%	29 8.0%	106 29.4%	29 8.0%	1 0.3%	37 10.2%	1 0.3%	2 0.6%	6 1.7%
病院・診療所	82 100.0%	13 15.9%	29 35.4%	11 13.4%	0 0.0%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%

	回答利用者数	閉じこもり予防・支援	認知機能の低下予防・支援	うつ予防・支援	ADL/IALの改善	ADLの維持・低下防止	服薬管理の向上	感染予防	本人が望む生活の実現
訪問看護ステーション	361 100.0%	2 0.6%	6 1.7%	6 1.7%	13 3.6%	57 15.8%	29 8.0%	0 0.0%	12 3.3%
病院・診療所	82 100.0%	2 2.4%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	4 4.9%	12 14.6%	0 0.0%	2 2.4%

	回答利用者数	家族の介護負担の軽減	他サービスの調整	その他	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	0 0.0%	1 0.3%	9 2.5%	15 4.2%
病院・診療所	82 100.0%	1 1.2%	0 0.0%	2 2.4%	3 3.7%

3. 要支援者

⑬ 訪問看護を利用する目的で最も達成できているもの

訪問看護を利用する目的について、訪問看護ステーションでは、「定期的な療養生活状況の確認」が24.4%、「ADLの維持・低下防止」が21.3%、「服薬管理の向上」が8.0%、「運動器の機能向上」が6.6%であった。病院・診療所では、「定期的な療養生活状況の確認」が32.9%、「服薬管理の向上」が20.7%、「医療的なケア」が11.0%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が8.5%であった。

図表 3-2-99 訪問看護を利用する目的で最も達成できているもの

	回答利用者数	医療的なケア	定期的な療養生活状況の確認	今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要	療養環境の調整	運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能の向上	膝痛・腰痛対策
訪問看護ステーション	361 100.0%	20 5.5%	88 24.4%	19 5.3%	10 2.8%	24 6.6%	5 1.4%	2 0.6%	9 2.5%
病院・診療所	82 100.0%	9 11.0%	27 32.9%	7 8.5%	1 1.2%	0 0.0%	2 2.4%	0 0.0%	0 0.0%

	回答利用者数	閉じこもり予防・支援	認知機能の低下予防・支援	うつ予防・支援	ADL/IALの改善	ADLの維持・低下防止	服薬管理の向上	感染予防	本人が望む生活の実現
訪問看護ステーション	361 100.0%	9 2.5%	2 0.6%	9 2.5%	9 2.5%	77 21.3%	29 8.0%	1 0.3%	15 4.2%
病院・診療所	82 100.0%	3 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.4%	17 20.7%	0 0.0%	6 7.3%

	回答利用者数	家族の介護負担の軽減	他サービスの調整	その他	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	5 1.4%	2 0.6%	7 1.9%	19 5.3%
病院・診療所	82 100.0%	2 2.4%	0 0.0%	2 2.4%	4 4.9%

⑭ サービス担当者会議への参加回数

サービス担当者会議への参加回数について、訪問看護ステーションでは平均は1.1回、中央値は1.0回であった。病院・診療所では平均は1.0回、中央値は1.0回であった。

図表 3-2-100 サービス担当者会議への参加回数

(4月～9月の実績) 単位：回

	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	319	1.1	3.6	1.0
病院・診療所	78	1.0	1.3	1.0

3. 要支援者

⑮ 利用者に対して実施したケア

事業所において提供したケアについて、訪問看護ステーションでは、「本人への療養指導」が46.3%、「四肢の自動運動及び関節可動域維持のリハビリテーション」が44.9%、「服薬指導・管理」が43.5%であった。病院・診療所では、「服薬指導・管理」が72.0%、「本人への療養指導」が51.2%、「医師と連携した服薬調整」が48.8%であった。

図表 3-2-101 利用者に対して実施したケア(複数回答)

	回答利用者数	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	輸血	カテーテルの管理	ストマの管理	喀痰吸引	ネブライザー
訪問看護ステーション	361 100.0%	3 0.8%	2 0.6%	3 0.8%	0 0.0%	8 2.2%	19 5.3%	3 0.8%	3 0.8%
病院・診療所	82 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.7%	8 9.8%	1 1.2%	2 2.4%

	回答利用者数	酸素療法	気管切開のケア	人工呼吸器の管理	静脈内注射	皮内、皮下及び筋肉内注射	簡易血糖測定	インスリン注射	疼痛管理(麻薬なし)
訪問看護ステーション	361 100.0%	18 5.0%	5 1.4%	2 0.6%	9 2.5%	4 1.1%	12 3.3%	13 3.6%	31 8.6%
病院・診療所	82 100.0%	7 8.5%	0 0.0%	0 0.0%	6 7.3%	2 2.4%	10 12.2%	6 7.3%	9 11.0%

	回答利用者数	疼痛管理(麻薬使用)	服薬指導・管理	医師と連携した服薬調整	創傷処置	褥瘡処置	褥瘡予防のための介護用品の導入	浣腸	排便
訪問看護ステーション	361 100.0%	6 1.7%	157 43.5%	48 13.3%	21 5.8%	8 2.2%	7 1.9%	11 3.0%	10 2.8%
病院・診療所	82 100.0%	1 1.2%	59 72.0%	40 48.8%	11 13.4%	5 6.1%	4 4.9%	4 4.9%	4 4.9%

第3章 訪問看護調査の結果の詳細
第2節 訪問看護 利用者調査票

	回答利用者数	排泄の援助	導尿	口腔ケア	身体機能維持を目的とした付き添いや見守り	経口栄養へのリハビリテーション	呼吸理学療法	四肢の自動運動及び関節可動域維持のリハビリテーション	その他のリハビリテーション
訪問看護ステーション	361 100.0%	11 3.0%	2 0.6%	7 1.9%	48 13.3%	9 2.5%	15 4.2%	162 44.9%	88 24.4%
病院・診療所	82 100.0%	8 9.8%	1 1.2%	3 3.7%	7 8.5%	0 0.0%	2 2.4%	16 19.5%	4 4.9%

	回答利用者数	清拭浴・陰部洗浄	入浴介助	本人の精神的な状態の変化への対応	家族等への認知症の症状に合わせた関わり方の指導	家族等への介護に関する技術的な指導	在宅看取りに向けた本人・家族との調整	ターミナルケア	睡眠のためのケア
訪問看護ステーション	361 100.0%	28 7.8%	41 11.4%	103 28.5%	25 6.9%	36 10.0%	6 1.7%	3 0.8%	22 6.1%
病院・診療所	82 100.0%	11 13.4%	6 7.3%	35 42.7%	12 14.6%	8 9.8%	2 2.4%	1 1.2%	3 3.7%

	回答利用者数	意欲向上や気分転換を促すケア	外出の支援	本人への療養指導	家屋の改善・療養環境整備の支援	その他	無回答
訪問看護ステーション	361 100.0%	118 32.7%	37 10.2%	167 46.3%	46 12.7%	17 4.7%	13 3.6%
病院・診療所	82 100.0%	35 42.7%	8 9.8%	42 51.2%	11 13.4%	3 3.7%	2 2.4%

3. 要支援者

⑯ (リハビリテーションを実施した場合) 実施した内容

実施したリハビリテーションについて、訪問看護ステーションでは、看護職員で「機能回復訓練」が72.3%、「基本的動作訓練」が56.6%となっており、理学療法士で「機能回復訓練」が97.8%、「基本的動作訓練」が96.7%であった。

病院・診療所では、「機能回復訓練」が78.9%、「基本的動作訓練」が52.6%、「自己訓練練習」が31.6%であった。

図表 3-2-102 【訪問看護ステーション】実施した内容(複数回答)

	回答利用者数	機能回復訓練	基本的動作訓練	応用的動作訓練	社会適応練習	コミュニケーション訓練	自己訓練練習
看護職員	83 100.0%	60 72.3%	47 56.6%	15 18.1%	9 10.8%	12 14.5%	22 26.5%
理学療法士	91 100.0%	89 97.8%	88 96.7%	58 63.7%	12 13.2%	6 6.6%	57 62.6%
作業療法士	46 100.0%	43 93.5%	41 89.1%	28 60.9%	10 21.7%	5 10.9%	24 52.2%
言語聴覚士	5 100.0%	4 80.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	4 80.0%	3 60.0%

図表 3-2-103 【病院・診療所】実施した内容(複数回答)

	回答利用者数	機能回復訓練	基本的動作訓練	応用的動作訓練	社会適応練習	コミュニケーション訓練	自己訓練練習
病院・診療所	19 100.0%	15 78.9%	10 52.6%	1 5.3%	3 15.8%	4 21.1%	6 31.6%

⑰ (リハビリテーションを実施した場合) 実施した経緯

リハビリテーションを実施した経緯について、訪問看護ステーションでは、「ケアマネジャーからの依頼があったため」が 32.1%、「利用者や家族からリハビリの希望があったため」が 24.4%、「医師からリハビリテーションの指示があったため」が 23.8%であった。病院・診療所では、「利用者の病状等のアセスメントを踏まえて必要と判断したため」が 57.9%、「医師からリハビリテーションの指示があったため」が 26.3%、「利用者や家族からリハビリの希望があったため」が 10.5%であった。

図表 3-2-104 実施した経緯

	回答利用者数	医師からリハビリテーションの指示があったため	ケアマネジャーからの依頼があったため	利用者や家族からリハビリの希望があったため	利用者の病状等のアセスメントを踏まえて必要と判断したため	その他	無回答
訪問看護ステーション	193 100.0%	46 23.8%	62 32.1%	47 24.4%	27 14.0%	0 0.0%	11 5.7%
病院・診療所	19 100.0%	5 26.3%	1 5.3%	2 10.5%	11 57.9%	0 0.0%	0 0.0%

リハビリテーションを指示した医師の所属について、訪問看護ステーションでは、「病院」が 56.5%、「診療所」が 30.4%であった。病院・診療所では、「病院」が 60.0%、「診療所」が 40.0%であった。

図表 3-2-105 リハビリテーションを指示を出した医師の所属 (医師から指示があった場合のみ)

	回答利用者数	病院	診療所	介護保険施設	無回答
訪問看護ステーション	46 100.0%	26 56.5%	14 30.4%	0 0.0%	6 13.0%
病院・診療所	5 100.0%	3 60.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%

3. 要支援者

⑩ (リハビリテーションを実施した場合) 利用者の病期

リハビリテーションを提供するにあたっての利用者の病期について、訪問看護ステーションでは、「維持期・生活期」が 89.1%、「回復期」が 6.7%、「急性期」が 0.5%であった。病院・診療所では、「維持期・生活期」が 100.0%であった。

図表 3-2-106 利用者の病期

	回答利用者数	急性期	回復期	維持期・生活期	終末期	無回答
訪問看護ステーション	193 100.0%	1 0.5%	13 6.7%	172 89.1%	0 0.0%	7 3.6%
病院・診療所	19 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	19 100.0%	0 0.0%	0 0.0%

⑪ (リハビリテーションを実施した場合) リハビリテーションの目標

リハビリテーションの目標について、訪問看護ステーションでは、「機能の維持・悪化予防」が 61.1%、「機能の改善・向上」が 35.2%であった。病院・診療所では、「機能の維持・悪化予防」が 89.5%、「機能の改善・向上」が 10.5%であった。

図表 3-2-107 リハビリテーションの目標

	回答利用者数	機能の改善・向上	機能の維持・悪化予防	無回答
訪問看護ステーション	193 100.0%	68 35.2%	118 61.1%	7 3.6%
病院・診療所	19 100.0%	2 10.5%	17 89.5%	0 0.0%

⑳ (リハビリテーションを実施した場合) リハビリテーションの効果

利用者への効果について、訪問看護ステーションでは、「ADL の維持改善」が 80.8%、「生活習慣の維持」が 51.8%、「QOL の維持改善」が 48.2%であった。病院・診療所では、「ADL の維持改善」が 73.7%、「生活習慣の維持」が 63.2%、「QOL の維持改善」が 36.8%であった。

図表 3-2-108 リハビリテーションの効果 (複数回答)

	回答利用者数	ADL の維持改善	社会性維持改善	IADL の向上	生活習慣の維持	機能回復	記憶認知機能の改善向上	BPSD の軽減適応	QOL の維持改善
訪問看護ステーション	193 100.0%	156 80.8%	56 29.0%	50 25.9%	100 51.8%	55 28.5%	12 6.2%	4 2.1%	93 48.2%
病院・診療所	19 100.0%	14 73.7%	6 31.6%	2 10.5%	12 63.2%	3 15.8%	2 10.5%	2 10.5%	7 36.8%

	回答利用者数	その他	無回答
訪問看護ステーション	193 100.0%	2 1.0%	6 3.1%
病院・診療所	19 100.0%	0 0.0%	0 0.0%

3. 要支援者

⑳ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 次回の定期的な状態の評価として看護職員が訪問する予定

次回の定期的な状態の評価として看護職員が訪問する予定について、訪問看護ステーションでは、「3か月以内」が54.5%、「1か月以内」が28.5%、「4～6か月以内」が6.5%であった。

図表 3-2-109 【訪問看護ステーション】次回の定期的な状態の評価として看護職員が訪問する予定

	回答利用者数	次回の訪問看護指示書発行時に合わせて	1か月以内	2か月以内	3か月以内	4～6か月以内	無回答
訪問看護ステーション	123 100.0%	3 2.4%	35 28.5%	2 1.6%	67 54.5%	8 6.5%	8 6.5%

㉑ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 看護職員とリハビリ職員の連携のタイミング

看護職員とリハビリ職員の連携のタイミングについて、訪問看護ステーションでは、「訪問看護計画策定時」が54.5%、「リハビリ実施後」が46.3%、「計画見直し時」が39.8%であった。

図表 3-2-110 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員の連携のタイミング (複数回答)

	回答利用者数	訪問看護計画策定時	リハビリ実施後	計画見直し時	その他	なし	無回答
訪問看護ステーション	123 100.0%	67 54.5%	57 46.3%	49 39.8%	26 21.1%	2 1.6%	4 3.3%

㉓ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 看護職員とリハビリ職員が相談・確認した事項

看護職員とリハビリ職員が相談・確認した事項について、訪問看護ステーションでは、「訓練中の留意事項」が72.4%、「リハビリテーション開始前にチェックすべきこと」が57.7%、「運動負荷量」が26.8%であった。

図表 3-2-111 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員が相談・確認した事項（複数回答）

	回答利用者数	リハビリテーション開始前にチェックすべきこと	運動負荷量	訓練中の留意事項	中止基準	その他	無回答
訪問看護ステーション	123 100.0%	71 57.7%	33 26.8%	89 72.4%	14 11.4%	18 14.6%	6 4.9%

㉔ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 看護職員とリハビリ職員が共有している内容

看護職員とリハビリ職員が共有している内容について、訪問看護ステーションでは、「利用者の病状」が92.7%、「訓練中の留意事項に関すること」が56.1%、「訓練内容」が53.7%であった。

図表 3-2-112 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員が共有している内容（複数回答）

	回答利用者数	利用者の病状	訓練中の留意事項に関すること	訓練内容	訓練実施後の効果と副作用に関すること	その他	なし	無回答
訪問看護ステーション	123 100.0%	114 92.7%	69 56.1%	66 53.7%	31 25.2%	7 5.7%	1 0.8%	5 4.1%

3. 要支援者

㊸ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 看護職員とリハビリ職員の連携による効果

看護職員と理学療法士等が連携をして訪問看護を提供することによる効果について、訪問看護ステーションでは、「看護職員とリハビリ職が統一したサービスの提供ができる」が 63.4%、「利用者や家族のニーズにそった目標設定ができる」が 59.3%、「予防的な視点でリハビリテーションを行うことができる」が 55.3%であった。

図表 3-2-113 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員の連携による効果（複数回答）

	回答利用者数	利用者や家族のニーズにそった目標設定ができる	看護職員とリハビリ職が統一したサービスの提供ができる	予防的な視点でリハビリテーションを行うことができる	利用者にあわせたリハビリテーションを行うことができる	医療ニーズが高くてもしっかりしてリハビリテーションができる	ターミナルでも安心してリハビリテーションができる	その他	無回答
訪問看護ステーション	123 100.0%	73 59.3%	78 63.4%	68 55.3%	62 50.4%	34 27.6%	4 3.3%	2 1.6%	4 3.3%

㊤訪問看護を提供することにより得られた効果

訪問看護を提供することにより得られた効果について、病院・診療所では、「不要な入院を回避できた」が29.3%、「家族の介護負担が軽減し、在宅療養が継続できた」が26.8%、「在宅療養生活へのスムーズな移行ができた」が26.8%であった。

図表 3-2-114 【病院・診療所】訪問看護を提供することにより得られた効果(複数回答)

	回答利用者数	排泄行動の自立度が改善した	経口摂取が可能となった	服薬量を減らすことができた	痰の吸引回数が減った、呼吸状態を改善できた	褥瘡の治癒または改善が認められた	運動機能に改善が図れた	訪問看護利用前と比べて自己負担額を軽減できた	不要な入院を回避できた
病院・診療所	82 100.0%	2 2.4%	0 0.0%	15 18.3%	2 2.4%	0 0.0%	7 8.5%	0 0.0%	24 29.3%

	回答利用者数	家族の介護負担が軽減し、在宅療養が継続できた	認知症の行動・心理症状が改善した	在宅療養生活へのスムーズな移行ができた	該当なし	無回答
病院・診療所	82 100.0%	22 26.8%	10 12.2%	22 26.8%	16 19.5%	9 11.0%

4. 死亡者

4. 死亡者

ここでは、訪問看護ステーションで 715 件、病院・診療所で 87 件の死亡者についての集計結果を報告する。

(1) 利用者の基本情報

① 年齢

年齢について、訪問看護ステーションでは、「85～94 歳」が 34.8%、「75～84 歳」が 31.0%、「65～74 歳」が 15.1%であった。病院・診療所では、「85～94 歳」が 48.3%、「95 歳以上」が 19.5%、「75～84 歳」が 17.2%であった。

図表 3-2-115 年齢

	回答利用者数	40～64 歳	65～74 歳	75～84 歳	85～94 歳	95 歳以上	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	47 6.6%	108 15.1%	222 31.0%	249 34.8%	81 11.3%	8 1.1%
病院・診療所	87 100.0%	2 2.3%	10 11.5%	15 17.2%	42 48.3%	17 19.5%	1 1.1%

② 住まい

住まいについて、訪問看護ステーションでは、「本人の家」が 85.6%、「居住系サービス」が 13.3%、「その他」が 0.6%であった。病院・診療所では、「本人の家」が 85.1%、「居住系サービス」が 13.8%であった。

図表 3-2-116 住まい

	回答利用者数	本人の家	居住系サービス	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	612 85.6%	95 13.3%	4 0.6%	4 0.6%
病院・診療所	87 100.0%	74 85.1%	12 13.8%	1 1.1%	0 0.0%

③ 世帯構成

世帯構成について、訪問看護ステーションでは、「夫婦のみ世帯(配偶者が65歳以上)」が26.3%、「配偶者の他に同居者あり(配偶者、同居者のいずれか又は全員が65歳未満)」が21.3%、「独居」が17.9%であった。病院・診療所では、「配偶者はおらず、同居者あり(同居者のいずれか又は全員が65歳未満)」が23.0%、「独居」が21.8%、「配偶者の他に同居者あり(配偶者、同居者のいずれか又は全員が65歳未満)」が20.7%であった。

図表 3-2-117 世帯構成

	回答利用者数	独居	夫婦のみ世帯(配偶者が65歳以上)	夫婦のみ世帯(配偶者が65歳未満)	配偶者の他に同居者あり(配偶者・同居者全員が65歳以上)	配偶者の他に同居者あり(配偶者、同居者のいずれか又は全員が65歳未満)	配偶者はおらず、同居者あり(同居者は全員65歳以上)
訪問看護ステーション	715 100.0%	128 17.9%	188 26.3%	19 2.7%	18 2.5%	152 21.3%	67 9.4%
病院・診療所	87 100.0%	19 21.8%	11 12.6%	1 1.1%	4 4.6%	18 20.7%	13 14.9%

	回答利用者数	配偶者はおらず、同居者あり(同居者のいずれか又は全員が65歳未満)	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	122 17.1%	21 2.9%
病院・診療所	87 100.0%	20 23.0%	1 1.1%

4. 死亡者

④ 日中の状態

日中の状態について、訪問看護ステーションでは、「日中独居ではない」が 74.0%、「日中独居」が 23.1%であった。病院・診療所では、「日中独居ではない」が 71.3%、「日中独居」が 25.3%であった。

図表 3-2-118 日中の状態

	回答利用者数	日中独居	日中独居ではない	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	165 23.1%	529 74.0%	21 2.9%
病院・診療所	87 100.0%	22 25.3%	62 71.3%	3 3.4%

⑤ 介護力

介護力について、訪問看護ステーションでは、「常時、介護できる人がいる」が 59.9%、「時間帯によって介護できる人がいる」が 26.7%、「介護できる人はいない」が 11.0%であった。病院・診療所では、「常時、介護できる人がいる」が 65.5%、「時間帯によって介護できる人がいる」が 28.7%、「介護できる人はいない」が 5.7%であった。

図表 3-2-119 介護力

	回答利用者数	介護できる人はいない	時間帯によって介護できる人がいる	常時、介護できる人がいる	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	79 11.0%	191 26.7%	428 59.9%	17 2.4%
病院・診療所	87 100.0%	5 5.7%	25 28.7%	57 65.5%	0 0.0%

⑥ 訪問看護の利用開始時期

訪問看護の利用開始時期について、訪問看護ステーションでは、「3か月以内」が44.3%、「3か月以上6か月以内」が15.4%、「2年以上前」が14.7%であった。病院・診療所では、「3か月以内」が34.5%、「2年以上前」が20.7%、「6か月以上1年以内」が17.2%であった。

図表 3-2-120 訪問看護の利用開始時期

(10月1日時点)

	回答利用者数	3か月以内	3か月以上6か月以内	6か月以上1年以内	1年以上2年以内	2年以上前	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	317 44.3%	110 15.4%	76 10.6%	88 12.3%	105 14.7%	19 2.7%
病院・診療所	87 100.0%	30 34.5%	13 14.9%	15 17.2%	7 8.0%	18 20.7%	4 4.6%

⑦ 訪問看護利用開始前の入院・入所状況

訪問看護利用開始前の入院・入所の有無について、訪問看護ステーションでは、「病院・有床診療所」が51.7%、「なし」が37.8%、「その他」が6.3%であった。病院・診療所では、「なし」が50.6%、「病院・有床診療所」が42.5%、「介護老人保健施設・介護医療院」が3.4%であった。

図表 3-2-121 訪問看護利用開始前の入院・入所の有無

	回答利用者数	病院・有床診療所	介護老人保健施設・介護医療院	その他	なし	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	370 51.7%	13 1.8%	45 6.3%	270 37.8%	17 2.4%
病院・診療所	87 100.0%	37 42.5%	3 3.4%	3 3.4%	44 50.6%	0 0.0%

4. 死亡者

⑧ 他の介護保険サービス利用実績

他の介護保険サービス利用実績について、訪問看護ステーションでは、「福祉用具貸与」が61.3%、「訪問介護」が35.9%、「訪問入浴介護」が18.9%であった。病院・診療所では、「福祉用具貸与」が58.6%、「訪問介護」が40.2%、「訪問入浴介護」が26.4%であった。

図表 3-2-122 他の介護保険サービス利用実績

(9月1か月の実績)

	回答利用者数	訪問介護	訪問入浴介護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護
訪問看護ステーション	715 100.0%	257 35.9%	135 18.9%	55 7.7%	100 14.0%	13 1.8%	17 2.4%
病院・診療所	87 100.0%	35 40.2%	23 26.4%	13 14.9%	13 14.9%	6 6.9%	4 4.6%

	回答利用者数	短期入所療養介護	福祉用具貸与	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	5 0.7%	438 61.3%	20 2.8%	121 16.9%
病院・診療所	87 100.0%	1 1.1%	51 58.6%	12 13.8%	13 14.9%

⑨ 受診状況

受診の有無について、訪問看護ステーションでは、「訪問診療・往診を受けた」が78.3%、「外来受診した」が14.8%であった。病院・診療所では、「訪問診療・往診を受けた」が67.8%、「外来受診した」が23.0%であった。

図表 3-2-123 受診の有無

	回答利用者数	訪問診療・往診を受けた	外来受診した	いずれもなし	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	560 78.3%	106 14.8%	46 6.4%	15 2.1%
病院・診療所	87 100.0%	59 67.8%	20 23.0%	9 10.3%	0 0.0%

⑩ 利用開始時の要介護度

利用開始時の要介護度について、訪問看護ステーションでは、「要介護 5」が 17.3%、「要介護 4」が 15.4%、「要介護 2」が 15.0%、「要介護 3」が 13.0%であった。病院・診療所では、「要介護 4」と「要介護 5」が 20.7%、「要介護 2」が 16.1%、「要介護 3」が 11.5%であった。

図表 3-2-124 利用開始時の要介護度

	回答利用者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	無回答
訪問看護 ステーション	715 100.0%	31 4.3%	50 7.0%	79 11.0%	107 15.0%	93 13.0%	110 15.4%	124 17.3%	121 16.9%
病院・ 診療所	87 100.0%	0 0.0%	6 6.9%	9 10.3%	14 16.1%	10 11.5%	18 20.7%	18 20.7%	12 13.8%

⑪ 直近の要介護度

直近の要介護度について、訪問看護ステーションでは、「要介護 5」が 26.7%、「要介護 4」が 18.7%、「要介護 3」が 14.7%であった。病院・診療所では、「要介護 5」が 32.2%、「要介護 4」が 23.0%、「要介護 3」が 13.8%であった。

図表 3-2-125 直近の要介護度

	回答利用者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	無回答
訪問看護 ステーション	715 100.0%	12 1.7%	24 3.4%	50 7.0%	89 12.4%	105 14.7%	134 18.7%	191 26.7%	110 15.4%
病院・ 診療所	87 100.0%	0 0.0%	5 5.7%	7 8.0%	9 10.3%	12 13.8%	20 23.0%	28 32.2%	6 6.9%

4. 死亡者

⑫ 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度について、訪問看護ステーションでは、「自立」が20.1%、「IV」が16.6%、「I」が14.3%であった。病院・診療所では、「IV」が20.7%、「自立」が17.2%、「III a」が16.1%であった。

図表 3-2-126 認知症高齢者の日常生活自立度

	回答利用者数	自立	I	II a	II b	III a	III b
訪問看護ステーション	715 100.0%	144 20.1%	102 14.3%	46 6.4%	89 12.4%	64 9.0%	39 5.5%
病院・診療所	87 100.0%	15 17.2%	10 11.5%	4 4.6%	6 6.9%	14 16.1%	7 8.0%

	回答利用者数	IV	M	不明	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	119 16.6%	39 5.5%	43 6.0%	30 4.2%
病院・診療所	87 100.0%	18 20.7%	5 5.7%	5 5.7%	3 3.4%

⑬ 日常生活自立度

日常生活自立度について、訪問看護ステーションでは、「C2」が38.0%、「C1」が14.1%、「B2」が12.6%であった。病院・診療所では、「C2」が36.8%、「C1」が20.7%、「A2」が12.6%であった。

図表 3-2-127 日常生活自立度

	回答利用者数	自立	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1
訪問看護ステーション	715 100.0%	12 1.7%	9 1.3%	16 2.2%	39 5.5%	70 9.8%	53 7.4%
病院・診療所	87 100.0%	1 1.1%	1 1.1%	1 1.1%	4 4.6%	11 12.6%	8 9.2%

	回答利用者数	B 2	C 1	C 2	不明	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	90 12.6%	101 14.1%	272 38.0%	22 3.1%	31 4.3%
病院・診療所	87 100.0%	5 5.7%	18 20.7%	32 36.8%	2 2.3%	4 4.6%

⑭ ADL の状況

訪問看護ステーションでは、着替で「一部介助」が18.7%、「全面介助」が72.3%、排泄で「一部介助」が15.4%、「全面介助」が72.2%であった。病院・診療所では着替で「一部介助」が17.2%、「全面介助」が75.9%、排泄で「一部介助」が14.9%、「全面介助」が75.9%であった。

図表 3-2-128 ADL の状況（訪問看護ステーション）

	回答利用者数	自立	一部介助	全面介助	その他	無回答
移動	715 100.0%	55 7.7%	115 16.1%	513 71.7%	18 2.5%	14 2.0%
食事	715 100.0%	89 12.4%	183 25.6%	351 49.1%	74 10.3%	18 2.5%
排泄	715 100.0%	67 9.4%	110 15.4%	516 72.2%	7 1.0%	15 2.1%
入浴	715 100.0%	20 2.8%	81 11.3%	508 71.0%	87 12.2%	19 2.7%
着替	715 100.0%	43 6.0%	134 18.7%	517 72.3%	5 0.7%	16 2.2%
整容	715 100.0%	53 7.4%	137 19.2%	500 69.9%	8 1.1%	17 2.4%
意思疎通	715 100.0%	273 38.2%	196 27.4%	161 22.5%	63 8.8%	22 3.1%

図表 3-2-129 ADL の状況（病院・診療所）

	回答利用者数	自立	一部介助	全面介助	その他	無回答
移動	87 100.0%	3 3.4%	19 21.8%	62 71.3%	0 0.0%	3 3.4%
食事	87 100.0%	11 12.6%	21 24.1%	43 49.4%	8 9.2%	4 4.6%
排泄	87 100.0%	5 5.7%	13 14.9%	66 75.9%	0 0.0%	3 3.4%
入浴	87 100.0%	2 2.3%	10 11.5%	63 72.4%	8 9.2%	4 4.6%
着替	87 100.0%	3 3.4%	15 17.2%	66 75.9%	0 0.0%	3 3.4%
整容	87 100.0%	3 3.4%	15 17.2%	65 74.7%	1 1.1%	3 3.4%
意思疎通	87 100.0%	26 29.9%	29 33.3%	24 27.6%	4 4.6%	4 4.6%

4. 死亡者

⑮ 在宅療養を続けている原因の病名

在宅療養を続けている原因の病名について、訪問看護ステーションでは、「末期がん」が46.9%、「心臓病」が21.7%、「その他」が18.7%であった。病院・診療所では、「高血圧」が58.5%、「糖尿病」が29.3%、「心臓病」が28.0%であった。

図表 3-2-130 在宅療養を続けている原因の病名(複数回答)

	回答利用者数	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気
訪問看護ステーション	715 100.0%	120 16.8%	80 11.2%	155 21.7%	61 8.5%	22 3.1%	106 14.8%	53 7.4%	74 10.3%
病院・診療所	82 100.0%	48 58.5%	15 18.3%	23 28.0%	24 29.3%	13 15.9%	15 18.3%	3 3.7%	13 15.9%

	回答利用者数	筋骨格の病気	骨折	末期がん	末期がん以外のがん	血液・免疫の病気	精神疾患	神経難病	認知症
訪問看護ステーション	715 100.0%	44 6.2%	29 4.1%	335 46.9%	55 7.7%	19 2.7%	8 1.1%	12 1.7%	130 18.2%
病院・診療所	82 100.0%	14 17.1%	6 7.3%	3 3.7%	10 12.2%	2 2.4%	6 7.3%	0 0.0%	10 12.2%

	回答利用者数	パーキンソン病	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	20 2.8%	134 18.7%	6 0.8%
病院・診療所	87 100.0%	2 2.3%	21 24.1%	3 3.4%

⑩ 在宅療養を続けている原因の病名（主傷病）

在宅療養を続けている原因の病名について、訪問看護ステーションでは、「末期がん」が42.2%、「その他」が7.6%、「心臓病」が7.0%、「呼吸器の病気」が6.4%であった。病院・診療所では、「末期がん」が25.3%、「呼吸器の病気」が10.3%、「その他」が9.2%、「心臓病」が8.0%であった。

図表 3-2-131 在宅療養を続けている原因の病名（主傷病）

	回答利用者数	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気
訪問看護ステーション	715 100.0%	16 2.2%	28 3.9%	50 7.0%	9 1.3%	4 0.6%	46 6.4%	7 1.0%	19 2.7%
病院・診療所	87 100.0%	5 5.7%	6 6.9%	7 8.0%	3 3.4%	0 0.0%	9 10.3%	1 1.1%	1 1.1%

	回答利用者数	筋骨格の病気	骨折	末期がん	末期がん以外のがん	血液・免疫の病気	精神疾患	神経難病	認知症
訪問看護ステーション	715 100.0%	5 0.7%	2 0.3%	302 42.2%	30 4.2%	8 1.1%	1 0.1%	10 1.4%	31 4.3%
病院・診療所	87 100.0%	1 1.1%	0 0.0%	22 25.3%	1 1.1%	2 2.3%	0 0.0%	1 1.1%	4 4.6%

	回答利用者数	パーキンソン病	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	14 2.0%	54 7.6%	79 11.0%
病院・診療所	87 100.0%	0 0.0%	8 9.2%	16 18.4%

4. 死亡者

⑰ 利用者の状態

利用者の状態について、訪問看護ステーションでは、「心理的支援」が 39.3%、「服薬援助」が 36.4%、「浣腸・摘便」が 35.8%であった。病院・診療所では、「点滴の管理」が 34.5%、「浣腸・摘便」が 34.5%、「疼痛の管理」が 31.0%であった。

図表 3-2-132 利用者の状態（複数回答）

	回答利用者数	点滴の管理	中心静脈栄養	透析	ストマの処置	酸素療法	人工呼吸器	気管切開の処置	疼痛の管理
訪問看護ステーション	715 100.0%	215 30.1%	46 6.4%	9 1.3%	37 5.2%	202 28.3%	10 1.4%	3 0.4%	241 33.7%
病院・診療所	87 100.0%	30 34.5%	3 3.4%	4 4.6%	3 3.4%	24 27.6%	0 0.0%	0 0.0%	27 31.0%

	回答利用者数	経鼻経管栄養・管理	胃ろう・腸ろうからの栄養・管理	持続モニター測定	褥瘡の処置	カテーテル	常時頻回の喀痰吸引	創傷処置	浣腸・摘便
訪問看護ステーション	715 100.0%	11 1.5%	26 3.6%	1 0.1%	189 26.4%	99 13.8%	73 10.2%	77 10.8%	256 35.8%
病院・診療所	87 100.0%	0 0.0%	2 2.3%	4 4.6%	18 20.7%	9 10.3%	7 8.0%	9 10.3%	30 34.5%

	回答利用者数	インスリン注射	導尿	精神症状の観察	心理的支援	服薬援助	いずれもなし	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	11 1.5%	6 0.8%	105 14.7%	281 39.3%	260 36.4%	28 3.9%	18 2.5%
病院・診療所	87 100.0%	4 4.6%	3 3.4%	17 19.5%	27 31.0%	23 26.4%	3 3.4%	3 3.4%

⑱ 利用している薬剤

利用者の使用している薬剤について、訪問看護ステーションでは、「その他」が36.9%、「オピオイド」が33.1%、「睡眠薬・抗不安薬」が21.5%であった。病院・診療所では、「その他」が39.1%、「睡眠薬・抗不安薬」が29.9%、「利尿剤」が26.4%であった。

図表 3-2-133 利用している薬剤（複数回答）

	回答利用者数	オピオイド	免疫抑制剤	ステロイド	抗がん剤	抗精神病薬	睡眠薬・抗不安薬	利尿剤	降圧薬
訪問看護ステーション	715 100.0%	237 33.1%	7 1.0%	142 19.9%	24 3.4%	30 4.2%	154 21.5%	147 20.6%	141 19.7%
病院・診療所	87 100.0%	21 24.1%	4 4.6%	21 24.1%	2 2.3%	10 11.5%	26 29.9%	23 26.4%	22 25.3%

	回答利用者数	狭心症治療薬	心不全治療薬	抗血栓薬	抗不整脈薬	輸血	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	42 5.9%	63 8.8%	66 9.2%	26 3.6%	5 0.7%	264 36.9%	93 13.0%
病院・診療所	87 100.0%	5 5.7%	5 5.7%	19 21.8%	5 5.7%	3 3.4%	34 39.1%	9 10.3%

⑲ 利用者の症状

利用者の症状について、訪問看護ステーションでは、「食思不振」が47.0%、「疼痛」が45.0%、「浮腫」が38.3%であった。病院・診療所では、「食思不振」が52.9%、「疼痛」が43.7%、「浮腫」が34.5%であった。

図表 3-2-134 利用者の症状（複数回答）

	回答利用者数	疼痛	易疲労	混乱	摂食・嚥下障害	食思不振	うつ	不安	脱水
訪問看護ステーション	715 100.0%	322 45.0%	210 29.4%	96 13.4%	242 33.8%	336 47.0%	33 4.6%	155 21.7%	213 29.8%
病院・診療所	87 100.0%	38 43.7%	29 33.3%	11 12.6%	29 33.3%	46 52.9%	6 6.9%	17 19.5%	24 27.6%

	回答利用者数	呼吸苦	不眠	便秘	浮腫	その他	いずれもなし	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	226 31.6%	64 9.0%	250 35.0%	274 38.3%	57 8.0%	12 1.7%	20 2.8%
病院・診療所	87 100.0%	17 19.5%	11 12.6%	23 26.4%	30 34.5%	13 14.9%	4 4.6%	2 2.3%

4. 死亡者

⑩ 訪問看護指示書の内容

訪問看護指示書の内容について、訪問看護ステーションでは、「療養生活指導」が68.3%、「装着・使用医療機器等の操作援助・管理」が30.2%、「点滴・注射」が28.3%であった。病院・診療所では、「療養生活指導」が70.1%、「点滴・注射」が24.1%、「装着・使用医療機器等の操作援助・管理」が17.2%であった。

図表 3-2-135 訪問看護指示書の内容（複数回答）

	回答利用者数	療養生活指導	リハビリテーション	褥瘡の処置等	装着・使用医療機器等の操作援助・管理	点滴・注射	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	488 68.3%	180 25.2%	174 24.3%	216 30.2%	202 28.3%	173 24.2%	34 4.8%
病院・診療所	87 100.0%	61 70.1%	9 10.3%	14 16.1%	15 17.2%	21 24.1%	10 11.5%	14 16.1%

⑪ ターミナル期であるかの主治医による訪問看護指示書への記載状況

ターミナル期であるかの主治医による訪問看護指示書への記載の有無について、訪問看護ステーションでは、「有」が54.5%、「無」が43.4%であった。病院・診療所では、「無」が46.0%、「有」が43.7%であった。

図表 3-2-136 ターミナル期であるかの主治医による訪問看護指示書への記載の有無

	回答利用者数	有	無	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	390 54.5%	310 43.4%	15 2.1%
病院・診療所	87 100.0%	38 43.7%	40 46.0%	9 10.3%

⑫ 余命の見込みに関する説明状況

余命の見込みに関する説明の有無について、訪問看護ステーションでは、「有」が61.8%、「無」が35.5%であった。病院・診療所では、「有」が52.9%、「無」が44.8%であった。

図表 3-2-137 余命の見込みに関する説明の有無

	回答利用者数	有	無	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	442 61.8%	254 35.5%	19 2.7%
病院・診療所	87 100.0%	46 52.9%	39 44.8%	2 2.3%

4. 死亡者

(2) 訪問看護の提供状況

① 利用している保険

訪問看護で利用している保険について、訪問看護ステーションでは、「医療保険」が59.9%、「介護保険」が44.3%であった。病院・診療所では、「介護保険」が64.4%、「医療保険」が36.8%であった。

図表 3-2-138 利用している保険(複数回答)

	回答利用者数	介護保険	医療保険	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	317 44.3%	428 59.9%	13 1.8%
病院・診療所	87 100.0%	56 64.4%	32 36.8%	2 2.3%

② 特別訪問看護指示書の交付状況

9月における特別訪問看護指示書の交付の有無について、利用している保険が「介護保険」に限定してみたところ、訪問看護ステーションでは「有」が15.5%であった。病院・診療所では、「有」が8.9%であった。

図表 3-2-139 特別訪問看護指示書の交付の有無

	回答利用者数	有	無	無回答
訪問看護ステーション	317 100.0%	49 15.5%	265 83.6%	3 0.9%
病院・診療所	56 100.0%	5 8.9%	50 89.3%	1 1.8%

③ 介護保険での看護職員の訪問回数

介護保険での看護職員の訪問回数について、訪問看護ステーションでは、「30分以上1時間未満」が平均1.2回であった。病院・診療所では、「30分以上1時間未満」が平均1.9回であった。

図表 3-2-140 介護保険での看護職員の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

訪問看護ステーション	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
20分未満	651	0.0	0.5	0.0
30分未満	651	0.7	2.4	0.0
30分以上1時間未満	651	1.2	2.6	0.0
1時間以上1時間30分未満	651	0.2	0.8	0.0

病院・診療所	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
20分未満	70	0.0	0.2	0.0
30分未満	70	1.3	2.7	0.0
30分以上1時間未満	70	1.9	4.0	0.0
1時間以上1時間30分未満	70	0.3	1.3	0.0

4. 死亡者

④ 介護保険でのリハビリ職員の訪問回数（訪問看護ステーションのみ）

介護保険でのリハビリ職員の訪問回数について、訪問看護ステーションでは、理学療法士が平均 0.1 回であった。作業療法士、言語聴覚士は平均 0.0 回であった。

介護保険でのリハビリ職員の算定回数について、訪問看護ステーションでは、理学療法士が平均 0.2 回、作業療法士が平均 0.1 回であった。言語聴覚士は平均 0.0 回であった。

図表 3-2-141 介護保険でのリハビリ職員の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回／月

	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
理学療法士	651	0.1	0.8	0.0
作業療法士	651	0.0	0.3	0.0
言語聴覚士	651	0.0	0.1	0.0

図表 3-2-142 介護保険でのリハビリ職員の算定回数

(9月1か月間の実績) 単位：回／月

	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
理学療法士	651	0.2	1.4	0.0
作業療法士	651	0.1	0.7	0.0
言語聴覚士	651	0.0	0.2	0.0

⑤ 他の訪問看護事業所の看護職員の訪問状況

他の訪問看護事業所の看護職員の訪問の有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が 83.6%、「有」が 1.7%であった。病院・診療所では、「無」が 90.8%、「有」が 3.4%であった。

他の訪問看護事業所の看護職員の訪問回数について、訪問看護ステーションでは平均は4.2回、中央値は2.5回であった。他の訪問看護事業所の看護職員の訪問回数について、病院・診療所では平均は4.0回、中央値は4.0回であった。

図表 3-2-143 他の訪問看護事業所の看護職員の訪問の有無

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	有	無	不明	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	12 1.7%	594 83.1%	6 0.8%	103 14.4%
病院・診療所	87 100.0%	3 3.4%	79 90.8%	1 1.1%	4 4.6%

図表 3-2-144 他の訪問看護事業所の看護職員の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	10	4.2	3.5	2.5
病院・診療所	2	4.0	4.2	4.0

4. 死亡者

⑥ 他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問状況

他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問の有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が 83.1%、「有」が 1.3%であった。病院・診療所では、「無」が 86.2%、「有」が 8.0%であった。

他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問回数について、訪問看護ステーションでは平均は 3.5 回、中央値は 2.5 回であった。病院・診療所では平均は 6.0 回、中央値は 8.0 回であった。

図表 3-2-145 他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問の有無

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	有	無	不明	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	9 1.3%	594 83.1%	10 1.4%	102 14.3%
病院・診療所	87 100.0%	7 8.0%	75 86.2%	1 1.1%	4 4.6%

図表 3-2-146 他の訪問看護事業所のリハビリ職員の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	8	3.5	3.3	2.5
病院・診療所	5	6.0	3.4	8.0

⑦ 看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問したことの有無（訪問看護ステーションのみ）

看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問したことの有無について、訪問看護ステーションでは、「無」が83.6%、「有」が1.8%であった。

看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問した回数について、訪問看護ステーションでは平均は1.6回、中央値は1.0回であった。

図表 3-2-147 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問したことの有無

(9月1か月間の実績)

	回答利用者数	有	無	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	13 1.8%	598 83.6%	104 14.5%

図表 3-2-148 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員が一緒に訪問した回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	12	1.6	1.0	1.0

⑧ 医療保険での訪問看護の訪問回数

医療保険での訪問看護の訪問回数について、訪問看護ステーションでは平均は6.0回、中央値は2.0回であった。病院・診療所では平均は4.0回、中央値は0.0回であった。

医療保険での訪問看護の算定回数について、訪問看護ステーションでは平均は5.8回、中央値は2.0回であった。病院・診療所では平均は3.2回、中央値は0.0回であった。

図表 3-2-149 医療保険での訪問看護の訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	651	6.0	10.0	2.0
病院・診療所	70	4.0	9.8	0.0

図表 3-2-150 医療保険での訪問看護の算定回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	651	5.8	9.3	2.0
病院・診療所	70	3.2	6.3	0.0

4. 死亡者

⑨ 訪問看護の加算等の状況

訪問看護の加算等の状況について、訪問看護ステーションでは、「緊急時訪問看護加算」が69.2%、「特別管理加算」が51.0%、「初回加算」が18.0%であった。病院・診療所では、「緊急時訪問看護加算」が35.6%、「特別管理加算」が19.5%、「初回加算」が13.8%であった。

図表 3-2-151 訪問看護の加算等の状況(複数回答)

	回答利用者数	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業と連携した訪問看護	緊急時訪問看護加算	特別管理加算	初回加算	退院時共同指導加算	複数名訪問加算	夜間・早朝訪問看護加算	深夜訪問看護加算
訪問看護ステーション	715 100.0%	16 2.2%	495 69.2%	365 51.0%	129 18.0%	98 13.7%	48 6.7%	110 15.4%	89 12.4%
病院・診療所	87 100.0%	6 6.9%	31 35.6%	17 19.5%	12 13.8%	1 1.1%	0 0.0%	5 5.7%	2 2.3%

	回答利用者数	長時間訪問看護加算	看護体制強化加算	看護・介護職員連携強化加算	特別地域訪問看護加算	中山間地域等における小規模事業所加算	中山間地域等に居住する者へのサービス提供加算	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	36 5.0%	87 12.2%	1 0.1%	8 1.1%	0 0.0%	3 0.4%	103 14.4%
病院・診療所	87 100.0%	0 0.0%	6 6.9%	1 1.1%	3 3.4%	6 6.9%	1 1.1%	36 41.4%

⑩ 看護体制強化加算

看護体制強化加算について、訪問看護ステーションでは、「Ⅰ」が48.3%、「Ⅱ」が39.1%であった。病院・診療所では、「Ⅰ」が66.7%、「Ⅱ」が16.7%であった。

図表 3-2-152 看護体制強化加算

	回答利用者数	Ⅰ	Ⅱ	予防	無回答
訪問看護 ステーション	87 100.0%	42 48.3%	34 39.1%	2 2.3%	9 10.3%
病院・ 診療所	6 100.0%	4 66.7%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%

4. 死亡者

⑪ 訪問看護を利用する目的

訪問看護を利用する目的について、訪問看護ステーションでは、「定期的な療養生活状況の確認」と「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が 83.6%、「医療的なケア」が 73.1%であった。病院・診療所では、「定期的な療養生活状況の確認」が 87.4%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が 71.3%、「医療的なケア」が 69.0%であった。

図表 3-2-153 訪問看護を利用する目的(複数回答)

	回答利用者数	医療的なケア	定期的な療養生活状況の確認	今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要	療養環境の調整	運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能の向上	膝痛・腰痛対策
訪問看護ステーション	715 100.0%	523 73.1%	598 83.6%	598 83.6%	389 54.4%	60 8.4%	115 16.1%	85 11.9%	37 5.2%
病院・診療所	87 100.0%	60 69.0%	76 87.4%	62 71.3%	48 55.2%	3 3.4%	15 17.2%	11 12.6%	5 5.7%

	回答利用者数	閉じこもり予防・支援	認知機能の低下予防・支援	うつ予防・支援	ADL/IADLの改善	ADLの維持・低下防止	服薬管理の向上	感染予防	本人が望む生活の実現
訪問看護ステーション	715 100.0%	8 1.1%	68 9.5%	27 3.8%	24 3.4%	135 18.9%	201 28.1%	101 14.1%	158 22.1%
病院・診療所	87 100.0%	2 2.3%	8 9.2%	4 4.6%	1 1.1%	15 17.2%	24 27.6%	14 16.1%	25 28.7%

	回答利用者数	家族の介護負担の軽減	他サービスの調整	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	424 59.3%	145 20.3%	77 10.8%	10 1.4%
病院・診療所	87 100.0%	44 50.6%	20 23.0%	3 3.4%	2 2.3%

⑫ 訪問看護を利用する目的の中で達成できたもの

訪問看護を利用する目的の中で達成されたものについて、訪問看護ステーションでは、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が44.6%、「定期的な療養生活状況の確認」が41.7%、「医療的なケア」が37.9%、「家族の介護負担の軽減」が19.6%であった。病院・診療所では、「定期的な療養生活状況の確認」が40.2%、「医療的なケア」が33.3%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が31.0%、「家族の介護負担の軽減」が25.3%であった。

図表 3-2-154 訪問看護を利用する目的の中で達成できたもの(複数回答)

	回答利用者数	医療的なケア	定期的な療養生活状況の確認	今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要	療養環境の調整	運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能の向上	膝痛・腰痛対策
訪問看護ステーション	715 100.0%	271 37.9%	298 41.7%	319 44.6%	119 16.6%	11 1.5%	11 1.5%	15 2.1%	4 0.6%
病院・診療所	87 100.0%	29 33.3%	35 40.2%	27 31.0%	14 16.1%	0 0.0%	3 3.4%	4 4.6%	2 2.3%

	回答利用者数	閉じこもり予防・支援	認知機能の低下予防・支援	うつ予防・支援	ADL/IA DLの改善	ADLの維持・低下防止	服薬管理の向上	感染予防	本人が望む生活の実現
訪問看護ステーション	715 100.0%	2 0.3%	3 0.4%	8 1.1%	1 0.1%	26 3.6%	63 8.8%	26 3.6%	68 9.5%
病院・診療所	87 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.4%	7 8.0%	4 4.6%	11 12.6%

	回答利用者数	家族の介護負担の軽減	他サービスの調整	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	140 19.6%	38 5.3%	52 7.3%	36 5.0%
病院・診療所	87 100.0%	22 25.3%	7 8.0%	3 3.4%	7 8.0%

4. 死亡者

⑬ 訪問看護を利用する主な目的

訪問看護を利用する目的について、訪問看護ステーションでは、「医療的なケア」が31.0%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が29.5%、「定期的な療養生活状況の確認」が19.7%、「その他」が6.0%であった。病院・診療所では、「定期的な療養生活状況の確認」が27.6%、「医療的なケア」が26.4%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が19.5%、「本人が望む生活の実現」が6.9%であった。

図表 3-2-155 訪問看護を利用する主な目的

	回答利用者数	医療的なケア	定期的な療養生活状況の確認	今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要	療養環境の調整	運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能の向上	膝痛・腰痛対策
訪問看護ステーション	715 100.0%	222 31.0%	141 19.7%	211 29.5%	5 0.7%	8 1.1%	0 0.0%	1 0.1%	0 0.0%
病院・診療所	87 100.0%	23 26.4%	24 27.6%	17 19.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

	回答利用者数	閉じこもり予防・支援	認知機能の低下予防・支援	うつ予防・支援	ADL/IALDLの改善	ADLの維持・低下防止	服薬管理の向上	感染予防	本人が望む生活の実現
訪問看護ステーション	715 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 1.4%	6 0.8%	2 0.3%	19 2.7%
病院・診療所	87 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	2 2.3%	0 0.0%	6 6.9%

	回答利用者数	家族の介護負担の軽減	他サービスの調整	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	12 1.7%	0 0.0%	43 6.0%	35 4.9%
病院・診療所	87 100.0%	4 4.6%	1 1.1%	3 3.4%	6 6.9%

⑭ 訪問看護を利用する目的で最も達成できているもの

訪問看護を利用する目的で最も達成できているものについて、訪問看護ステーションでは、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が28.3%、「医療的なケア」が22.1%、「定期的な療養生活状況の確認」が19.4%、「その他」が6.2%であった。病院・診療所では、「定期的な療養生活状況の確認」が23.0%、「医療的なケア」が19.5%、「今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要」が16.1%、「本人が望む生活の実現」が10.3%であった。

図表 3-2-156 訪問看護を利用する目的で最も達成できているもの

	回答利用者数	医療的なケア	定期的な療養生活状況の確認	今後状態が悪化する可能性があり継続的な病状アセスメントが必要	療養環境の調整	運動器の機能向上	栄養改善	口腔機能の向上	膝痛・腰痛対策
訪問看護ステーション	715 100.0%	158 22.1%	139 19.4%	202 28.3%	16 2.2%	5 0.7%	1 0.1%	0 0.0%	0 0.0%
病院・診療所	87 100.0%	17 19.5%	20 23.0%	14 16.1%	4 4.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.3%

	回答利用者数	閉じこもり予防・支援	認知機能の低下予防・支援	うつ予防・支援	ADL/IALの改善	ADLの維持・低下防止	服薬管理の向上	感染予防	本人が望む生活の実現
訪問看護ステーション	715 100.0%	2 0.3%	0 0.0%	1 0.1%	0 0.0%	8 1.1%	11 1.5%	5 0.7%	38 5.3%
病院・診療所	87 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.3%	0 0.0%	9 10.3%

	回答利用者数	家族の介護負担の軽減	他サービスの調整	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	43 6.0%	2 0.3%	44 6.2%	40 5.6%
病院・診療所	87 100.0%	8 9.2%	0 0.0%	3 3.4%	8 9.2%

4. 死亡者

⑮ サービス担当者会議への参加回数

サービス担当者会議への参加回数について、訪問看護ステーションでは平均は1.2回、中央値は1.0回であった。病院・診療所では平均は1.2回、中央値は1.0回であった。

図表 3-2-157 サービス担当者会議への参加回数

(4月～9月の実績) 単位：回

	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
訪問看護ステーション	628	1.2	2.0	1.0
病院・診療所	79	1.2	0.9	1.0

⑩ 利用者に対して実施したケア

事業所において提供したケアについて、訪問看護ステーションでは、「清拭浴・陰部洗浄」が64.9%、「在宅看取りへ向けた本人・家族との調整」が59.2%、「服薬指導・管理」が55.2%であった。病院・診療所では、「清拭浴・陰部洗浄」が57.5%、「服薬指導・管理」が54.0%、「在宅看取りへ向けた本人・家族との調整」が52.9%であった。

図表 3-2-158 利用者に対して実施したケア(複数回答)

	回答利用者数	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	輸血	カテーテルの管理	ストーマの管理	喀痰吸引	ネブライザー
訪問看護ステーション	715 100.0%	27 3.8%	11 1.5%	54 7.6%	3 0.4%	112 15.7%	44 6.2%	180 25.2%	22 3.1%
病院・診療所	87 100.0%	2 2.3%	0 0.0%	1 1.1%	2 2.3%	10 11.5%	3 3.4%	21 24.1%	7 8.0%

	回答利用者数	酸素療法	気管切開のケア	人工呼吸器の管理	静脈内注射	皮内、皮下及び筋肉内注射	簡易血糖測定	インスリン注射	疼痛管理(麻薬なし)
訪問看護ステーション	715 100.0%	224 31.3%	9 1.3%	16 2.2%	158 22.1%	60 8.4%	24 3.4%	16 2.2%	109 15.2%
病院・診療所	87 100.0%	22 25.3%	0 0.0%	0 0.0%	23 26.4%	9 10.3%	2 2.3%	1 1.1%	20 23.0%

	回答利用者数	疼痛管理(麻薬使用)	服薬指導・管理	医師と連携した服薬調整	創傷処置	褥瘡処置	褥瘡予防のための介護用品の導入	浣腸	排便
訪問看護ステーション	715 100.0%	205 28.7%	395 55.2%	353 49.4%	135 18.9%	204 28.5%	229 32.0%	167 23.4%	291 40.7%
病院・診療所	87 100.0%	18 20.7%	47 54.0%	43 49.4%	13 14.9%	23 26.4%	28 32.2%	17 19.5%	36 41.4%

4. 死亡者

	回答利用者数	排泄の援助	導尿	口腔ケア	身体機能維持を目的とした付き添いや見守り	経口栄養へ向けたリハビリテーション	呼吸理学療法	四肢の自動運動及び関節可動域維持のリハビリテーション	その他のリハビリテーション
訪問看護ステーション	715 100.0%	268 37.5%	18 2.5%	266 37.2%	89 12.4%	33 4.6%	73 10.2%	166 23.2%	70 9.8%
病院・診療所	87 100.0%	27 31.0%	2 2.3%	32 36.8%	12 13.8%	2 2.3%	1 1.1%	16 18.4%	2 2.3%

	回答利用者数	清拭浴・陰部洗浄	入浴介助	本人の精神的な状態の変化への対応	家族等への認知症の症状に合わせた関わり方の指導	家族等への介護に関する技術的な指導	在宅看取りへ向けた本人・家族との調整	ターミナルケア	睡眠のためのケア
訪問看護ステーション	715 100.0%	464 64.9%	95 13.3%	345 48.3%	113 15.8%	362 50.6%	423 59.2%	394 55.1%	57 8.0%
病院・診療所	87 100.0%	50 57.5%	8 9.2%	39 44.8%	18 20.7%	43 49.4%	46 52.9%	34 39.1%	9 10.3%

	回答利用者数	意欲向上や気分転換を促すケア	外出の支援	本人への療養指導	家屋の改善・療養環境整備の支援	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	115 16.1%	29 4.1%	132 18.5%	110 15.4%	30 4.2%	16 2.2%
病院・診療所	87 100.0%	12 13.8%	2 2.3%	17 19.5%	22 25.3%	1 1.1%	3 3.4%

⑰ (リハビリテーションを実施した場合) 実施した内容

実施したリハビリテーションについて、訪問看護ステーションでは、看護職員で「機能回復訓練」が79.8%、「基本的動作訓練」が54.8%、理学療法士で「機能回復訓練」が92.2%、「基本的動作訓練」が75.3%であった。

病院・診療所では、「機能回復訓練」が91.7%、「基本的動作訓練」が41.7%、「自己訓練練習」が25.0%であった。

図表 3-2-159 【訪問看護ステーション】実施した内容(複数回答)

	回答利用者数	機能回復訓練	基本的動作訓練	応用的動作訓練	社会適応練習	コミュニケーション訓練	自己訓練練習
看護職員	124 100.0%	99 79.8%	68 54.8%	10 8.1%	1 0.8%	9 7.3%	12 9.7%
理学療法士	77 100.0%	71 92.2%	58 75.3%	21 27.3%	8 10.4%	7 9.1%	14 18.2%
作業療法士	31 100.0%	31 100.0%	21 67.7%	11 35.5%	4 12.9%	7 22.6%	5 16.1%
言語聴覚士	7 100.0%	5 71.4%	2 28.6%	2 28.6%	1 14.3%	6 85.7%	2 28.6%

図表 3-2-160 【病院・診療所】実施した内容(複数回答)

	回答利用者数	機能回復訓練	基本的動作訓練	応用的動作訓練	社会適応練習	コミュニケーション訓練	自己訓練練習
病院・診療所	12 100.0%	11 91.7%	5 41.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%	3 25.0%

4. 死亡者

⑩ (リハビリテーションを実施した場合) 実施した経緯

リハビリテーションを実施した経緯について、訪問看護ステーションでは、「医師からリハビリテーションの指示があったため」が 26.1%、「利用者の病状等のアセスメントを踏まえて必要と判断したため」が 25.2%、「利用者や家族からリハビリの希望があったため」が 17.3%であった。病院・診療所では、「医師からリハビリテーションの指示があったため」が 33.3%、「利用者の病状等のアセスメントを踏まえて必要と判断したため」が 27.8%、「利用者や家族からリハビリの希望があったため」が 5.6%であった。

図表 3-2-161 実施した経緯

	回答利用者数	医師からリハビリテーションの指示があったため	ケアマネジャーからの依頼があったため	利用者や家族からリハビリの希望があったため	利用者の病状等のアセスメントを踏まえて必要と判断したため	その他	無回答
訪問看護ステーション	226 100.0%	59 26.1%	24 10.6%	39 17.3%	57 25.2%	4 1.8%	43 19.0%
病院・診療所	18 100.0%	6 33.3%	0 0.0%	1 5.6%	5 27.8%	0 0.0%	6 33.3%

リハビリテーションを指示した医師の所属について、訪問看護ステーションでは、「診療所」が 37.3%、「病院」が 35.6%であった。病院・診療所では、「診療所」が 50.0%、「病院」が 33.3%であった。

図表 3-2-162 指示を出した医師の所属 (医師から指示があった場合のみ)

	回答利用者数	病院	診療所	介護保険施設	無回答
訪問看護ステーション	59 100.0%	21 35.6%	22 37.3%	1 1.7%	15 25.4%
病院・診療所	6 100.0%	2 33.3%	3 50.0%	0 0.0%	1 16.7%

⑱ (リハビリテーションを実施した場合) 利用者の病期

リハビリテーションを提供するにあたって利用者の病期について、訪問看護ステーションでは、「維持期・生活期」が42.5%、「終末期」が38.9%、「回復期」が1.8%であった。病院・診療所では、「維持期・生活期」が38.9%、「終末期」が27.8%、「回復期」が5.6%であった。

図表 3-2-163 利用者の病期

	回答利用者数	急性期	回復期	維持期・生活期	終末期	無回答
訪問看護ステーション	226 100.0%	0 0.0%	4 1.8%	96 42.5%	88 38.9%	38 16.8%
病院・診療所	18 100.0%	0 0.0%	1 5.6%	7 38.9%	5 27.8%	5 27.8%

⑳ (リハビリテーションを実施した場合) リハビリテーションの目標

リハビリテーションの目標について、訪問看護ステーションでは、「機能の維持・悪化予防」が79.6%、「機能の改善・向上」が3.5%であった。病院・診療所では、「機能の維持・悪化予防」が89.5%であった。

図表 3-2-164 リハビリテーションの目標

	回答利用者数	機能の改善・向上	機能の維持・悪化予防	無回答
訪問看護ステーション	226 100.0%	8 3.5%	180 79.6%	38 16.8%
病院・診療所	19 100.0%	2 10.5%	17 89.5%	0 0.0%

4. 死亡者

⑳ (リハビリテーションを実施した場合) リハビリテーションの効果

利用者への効果について、訪問看護ステーションでは、「ADL の維持改善」が 49.1%、「QOL の維持改善」が 32.3%、「生活習慣の維持」が 26.5%であった。病院・診療所では、「ADL の維持改善」が 44.4%、「QOL の維持改善」が 38.9%、「生活習慣の維持」が 22.2%であった。

図表 3-2-165 リハビリテーションの効果 (複数回答)

	回答利用者数	ADL の維持改善	社会性維持改善	IADL の向上	生活習慣の維持	機能回復	記憶認知機能の改善向上	BPSD の軽減適応	QOL の維持改善
訪問看護ステーション	226 100.0%	111 49.1%	14 6.2%	15 6.6%	60 26.5%	25 11.1%	11 4.9%	7 3.1%	73 32.3%
病院・診療所	18 100.0%	8 44.4%	1 5.6%	0 0.0%	4 22.2%	3 16.7%	2 11.1%	1 5.6%	7 38.9%

	回答利用者数	その他	無回答
訪問看護ステーション	226 100.0%	21 9.3%	40 17.7%
病院・診療所	18 100.0%	1 5.6%	6 33.3%

㉑ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 次回の定期的な状態の評価として看護職員が訪問する予定

次回の定期的な状態の評価として看護職員が訪問する予定について、訪問看護ステーションでは、「1 か月以内」が 59.6%、「3 か月以内」が 9.6%、「次回の訪問看護指示書発行時に合わせて」が 5.3%であった。

図表 3-2-166 【訪問看護ステーション】次回の定期的な状態の評価として看護職員が訪問する予定

	回答利用者数	次回の訪問看護指示書発行時に合わせて	1 か月以内	2 か月以内	3 か月以内	4~6 か月以内	無回答
訪問看護ステーション	94 100.0%	5 5.3%	56 59.6%	1 1.1%	9 9.6%	3 3.2%	20 21.3%

②③ （理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合）看護職員とリハビリ職員の連携のタイミング

看護職員とリハビリ職員の連携のタイミングについて、訪問看護ステーションでは、「リハビリ実施後」が52.1%、「訪問看護計画策定時」が43.6%、「計画見直し時」が41.5%であった。

図表 3-2-167 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員の連携のタイミング（複数回答）

	回答利用者数	訪問看護計画策定時	リハビリ実施後	計画見直し時	その他	なし	無回答
訪問看護ステーション	94 100.0%	41 43.6%	49 52.1%	39 41.5%	27 28.7%	1 1.1%	5 5.3%

②④ （理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合）看護職員とリハビリ職員が相談・確認した事項

看護職員とリハビリ職員が相談・確認した事項について、訪問看護ステーションでは、「リハビリテーション開始前にチェックすべきこと」が74.5%、「訓練中の留意事項」が59.6%、「運動負荷量」が31.9%であった。

図表 3-2-168 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員が相談・確認した事項（複数回答）

	回答利用者数	リハビリテーション開始前にチェックすべきこと	運動負荷量	訓練中の留意事項	中止基準	その他	無回答
訪問看護ステーション	94 100.0%	70 74.5%	30 31.9%	56 59.6%	29 30.9%	10 10.6%	5 5.3%

4. 死亡者

㉔ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 看護職員とリハビリ職員が共有している内容

看護職員とリハビリ職員が共有している内容について、訪問看護ステーションでは、「利用者の病状」が 93.6%、「訓練中の留意事項に関すること」が 67.0%、「訓練内容」が 62.8%であった。

図表 3-2-169 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員が共有している内容（複数回答）

	回答利用者数	利用者の病状	訓練中の留意事項に関すること	訓練内容	訓練実施後の効果と副作用に関すること	その他	なし	無回答
訪問看護ステーション	94 100.0%	88 93.6%	63 67.0%	59 62.8%	38 40.4%	4 4.3%	0 0.0%	6 6.4%

㉕ (理学療法士等がリハビリテーションを提供している場合) 看護職員とリハビリ職員の連携による効果

看護職員と理学療法士等が連携をして訪問看護を提供することによる効果について、訪問看護ステーションでは、「利用者や家族のニーズにそった目標設定ができる」が 76.6%、「看護職員とリハビリ職が統一したサービスの提供ができる」が 75.5%、「利用者にあわせたリハビリテーションを行うことができる」が 56.4%であった。

図表 3-2-170 【訪問看護ステーション】看護職員とリハビリ職員の連携による効果（複数回答）

	回答利用者数	利用者や家族のニーズにそった目標設定ができる	看護職員とリハビリ職が統一したサービスの提供ができる	予防的な視点でリハビリテーションを行うことができる	利用者にあわせたリハビリテーションを行うことができる	医療ニーズが高くてもしっかりしてリハビリテーションができる	ターミナルでも安心してリハビリテーションができる	その他	無回答
訪問看護ステーション	94 100.0%	72 76.6%	71 75.5%	34 36.2%	53 56.4%	48 51.1%	47 50.0%	1 1.1%	4 4.3%

⑰ 訪問看護を提供することにより得られた効果

訪問看護を提供することにより得られた効果について、病院・診療所では、「家族の介護負担が軽減し、在宅療養が継続できた」が 49.4%、「不要な入院を回避できた」が 48.3%、「在宅療養生活へのスムーズな移行ができた」が 31.0%であった。

図表 3-2-171 【病院・診療所】訪問看護を提供することにより得られた効果(複数回答)

	回答利用者数	排泄行動の自立度が改善した	経口摂取が可能となった	服薬量を減らすことができた	痰の吸引回数が減った、呼吸状態を改善できた	褥瘡の治癒または改善が認められた	運動機能に改善が図れた	訪問看護利用前と比べて自己負担額を軽減できた	不要な入院を回避できた
病院・診療所	87 100.0%	2 2.3%	6 6.9%	23 26.4%	4 4.6%	14 16.1%	7 8.0%	5 5.7%	42 48.3%

	回答利用者数	家族の介護負担が軽減し、在宅療養が継続できた	認知症の行動・心理症状が改善した	在宅療養生活へのスムーズな移行ができた	該当なし	無回答
病院・診療所	87 100.0%	43 49.4%	3 3.4%	27 31.0%	8 9.2%	6 6.9%

4. 死亡者

(3) 死亡に関する事項

① 直近退院・退所施設

直近の退院・退所施設について、訪問看護ステーションでは、「病院・有床診療所」が87.5%、「その他」が5.9%、「介護老人保健施設」が1.2%であった。病院・診療所では、「病院・有床診療所」が84.0%、「その他」が8.0%、「特別養護老人ホーム」が2.0%であった。

図表 3-2-172 退院・退所施設

	回答利用者数	病院・有床診療所	介護老人保健施設	特別養護老人ホーム	その他	無回答
訪問看護ステーション	409 100.0%	358 87.5%	5 1.2%	1 0.2%	24 5.9%	21 5.1%
病院・診療所	50 100.0%	42 84.0%	0 0.0%	1 2.0%	4 8.0%	3 6.0%

② 直近の退院・退所時期

直近の退院・退所時期について、訪問看護ステーションでは、「2019/7以降」が69.9%、「2019/1～6」が17.6%であった。病院・診療所では、「2019/7以降」が72.0%、「2019/1～6」が20.0%であった。

図表 3-2-173 直近の退院・退所時期

	回答利用者数	2019/7以降	2019/1～6	2018/7～12	2018/1～6	2017年以前	無回答
訪問看護ステーション	409 100.0%	286 69.9%	72 17.6%	18 4.4%	6 1.5%	19 4.6%	8 2.0%
病院・診療所	50 100.0%	36 72.0%	10 20.0%	1 2.0%	0 0.0%	3 6.0%	0 0.0%

③ 最後に訪問看護を提供した時期

最後に訪問看護を提供した時期について、訪問看護ステーションでは、「2019/9/1～9/14」が47.0%、「2019/9/15～9/30」が44.5%であった。病院・診療所では、「2019年8月」が44.8%、「2019年9月」が39.1%であった。

図表 3-2-174 【訪問看護ステーション】最後に訪問看護を提供した時期

	回答利用者数	2019/9/15 ～9/30	2019/9/1 ～9/14	2019/8/15 ～8/31	2019/8/1 ～8/14	～ 2019/7/31	無回答
訪問看護 ステーション	715 100.0%	318 44.5%	336 47.0%	34 4.8%	9 1.3%	14 2.0%	4 0.6%

図表 3-2-175 【病院・診療所】最後に訪問看護を提供した時期

	回答利用者数	2019年9 月	2019年8 月	2019年7 月	2019年6 月	2019年6 月以前	無回答
病院・診療所	87 100.0%	34 39.1%	39 44.8%	9 10.3%	2 2.3%	3 3.4%	0 0.0%

④ 訪問看護の利用期間

訪問看護の利用期間について、訪問看護ステーションでは、「3か月超」が43.4%、「3か月以内」が16.1%、「1週間以内」が15.2%であった。病院・診療所では、「3か月超」が54.0%、「1か月以内」が13.8%、「1週間以内」が11.5%であった。

図表 3-2-176 訪問看護の利用期間

	回答利用者数	1週間 以内	2週間 以内	1か月 以内	3か月 以内	3か月 超	無回答
訪問看護 ステーション	715 100.0%	109 15.2%	67 9.4%	98 13.7%	115 16.1%	310 43.4%	16 2.2%
病院・ 診療所	87 100.0%	10 11.5%	7 8.0%	12 13.8%	10 11.5%	47 54.0%	1 1.1%

4. 死亡者

⑤ 死因

死因について、訪問看護ステーションでは、「がん」が49.7%、「老衰」が18.0%、「その他」が11.2%であった。病院・診療所では、「がん」が29.9%、「老衰」が27.6%、「その他」が16.1%であった。

図表 3-2-177 死因

	回答利用者数	がん	肺炎	心疾患	脳血管疾患	老衰	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	355 49.7%	47 6.6%	67 9.4%	12 1.7%	129 18.0%	80 11.2%	25 3.5%
病院・診療所	87 100.0%	26 29.9%	9 10.3%	8 9.2%	3 3.4%	24 27.6%	14 16.1%	3 3.4%

⑥ 死亡場所

死亡場所について、訪問看護ステーションでは、「利用者宅」が60.3%、「病院・有床診療所」が30.1%、「その他」が9.5%であった。病院・診療所では、「利用者宅」が50.6%、「病院・有床診療所」が41.4%、「その他」が6.9%であった。

死亡場所が病院の場合、入院期間について、訪問看護ステーションでは、「その他」が41.4%、「48時間超1週間以内」が26.0%、「24時間以内」が13.5%であった。病院・診療所では、「その他」が61.1%、「48時間超1週間以内」が25.0%、「24時間以内」が11.1%であった。

図表 3-2-178 死亡場所

	回答利用者数	利用者宅	病院・有床診療所	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	431 60.3%	215 30.1%	68 9.5%	1 0.1%
病院・診療所	87 100.0%	44 50.6%	36 41.4%	6 6.9%	1 1.1%

図表 3-2-179 死亡場所が病院の場合：入院期間

	回答利用者数	24時間以内	24時間超48時間以内	48時間超1週間以内	その他	無回答
訪問看護ステーション	215 100.0%	29 13.5%	20 9.3%	56 26.0%	89 41.4%	21 9.8%
病院・診療所	36 100.0%	4 11.1%	0 0.0%	9 25.0%	22 61.1%	1 2.8%

⑦ 訪問看護指示にターミナル期等の記載がなされた時期

主治医による訪問看護指示にターミナル期等の記載がなされたタイミングについて、訪問看護ステーションでは、「記載なし」が36.1%、「1か月前頃」が28.3%、「1か月～3か月前」が13.1%であった。病院・診療所では、「記載なし」が41.4%、「1か月前頃」が25.3%、「1か月～3か月前」が10.3%であった。

図表 3-2-180 訪問看護指示にターミナル期等の記載がなされた時期

(死亡日からの期間)

	回答利用者数	1か月前頃	1か月～3か月前	3か月～6か月前頃	6か月～1年前頃	1年～1年半前頃	記載なし	不明	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	202 28.3%	94 13.1%	63 8.8%	19 2.7%	20 2.8%	258 36.1%	16 2.2%	43 6.0%
病院・診療所	87 100.0%	22 25.3%	9 10.3%	3 3.4%	3 3.4%	1 1.1%	36 41.4%	4 4.6%	9 10.3%

4. 死亡者

⑧ ターミナルケア加算・ターミナルケア療養費の算定状況

ターミナルケア加算・ターミナルケア療養費の算定の有無について、訪問看護ステーションでは、「なし」が40.7%、「ターミナルケア療養費(1・2)の算定あり」が38.7%、「ターミナルケア加算の算定あり」が16.5%であった。病院・診療所では、「なし」が66.7%、「在宅ターミナルケア加算の算定あり」が14.9%、「ターミナルケア加算の算定あり」が13.8%であった。

図表 3-2-181 【訪問看護ステーション】ターミナルケア加算・ターミナルケア療養費の算定の有無

	回答利用者数	ターミナルケア加算の算定あり	ターミナルケア療養費(1・2)の算定あり	なし	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	118 16.5%	277 38.7%	291 40.7%	29 4.1%

図表 3-2-182 【病院・診療所】ターミナルケア加算・在宅ターミナルケア加算の算定の有無

	回答利用者数	ターミナルケア加算の算定あり	在宅ターミナルケア加算の算定あり	なし	無回答
病院・診療所	87 100.0%	12 13.8%	13 14.9%	58 66.7%	4 4.6%

ターミナルケア加算・ターミナルケア療養費の算定なしの理由について、訪問看護ステーションでは、「医療機関へ搬送後 24 時間以上経過した後に死亡したため」が 34.7%、「その他」が 29.6%、「死亡日前 14 日以内に 2 回以上の訪問看護を実施していない」が 14.1%であった。病院・診療所では、「ターミナル体制の届け出をしていない」が 29.3%、「その他」が 27.6%、「医療機関へ搬送後 24 時間以上経過した後に死亡したため」が 22.4%であった。

図表 3-2-183 「無」の場合：理由

	回答利用者数	ターミナル体制の届け出をしていない	死亡日前14日以内に2回以上の訪問看護を実施していない	医療機関へ搬送後24時間以上経過した後に死亡したため	利用者負担が高額になるため	その他	無回答
訪問看護ステーション	291 100.0%	28 9.6%	41 14.1%	101 34.7%	7 2.4%	86 29.6%	30 10.3%
病院・診療所	58 100.0%	17 29.3%	9 15.5%	13 22.4%	3 5.2%	16 27.6%	2 3.4%

4. 死亡者

⑨ 死が間近であることの利用者の認識（病院・診療所のみ）

死が間近であることの利用者の認識について、病院・診療所では、「利用者も家族も知っていた」が36.8%、「当てはまらない」が33.3%、「家族は知っているが、利用者は知らなかった」が23.0%であった。

図表 3-2-184 【病院・診療所】死が間近であることの利用者の認識

	回答利用者数	利用者も家族も知っていた	家族は知っているが、利用者は知らなかった	家族は知っており、利用者は疑っていた	家族は知っており、利用者は知らないふりをしていた	当てはまらない	無回答
病院・診療所	87 100.0%	32 36.8%	20 23.0%	4 4.6%	1 1.1%	29 33.3%	1 1.1%

⑩ 特別訪問看護指示書の有無

特別訪問看護指示書の有無について、訪問看護ステーションでは、死亡前7日以内で「無」が70.7%、「有」が14.1%、死亡前8日～14日以内で「無」が63.0%、「有」が11.5%、死亡前15日～28日以内で「無」が58.7%、「有」が8.3%であった。

病院・診療所では、死亡前7日以内で「無」が43.8%、「有」が20.8%、死亡前8日～14日以内で「無」が52.1%、「有」が18.8%、死亡前15日～28日以内で「無」が50.0%、「有」が8.3%であった。

図表 3-2-185 【訪問看護ステーション】特別訪問看護指示書の有無

	回答利用者数	有	無	無回答
死亡前7日以内	460 100.0%	65 14.1%	325 70.7%	70 15.2%
死亡前8日～14日以内	460 100.0%	53 11.5%	290 63.0%	117 25.4%
死亡前15日～28日以内	460 100.0%	38 8.3%	270 58.7%	152 33.0%

図表 3-2-186 【病院・診療所】特別訪問看護指示書の有無

	回答利用者数	有	無	無回答
死亡前7日以内	48 100.0%	10 20.8%	21 43.8%	17 35.4%
死亡前8日～14日以内	48 100.0%	9 18.8%	25 52.1%	14 29.2%
死亡前15日～28日以内	48 100.0%	4 8.3%	24 50.0%	20 41.7%

4. 死亡者

⑪ 訪問看護、緊急訪問、訪問介護の回数

緊急訪問の回数については、訪問看護ステーションでは、死亡前7日以内で平均0.4回（介護）、0.7回（医療）、死亡前8日～14日以内で平均0.1回（介護）、0.2回（医療）、死亡前15日～28日以内で平均0.1回（介護）、0.1回（医療）であった。

病院・診療所では、死亡前7日以内で平均0.3回（介護）、0.6回（医療）、死亡前8日～14日以内で平均0.1回（介護）、0.3回（医療）、死亡前15日～28日以内で平均0.0回（介護）、0.4回（医療）であった。

図表 3-2-187 【訪問看護ステーション】緊急訪問等の回数

単位：回

		回答利用者数	訪問看護の訪問回数			緊急訪問の回数			訪問介護の訪問回数		
			平均	標準偏差	中央値	平均	標準偏差	中央値	平均	標準偏差	中央値
死亡前7日以内	介護	449	1.4	2.4	1.4	0.4	0.9	0.4	1.6	5.0	0.0
	医療	449	4.5	5.2	4.5	0.7	1.3	0.7	-	-	-
死亡前8～14日以内	介護	449	1.1	2.1	1.1	0.1	0.4	0.1	1.4	5.1	0.0
	医療	449	3.3	5.2	3.3	0.2	0.6	0.2	-	-	-
死亡前15～28日以内	介護	449	1.5	3.0	1.5	0.1	0.7	0.1	1.5	5.4	0.0
	医療	449	3.8	7.6	3.8	0.1	0.5	0.1	-	-	-

※「訪問介護の訪問回数」の回答利用者数は次の通り。7日前：375、8～14日：381、15～28日：382

図表 3-2-188 【病院・診療所】緊急訪問等の回数

単位：回

		回答利用者数	訪問看護の訪問回数			緊急訪問の回数			訪問介護の訪問回数		
			平均	標準偏差	中央値	平均	標準偏差	中央値	平均	標準偏差	中央値
死亡前7日以内	介護	47	1.3	2.8	0.0	0.3	0.7	0.0	1.6	2.8	0.0
	医療	47	3.4	5.2	1.0	0.6	1.3	0.0	-	-	-
死亡前8～14日以内	介護	47	1.2	2.5	0.0	0.1	0.4	0.0	2.1	3.7	0.0
	医療	47	2.3	4.5	0.0	0.3	1.1	0.0	-	-	-
死亡前15～28日以内	介護	47	1.1	3.2	0.0	0.0	0.2	0.0	2.4	4.5	0.0
	医療	47	2.1	4.8	0.0	0.4	1.7	0.0	-	-	-

※「訪問介護の訪問回数」の回答利用者数は次の通り。7日前：32、8～14日：31、15～28日：28

⑫ 本人による意思決定を基本に人生の最終段階における医療・ケアが行われたか

本人による意思決定を基本に人生の最終段階における医療・ケアが行われたかについて、訪問看護ステーションでは、「はい」が55.4%、「どちらともいえない」が28.4%、「いいえ」が13.0%であった。病院・診療所では、「どちらともいえない」が43.7%、「はい」が35.6%、「いいえ」が12.6%であった。

図表 3-2-189 本人による意思決定を基本に人生の最終段階における医療・ケアが行われたか

	回答利用者数	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	396 55.4%	203 28.4%	93 13.0%	23 3.2%
病院・診療所	87 100.0%	31 35.6%	38 43.7%	11 12.6%	7 8.0%

4. 死亡者

⑬ 本人による意思決定を基本に人生の最終段階における医療・ケアが困難な理由

人生の最終段階における医療・ケアを実践するうえでの困難な理由について、訪問看護ステーションでは、「急激な状態変化による死亡」が32.3%、「利用者本人の意思表示ができない等」が25.2%、「利用者本人よりも家族等の意思が尊重される」が21.3%であった。病院・診療所では、「利用者本人よりも家族等の意思が尊重される」が34.5%、「急激な状態変化による死亡」が32.2%、「利用者本人の意思表示ができない等」が21.8%であった。

図表 3-2-190 本人による意思決定を基本に人生の最終段階における医療・ケアが困難な理由
(複数回答)

	回答利用者数	利用者本人等へ情報の提供と説明がなされていない	医療・ケアチームが形成できない	利用者本人等と十分な話し合いができない	事前に利用者本人等が方針の決定ができない	利用者本人の意思表示ができない等	急激な状態変化による死亡	家族等が不安を抱き救急要請する	臨時対応した医師が話し合いの内容を把握していない
訪問看護ステーション	715 100.0%	117 16.4%	56 7.8%	119 16.6%	114 15.9%	180 25.2%	231 32.3%	90 12.6%	28 3.9%
病院・診療所	87 100.0%	11 12.6%	8 9.2%	17 19.5%	13 14.9%	19 21.8%	28 32.2%	12 13.8%	3 3.4%

	回答利用者数	利用者本人よりも家族等の意思が尊重される	家族等との連携・調整が上手く行っていない	医療職と介護職の連携・調整が上手く行っていない	介護力、医療資源不足により自宅での看取りが困難	その他	無回答
訪問看護ステーション	715 100.0%	152 21.3%	33 4.6%	21 2.9%	117 16.4%	80 11.2%	132 18.5%
病院・診療所	87 100.0%	30 34.5%	4 4.6%	4 4.6%	14 16.1%	14 16.1%	12 13.8%

⑭ 看取りの状況

看取りの状況について、「利用者が望んだ場所で最期を迎えられましたか」では「そう思う」が49.4%、「どちらともいえない」が23.0%、「利用者はからだの苦痛が少なく過ごせましたか」では「ややそう思う」が33.3%、「どちらともいえない」が26.4%、「利用者はおだやかな気持ちで過ごされていましたか」では「そう思う」が33.3%、「ややそう思う」が31.0%、「利用者は落ち着いた環境で過ごされましたか」では、「そう思う」が46.0%、「ややそう思う」が27.6%、「利用者の生き方や価値観が尊重されていましたか」では「そう思う」が47.1%、「ややそう思う」が24.1%であった。

図表 3-2-191 【病院・診療所】看取りの状況

	回答利用者数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
利用者が望んだ場所で最期を迎えられましたか	87 100.0%	43 49.4%	14 16.1%	20 23.0%	4 4.6%	3 3.4%	3 3.4%
利用者はからだの苦痛が少なく過ごせましたか	87 100.0%	19 21.8%	29 33.3%	23 26.4%	9 10.3%	3 3.4%	4 4.6%
利用者はおだやかな気持ちで過ごされていましたか	87 100.0%	29 33.3%	27 31.0%	19 21.8%	6 6.9%	2 2.3%	4 4.6%
利用者は落ち着いた環境で過ごされましたか	87 100.0%	40 46.0%	24 27.6%	14 16.1%	4 4.6%	1 1.1%	4 4.6%
利用者の生き方や価値観が尊重されていましたか	87 100.0%	41 47.1%	21 24.1%	17 19.5%	2 2.3%	1 1.1%	5 5.7%

⑮ 利用者が希望する看取られ方（病院・診療所のみ）

「最期は、利用者の希望される看取られ方ができましたか」については、病院・診療所では、「はい」が69.0%、「いいえ」が17.2%であった。

図表 3-2-192 【病院・診療所】利用者の希望する看取られ方

	回答利用者数	はい	いいえ	無回答
病院・診療所	87 100.0%	60 69.0%	15 17.2%	12 13.8%

第4章 看護小規模多機能型居宅介護事業所調査の結果の詳細

第1節 看護小規模多機能型居宅介護事業所票

1. 基本情報

(1) 事業所

① 所在地

所在地について、「北海道」が8.1%、「東京都」が7.2%、「神奈川県」が7.2%、「大阪府」が7.2%、「兵庫県」が5.5%、「福岡県」が5.5%であった。

図表 4-1-1 所在地（回答数=236）

都道府県名	発送数	有効回収数	有効回収率	構成比
北海道	44	19	43.2%	8.1%
青森県	4	3	75.0%	1.3%
岩手県	7	5	71.4%	2.1%
宮城県	17	8	47.1%	3.4%
秋田県	4	4	100.0%	1.7%
山形県	4	1	25.0%	0.4%
福島県	8	4	50.0%	1.7%
茨城県	8	2	25.0%	0.8%
栃木県	5	0	0.0%	0.0%
群馬県	8	5	62.5%	2.1%
埼玉県	11	4	36.4%	1.7%
千葉県	9	1	11.1%	0.4%
東京都	38	17	44.7%	7.2%
神奈川県	47	17	36.2%	7.2%
新潟県	12	4	33.3%	1.7%
富山県	6	2	33.3%	0.8%
石川県	7	2	28.6%	0.8%
福井県	12	4	33.3%	1.7%
山梨県	3	2	66.7%	0.8%
長野県	5	3	60.0%	1.3%
岐阜県	10	6	60.0%	2.5%
静岡県	22	7	31.8%	3.0%
愛知県	13	6	46.2%	2.5%
三重県	5	2	40.0%	0.8%
滋賀県	7	2	28.6%	0.8%
京都府	9	3	33.3%	1.3%
大阪府	41	127	41.5%	7.2%
兵庫県	26	73	50.0%	5.5%
奈良県	4	24	50.0%	0.8%
和歌山県	7	16	28.6%	0.8%

第4章 看護小規模多機能型居宅介護事業所調査の結果の詳細
 第1節 看護小規模多機能型居宅介護事業所票

(続き)

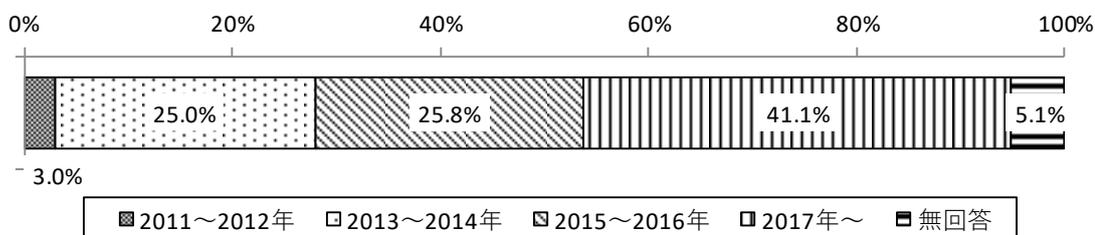
鳥取県	4	6	50.0%	0.8%
島根県	4	11	25.0%	0.4%
岡山県	9	13	44.4%	1.7%
広島県	19	40	47.4%	3.8%
山口県	7	15	57.1%	1.7%
徳島県	4	9	75.0%	1.3%
香川県	5	14	40.0%	0.8%
愛媛県	7	22	28.6%	0.8%
高知県	3	6	100.0%	1.3%
福岡県	23	67	56.5%	5.5%
佐賀県	0	0	-	0.0%
長崎県	10	16	30.0%	1.3%
熊本県	10	32	30.0%	1.3%
大分県	10	8	70.0%	3.0%
宮崎県	5	14	80.0%	1.7%
鹿児島県	12	17	58.3%	3.0%
沖縄県	2	16	100.0%	0.8%
全体	537	1,297	50.7%	100.0%

1. 基本情報

② 事業開始年

事業開始年について、「2017年～」が41.1%、「2015～2016年」が25.8%、「2013～2014年」が25.0%であった。

図表 4-1-2 事業開始年（回答数=236）

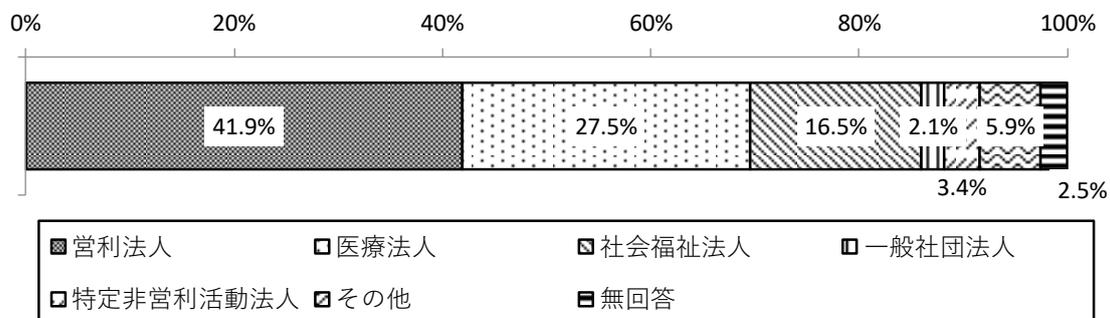


③ 経営主体

経営主体について、「営利法人」が41.9%、「医療法人」が27.5%、「社会福祉法人」が16.5%、「その他」が5.9%であった。

母集団の事業所と比較して、特に差は認められず、本調査の客体の代表性について確認された。

図表 4-1-3 経営主体（回答数=236）



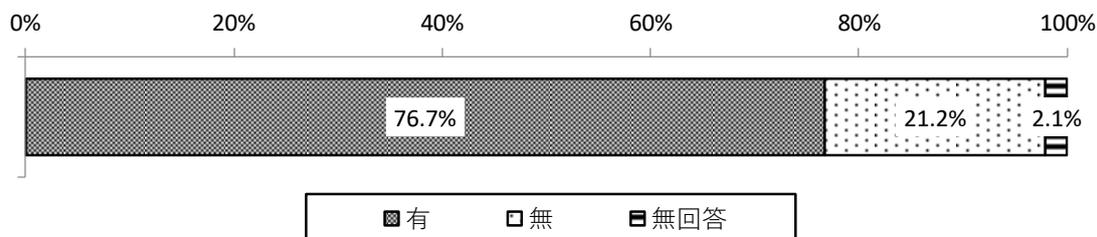
参考図表 母集団の経営主体（n=554）

合計	営利法人	医療法人	社会福祉法人	社団・財団法人	特定非営利活動法人	その他
554	262	120	103	24	19	26
100.0%	47.3%	21.7%	18.6%	4.3%	3.4%	4.7%

④ 事業所と同一建物に立地している併設施設の状況

事業所と同一建物に立地している併設施設の状況について、「有」が76.7%であった。

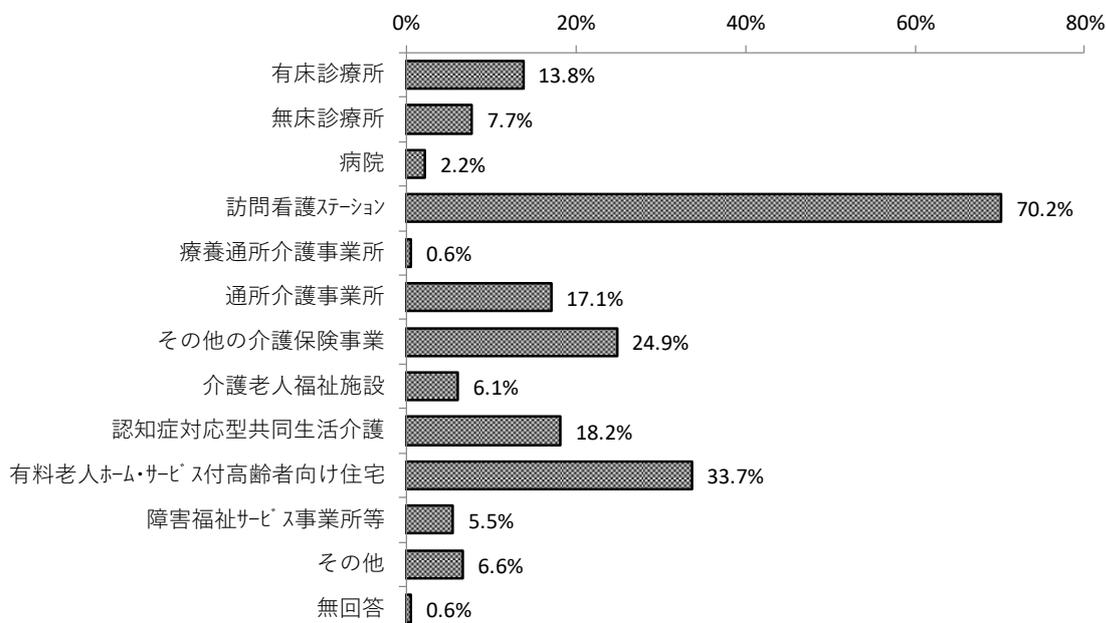
図表 4-1-4 事業所と同一建物に立地している併設施設の有無（回答数=236）



⑤ 事業所と同一建物に立地している併設施設

事業所と同一建物に立地している併設施設有の事業所を対象に併設施設を尋ねたところ、「訪問看護ステーション」が70.2%、「有料老人ホーム・サービス付高齢者向け住宅」が33.7%であった。

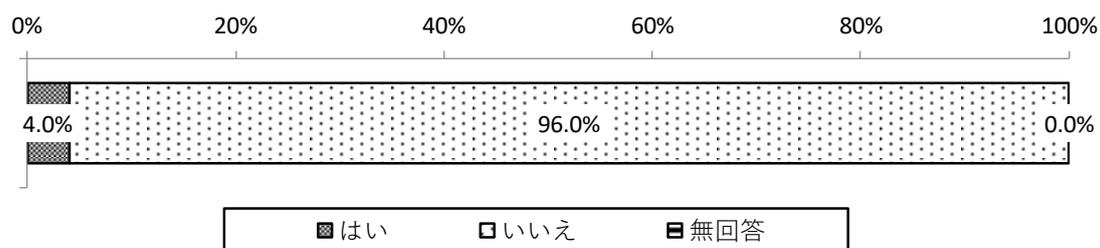
図表 4-1-5 事業所と同一建物に立地している併設施設（回答数=181、複数回答）



⑥ 病床の看護小規模多機能型居宅介護の宿泊室への兼用状況（有床診療所）

有床診療所の回答事業所に宿泊室の兼用状況を尋ねたところ、「はい」が4.0%（1事業所）であった。病床数は5床であった。

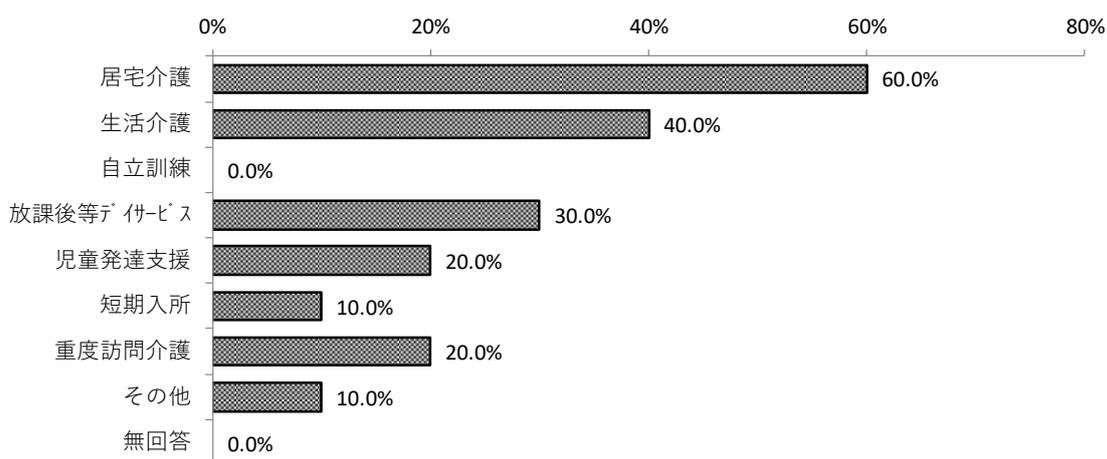
図表 4-1-6 病床を看護小規模多機能型居宅介護の宿泊室に兼用しているか（回答数=25）



⑦ 障害福祉サービス事業所等の種別

障害福祉サービス事業所等の回答事業所に種別を尋ねたところ、「居宅介護」が60.0%であった。

図表 4-1-7 障害福祉サービス事業所等の種別（回答数=10、複数回答）

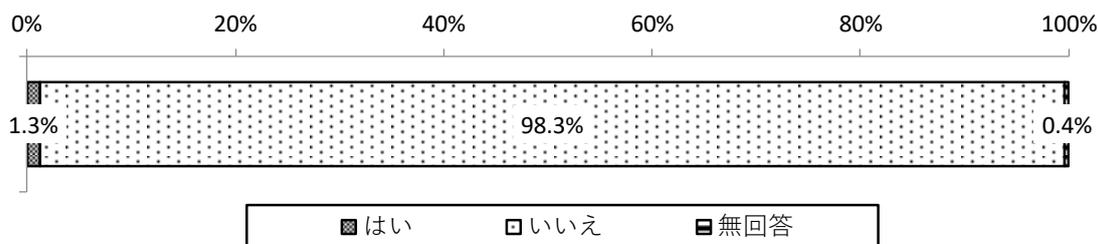


(2) サテライト型事業所

① 事業所の形態

サテライト型事業所かについて、「はい」が1.3%であった。

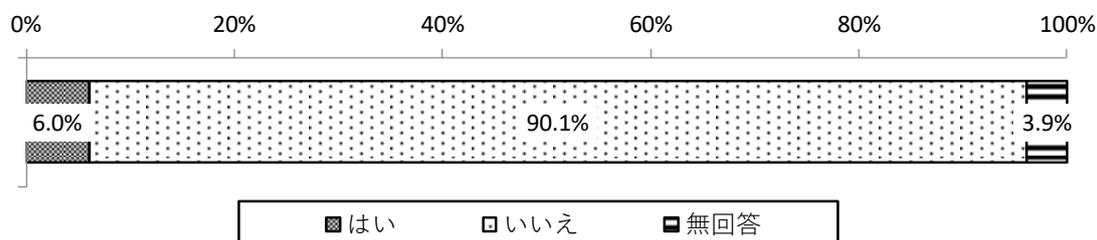
図表 4-1-8 サテライト型事業所か（回答数=236）



② サテライト型事業所の状況

サテライト型事業所を有しているかについて、「はい」が6.0%であった。

図表 4-1-9 サテライト型事業所を有しているか（回答数=232）



③ サテライト型事業所数

サテライト型事業所数について、平均は1.1か所、中央値は1.0か所であった。

図表 4-1-10 サテライト型事業所数（回答数=14）

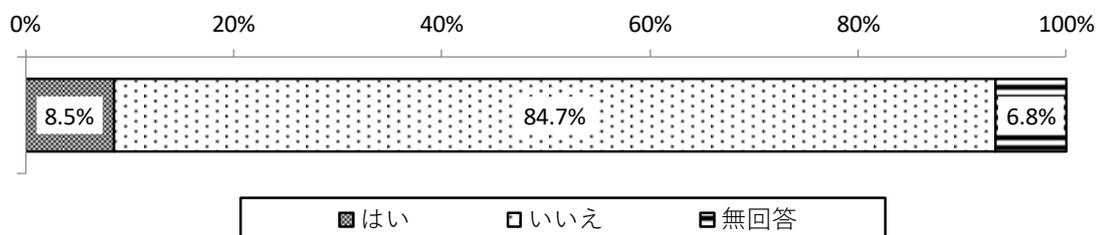
単位：か所

	回答数	平均	標準偏差	中央値
事業所数	14	1.1	0.3	1.0

④ サテライト型事業所を開設する意向

サテライト型事業所を開設する意向の有無について、「はい」が8.5%であった。

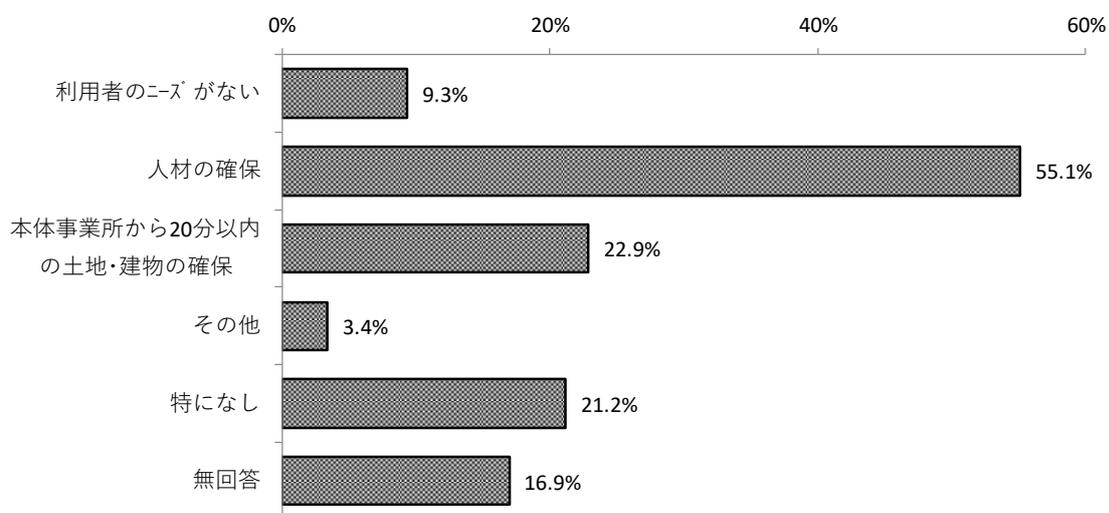
図表 4-1-11 サテライト型事業所を開設する意向の有無（回答数=236）



⑤ サテライト型事業所を開設する上での困難な理由

サテライト型事業所を開設する上での困難な理由について、「人材の確保」が55.1%、「本体事業所から20分以内の土地・建物の確保」が22.9%であった。

図表 4-1-12 サテライト型事業所を開設する上での困難な理由（回答数=236、複数回答）

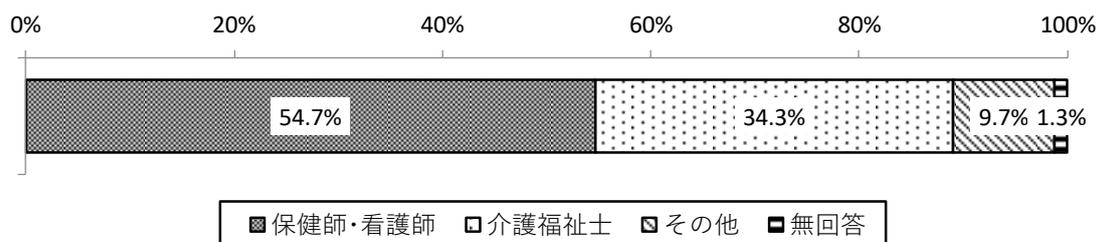


(3) 職員体制

① 管理者の職種

管理者の職種について、「保健師・看護師」が 54.7%、「介護福祉士」が 34.3%であった。

図表 4-1-13 管理者の職種（回答数=236）



② 常勤換算職員数

常勤換算職員数について、介護福祉士は平均が 5.8 人、中央値が 5.6 人、介護職員は平均が 3.6 人、中央値が 3.3 人、保健師・看護師は平均が 4.5 人、中央値が 3.6 人、准看護師について、平均は 1.0 人、中央値は 0.8 人であった。

図表 4-1-14 常勤換算職員数（回答数=189）

単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
介護福祉士	189	5.8	3.0	5.6
介護職員	189	3.6	2.8	3.3
保健師・看護師	189	4.5	2.9	3.6
准看護師	189	1.0	1.2	0.8
介護支援専門員	189	0.9	0.4	1.0
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	189	0.5	1.0	0.0
事務職員	189	0.4	0.6	0.0
その他の職員	189	0.4	0.6	0.0
合計	189	16.9	5.2	16.6

1. 基本情報

(4) 事業概要

① 登録定員

登録定員について、平均は27.7人、中央値は29.0人、通いの定員について、平均は16.3人、中央値は18.0人、泊まりの定員について、平均は7.6人、中央値は9.0人であった。

図表 4-1-15 定員等

単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
登録定員	204	27.7	3.0	29.0
通いの定員	204	16.3	2.4	18.0
泊まりの定員	204	7.6	1.7	9.0

② 登録者数

登録者数について、平均は20.9人、中央値は22.0人、うち共生型サービスの利用者数について、平均は0.1人、中央値は0.0人であった。

図表 4-1-16 登録者数、うち共生型サービスの利用者

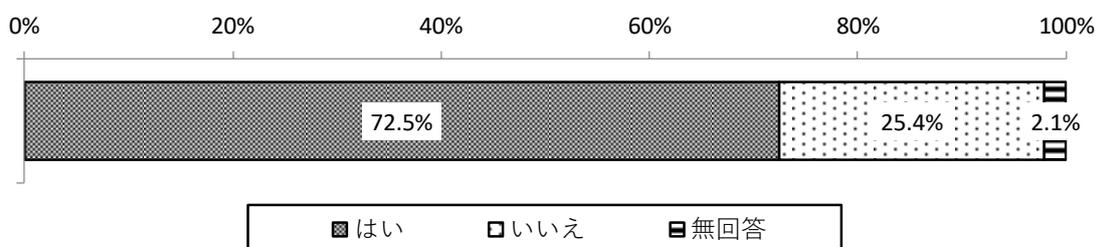
単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
登録者数	232	20.9	5.7	22.0
うち共生型サービスの利用者数	232	0.1	0.4	0.0

③ 介護保険における訪問看護事業所の指定

介護保険における訪問看護事業所の指定について、「はい」が72.5%、「いいえ」が25.4%であった。

図表 4-1-17 介護保険における訪問看護事業所の指定（回答数=236）



④ 訪問看護事業所の利用者数

介護保険における訪問看護事業所の指定がある事業所を対象に利用者数を尋ねたところ、介護保険は平均が30.7人、中央値が21.0人、医療保険は平均が11.4人、中央値が4.0人であった。

図表 4-1-18 訪問看護事業所の利用者数

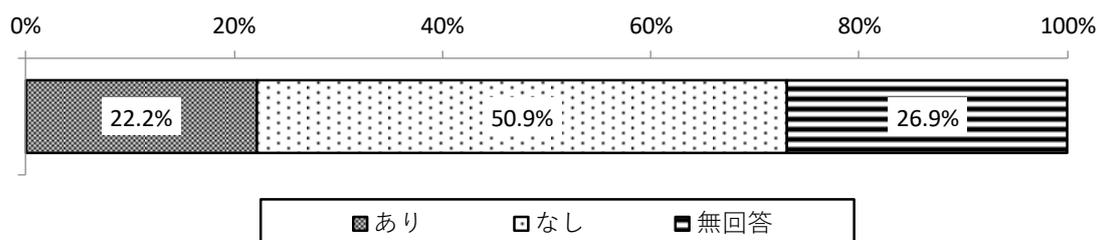
単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
介護保険	145	30.7	37.9	21.0
医療保険	145	11.4	19.7	4.0

⑤ 精神科訪問看護基本療養費の算定

介護保険における訪問看護事業所の指定がある事業所を対象に、精神科訪問看護基本療養費の算定について、「なし」が50.9%、「あり」が22.2%であった。

図表 4-1-19 精神科訪問看護基本療養費の算定（回答数=171）



1. 基本情報

⑥ 訪問看護事業所の訪問対象としている地域の事業所からの距離

訪問看護事業所の訪問対象としている地域の事業所からの距離について、平均は11.8km、中央値は10.0kmであった。

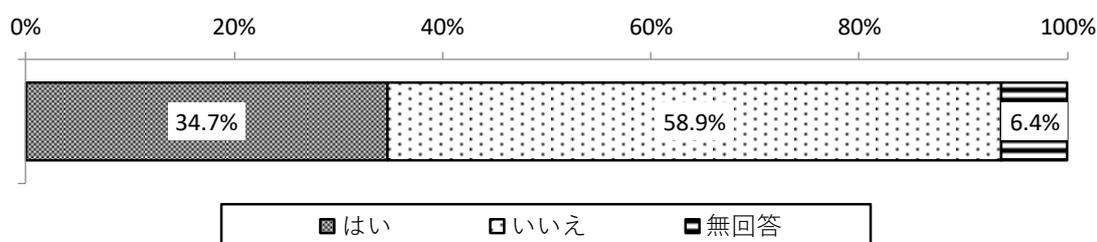
図表 4-1-20 訪問看護事業所の訪問対象としている地域の事業所からの距離

	回答数	平均	標準偏差	中央値
距離 (km)	130	11.8	9.2	10.0

⑦ 居宅介護支援事業所の指定

居宅介護支援事業所の指定について、「いいえ」が58.9%、「はい」が34.7%であった。

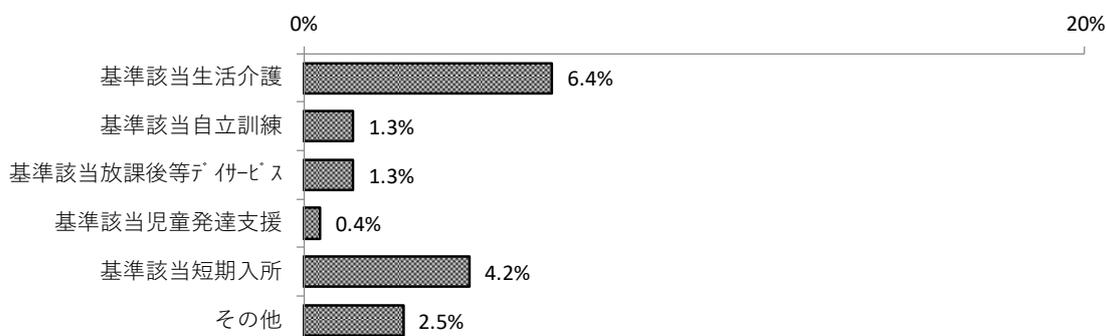
図表 4-1-21 居宅介護支援事業所の指定 (回答数=236)



⑧ 基準該当サービスで実施している事業

基準該当サービスを実施している場合、実施している事業について、「基準該当生活介護」が6.4%であった。

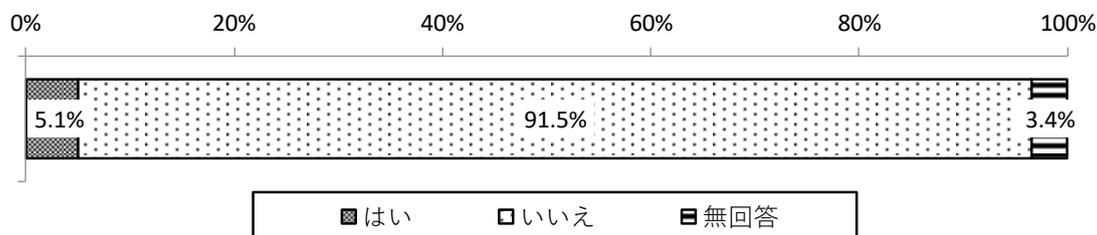
図表 4-1-22 基準該当サービスを実施している場合、実施している事業
(回答数=236、複数回答)



⑨ 共生型サービスの事業所としての指定

共生型サービスの事業所としての指定について、「はい」が5.1%であった。

図表 4-1-23 共生型サービスの事業所としての指定（回答数=236）

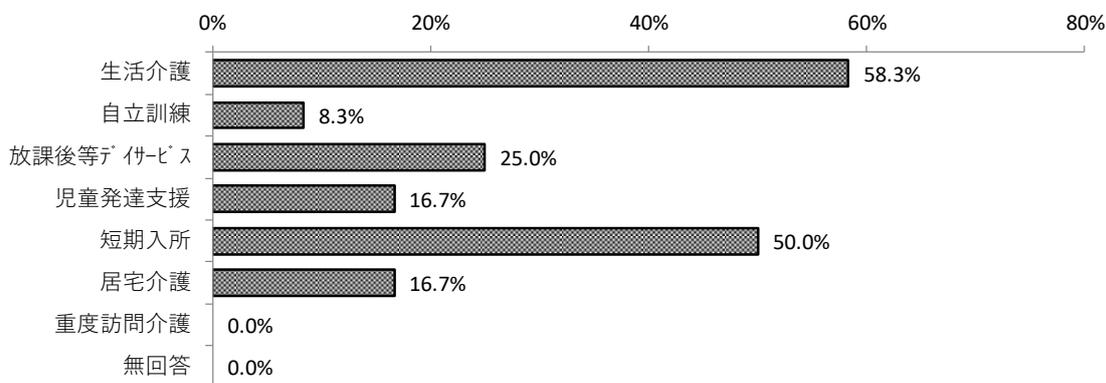


⑩ 共生型サービスの事業所として実施している事業

共生型サービスの事業所として実施している事業について、「生活介護」が58.3%、「短期入所」が50.0%であった。

共生型サービスの運営について困っていること（自由回答）としては、人材の不足、利用者の状態の違い、登録人数等についての回答がみられた。

図表 4-1-24 共生型サービスの事業所として実施している事業（回答数=12、複数回答）

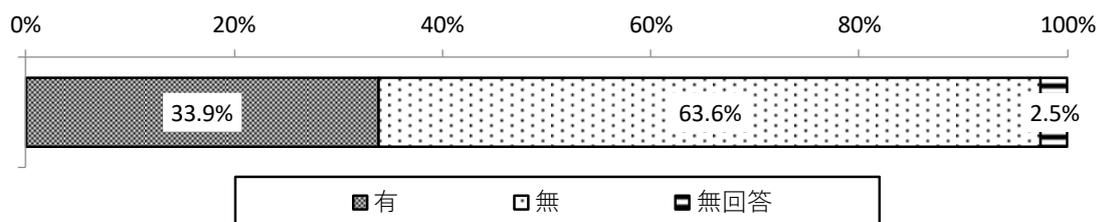


1. 基本情報

⑪ 登録特定行為事業者または登録喀痰吸引等事業者としての登録状況

登録特定行為事業者または登録喀痰吸引等事業者としての登録の有無について、「無」が63.6%、「有」が33.9%であった。

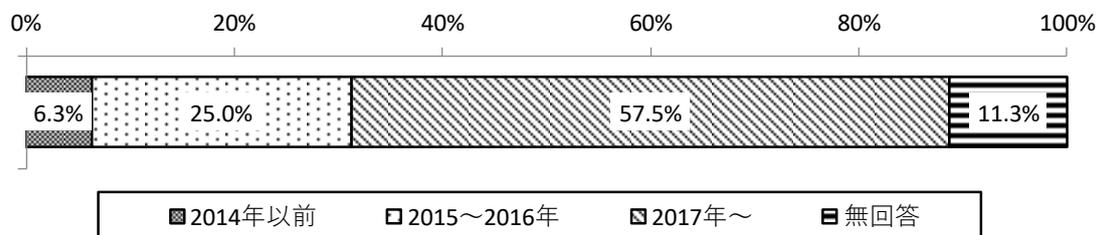
図表 4-1-25 登録特定行為事業者または登録喀痰吸引等事業者としての登録の有無
(回答数=236)



⑫ 登録特定行為事業者または登録喀痰吸引等事業者としての登録年

登録特定行為事業者または登録喀痰吸引等事業者としての登録年について、2017年以降が57.5%であった。

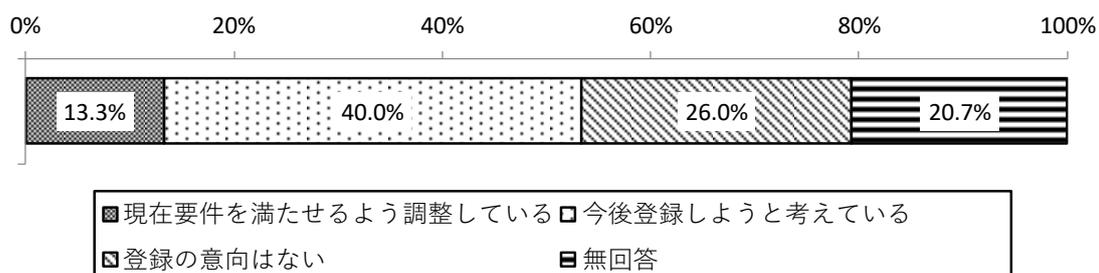
図表 4-1-26 登録特定行為事業者または登録喀痰吸引等事業者としての登録年 (回答数=80)



⑬ 登録特定行為事業者または登録喀痰吸引等事業者としての今後の登録意向

登録特定行為事業者または登録喀痰吸引等事業者としての登録無の事業所について今後の登録意向を尋ねたところ、「今後登録しようと考えている」が40.0%、「登録の意向はない」が26.0%、「現在要件を満たせるよう調整している」が13.3%であった。

図表 4-1-27 登録特定行為事業者または登録喀痰吸引等事業者としての今後の登録意向
(回答数=150)



⑭ 喀痰吸引等の業務の認定特定行為業務従事者数

喀痰吸引等の業務の認定特定行為業務従事者数について、平均は1.7人、中央値は0.0人であった。

図表 4-1-28 喀痰吸引等の業務の認定特定行為業務従事者数

単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
従事者数	231	1.7	2.9	0.0

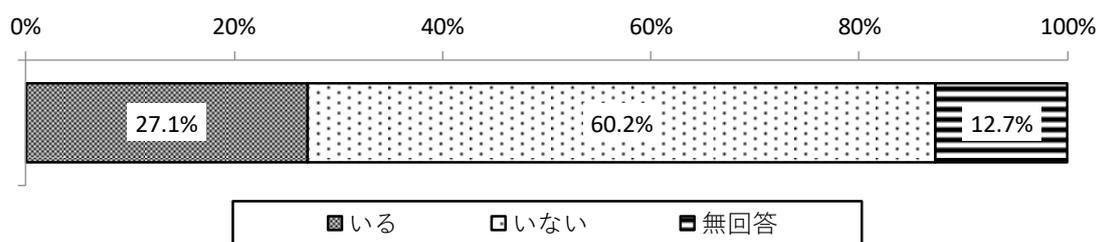
1. 基本情報

⑮ 登録者のうち同一建物の居住者

登録者のうち同一建物の居住者の有無について、「いない」が60.2%、「いる」が27.1%であった。

居住者数については、平均は10.9人、中央値は11.0人であった。

図表 4-1-29 登録者のうち同一建物の居住者の有無（回答数=236）



図表 4-1-30 登録者のうち同一建物の居住者数

単位：人

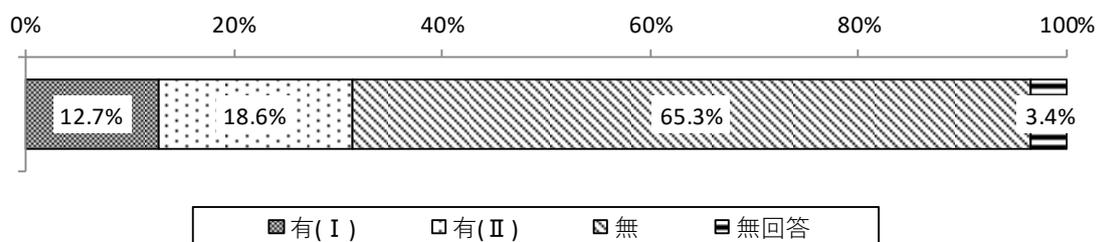
	回答数	平均	標準偏差	中央値
居住者数	61	10.9	7.0	11.0

2. 加算等の算定状況

① 看護体制強化加算

看護体制強化加算について、「有(I)」が12.7%、「有(II)」が18.6%であった。

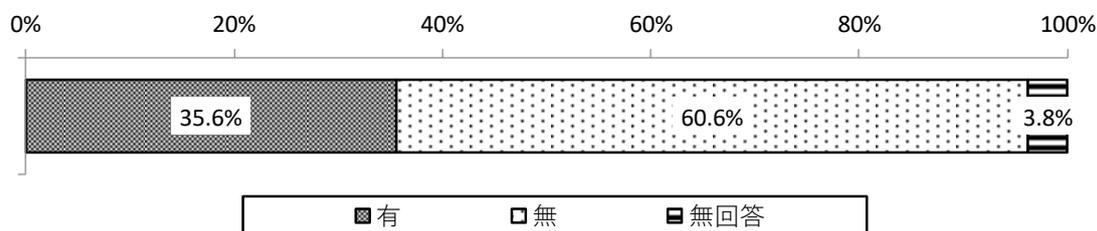
図表 4-1-31 看護体制強化加算（回答数=236）



② 訪問体制強化加算

訪問体制強化加算について、「有」が35.6%であった。

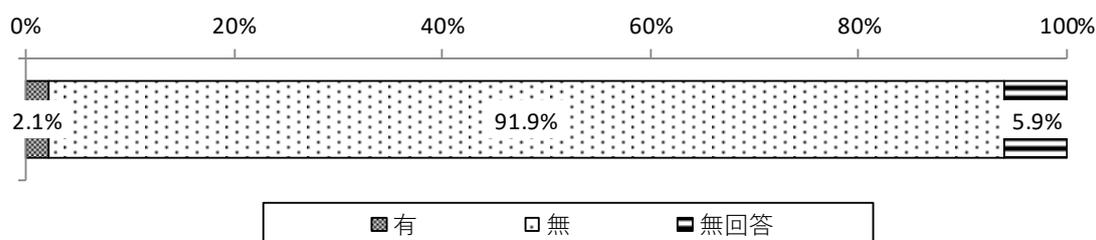
図表 4-1-32 訪問体制強化加算（回答数=236）



③ 訪問看護体制減算

訪問看護体制減算について、「有」が2.1%であった。

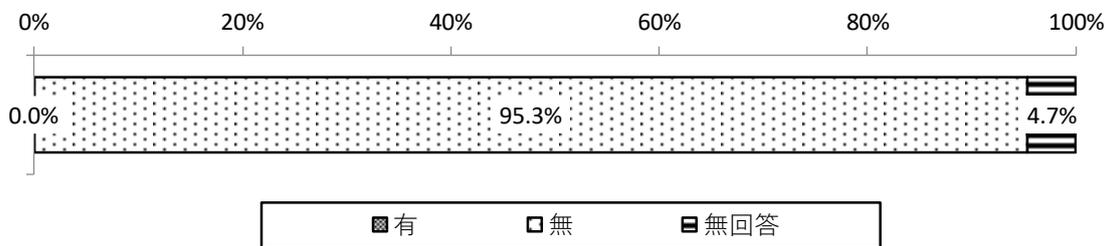
図表 4-1-33 訪問看護体制減算（回答数=236）



④ サテライト体制未整備減算

サテライト体制未整備減算について、「有」の回答はみられなかった。

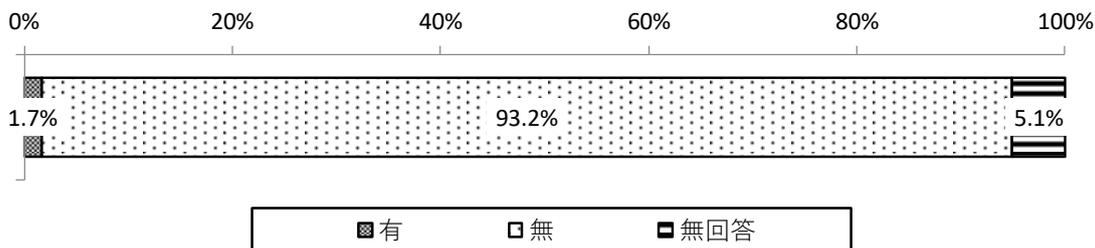
図表 4-1-34 サテライト体制未整備減算（回答数=236）



⑤ 中山間地域等に居住する者へのサービス提供加算

中山間地域等に居住する者へのサービス提供加算について、「有」が 1.7%であった。

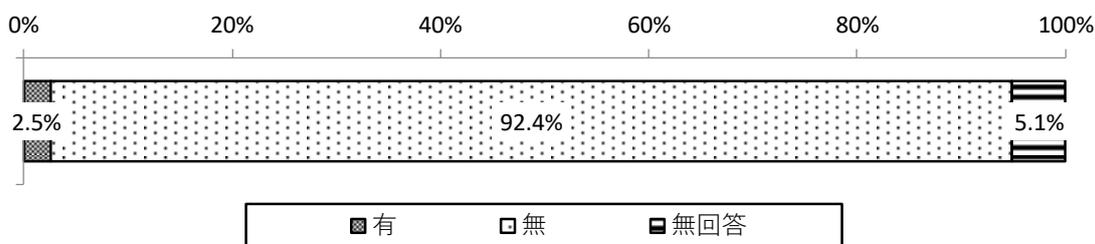
図表 4-1-35 中山間地域等に居住する者へのサービス提供加算（回答数=236）



⑥ 若年性認知症利用者受入加算

若年性認知症利用者受入加算について、「有」が 2.5%あった。

図表 4-1-36 若年性認知症利用者受入加算（回答数=236）



⑦ 栄養スクリーニング加算

栄養スクリーニング加算について、「有」が7.2%であった。加算人数については、平均で9.7人、中央値で4.0人であった。

栄養スクリーニング加算をしていない理由について、「栄養スクリーニングしていない」が63.3%、「栄養スクリーニング実施しているが算定要件に合わない」が11.9%であった。

表 4-1-37 栄養スクリーニング加算（回答数=236）

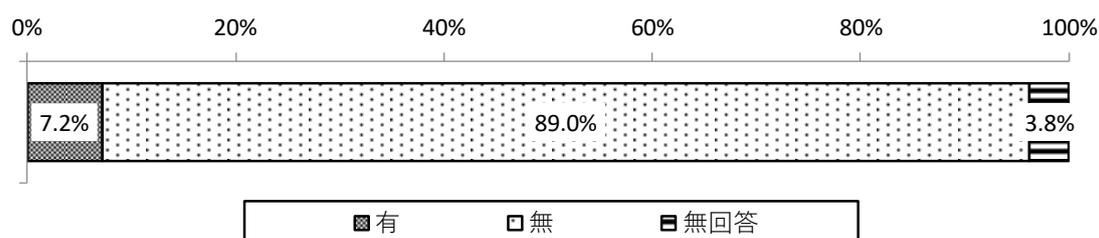
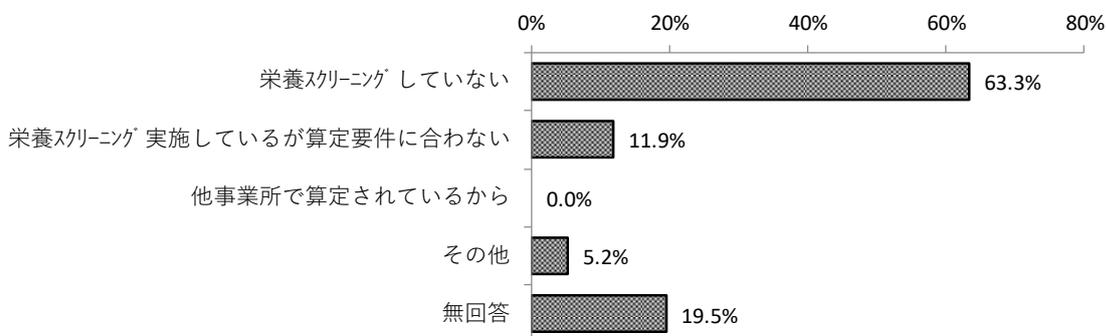


表 4-1-38 栄養スクリーニング加算人数

単位：人

	回答数	平均	標準偏差	中央値
加算人数	17	9.7	9.7	4.0

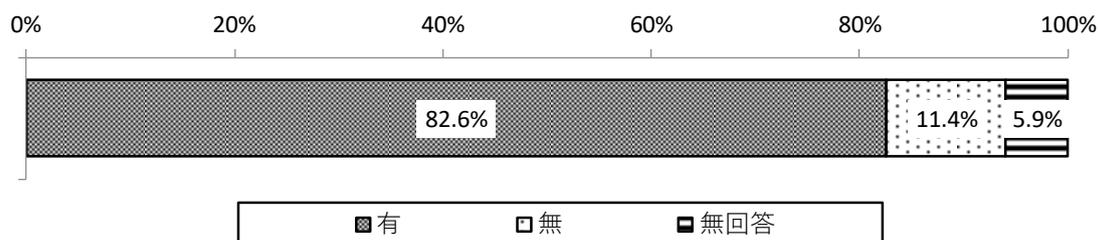
図表 4-1-39 栄養スクリーニング加算しない理由（回答数=210）



⑧ 総合マネジメント体制強化加算

総合マネジメント体制強化加算について、「有」が82.6%、「無」が11.4%であった。

図表 4-1-40 総合マネジメント体制強化加算（回答数=236）



2. 加算等の算定状況

⑨ 主治の医師の指示に基づく看護サービスを提供した利用者の割合

2019年7月～9月（3か月分）の主治の医師の指示に基づく看護サービスを提供した利用者の割合について、平均は80.9%、中央値は98.4%であった。

図表 4-1-41 主治の医師の指示に基づく看護サービスを提供した利用者の割合

	回答数	平均	標準偏差	中央値
利用者の割合 (%)	124	80.9	27.2	98.4

⑩ 緊急時訪問看護加算の算定者の割合

2019年7月～9月（3か月分）の緊急時訪問看護加算の算定者の割合について、平均は57.5%、中央値は70.9%であった。

図表 4-1-42 緊急時訪問看護加算の算定者の割合

	回答数	平均	標準偏差	中央値
算定者の割合 (%)	124	57.5	37.7	70.9

⑪ 特別管理加算の算定者の割合

2019年7月～9月（3か月分）の特別管理加算の算定者の割合について、平均は20.3%、中央値は17.8%であった。

図表 4-1-43 特別管理加算の算定者の割合

	回答数	平均	標準偏差	中央値
算定者の割合 (%)	124	20.3	21.1	17.8

⑫ ターミナルケア加算・医療保険のターミナルケア療養費

2018年10月～2019年9月のターミナルケア加算の算定件数について、平均は1.4件、中央値は0.0件、医療保険のターミナルケア療養費が算定された利用者数について、平均は0.8人、中央値は0.0人であった。

図表 4-1-44 ターミナルケア加算・医療保険のターミナルケア療養費

	回答数	平均	標準偏差	中央値
ターミナルケア加算の算定件数 (件) (2018年10月～2019年9月)	203	1.4	2.4	0.0
医療保険のターミナルケア療養費が 算定された利用者数 (人) (2018年10月～2019年9月)	203	0.8	2.1	0.0

3. サービス提供等の状況

(1) 利用者

① 要介護度別人数

10月1日現在の要介護度別登録人数について、「要介護5」が22.5%、「要介護4」が20.4%、「要介護3」が20.2%であった。

図表 4-1-45 要介護度別人数（回答数=224）

単位：人

	合計人数	合計人数 の構成比	平均	標準偏差	中央値
要介護1	744	16.1%	3.3	2.8	3.0
要介護2	962	20.8%	4.3	2.6	4.0
要介護3	931	20.2%	4.2	2.2	4.0
要介護4	940	20.4%	4.2	2.5	4.0
要介護5	1,041	22.5%	4.6	3.3	4.0
合計	4,618	100.0%	20.6	5.9	21.0

② 認知症高齢者の日常生活自立度別人数

10月1日現在の認知症高齢者の日常生活自立度別人数について、「Ⅲ」が33.7%、「Ⅱb」が20.5%であった。

図表 4-1-46 認知症高齢者の日常生活自立度（回答数=204）

単位：人

	合計人数	合計人数 の構成比	平均	標準偏差	中央値
I	479	12.2%	2.3	2.1	2.0
Ⅱa	520	13.2%	2.5	2.4	2.0
Ⅱb	807	20.5%	4.0	2.8	4.0
Ⅲ	1,324	33.7%	6.5	3.4	6.0
Ⅳ	642	16.3%	3.1	2.8	2.0
M	158	4.0%	0.8	1.4	0.0
合計	3,930	100.0%	19.3	6.1	20.0

3. サービス提供等の状況

③ サービス利用開始前の居場所別人数

10月1日現在のサービス利用開始前の居場所別人数について、「自宅」が45.8%、「病院」が36.6%であった。

図表 4-1-47 サービス利用開始前の居場所別人数（回答数=210）

単位：人

	合計人数	合計人数 の構成比	平均	標準偏差	中央値
病院	1,581	36.6%	7.5	4.8	6.5
有床診療所	23	0.5%	0.1	0.9	0.0
老人保健施設又は介護医療院	213	4.9%	1.0	1.6	0.0
特別養護老人ホーム	18	0.4%	0.1	0.4	0.0
自宅	1,977	45.8%	9.4	6.1	8.0
その他居住系のサービス	474	11.0%	2.3	3.1	1.0
その他	33	0.8%	0.2	0.9	0.0
合計	4,319	100.0%	-	-	-

④ 利用者の居場所別人数

10月1日現在の利用者の居場所別人数について、「自宅」が74.1%、「サービス付き高齢者向け住宅」が12.4%、「有料老人ホーム」が9.4%であった。

図表 4-1-48 利用者の居場所別人数（回答数=216）

単位：人

	合計人数	合計人数 の構成比	平均	標準偏差	中央値
自宅	3,282	74.1%	15.2	7.7	15.0
有料老人ホーム	417	9.4%	1.9	5.4	0.0
サービス付き高齢者向け住宅	550	12.4%	2.5	6.0	0.0
養護老人ホーム	0	0.0%	0.0	0.0	0.0
軽費老人ホーム	10	0.2%	0.0	0.4	0.0
その他	168	3.8%	0.8	2.2	0.0
合計	4,427	100.0%	-	-	-

⑤ 該当サービスを提供した人数

2019年9月に該当サービスを1回以上、提供した人数について、通いは平均が20.1人、中央値が21.0人、通いのうち、泊まりの前後でそのまま通いを利用した人数について、平均は8.7人、中央値は9.0人、泊まりについて、平均は9.0人、中央値は9.0人、訪問(介護)について、平均は12.1人、中央値は11.0人、訪問(看護)について、平均は12.3人、中央値は12.0人、リハビリ職による訪問について、平均は1.7人、中央値は0.0人であった。

図表 4-1-49 該当サービスを1回以上、提供した人数

単位：人

	回答数	提供した 人数合計	平均	標準偏差	中央値
通い	173	3,470	20.1	6.0	21.0
通いのうち、泊まりの前後でそのまま通いを利用	173	1,501	8.7	5.6	9.0
泊まり	173	1,552	9.0	4.7	9.0
訪問(介護)	173	2,101	12.1	7.1	11.0
訪問(看護)	173	2,134	12.3	7.9	12.0
リハビリ職による訪問	173	289	1.7	3.9	0.0

3. サービス提供等の状況

⑥ 該当サービスを提供した回数

2019年9月の該当サービス提供回数について、通いは平均が331.8回、中央値が349.0回、泊まりは平均が124.8回、中央値が118.0回、訪問(介護)は平均が481.0回、中央値が258.0回、訪問(看護)は平均が121.4回、中央値が59.0回、リハビリ職による訪問は平均が9.1回、中央値が0.0回であった。

図表 4-1-50 該当サービスを提供した回数

単位：回

	回答数	平均	標準偏差	中央値	利用者1人当たりの提供回数(1回以上利用した利用者の場合)	登録利用者1人あたりの提供回数
通い	173	331.8	119.4	349.0	16.5	15.7
通いのうち、泊まりの前後でそのまま通いを利用	173	118.1	96.6	111.0	13.6	5.6
泊まり	173	124.8	79.7	118.0	13.9	5.9
訪問(介護)	173	481.0	752.1	258.0	39.6	22.8
訪問(看護)	173	121.4	178.6	59.0	9.8	5.8
リハビリ職による訪問	173	9.1	34.9	0.0	5.4	0.4

⑦ 医療保険の訪問看護の利用者数

医療保険の訪問看護の利用者数の利用者数等について、自事業所からの平均は1.5人、中央値は0.0人、サービス提供延べ回数の平均は31.6回、中央値は0.0回であった。他の訪問看護事業所からの平均は0.3人、中央値は0.0人、サービス提供延べ回数の平均は8.8回、中央値は0.0回であった。

図表 4-1-51 医療保険の訪問看護の利用者数等：自事業所から

	回答数	平均	標準偏差	中央値
利用者数(人)	177	1.5	2.8	0.0
サービス提供延べ回数(回)	177	31.6	72.5	0.0

図表 4-1-52 医療保険の訪問看護の利用者数等：他の訪問看護事業所から

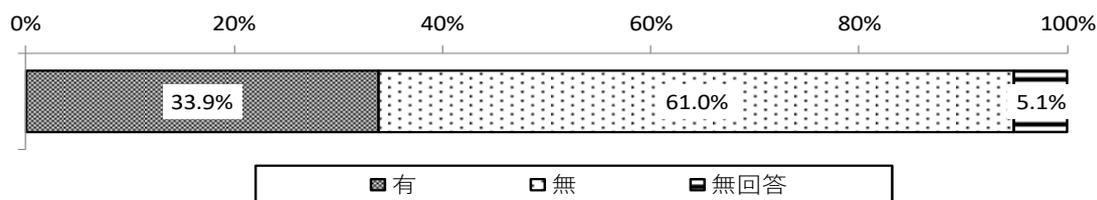
	回答数	平均	標準偏差	中央値
利用者数(人)	177	0.3	1.0	0.0
サービス提供延べ回数(回)	177	8.8	49.0	0.0

(2) 看護業務の一環としてのリハビリテーション

① 通いの時間帯でPT・OT・STによるリハビリテーションのサービス提供

通いの時間帯でPT・OT・STによるリハビリテーションのサービス提供について、「有」が33.9%であった。

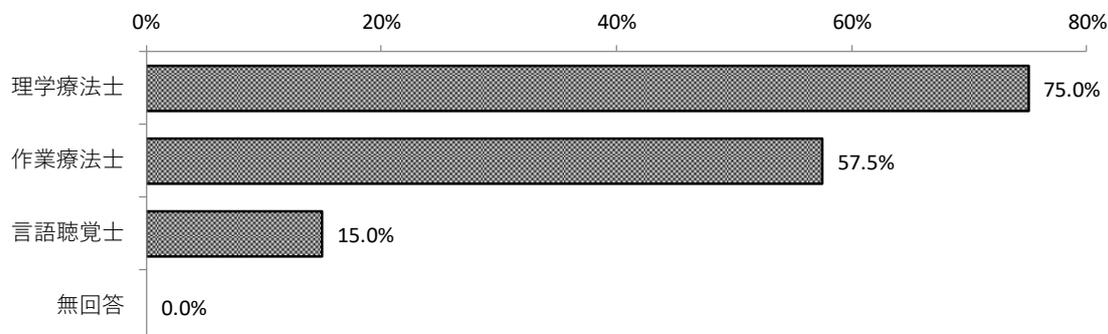
図表 4-1-53 通いの時間帯でPT・OT・STによるリハビリテーションのサービス提供（回答数=236）



② 通いの時間帯でリハビリテーションのサービスを提供している職種

通いの時間帯でリハビリテーションのサービスを提供している職種について、「理学療法士」が75.0%、「作業療法士」が57.5%、「言語聴覚士」が15.0%であった。

図表 4-1-54 通いの時間帯でリハビリテーションのサービスを提供している職種（回答数=80、複数回答）

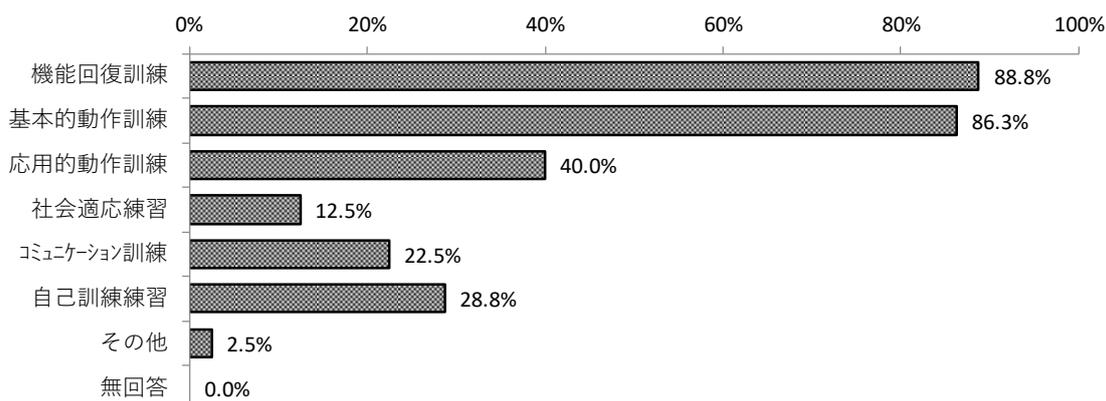


3. サービス提供等の状況

③ 通いの時間帯で提供しているリハビリテーションのサービスの内容

通いの時間帯で提供しているリハビリテーションのサービスの内容について、「機能回復訓練」が 88.8%、「基本的動作訓練」が 86.3%、「応用的動作訓練」が 40.0%であった。

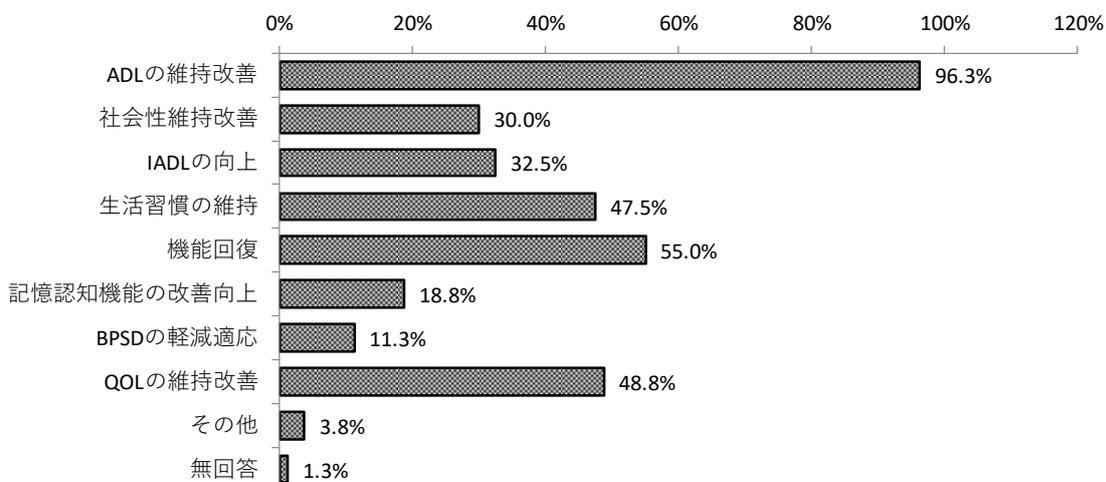
図表 4-1-55 通いの時間帯で提供しているリハビリテーションのサービスの内容
(回答数=80、複数回答)



④ 通いの時間帯でのリハビリテーション等のサービス提供による効果

通いの時間帯でのリハビリテーション等のサービス提供による効果について、「ADLの維持改善」が 96.3%、「機能回復」が 55.0%、「QOLの維持改善」が 48.8%、「生活習慣の維持」が 47.5%であった。

図表 4-1-56 通いの時間帯でのリハビリテーション等のサービス提供による効果
(回答数=80、複数回答)



(3) 利用終了者・人生の最終段階における医療ケア

① 利用終了した利用者の転帰別人数

過去1年以内(2018年10月～2019年9月)に利用終了した利用者の転帰別人数について、「病院・有床診療所への入院」が33.7%、「在宅死亡」が28.6%であった。

入院した病院・有床診療所で「入院後24時間以内の死亡」した人の割合は11.9%、「入院後24時間超48時間以内の死亡」した人の割合は6.3%であった。

図表 4-1-57 利用終了した利用者の転帰別人数 (回答数=211)

	人数の合計	人数の割合	平均	標準偏差	中央値
施設への入所	538	22.3%	2.5	2.9	2.0
病院・有床診療所への入院	811	33.7%	3.8	3.2	3.0
在宅死亡	689	28.6%	3.3	3.7	2.0
うち自事業所内での看取り	446	18.5%	2.1	3.0	1.0
在宅継続	294	12.2%	1.4	1.8	1.0
その他	71	2.9%	0.3	1.0	0.0

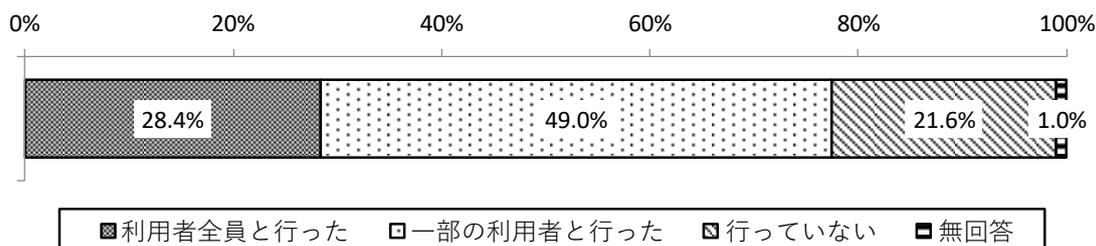
図表 4-1-58 入院した病院・有床診療所での死亡 (回答数=211)

	人数の合計	人数の割合	平均	標準偏差	中央値
入院後24時間以内の死亡	47	11.9%	0.2	0.8	0.0
入院後24時間超48時間以内の死亡	25	6.3%	0.1	0.4	0.0
入院後48時間超の死亡	324	81.8%	1.5	1.9	1.0

② 医療・ケアについて、死亡した利用者自身との生前の話し合い

過去1年以内(2018年10月～2019年9月)に死亡した利用者がいた場合、人生の最終段階における医療・ケアについて、死亡した利用者自身と生前に話し合いを行ったかについて、「一部の利用者で行った」が49.0%、「利用者全員で行った」が28.4%、「行っていない」が21.6%であった。

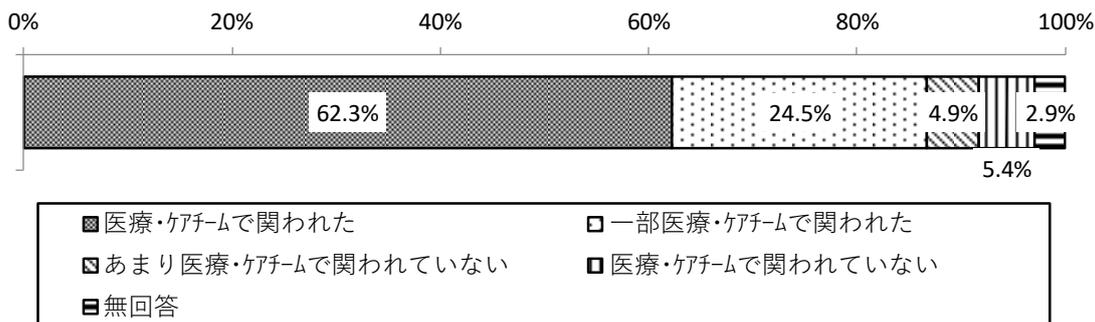
図表 4-1-59 医療・ケアについて、死亡した利用者自身と生前に話し合いを行ったか (回答数=204)



③ 医療・ケアチームとしての関わり

医療・ケアが医療・ケアチームで関わられたかについて、「医療・ケアチームで関わられた」が 62.3%、「一部医療・ケアチームで関わられた」が 24.5%、「医療・ケアチームで関わっていない」が 5.4%であった。

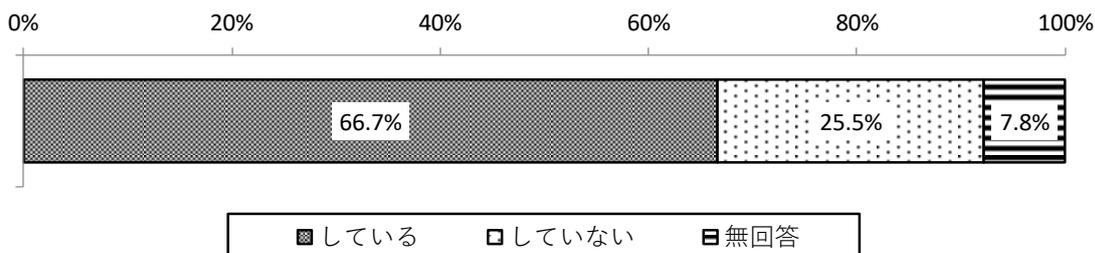
図表 4-1-60 医療・ケアは、医療・ケアチームで関わられたか（回答数=204）



④ 医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン

医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインを参考にしているかについて、「している」が 66.7%、「していない」が 25.5%であった。

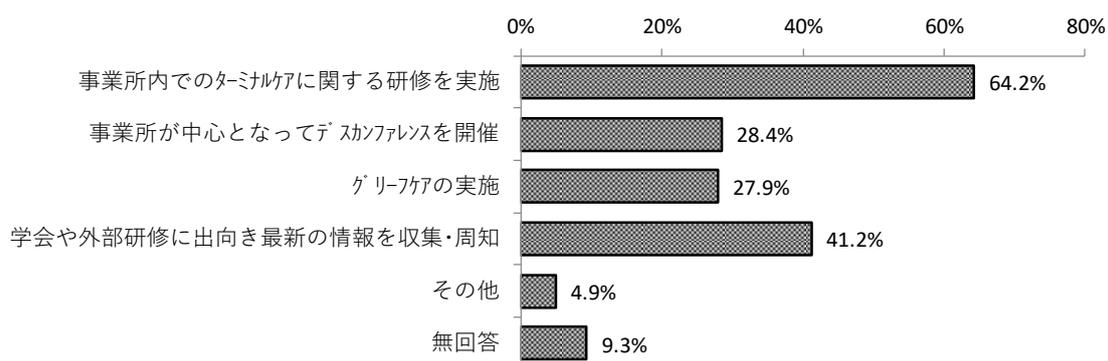
図表 4-1-61 医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインを参考にしているか（回答数=204）



⑤ ターミナルケアに関して充実させたりするために取り組んでいること

ターミナルケアに関して充実させたりするために取り組んでいることについて、「事業所内でのターミナルケアに関する研修を実施」が64.2%、「学会や外部研修に出向き最新の情報を収集・周知」が41.2%であった。

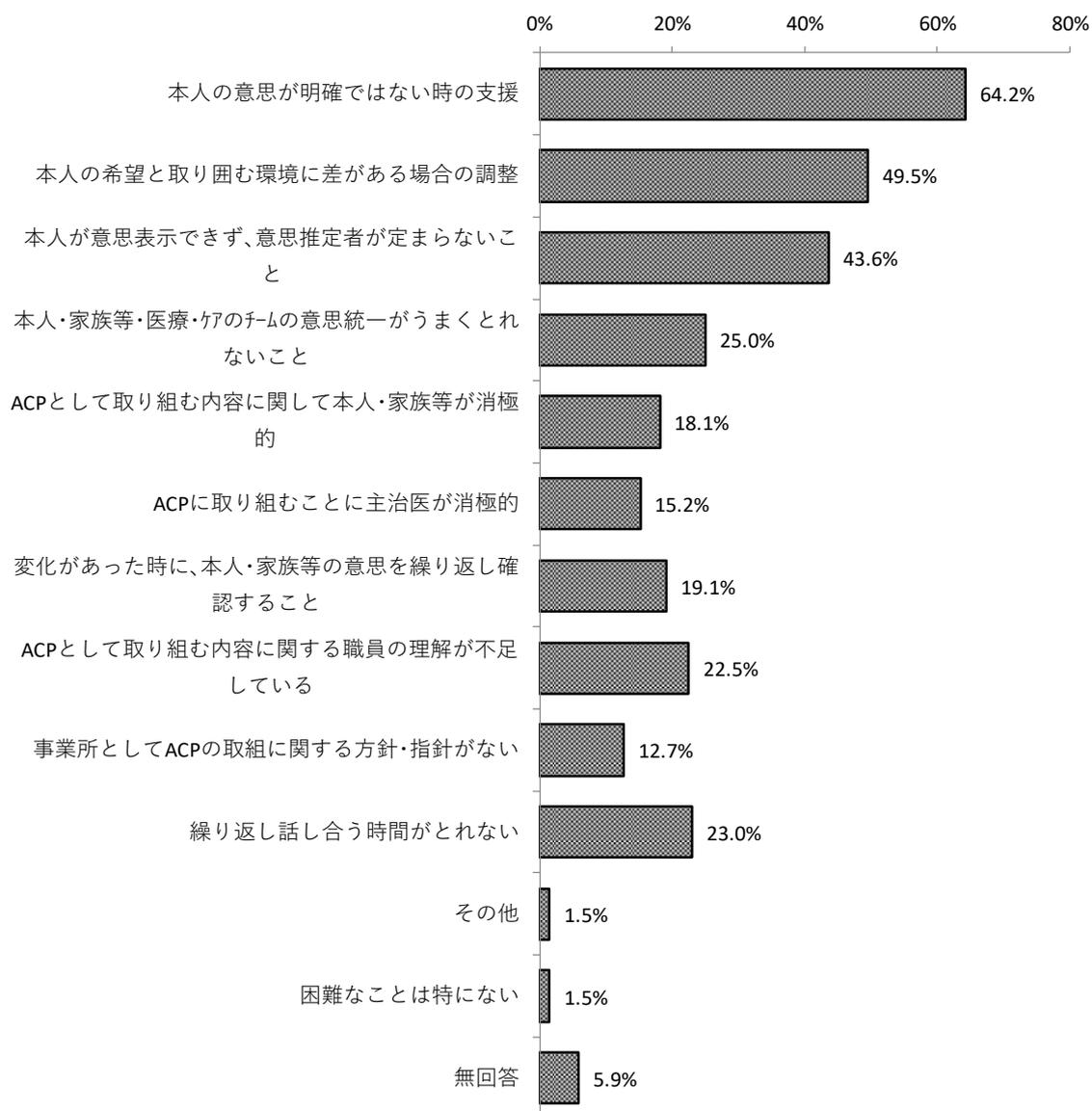
図表 4-1-62 ターミナルケアに関して充実させたりするために取り組んでいること
(回答数=204、複数回答)



⑥ アドバンス・ケア・プランニングに取り組む上で困難なこと

アドバンス・ケア・プランニングに取り組む上で困難なことについて、「本人の意思が明確ではない時の支援」が64.2%、「本人の希望と取り組む環境に差がある場合の調整」が49.5%、「本人が意思表示できず、意思推定者が定まらないこと」が43.6%であった。

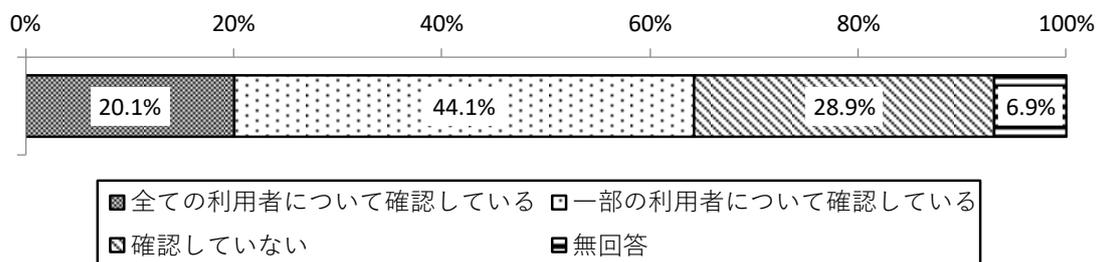
図表 4-1-63 アドバンス・ケア・プランニングに取り組む上で困難なこと（回答数=204、複数回答）



⑦ 利用前の医療機関や介護サービス等で ACP が実施されていたかの確認

利用前の医療機関や介護サービス等で ACP が実施されていたかの確認について、「一部の利用者について確認している」が 44.1%、「確認していない」が 28.9%、「全ての利用者について確認している」が 20.1%であった。

図表 4-1-64 利用前の医療機関や介護サービス等で ACP が実施されていたかの確認
(回答数=204)

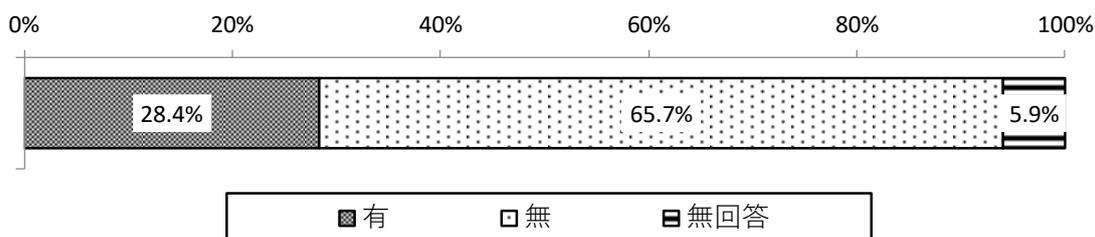


(4) 短期利用

① 過去1年以内の短期利用居宅介護費の算定状況

過去1年以内（2018年10月～2019年9月）の短期利用居宅介護費の算定について、「有」が28.4%であった。短期利用居宅介護費の算定の有の事業所の算定者数について、要介護度別では「要介護5」が最も多く、次いで「要介護2」が多くなっている。

図表 4-1-65 過去1年以内の短期利用居宅介護費の算定の有無（回答数=236）



図表 4-1-66 過去1年以内の短期利用居宅介護費の算定者数（回答数=65）

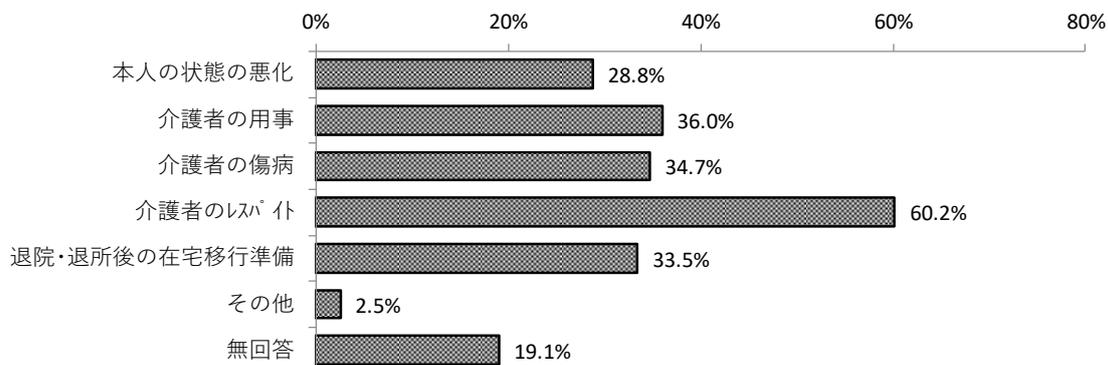
単位：人

	算定者数の合計	平均	標準偏差	中央値
要介護1	71	1.1	1.8	0.0
要介護2	98	1.5	3.0	1.0
要介護3	75	1.2	1.6	0.0
要介護4	86	1.3	2.2	1.0
要介護5	104	1.6	2.7	1.0
その他	12	0.2	1.0	0.0

② 短期利用で対応すると効果的であると考えること

短期利用で対応すると効果的であると考えることについて、「介護者のレスパイト」が60.2%であった。

図表 4-1-67 短期利用で対応すると効果的であると考えること（回答数=236、複数回答）

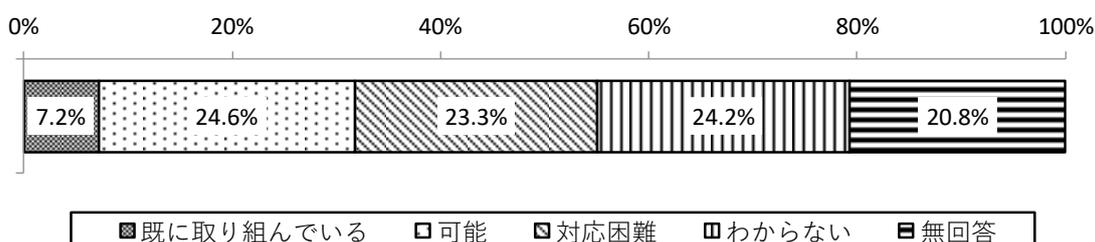


③ 短期利用で看取りを行うこと

短期利用で看取りを行うことについて、「可能」が24.6%、「わからない」が24.2%、「対応困難」が23.3%、「既に取り組んでいる」が7.2%であった。

短期利用で看取りが可能となる条件（自由回答）については、訪問看護等でのそれまでの関わり、本人・家族との信頼関係、家族・担当ケアマネジャー・主治医との連携等の回答がみられた。

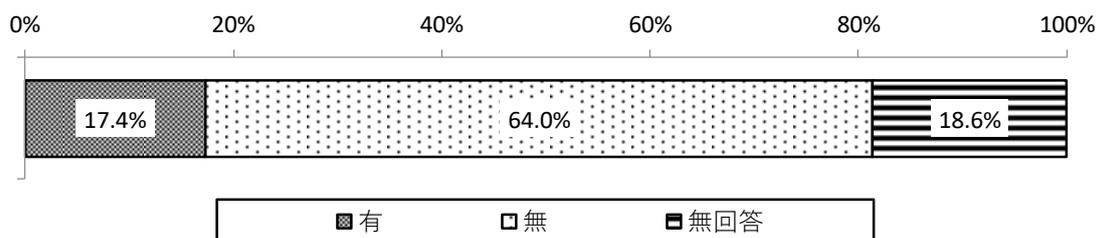
図表 4-1-68 短期利用で看取りを行うこと（回答数=236）



④ 短期利用を受け入れたかったが、受入ができなかった事例

短期利用を受け入れたかったが、受入ができなかった事例について、「有」が17.4%であった。その理由として、登録者が定員で一杯のため、泊まりの定員が一杯のため、職員数の不足等の回答がみられた。

図表 4-1-69 短期利用を受け入れたかったが、受入ができなかった事例の有無（回答数=236）



⑤ 短期利用の受入の場合に困っていることや、短期利用を活用するための提案

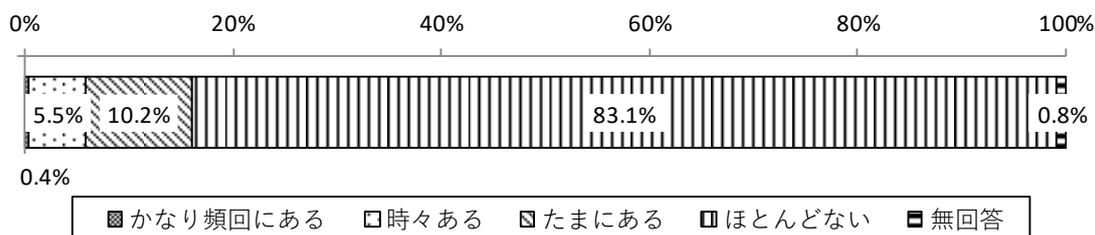
困っていること（自由回答）として、緊急で利用のため情報が少ないまま利用開始となること、医療ニーズが高い場合は夜勤の介護職の不安があること、定員の問題等の回答がみられた。

(5) 通いの人数の上限を超えた受入

① 利用者や家族の希望によって通いの人数上限を超えて受入をすること

利用者や家族の希望によって通いの人数上限を超えて受入をすることについて、「ほとんどない」が83.1%、「たまにある」が10.2%、「時々ある」が5.5%であった。

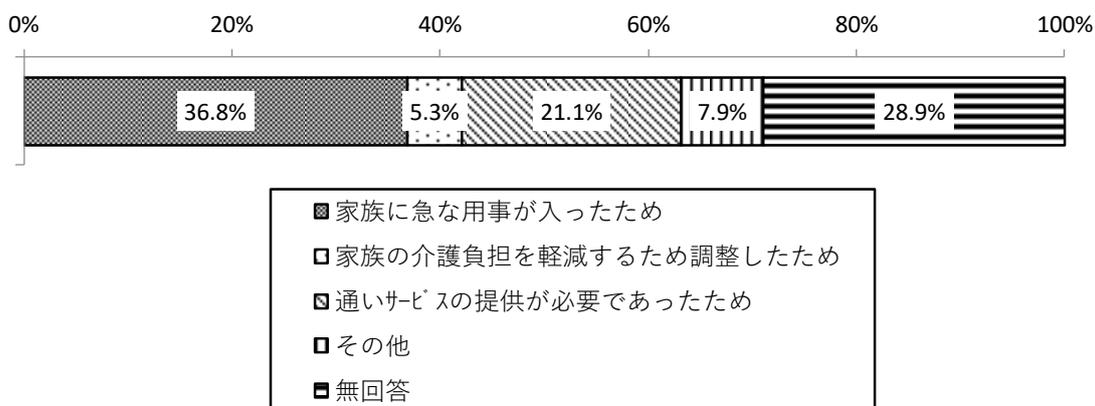
図表 4-1-70 利用者や家族の希望によって通いの人数上限を超えて受入をすること
(回答数=236)



② 通いの人数を超えて受入をする場合によくある理由

通いの人数を超えて受入をする事業所を対象によくある理由を尋ねたところ、「家族に急な用事が入ったため」が36.8%、「通いサービスの提供が必要であったため」が21.1%であった。

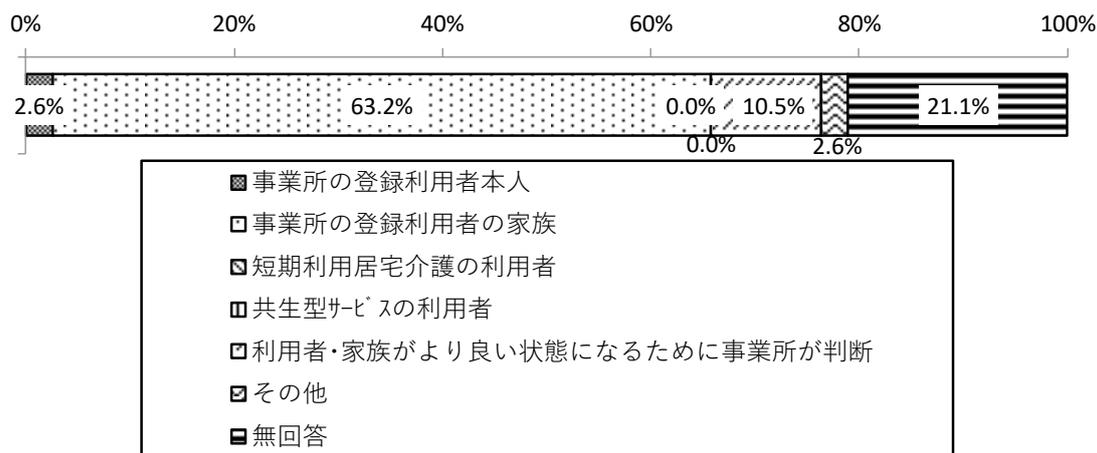
図表 4-1-71 通いの人数を超えて受入をする場合によくある理由 (回答数=38)



③ 希望が多い人のタイプ

通いの人数を超えて受入をする事業所を対象に、どのような人からの希望が多いかを尋ねたところ、「事業所の登録利用者の家族」が63.2%、「利用者・家族がより良い状態になるために事業所が判断」が10.5%であった。

図表 4-1-72 どのような人からの希望が多いか（回答数=38）

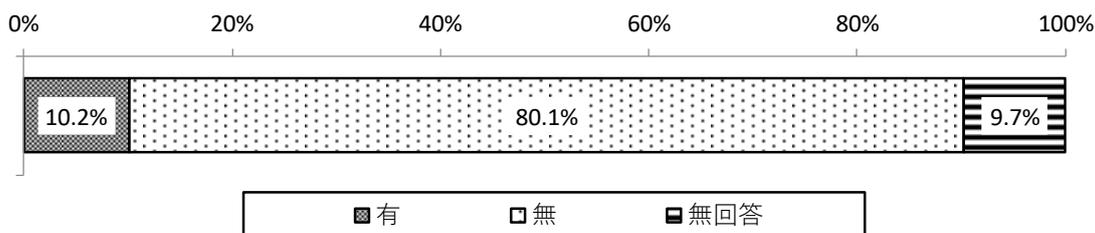


(6) 訪問入浴の利用について

① 訪問入浴サービスを利用できずに困った事例

訪問入浴サービスを利用できずに困った事例の有無について、「無」が 80.1%、「有」が 10.2%であった。

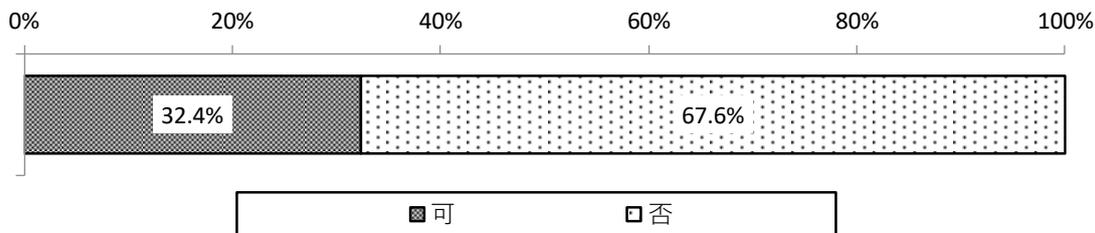
図表 4-1-73 訪問入浴サービスを利用できずに困った事例の有無（回答数=236）



② 通いの利用の可否

過去1年間の訪問入浴を利用できずに困った方（事例有の事業所で該当者が複数いる場合はすべての方）について34人の回答を得た。通いの利用の可否については、「可」が32.4%であった。

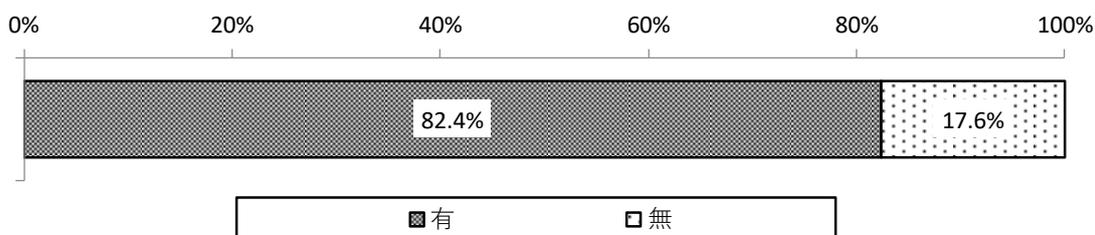
図表 4-1-74 通いの利用の可否（該当者数=34）



③ 本人・家族の訪問入浴の希望状況

過去1年間の訪問入浴を利用できずに困った方を対象に、本人・家族の訪問入浴の希望について尋ねたところ、「有」が82.4%であった。

図表 4-1-75 本人・家族の訪問入浴の希望の有無（該当者数=34）



○疾患名（34人）

がん末期9人、脳血管疾患等7人、肺炎3人、神経難病5人、老衰2人、
認知症2人、その他6人

○特記事項

（本人・家族の訪問入浴の希望有）

- ・ターミナルで通いができず、訪問入浴も使えなかったため、自宅での入浴ができなかった。（すい臓がん末期）
- ・通いに来れない状態になった時、訪問入浴を希望される。（ALS）
- ・腰椎転移があり坐居では骨折の可能性がある。併社は坐居の機械浴しかない為。（膀胱癌・骨転移）
- ・坐居の姿勢が難しい為。（脳出血）
- ・体格が大きく、移乗にマンパワーが必要。（神経難病）
- ・体格よく、人工呼吸器使用していた。施設での入浴が大変だったので入浴サービスが使えればもっとスムーズで回数も増やせる。（クモ膜下出血レスピレーター）
- ・IVHポート、気切あり、通所は希望なし、とまりのみ希望だった。訪問入浴利用できないため、登録できず。（血液疾患）
- ・看多機への通いでおフロ拒否。家だったら入るといふことで利用したかった。（認知症）
- ・自宅で看取る場合最期に入浴ができない。（がん末期）

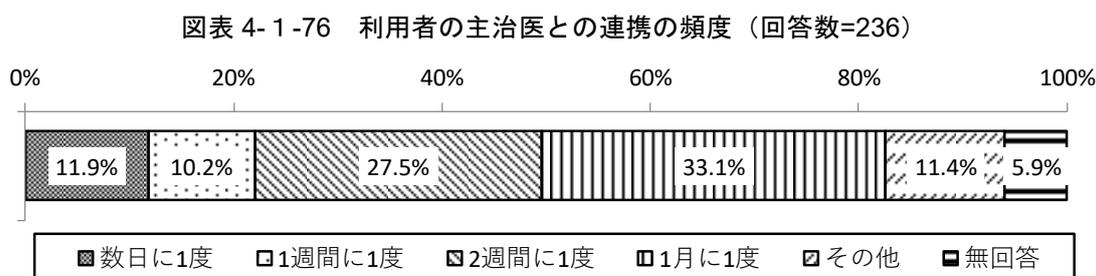
（本人・家族の訪問入浴の希望無）

- ・希望がないというより通えなくなった段階で諦めている。（がん末期）
- ・希望がないというより通えなくなった段階で諦めている。（認知症末期）
- ・通いができなくなり寝たきりとなる。（脳梗塞後遺症）
- ・一般浴槽のみで機械浴がないため。（四肢マヒ）

(7) 主治医・ケアマネジャーとの連携

① 利用者の主治医との連携の頻度

利用者の主治医との連携の頻度について、「1月に1度」が33.1%、「2週間に1度」が27.5%であった。

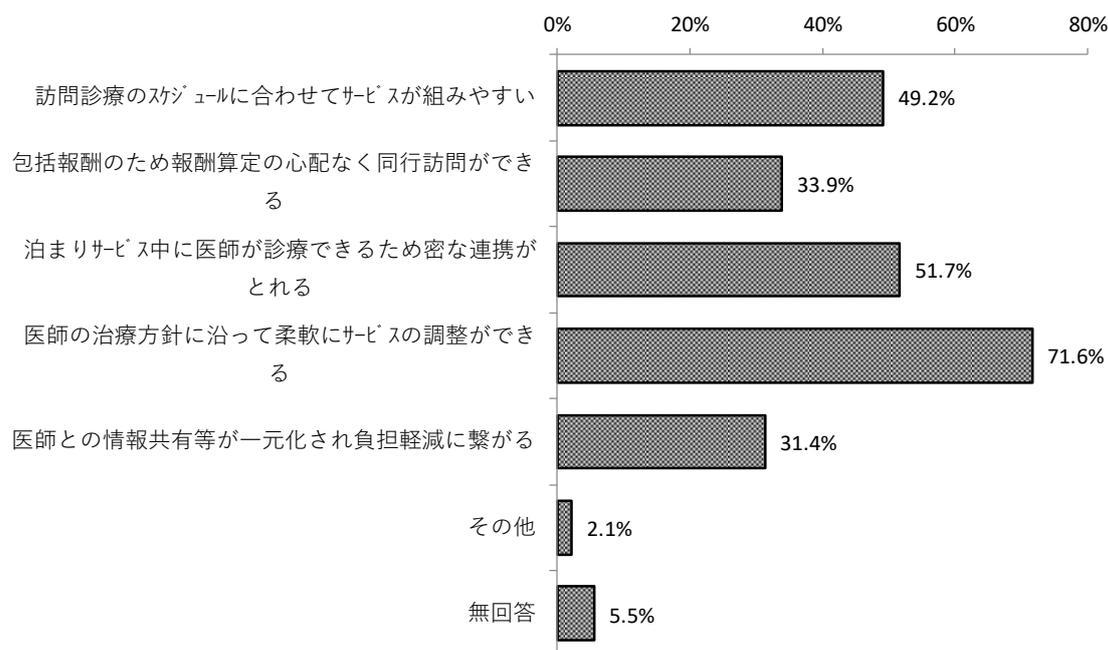


② 包括報酬の看多機において主治医と連携する上での利点・課題

包括報酬の看多機において主治医と連携する上での利点について、「医師の治療方針に沿って柔軟にサービスの調整ができる」が71.6%、「泊まりサービス中に医師が診療できるため密な連携がとれる」が51.7%、「訪問診療のスケジュールに合わせてサービスが組みやすい」が49.2%であった。

課題（自由回答）として、医師との情報や考え方の共有・コミュニケーション、訪問診療が泊まりサービスに限られていることなどの回答がみられた。

図表 4-1-77 包括報酬の看多機において主治医と連携する上での利点 (回答数=236、複数回答)



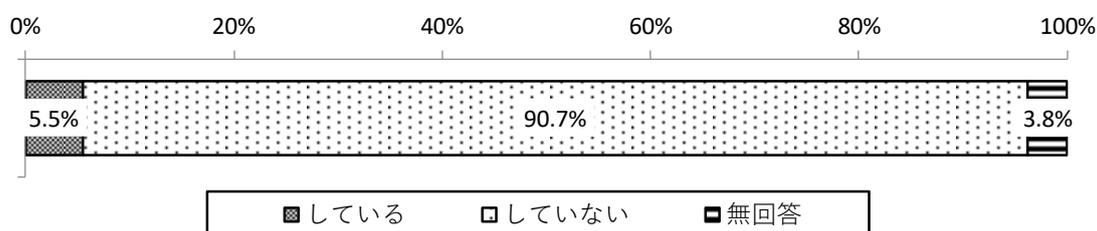
③ 事業所の利用者以外のケアマネジメント

介護支援専門員は事業所の利用者以外のケアマネジメントをしているかについて、「していない」が90.7%、「している」が5.5%であった。

事業所以外の利用者数について、平均は18.8人、中央値は19.0人であった。

ケアマネジメントに関する課題（自由回答）について、状態変化が早いことへの対応などの回答がみられた。

図表 4-1-78 介護支援専門員は事業所の利用者以外のケアマネジメントをしているか（回答数=236）



図表 4-1-79 事業所以外の利用者数

単位：人

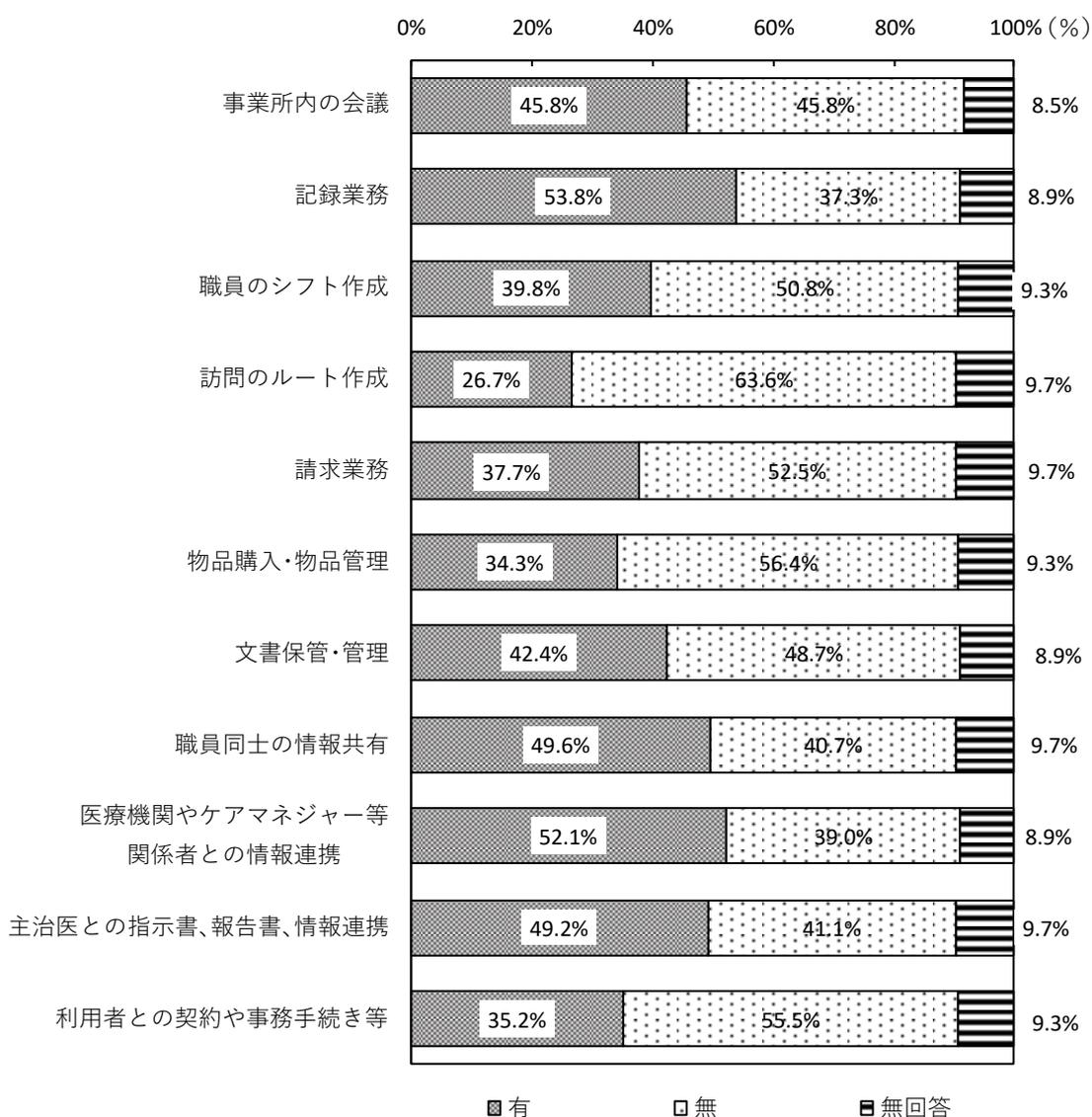
	回答数	平均	標準偏差	中央値
利用者数	10	18.8	10.1	19.0

4. 業務の課題や改善

① 今後の業務改善・効率化の意向

今後の業務改善・効率化の意向について、「有」は記録業務で 53.8%、医療機関やケアマネジャー等関係者との情報連携で 52.1%であった。

図表 4-1-80 今後の業務改善・効率化の意向（回答数=236）



② 改善・効率化方法

改善・効率化方法について、ICT導入で「記録業務」が42.8%、「職員同士の情報共有」が35.2%、「医療機関やケアマネジャー等関係者との情報連携」が32.2%、「主治医との指示書、報告書、情報連携」が36.0%、他事業所との連携で「事業所内の会議」と「医療機関やケアマネジャー等関係者との情報連携」が19.9%であった。

他職種への業務委譲（自由回答）として、利用者の見守り、薬の管理、食事の準備、物品管理、送迎、電話対応などについての回答がみられた。改善や効率化したい方法（自由回答）として、ロボットの導入などに関する回答がみられた。

図表 4-1-81 効率化方法（回答数=236、複数回答）

	ICT 導入	他事業所との連携	他職種へ業務委譲
事業所内の会議	22.0%	19.9%	4.2%
記録業務	42.8%	4.7%	4.2%
職員のシフト作成	27.1%	3.8%	5.1%
訪問のルート作成	16.9%	3.0%	5.1%
請求業務	22.9%	2.5%	8.9%
物品購入・物品管理	18.6%	3.4%	11.0%
文書保管・管理	28.8%	1.7%	11.0%
職員同士の情報共有	35.2%	11.9%	4.2%
医療機関やケアマネジャー等関係者との情報連携	32.2%	19.5%	5.1%
主治医との指示書、報告書、情報連携	36.0%	11.9%	3.8%
利用者との契約や事務手続き等	19.1%	5.5%	10.2%

③ 運営推進会議について複数の事業所で合同での開催

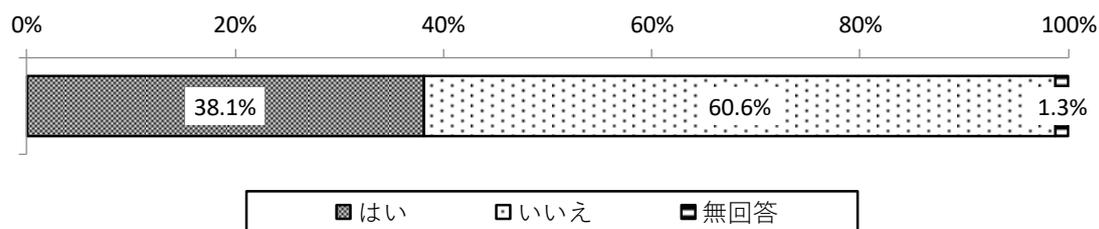
運営推進会議について複数の事業所で合同での開催について、「いいえ」が 60.6%、「はい」が 38.1%であった。2019 年度中の合同開催回数について、平均が 3.0 回、中央値が 1.0 回であった。

運営推進会議の合同開催の効果（自由回答）について、他の事業所や地域の社会資源の状況が分かること、参加者の負担軽減などが回答されている。

運営会議を合同開催しない理由（自由回答）について、自事業所のみでの開催で支障となっていない、スケジュールが合わせにくい、知らなかったなどの回答がみられた。

運営推進会議についての課題・参加者の負担軽減方策（自由回答）について、頻度が多いこと、マンネリ化、意見が出ないこと等の課題と、わかりやすく情報提供をすることやイベント併催にするなどの回答がみられた。

図表 4-1-82 運営推進会議について複数の事業所で合同での開催（回答数=236）



図表 4-1-83 2019 年度の合同開催回数

単位：回

	回答数	平均	標準偏差	中央値
合同開催回数	32	3.0	5.4	1.0

④ 看護小規模多機能型居宅介護事業所が増えない理由または事業者が参入しない理由
 や増加のための策

【主な回答】

人材不足：看護師、介護職員
医療ニーズの高い中重度者を受け入れるには、介護、看護職員のスキルが求められる。
4つのサービスを柔軟に対応しなければならない為、オールマイティに対応できる人材確保が難しい。
全てを1事業所で対応するには負担が大きい。
送迎についての負担が大きい。当事業所で送迎できない場合は、事業所負担で外部送迎に委託している。
介護度によるサービスの線引きがなく、調整しづらい。泊まりを利用される利用者の率が決まっている為、やむを得ずの帰宅もある。
4つのサービスを柔軟に運営できるという事は、利用者ニーズも多様的になり、マンパワーや配置の柔軟性にシフトを組むのもひと苦労している。
かなりスタッフ自身（介護職）が医療の知識や看護職のサポートの技術が必要である為そのレベルの人員確保が困難。また24時間対応なのでスタッフ全員が利用者に対する熱い思いが必要。
介護報酬が少ない
経営が赤字。
資金力不足（建物・土地）等の支援があれば増える。
介護保険要件、運営基準等が複雑で曖昧。
地域ルールが多さ。（市への確認など）
ケアマネが代わってしまう。
予防給付も対象としてはどうか
地域の限定がある為利用者確保が困難。
認知度が低い。
医療機関の医師が看多機について理解されていない。一部の医師にしか浸透されていない。経営難。

4. 業務の課題や改善

⑤ 看護小規模多機能型居宅介護を運営する上で負担になっている基準や仕組み、および仕組みや報酬で改善してほしいこと

【主な回答】

人員基準。資格要件。
当自治体では前年度の利用者数で職員を配置している。その為日により利用者が少ない時もある程度配置しなければならない。
登録人数、通い人数に制限があるので日々の利用に制限がかかる。
通い、泊まりの制限（1日）
「泊まり」定員が少ない
低所得者の負担減免制度が整っていない
運営基準等が地域特性、事業者の方針に合致していない所があり、事業所の特性、個性を發揮できていない。
一つの事業所にすべてが負担が大きい。24時間365日の対応
「通い」は365日になっているが、現在の状況では日・祝は休みになるとよい（人員不足その他）
中重度をかかえ消耗品の負担が大きい（手袋、ティッシュ、アルコール他）
定額であること。
他のサービス（福祉用具以外）との併用ができない（通ってくるのが難しい人など訪問入浴を利用したい人もいる）。
包括報酬だからこそ独自の収入が得づらい。
地域との交流が義務づけられているので仕事が多岐に渡る。
事業所での訪問診療を可能にしていきたい。
リハビリテーションの導入や継続が望しい人への対応ができない（通所リハの併用不可）。
受診同行や介護タクシーが他を使えず、1事業所で対応しなければならないこと。
障害ヘルパーとの併用が難しい。
訪問診療を通所利用時でも可能にしてほしい。
通い中の急変又は体調不良後、自宅に帰らないといけないところが負担。
退院後、看取りを目的とした看多機利用にもかかわらず、一度自宅で訪問看護をしないと、ターミナル加算等につかないのは、おかしい。
医療依存度の高い利用者を受け入れても、医療での訪問看護については、同一敷地内の利用の減算があるため、収入につながらない。
（訪問）入浴サービスの利用ができるようにしたい。
福祉用具を使いたい時に、限度額をすぐ超えてしまい、利用者負担額が増えてしまう。
当直制度は必要か。
2ヵ月に1回の運営推進会議
第三者評価、で時間をとられすぎる。運営推進会議の出席者に40項目以上をみて意見をもらうのは心苦しい。

第2節 看護小規模多機能居宅介護事業所 利用者調査票

1. 対象者の抽出理由

看護小規模多機能居宅介護事業所利用者調査票は、559件回収できた。

対象者の抽出理由別には、「要介護者として、無作為抽出で対象となった」が362件、「R1.6～8月中旬に医療機関退院直後の利用者として、抽出の対象となった」が202件、「R1.6～9月中旬に看取りを行ったため、対象となった」が156件であった。

図表 4-2-1 対象者の抽出理由（複数回答）

単位：件

回答利用者数	要介護者として、無作為抽出で対象となった	R1.6～8月中旬に医療機関退院直後の利用者として、抽出の対象となった	R1.6～9月中旬に看取りを行ったため、対象となった
559	362	202	156

2. 共通項目

(1) 利用者の基本情報

① 年齢

年齢について、要介護者では、「85～94歳」が44.5%、「75～84歳」が31.2%、「65～74歳」が11.9%であった。退院直後の利用者では、「85～94歳」が43.1%、「75～84歳」が35.1%、「65～74歳」が12.4%であった。看取りを行った利用者では、「85～94歳」が48.1%、「75～84歳」が26.9%、「95歳以上」が10.9%であった。

図表 4-2-2 年齢

	回答利用者数	40～64歳	65～74歳	75～84歳	85～94歳	95歳以上	無回答
要介護者	362 100.0%	11 3.0%	43 11.9%	113 31.2%	161 44.5%	30 8.3%	4 1.1%
退院直後の利用者	202 100.0%	9 4.5%	25 12.4%	71 35.1%	87 43.1%	9 4.5%	1 0.5%
看取りを行った利用者	156 100.0%	6 3.8%	11 7.1%	42 26.9%	75 48.1%	17 10.9%	5 3.2%

② 住まい

住まいについて、要介護者では、「本人の家」が76.0%、「居住系サービス」が20.4%であった。退院直後の利用者では、「本人の家」が77.2%、「居住系サービス」が17.8%であった。看取りを行った利用者では、「本人の家」が76.9%、「居住系サービス」が19.2%であった。

図表 4-2-3 住まい

	回答利用者数	本人の家	居住系サービス	その他	無回答
要介護者	362 100.0%	275 76.0%	74 20.4%	11 3.0%	2 0.6%
退院直後の利用者	202 100.0%	156 77.2%	36 17.8%	10 5.0%	0 0.0%
看取りを行った利用者	156 100.0%	120 76.9%	30 19.2%	5 3.2%	1 0.6%

③ 世帯構成

世帯構成について、要介護者では、「独居」が33.4%、「配偶者はおらず、同居者あり（同居者のいずれか又は全員が65歳未満）」が21.3%、「夫婦のみ世帯（配偶者が65歳以上）」が18.0%であった。退院直後の利用者では、「独居」が29.7%、「配偶者はおらず、同居者あり（同居者のいずれか又は全員が65歳未満）」が20.3%、「夫婦のみ世帯（配偶者が65歳以上）」が19.8%であった。看取りを行った利用者では、「独居」が28.2%、「配偶者はおらず、同居者あり（同居者のいずれか又は全員が65歳未満）」が23.1%、「配偶者の他に同居者あり（配偶者、同居者のいずれか又は全員が65歳未満）」が19.9%であった。

図表 4-2-4 世帯構成

	回答利用者数	独居	夫婦のみ世帯 (配偶者が 65歳 以上)	夫婦のみ世帯 (配偶 者が 65歳 未満)	配偶者 の他に 同居者 あり (配偶 者・同 居者全 員が 65歳 以上)	配偶者 の他に 同居者 あり (配偶 者、同 居者の いずれ か又は 全員が 65歳 未満)	配偶者 はおら ず、同 居者あ り(同 居者は 全員 65歳 以上)	配偶者 はおら ず、同 居者あ り(同 居者の いずれ か又は 全員が 65歳 未満)	無回答
要介護者	362 100.0%	121 33.4%	65 18.0%	10 2.8%	5 1.4%	55 15.2%	25 6.9%	77 21.3%	4 1.1%
退院直後の利用者	202 100.0%	60 29.7%	40 19.8%	10 5.0%	1 0.5%	37 18.3%	12 5.9%	41 20.3%	1 0.5%
看取りを行った利用者	156 100.0%	44 28.2%	22 14.1%	6 3.8%	1 0.6%	31 19.9%	11 7.1%	36 23.1%	5 3.2%

2. 共通項目

④ 日中の状態

日中の状態について、要介護者では、「日中独居ではない」が 52.8%、「日中独居」が 45.6%であった。退院直後の利用者では、「日中独居ではない」が 52.5%、「日中独居」が 45.5%であった。看取りを行った利用者では、「日中独居ではない」が 52.6%、「日中独居」が 43.6%であった。

図表 4-2-5 日中の状態

	回答利用者数	日中独居	日中独居ではない	無回答
要介護者	362 100.0%	165 45.6%	191 52.8%	6 1.7%
退院直後の利用者	202 100.0%	92 45.5%	106 52.5%	4 2.0%
看取りを行った利用者	156 100.0%	68 43.6%	82 52.6%	6 3.8%

⑤ 介護力

介護力について、要介護者では、「時間帯によって介護できる人がいる」が 47.0%、「常時、介護できる人がいる」が 28.2%、「介護できる人はいない」が 22.9%であった。退院直後の利用者では、「時間帯によって介護できる人がいる」が 45.5%、「常時、介護できる人がいる」が 32.7%、「介護できる人はいない」が 20.8%であった。看取りを行った利用者では、「時間帯によって介護できる人がいる」が 40.4%、「常時、介護できる人がいる」が 34.0%、「介護できる人はいない」が 21.8%であった。

図表 4-2-6 介護力

	回答利用者数	介護できる人はいない	時間帯によって介護できる人がいる	常時、介護できる人がいる	無回答
要介護者	362 100.0%	83 22.9%	170 47.0%	102 28.2%	7 1.9%
退院直後の利用者	202 100.0%	42 20.8%	92 45.5%	66 32.7%	2 1.0%
看取りを行った利用者	156 100.0%	34 21.8%	63 40.4%	53 34.0%	6 3.8%

⑥ 利用開始時期

利用開始時期について、要介護者では、「3か月以内」が30.1%、「2年以上前」が19.9%であった。退院直後の利用者では、「3か月以内」が66.3%、「3か月以上6か月以内」が33.7%であった。看取りを行った利用者では、「3か月以上6か月以内」が34.0%、「3か月以内」が21.2%であった。

図表 3-2-7 利用開始時期

(10月1日時点)

	回答利用者数	3か月以内	3か月以上6か月以内	6か月以上1年以内	1年以上2年以内	2年以上前	無回答
要介護者	362 100.0%	109 30.1%	58 16.0%	54 14.9%	67 18.5%	72 19.9%	2 0.6%
退院直後の利用者	202 100.0%	134 66.3%	68 33.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
看取りを行った利用者	156 100.0%	33 21.2%	53 34.0%	26 16.7%	20 12.8%	22 14.1%	2 1.3%

⑦ 利用開始前の居場所

利用開始前の居場所について、要介護者では、「病院」が55.0%、「自宅」が30.1%、「その他の居住系サービス」が6.1%であった。退院直後の利用者では、「病院」が90.1%、「自宅」が4.5%、「介護老人保健施設・介護医療院」が1.5%であった。看取りを行った利用者では、「病院」が46.8%、「自宅」が35.9%、「その他の居住系サービス」が9.0%であった。

図表 4-2-8 利用開始前の居場所

	回答利用者数	病院	有床診療所	介護老人保健施設・介護医療院	特別養護老人ホーム	自宅	その他の居住系サービス	その他	無回答
要介護者	362 100.0%	199 55.0%	2 0.6%	15 4.1%	1 0.3%	109 30.1%	22 6.1%	8 2.2%	6 1.7%
退院直後の利用者	202 100.0%	182 90.1%	2 1.0%	3 1.5%	0 0.0%	9 4.5%	1 0.5%	0 0.0%	5 2.5%
看取りを行った利用者	156 100.0%	73 46.8%	0 0.0%	6 3.8%	0 0.0%	56 35.9%	14 9.0%	3 1.9%	4 2.6%

2. 共通項目

⑧ 受診状況

受診状況について、要介護者では、「訪問診療・往診を受けた」が51.1%、「外来受診した」が47.2%、「いずれもなし」が3.3%であった。退院直後の利用者では、「訪問診療・往診を受けた」が57.9%、「外来受診した」が39.6%、「いずれもなし」が3.0%であった。看取りを行った利用者では、「訪問診療・往診を受けた」が85.3%、「外来受診した」が8.3%、「いずれもなし」が3.8%であった。

図表 4-2-9 受診の有無

	回答利用者数	訪問診療・往診を受けた	外来受診した	いずれもなし	無回答
要介護者	362 100.0%	185 51.1%	171 47.2%	12 3.3%	7 1.9%
退院直後の利用者	202 100.0%	117 57.9%	80 39.6%	6 3.0%	4 2.0%
看取りを行った利用者	156 100.0%	133 85.3%	13 8.3%	6 3.8%	6 3.8%

⑨ 要介護度:利用開始時

要介護度:利用開始時について、要介護者では、「要介護5」が21.3%、「要介護2」が19.9%、「要介護4」が19.6%であった。退院直後の利用者では、「要介護5」が26.7%、「要介護4」が21.8%、「要介護3」が18.3%であった。看取りを行った利用者では、「要介護5」が32.7%、「要介護4」が21.2%、「要介護2」が17.3%、「要介護3」が17.3%であった。

図表 4-2-10 要介護度:利用開始時

	回答利用者数	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
要介護者	362 100.0%	65 18.0%	72 19.9%	68 18.8%	71 19.6%	77 21.3%	9 2.5%
退院直後の利用者	202 100.0%	28 13.9%	31 15.3%	37 18.3%	44 21.8%	54 26.7%	8 4.0%
看取りを行った利用者	156 100.0%	13 8.3%	27 17.3%	27 17.3%	33 21.2%	51 32.7%	5 3.2%

⑩ 要介護度:直近の認定

要介護度:直近の認定について、要介護者では、「要介護 5」が 26.2%、「要介護 4」が 22.4%、「要介護 3」が 21.3%であった。退院直後の利用者では、「要介護 5」が 26.2%、「要介護 4」が 25.2%、「要介護 3」が 18.3%であった。看取りを行った利用者では、「要介護 5」が 46.2%、「要介護 4」が 23.1%、「要介護 3」が 12.8%であった。

図表 4-2-11 要介護度:直近の認定

	回答利用者数	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	無回答
要介護者	362 100.0%	44 12.2%	56 15.5%	77 21.3%	81 22.4%	95 26.2%	9 2.5%
退院直後の利用者	202 100.0%	22 10.9%	29 14.4%	37 18.3%	51 25.2%	53 26.2%	10 5.0%
看取りを行った利用者	156 100.0%	6 3.8%	15 9.6%	20 12.8%	36 23.1%	72 46.2%	7 4.5%

2. 共通項目

⑪ 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度について、要介護者では、「Ⅲ a」が 22.7%、「Ⅱ b」が 19.3%、「Ⅳ」が 14.1%であった。退院直後の利用者では、「Ⅳ」が 17.3%、「Ⅱ b」が 16.3%、「Ⅰ」が 14.4%であった。看取りを行った利用者では、「Ⅳ」が 19.9%、「自立」が 13.5%、「Ⅲ a」が 13.5%であった。

図表 4-2-12 認知症高齢者の日常生活自立度

	回答利用者数	自立	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅳ	M
要介護者	362	31	31	43	70	82	27	51	15
	100.0%	8.6%	8.6%	11.9%	19.3%	22.7%	7.5%	14.1%	4.1%
退院直後の利用者	202	24	29	19	33	29	13	35	8
	100.0%	11.9%	14.4%	9.4%	16.3%	14.4%	6.4%	17.3%	4.0%
看取りを行った利用者	156	21	14	11	18	21	20	31	10
	100.0%	13.5%	9.0%	7.1%	11.5%	13.5%	12.8%	19.9%	6.4%

	回答利用者数	不明	無回答
要介護者	362	1	11
	100.0%	0.3%	3.0%
退院直後の利用者	202	3	9
	100.0%	1.5%	4.5%
看取りを行った利用者	156	7	3
	100.0%	4.5%	1.9%

⑫ 日常生活自立度

日常生活自立度について、要介護者では、「B 2」が 17.7%、「A 2」が 16.0%、「B 1」が 14.9%であった。退院直後の利用者では、「B 2」が 22.3%、「C 2」が 19.3%、「B 1」が 15.3%であった。看取りを行った利用者では、「C 2」が 37.2%、「B 2」が 17.9%、「C 1」が 16.7%であった。

図表 4-2-13 日常生活自立度

	回答利用者数	自立	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1
要介護者	362	8	7	32	48	58	54	64	25
	100.0%	2.2%	1.9%	8.8%	13.3%	16.0%	14.9%	17.7%	6.9%
退院直後の利用者	202	3	0	11	20	24	31	45	20
	100.0%	1.5%	0.0%	5.4%	9.9%	11.9%	15.3%	22.3%	9.9%
看取りを行った利用者	156	3	2	3	5	11	13	28	26
	100.0%	1.9%	1.3%	1.9%	3.2%	7.1%	8.3%	17.9%	16.7%

	回答利用者数	C 2	不明	無回答
要介護者	362	54	1	11
	100.0%	14.9%	0.3%	3.0%
退院直後の利用者	202	39	2	7
	100.0%	19.3%	1.0%	3.5%
看取りを行った利用者	156	58	4	3
	100.0%	37.2%	2.6%	1.9%

⑬ ADL の状況

要介護者では、入浴で「一部介助」が42.8%、「全面介助」が50.0%、排泄で「一部介助」が30.9%、「全面介助」が42.8%であった。退院直後の利用者では、入浴で「一部介助」が35.1%、「全面介助」が59.9%、排泄で「一部介助」が25.2%、「全面介助」が53.5%であった。看取りを行った利用者では、入浴で「一部介助」が3.8%、「全面介助」が88.5%、着替で「一部介助」が10.9%、「全面介助」が85.9%であった。

図表 4-2-14 ADL の状況（要介護者）

	回答利用者数	自立	一部介助	全面介助	その他	無回答
移動	362 100.0%	63 17.4%	142 39.2%	142 39.2%	5 1.4%	10 2.8%
食事	362 100.0%	160 44.2%	104 28.7%	71 19.6%	15 4.1%	12 3.3%
排泄	362 100.0%	84 23.2%	112 30.9%	155 42.8%	0 0.0%	11 3.0%
入浴	362 100.0%	14 3.9%	155 42.8%	181 50.0%	1 0.3%	11 3.0%
着替	362 100.0%	66 18.2%	144 39.8%	140 38.7%	0 0.0%	12 3.3%
整容	362 100.0%	87 24.0%	136 37.6%	127 35.1%	0 0.0%	12 3.3%
意思疎通	362 100.0%	166 45.9%	110 30.4%	64 17.7%	7 1.9%	15 4.1%

図表 4-2-15 ADL の状況（退院直後の利用者）

	回答利用者数	自立	一部介助	全面介助	その他	無回答
移動	202 100.0%	27 13.4%	63 31.2%	105 52.0%	3 1.5%	4 2.0%
食事	202 100.0%	78 38.6%	52 25.7%	55 27.2%	13 6.4%	4 2.0%
排泄	202 100.0%	38 18.8%	51 25.2%	108 53.5%	1 0.5%	4 2.0%
入浴	202 100.0%	5 2.5%	71 35.1%	121 59.9%	1 0.5%	4 2.0%
着替	202 100.0%	33 16.3%	64 31.7%	100 49.5%	1 0.5%	4 2.0%
整容	202 100.0%	44 21.8%	61 30.2%	92 45.5%	1 0.5%	4 2.0%
意思疎通	202 100.0%	93 46.0%	56 27.7%	41 20.3%	7 3.5%	5 2.5%

図表 4-2-16 ADL の状況（看取りを行った利用者）

	回答利用者数	自立	一部介助	全面介助	その他	無回答
移動	156 100.0%	3 1.9%	16 10.3%	130 83.3%	4 2.6%	3 1.9%
食事	156 100.0%	8 5.1%	22 14.1%	100 64.1%	23 14.7%	3 1.9%
排泄	156 100.0%	5 3.2%	14 9.0%	132 84.6%	2 1.3%	3 1.9%
入浴	156 100.0%	1 0.6%	6 3.8%	138 88.5%	8 5.1%	3 1.9%
着替	156 100.0%	1 0.6%	17 10.9%	134 85.9%	1 0.6%	3 1.9%
整容	156 100.0%	2 1.3%	21 13.5%	129 82.7%	1 0.6%	3 1.9%
意思疎通	156 100.0%	30 19.2%	51 32.7%	65 41.7%	7 4.5%	3 1.9%

2. 共通項目

⑭ 在宅療養を続けている原因の病名

在宅療養を続けている原因の病名について、要介護者では、「認知症」が44.5%、「高血圧」が31.2%、「脳卒中」が27.6%であった。退院直後の利用者では、「認知症」が33.2%、「高血圧」が25.7%、「脳卒中」が25.2%であった。看取りを行った利用者では、「末期がん」が34.0%、「認知症」が30.8%、「高血圧」が25.6%であった。

図表 4-2-17 在宅療養を続けている原因の病名（複数回答）

	回答利用者数	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気
要介護者	362 100.0%	113 31.2%	100 27.6%	79 21.8%	50 13.8%	16 4.4%	34 9.4%	23 6.4%	42 11.6%
退院直後の利用者	202 100.0%	52 25.7%	51 25.2%	45 22.3%	29 14.4%	7 3.5%	29 14.4%	11 5.4%	29 14.4%
看取りを行った利用者	156 100.0%	40 25.6%	31 19.9%	32 20.5%	21 13.5%	4 2.6%	36 23.1%	12 7.7%	18 11.5%

	回答利用者数	筋骨格の病気	骨折	末期がん	末期がん以外のがん	血液・免疫の病気	精神疾患	神経難病	認知症
要介護者	362 100.0%	43 11.9%	38 10.5%	18 5.0%	34 9.4%	6 1.7%	19 5.2%	7 1.9%	161 44.5%
退院直後の利用者	202 100.0%	18 8.9%	21 10.4%	24 11.9%	20 9.9%	3 1.5%	4 2.0%	5 2.5%	67 33.2%
看取りを行った利用者	156 100.0%	9 5.8%	11 7.1%	53 34.0%	8 5.1%	3 1.9%	2 1.3%	3 1.9%	48 30.8%

	回答利用者数	パーキンソン病	その他	無回答
要介護者	362 100.0%	30 8.3%	77 21.3%	5 1.4%
退院直後の利用者	202 100.0%	14 6.9%	44 21.8%	0 0.0%
看取りを行った利用者	156 100.0%	6 3.8%	20 12.8%	3 1.9%

⑮ 在宅療養を続けている原因の病名(主傷病)

在宅療養を続けている原因の病名(主傷病)について、要介護者では、「認知症」が21.3%、「脳卒中」が11.6%、「その他」が8.3%であった。退院直後の利用者では、「認知症」が13.4%、「脳卒中」が12.9%、「末期がん」が11.4%であった。看取りを行った利用者では、「末期がん」が32.1%、「認知症」が10.3%、「脳卒中」が9.0%、「呼吸器の病気」が9.0%であった。

図表 4-2-18 在宅療養を続けている原因の病名(主傷病)

	回答利用者数	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気
要介護者	362 100.0%	11 3.0%	42 11.6%	23 6.4%	14 3.9%	5 1.4%	13 3.6%	5 1.4%	6 1.7%
退院直後の利用者	202 100.0%	3 1.5%	26 12.9%	18 8.9%	8 4.0%	0 0.0%	13 6.4%	2 1.0%	5 2.5%
看取りを行った利用者	156 100.0%	2 1.3%	14 9.0%	13 8.3%	3 1.9%	0 0.0%	14 9.0%	1 0.6%	2 1.3%

	回答利用者数	筋骨格の病気	骨折	末期がん	末期がん以外のがん	血液・免疫の病気	精神疾患	神経難病	認知症
要介護者	362 100.0%	5 1.4%	12 3.3%	14 3.9%	7 1.9%	4 1.1%	6 1.7%	5 1.4%	77 21.3%
退院直後の利用者	202 100.0%	3 1.5%	5 2.5%	23 11.4%	7 3.5%	2 1.0%	1 0.5%	5 2.5%	27 13.4%
看取りを行った利用者	156 100.0%	1 0.6%	2 1.3%	50 32.1%	2 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.3%	16 10.3%

	回答利用者数	パーキンソン病	その他	無回答
要介護者	362 100.0%	20 5.5%	30 8.3%	63 17.4%
退院直後の利用者	202 100.0%	10 5.0%	21 10.4%	23 11.4%
看取りを行った利用者	156 100.0%	4 2.6%	12 7.7%	18 11.5%

2. 共通項目

⑩ 利用者の状態

利用者の状態について、要介護者では、「服薬援助」が 67.1%、「浣腸・摘便」が 25.7%、「心理的支援」が 24.0%であった。退院直後の利用者では、「服薬援助」が 70.8%、「浣腸・摘便」が 30.7%、「心理的支援」が 28.7%であった。看取りを行った利用者では、「服薬援助」が 65.4%、「点滴の管理」が 35.9%、「酸素療法」、「浣腸・摘便」、「心理的支援」が 33.3%であった。

図表 4-2-19 利用者の状態（複数回答）

	回答利用者数	点滴の管理	中心静脈栄養	透析	stomach の処置	酸素療法	人工呼吸器	気管切開の処置	疼痛の管理
要介護者	362 100.0%	22 6.1%	8 2.2%	4 1.1%	11 3.0%	18 5.0%	2 0.6%	5 1.4%	27 7.5%
退院直後の利用者	202 100.0%	24 11.9%	5 2.5%	3 1.5%	7 3.5%	28 13.9%	1 0.5%	3 1.5%	28 13.9%
看取りを行った利用者	156 100.0%	56 35.9%	8 5.1%	1 0.6%	5 3.2%	52 33.3%	2 1.3%	0 0.0%	50 32.1%

	回答利用者数	経鼻経管栄養・管理	胃ろう・腸ろうからの栄養・管理	持続モニター測定	褥瘡の処置	カテーテル	常時頻回の喀痰吸引	創傷処置	浣腸・摘便
要介護者	362 100.0%	4 1.1%	38 10.5%	0 0.0%	25 6.9%	40 11.0%	23 6.4%	20 5.5%	93 25.7%
退院直後の利用者	202 100.0%	6 3.0%	25 12.4%	0 0.0%	22 10.9%	31 15.3%	20 9.9%	8 4.0%	62 30.7%
看取りを行った利用者	156 100.0%	7 4.5%	10 6.4%	1 0.6%	29 18.6%	31 19.9%	26 16.7%	11 7.1%	52 33.3%

	回答利用者数	インスリン注射	導尿	精神症状の観察	心理的支援	服薬援助	いずれもなし	無回答
要介護者	362 100.0%	20 5.5%	7 1.9%	67 18.5%	87 24.0%	243 67.1%	26 7.2%	17 4.7%
退院直後の利用者	202 100.0%	11 5.4%	5 2.5%	35 17.3%	58 28.7%	143 70.8%	8 4.0%	2 1.0%
看取りを行った利用者	156 100.0%	4 2.6%	3 1.9%	33 21.2%	52 33.3%	102 65.4%	3 1.9%	3 1.9%

⑰ 利用者の使用している薬剤

利用者の使用している薬剤について、要介護者では、「その他」が46.4%、「降圧薬」が32.9%、「睡眠薬・抗不安薬」が21.0%であった。退院直後の利用者では、「その他」が48.0%、「降圧薬」が36.6%、「睡眠薬・抗不安薬」が24.8%であった。看取りを行った利用者では、「利尿剤」が30.1%、「その他」が30.1%、「睡眠薬・抗不安薬」が26.3%、「降圧薬」が23.1%であった。

図表 4-2-20 利用者の使用している薬剤（複数回答）

	回答利用者数	オピオイド	免疫抑制剤	ステロイド	抗がん剤	抗精神病薬	睡眠薬・抗不安薬	利尿剤	降圧薬
要介護者	362 100.0%	8 2.2%	3 0.8%	10 2.8%	8 2.2%	42 11.6%	76 21.0%	53 14.6%	119 32.9%
退院直後の利用者	202 100.0%	11 5.4%	0 0.0%	11 5.4%	6 3.0%	13 6.4%	50 24.8%	45 22.3%	74 36.6%
看取りを行った利用者	156 100.0%	31 19.9%	1 0.6%	14 9.0%	1 0.6%	12 7.7%	41 26.3%	47 30.1%	36 23.1%

	回答利用者数	狭心症治療薬	心不全治療薬	抗血栓薬	抗不整脈薬	輸血	その他	無回答
要介護者	362 100.0%	28 7.7%	29 8.0%	67 18.5%	16 4.4%	2 0.6%	168 46.4%	51 14.1%
退院直後の利用者	202 100.0%	12 5.9%	21 10.4%	44 21.8%	8 4.0%	2 1.0%	97 48.0%	15 7.4%
看取りを行った利用者	156 100.0%	3 1.9%	15 9.6%	25 16.0%	6 3.8%	1 0.6%	47 30.1%	26 16.7%

2. 共通項目

⑩ 利用者の症状

利用者の症状について、要介護者では、「便秘」が35.4%、「不安」が24.0%、「混乱」が19.3%であった。退院直後の利用者では、「便秘」が37.1%、「不安」が27.2%、「摂食・嚥下障害」が24.8%であった。看取りを行った利用者では、「摂食・嚥下障害」が50.6%、「浮腫」が45.5%、「食思不振」が42.3%であった。

図表 4-2-21 利用者の症状（複数回答）

	回答利用者数	疼痛	易疲労	混乱	摂食・嚥下障害	食思不振	うつ	不安	脱水
要介護者	362 100.0%	66 18.2%	46 12.7%	70 19.3%	67 18.5%	34 9.4%	30 8.3%	87 24.0%	30 8.3%
退院直後の利用者	202 100.0%	48 23.8%	32 15.8%	41 20.3%	50 24.8%	33 16.3%	11 5.4%	55 27.2%	22 10.9%
看取りを行った利用者	156 100.0%	57 36.5%	39 25.0%	33 21.2%	79 50.6%	66 42.3%	7 4.5%	35 22.4%	43 27.6%

	回答利用者数	呼吸苦	不眠	便秘	浮腫	その他	いずれもなし	無回答
要介護者	362 100.0%	37 10.2%	47 13.0%	128 35.4%	65 18.0%	34 9.4%	43 11.9%	19 5.2%
退院直後の利用者	202 100.0%	42 20.8%	24 11.9%	75 37.1%	37 18.3%	24 11.9%	18 8.9%	8 4.0%
看取りを行った利用者	156 100.0%	51 32.7%	22 14.1%	58 37.2%	71 45.5%	13 8.3%	1 0.6%	6 3.8%

(2) 事業所の利用状況・経緯

① 事業所の利用のきっかけ

事業所の利用のきっかけについて、要介護者では、「病院・診療所からの紹介」が40.9%、「居宅介護支援事業所からの紹介」が22.7%、「利用開始前に入院・入所していた施設からの紹介」が13.0%であった。退院直後の利用者では、「病院・診療所からの紹介」が55.0%、「利用開始前に入院・入所していた施設からの紹介」が16.8%、「居宅介護支援事業所からの紹介」が12.9%であった。看取りを行った利用者では、「病院・診療所からの紹介」が41.0%、「居宅介護支援事業所からの紹介」が19.2%、「もともと訪問看護の利用者だった」が16.0%であった。

図表 4-2-22 事業所の利用のきっかけ（複数回答）

	回答利用者数	もともと小規模多機能型居宅介護の利用者だった	もともと訪問看護の利用者だった	近隣の訪問看護ステーションからの紹介	居宅介護支援事業所からの紹介	地域包括支援センターからの紹介	病院・診療所からの紹介	利用開始前に入院・入所していた施設からの紹介	近隣のため、もともと利用者や家族等が知っていた
要介護者	362 100.0%	27 7.5%	23 6.4%	2 0.6%	82 22.7%	22 6.1%	148 40.9%	47 13.0%	27 7.5%
退院直後の利用者	202 100.0%	12 5.9%	16 7.9%	0 0.0%	26 12.9%	12 5.9%	111 55.0%	34 16.8%	16 7.9%
看取りを行った利用者	156 100.0%	15 9.6%	25 16.0%	1 0.6%	30 19.2%	10 6.4%	64 41.0%	11 7.1%	20 12.8%

	回答利用者数	その他	不明	無回答
要介護者	362 100.0%	27 7.5%	1 0.3%	7 1.9%
退院直後の利用者	202 100.0%	11 5.4%	0 0.0%	4 2.0%
看取りを行った利用者	156 100.0%	13 8.3%	0 0.0%	5 3.2%

2. 共通項目

② 事業所の利用理由

事業所の利用理由について、要介護者では、「家族の介護負担・不安感にかんがみ、レスパイトも含めて」が 65.7%、「利用者の状態が不安定等の理由」が 42.8%、「退院直後の利用者の在宅復帰支援を支えるため」が 34.5%であった。退院直後の利用者では、「家族の介護負担・不安感にかんがみ、レスパイトも含めて」が 62.4%、「退院直後の利用者の在宅復帰支援を支えるため」が 52.0%、「利用者の状態が不安定等の理由」が 49.0%であった。看取りを行った利用者では、「在宅で看取りを含めた療養生活を支えるため」が 73.7%、「家族の介護負担・不安感にかんがみ、レスパイトも含めて」が 66.7%、「利用者の状態が不安定等の理由」が 52.6%であった。

図表 4-2-23 事業所の利用理由（複数回答）

	回答利用者数	在宅で看取りを含めた療養生活を支えるため	退院直後の利用者の在宅復帰支援を支えるため	認知症の状態にある利用者に対応するため	利用者の状態が不安定等の理由	家族の介護負担・不安感にかんがみ、レスパイトも含めて	入院や施設への入所ができなかったため	その他	無回答
要介護者	362 100.0%	69 19.1%	125 34.5%	75 20.7%	155 42.8%	238 65.7%	31 8.6%	16 4.4%	9 2.5%
退院直後の利用者	202 100.0%	60 29.7%	105 52.0%	34 16.8%	99 49.0%	126 62.4%	23 11.4%	5 2.5%	9 4.5%
看取りを行った利用者	156 100.0%	115 73.7%	41 26.3%	31 19.9%	82 52.6%	104 66.7%	13 8.3%	1 0.6%	5 3.2%

③ 事業所の最大の利用理由

事業所の最大の利用理由について、要介護者では、「家族の介護負担・不安感にかんがみ、レスパイトも含めて」が35.4%、「利用者の状態が不安定等の理由」が15.7%、「退院直後の利用者の在宅復帰支援を支えるため」が13.8%であった。退院直後の利用者では、「家族の介護負担・不安感にかんがみ、レスパイトも含めて」が25.2%、「退院直後の利用者の在宅復帰支援を支えるため」が18.3%、「利用者の状態が不安定等の理由」が14.4%であった。看取りを行った利用者では、「在宅で看取りを含めた療養生活を支えるため」が39.1%、「家族の介護負担・不安感にかんがみ、レスパイトも含めて」が25.0%、「利用者の状態が不安定等の理由」が9.0%であった。

図表 4-2-24 事業所の最大の利用理由

	回答利用者数	在宅で看取りを含めた療養生活を支えるため	退院直後の利用者の在宅復帰支援を支えるため	認知症の状態にある利用者に対応するため	利用者の状態が不安定等の理由	家族の介護負担・不安感にかんがみ、レスパイトも含めて	入院や施設への入所ができなかったため	その他	無回答
要介護者	362 100.0%	37 10.2%	50 13.8%	33 9.1%	57 15.7%	128 35.4%	14 3.9%	12 3.3%	31 8.6%
退院直後の利用者	202 100.0%	27 13.4%	37 18.3%	12 5.9%	29 14.4%	51 25.2%	13 6.4%	3 1.5%	30 14.9%
看取りを行った利用者	156 100.0%	61 39.1%	8 5.1%	9 5.8%	14 9.0%	39 25.0%	7 4.5%	1 0.6%	17 10.9%

2. 共通項目

④ 特別管理加算の算定

特別管理加算の算定について、要介護者では、「無」が 65.7%、「有」が 29.6%であった。退院直後の利用者では、「無」が 55.4%、「有」が 40.6%であった。看取りを行った利用者では、「無」が 50.0%、「有」が 44.9%であった。

図表 4-2-25 特別管理加算の算定

(9月あるいは利用最終月の実績)

	回答利用者数	有	無	無回答
要介護者	362 100.0%	107 29.6%	238 65.7%	17 4.7%
退院直後の利用者	202 100.0%	82 40.6%	112 55.4%	8 4.0%
看取りを行った利用者	156 100.0%	70 44.9%	78 50.0%	8 5.1%

⑤ 緊急時訪問看護加算の算定

緊急時訪問看護加算の算定について、要介護者では、「有」が 62.7%、「無」が 33.7%であった。退院直後の利用者では、「有」が 70.3%、「無」が 27.7%であった。看取りを行った利用者では、「有」が 73.7%、「無」が 23.7%であった。

図表 4-2-26 緊急時訪問看護加算の算定

(9月あるいは利用最終月の実績)

	回答利用者数	有	無	無回答
要介護者	362 100.0%	227 62.7%	122 33.7%	13 3.6%
退院直後の利用者	202 100.0%	142 70.3%	56 27.7%	4 2.0%
看取りを行った利用者	156 100.0%	115 73.7%	37 23.7%	4 2.6%

⑥ 主治医の指示に基づくサービス

主治医の指示に基づくサービスについて、要介護者では、「有」が74.9%、「無」が21.3%であった。退院直後の利用者では、「有」が83.2%、「無」が12.4%であった。看取りを行った利用者では、「有」が90.4%、「無」が7.1%であった。

図表 4-2-27 主治医の指示に基づくサービス

(9月あるいは利用最終月の実績)

	回答利用者数	有	無	無回答
要介護者	362 100.0%	271 74.9%	77 21.3%	14 3.9%
退院直後の利用者	202 100.0%	168 83.2%	25 12.4%	9 4.5%
看取りを行った利用者	156 100.0%	141 90.4%	11 7.1%	4 2.6%

⑦ 特別訪問看護指示書発行の有無

特別訪問看護指示書発行の有無について、要介護者では、「無」が82.3%、「有」が9.4%であった。退院直後の利用者では、「無」が79.7%、「有」が12.4%であった。看取りを行った利用者では、「無」が67.9%、「有」が22.4%であった。

図表 4-2-28 特別訪問看護指示書発行の有無

(9月あるいは利用最終月の実績)

	回答利用者数	有	無	無回答
要介護者	362 100.0%	34 9.4%	298 82.3%	30 8.3%
退院直後の利用者	202 100.0%	25 12.4%	161 79.7%	16 7.9%
看取りを行った利用者	156 100.0%	35 22.4%	106 67.9%	15 9.6%

2. 共通項目

特別訪問看護指示書の日数について、要介護者では平均は 19.6 日、中央値は 14.0 日であった。退院直後の利用者では平均は 18.7 日、中央値は 14.0 日であった。看取りを行った利用者では平均は 15.4 日、中央値は 14.0 日であった。

図表 4-2-29 特別訪問看護指示書の日数

(9月あるいは利用最終月の実績) 単位：日

	回答 利用者数	平均	標準 偏差	中央値
要介護者	22	19.6	7.0	14.0
退院直後の利用者	18	18.7	7.7	14.0
看取りを行った利用者	25	15.4	7.7	14.0

(3) サービスの利用状況

① サービスの利用実績

通いの回数について、要介護者では平均は16.6回、中央値は16.0回であった。退院直後の利用者では平均は15.6回、中央値は16.0回であった。

泊まりの回数について、要介護者では平均は7.1回、中央値は1.0回であった。退院直後の利用者では平均は7.8回、中央値は1.0回であった。

図表 4-2-30 サービス利用実績:通い・泊りの回数

(9月1か月間の実績) 単位:回/月

		回答 利用者数	平均	標準 偏差	中央値
通いの回数	要介護者	327	16.6	9.0	16.0
	退院直後の利用者	122	15.6	9.4	16.0
泊まりの回数	要介護者	327	7.1	10.6	1.0
	退院直後の利用者	122	7.8	11.0	1.0

2. 共通項目

泊まりの回数が7泊以上の場合、泊まりの回数が増える理由について、要介護者では、「介護のニーズが高く自宅での介護が困難」が55.8%、「利用者本人・介護者から泊まりの要請が強いため」が42.3%、「心身の状態が不安定で常時観察を必要とするため」が28.8%であった。退院直後の利用者では、「介護のニーズが高く自宅での介護が困難」が48.8%、「自宅での療養生活を送れるよう調整している時期のため」が39.0%、「心身の状態が不安定で常時観察を必要とするため」と「利用者本人・介護者から泊まりの要請が強いため」が34.1%であった。

図表 4-2-31 泊まりの回数が7泊以上の場合、泊まりの回数が増える理由（複数回答）

	回答利用者数	介護のニーズが高く自宅での介護が困難	介護ニーズは高くないが介護できない人がいないため	医療処置が高度で介護者が担うことが難しいため	自宅での療養生活を送れるよう調整している時期のため	心身の状態が不安定で常時観察を必要とするため	看取り期のため	利用者本人・介護者から泊まりの要請が強いため	その他
要介護者	104 100.0%	58 55.8%	18 17.3%	19 18.3%	18 17.3%	30 28.8%	9 8.7%	44 42.3%	8 7.7%
退院直後の利用者	41 100.0%	20 48.8%	8 19.5%	8 19.5%	16 39.0%	14 34.1%	1 2.4%	14 34.1%	3 7.3%

	回答利用者数	無回答
要介護者	104 100.0%	4 3.8%
退院直後の利用者	41 100.0%	0 0.0%

訪問（介護）回数について、要介護者では平均は24.6回、中央値は3.0回であった。退院直後の利用者では平均は28.0回、中央値は2.0回であった。

看護職による訪問回数について、要介護者では平均は7.5回、中央値は2.0回であった。退院直後の利用者では平均は9.7回、中央値は2.0回であった。

リハビリ職による訪問回数について、要介護者では平均は0.8回、中央値は0.0回であった。退院直後の利用者では平均は1.4回、中央値は0.0回であった。

医療保険による訪問看護回数(自事業所から)について、要介護者では平均は1.9回、中央値は0.0回であった。退院直後の利用者では平均は2.7回、中央値は0.0回であった。

医療保険による訪問看護回数(他事業所から)について、要介護者では平均は0.4回、中央値は0.0回であった。退院直後の利用者では平均は0.5回、中央値は0.0回であった。

図表 4-2-32 訪問回数

(9月1か月間の実績) 単位：回/月

		回答 利用者数	平均	標準 偏差	中央値
訪問（介護）回数	要介護者	327	24.6	52.5	3.0
	退院直後の利用者	122	28.0	61.8	2.0
看護職による訪問回数	要介護者	327	7.5	15.9	2.0
	退院直後の利用者	122	9.7	18.8	2.0
リハビリ職による訪問回数	要介護者	327	0.8	3.1	0.0
	退院直後の利用者	122	1.4	4.4	0.0
医療保険による訪問看護回数(自事業所から)	要介護者	327	1.9	9.5	0.0
	退院直後の利用者	122	2.7	10.1	0.0
医療保険による訪問看護回数(他事業所から)	要介護者	327	0.4	4.3	0.0
	退院直後の利用者	122	0.5	4.0	0.0

② 事業所が9月中に提供したケア

事業所が9月中に提供したケアについて、要介護者では、「入浴介助」が70.2%、「服薬指導・管理」が60.8%、「口腔ケア」が48.3%であった。退院直後の利用者では、「入浴介助」が77.1%、「服薬指導・管理」が70.2%、「排泄の援助」が50.4%であった。

図表 4-2-33 事業所が9月中に提供したケア（複数回答）

	回答利用者数	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	輸血	カテーテルの管理	ストマの管理	喀痰吸引	ネブライザー
要介護者	362 100.0%	41 11.3%	4 1.1%	5 1.4%	0 0.0%	35 9.7%	11 3.0%	41 11.3%	7 1.9%
退院直後の利用者	131 100.0%	22 16.8%	2 1.5%	3 2.3%	0 0.0%	17 13.0%	5 3.8%	22 16.8%	3 2.3%

	回答利用者数	酸素療法	気管切開のケア	人工呼吸器の管理	静脈内注射	皮内、皮下及び筋肉内注射	簡易血糖測定	インスリン注射	疼痛管理(麻薬なし)
要介護者	362 100.0%	23 6.4%	6 1.7%	2 0.6%	12 3.3%	2 0.6%	18 5.0%	28 7.7%	35 9.7%
退院直後の利用者	131 100.0%	9 6.9%	2 1.5%	1 0.8%	6 4.6%	0 0.0%	8 6.1%	7 5.3%	17 13.0%

	回答利用者数	疼痛管理(麻薬使用)	服薬指導・管理	医師と連携した服薬調整	創傷処置	褥瘡処置	褥瘡予防のための介護用品の導入	浣腸	摘便
要介護者	362 100.0%	7 1.9%	220 60.8%	120 33.1%	41 11.3%	32 8.8%	42 11.6%	81 22.4%	103 28.5%
退院直後の利用者	131 100.0%	3 2.3%	92 70.2%	49 37.4%	17 13.0%	15 11.5%	19 14.5%	37 28.2%	45 34.4%

第4章 看護小規模多機能型居宅介護事業所調査の結果の詳細
第1節 看護小規模多機能型居宅介護事業所 利用者調査票

	回答利用者数	排泄の援助	導尿	口腔ケア	身体機能維持を目的とした付き添いや見守り	経口栄養へ向けたリハビリテーション	呼吸理学療法	四肢の自動運動及び関節可動域維持のリハビリテーション	その他のリハビリテーション
要介護者	362 100.0%	158 43.6%	5 1.4%	175 48.3%	114 31.5%	22 6.1%	8 2.2%	83 22.9%	60 16.6%
退院直後の利用者	131 100.0%	66 50.4%	3 2.3%	63 48.1%	39 29.8%	10 7.6%	5 3.8%	43 32.8%	27 20.6%

	回答利用者数	清拭浴・陰部洗浄	入浴介助	本人の精神的な状態の変化への対応	家族等への認知症の症状に合わせた関わり方の指導	家族等への介護に関する技術的な指導	在宅看取りへ向けた本人・家族との調整	ターミナルケア	睡眠のためのケア
要介護者	362 100.0%	125 34.5%	254 70.2%	169 46.7%	79 21.8%	87 24.0%	15 4.1%	14 3.9%	44 12.2%
退院直後の利用者	131 100.0%	56 42.7%	101 77.1%	60 45.8%	31 23.7%	50 38.2%	6 4.6%	6 4.6%	18 13.7%

	回答利用者数	意欲向上や気分転換を促すケア	外出の支援	本人への療養指導	家屋の改善・療養環境整備の支援	その他	無回答
要介護者	362 100.0%	153 42.3%	95 26.2%	49 13.5%	39 10.8%	7 1.9%	40 11.0%
退院直後の利用者	131 100.0%	55 42.0%	33 25.2%	26 19.8%	19 14.5%	1 0.8%	6 4.6%

③ 通いサービスにおいて看護職が実施したリハビリテーション

通いサービスにおいて看護職が実施したリハビリテーションについて、要介護者では、「基本的動作訓練」が22.7%、「機能回復訓練」が20.7%、「応用的動作訓練」が11.9%であった。退院直後の利用者では、「基本的動作訓練」が27.5%、「機能回復訓練」が26.7%、「コミュニケーション訓練」が16.0%であった。

図表 4-2-34 通いサービスにおいて看護職が実施したリハビリテーション（複数回答）

	回答利用者数	機能回復訓練	基本的動作訓練	応用的動作訓練	社会適応練習	コミュニケーション訓練	自己訓練練習	無回答
要介護者	362 100.0%	75 20.7%	82 22.7%	43 11.9%	36 9.9%	41 11.3%	21 5.8%	244 67.4%
退院直後の利用者	131 100.0%	35 26.7%	36 27.5%	19 14.5%	15 11.5%	21 16.0%	10 7.6%	82 62.6%

④ 通いサービスにおいてリハビリ職が実施したリハビリテーション

通いサービスにおいてリハビリ職が実施したリハビリテーションについて、要介護者では、「機能回復訓練」と「基本的動作訓練」が22.1%、「応用的動作訓練」が9.9%、「コミュニケーション訓練」が5.5%であった。退院直後の利用者では、「基本的動作訓練」が31.3%、「機能回復訓練」が30.5%、「応用的動作訓練」が15.3%であった。

図表 4-2-35 通いサービスにおいてリハビリ職が実施したリハビリテーション（複数回答）

	回答利用者数	機能回復訓練	基本的動作訓練	応用的動作訓練	社会適応練習	コミュニケーション訓練	自己訓練練習	無回答
要介護者	362 100.0%	80 22.1%	80 22.1%	36 9.9%	16 4.4%	20 5.5%	14 3.9%	269 74.3%
退院直後の利用者	131 100.0%	40 30.5%	41 31.3%	20 15.3%	12 9.2%	14 10.7%	7 5.3%	88 67.2%

⑤ 利用者への効果

利用者への効果について、要介護者では、「ADLの維持改善」が46.7%、「生活習慣の維持」が31.2%、「QOLの維持改善」が24.0%であった。退院直後の利用者では、「ADLの維持改善」が45.0%、「生活習慣の維持」が33.6%、「QOLの維持改善」が28.2%であった。

図表 4-2-36 利用者への効果（複数回答）

	回答利用者数	ADLの維持改善	社会性維持改善	IADLの向上	生活習慣の維持	機能回復	記憶認知機能の改善向上	BPSDの軽減適応	QOLの維持改善
要介護者	362 100.0%	169 46.7%	52 14.4%	21 5.8%	113 31.2%	52 14.4%	31 8.6%	30 8.3%	87 24.0%
退院直後の利用者	131 100.0%	59 45.0%	23 17.6%	7 5.3%	44 33.6%	31 23.7%	12 9.2%	8 6.1%	37 28.2%

	回答利用者数	その他	無回答
要介護者	362 100.0%	4 1.1%	140 38.7%
退院直後の利用者	131 100.0%	2 1.5%	47 35.9%

3. 退院直後の利用者

3. 退院直後の利用者

(1) 退院直後の利用状況

① 10月1日時点でサービス利用を継続しているか

10月1日時点でサービス利用を継続しているかについて、退院直後の利用者では、「はい」が58.9%、「いいえ」が27.2%であった。

図表 4-2-37 10月1日時点でサービス利用を継続しているか

	回答 利用者数	はい	いいえ	無回答
退院直後の利用者	202 100.0%	119 58.9%	55 27.2%	28 13.9%

② 退院後のサービス利用状況

退院後1週（退院～退院後6日）のサービス利用状況について、通いの回数は平均3.5回、中央値は3.0回であった。泊まりの回数は平均2.2回、中央値は0.0回であった。訪問（介護）回数は平均5.8回、中央値は0.0回であった。看護職による訪問回数は平均2.0回、中央値は0.0回であった。リハビリ職による訪問回数は平均0.2回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（自事業所から）は平均1.6回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（他事業所から）は平均0.2回、中央値は0.0回であった。

図表 4-2-38 退院後1週の利用状況

単位：回

	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
通いの回数	177	3.5	2.5	3.0
泊まりの回数	177	2.2	2.9	0.0
訪問（介護）回数	177	5.8	12.7	0.0
看護職による訪問回数	177	2.0	4.5	0.0
リハビリ職による訪問回数	177	0.2	0.7	0.0
医療保険による訪問看護回数（自事業所から）	177	1.6	3.9	0.0
医療保険による訪問看護回数（他事業所から）	177	0.2	1.5	0.0

3. 退院直後の利用者

退院後2週（退院後7日～13日）のサービス利用状況について、通いの回数は平均3.5回、中央値は3.0回であった。泊まりの回数は平均2.1回、中央値は0.0回であった。訪問（介護）回数は平均6.1回、中央値は0.0回であった。看護職による訪問回数は平均は1.7回、中央値は0.0回であった。リハビリ職による訪問回数は平均0.2回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（自事業所から）は平均1.4回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（他事業所から）は平均0.1回、中央値は0.0回であった。

図表 4-2-39 退院後2週の利用状況

単位：回

	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
通いの回数	177	3.5	2.6	3.0
泊まりの回数	177	2.1	2.9	0.0
訪問（介護）回数	177	6.1	13.8	0.0
看護職による訪問回数	177	1.7	3.9	0.0
リハビリ職による訪問回数	177	0.2	0.8	0.0
医療保険による訪問看護回数（自事業所から）	177	1.4	3.5	0.0
医療保険による訪問看護回数（他事業所から）	177	0.1	1.1	0.0

退院後3週（退院後14日～20日）のサービス利用状況について、通いの回数は平均3.3回、中央値は3.0回であった。泊まりの回数は平均1.8回、中央値は0.0回であった。訪問（介護）回数は平均は5.8回、中央値は0.0回であった。看護職による訪問回数は平均1.8回、中央値は0.0回であった。リハビリ職による訪問回数は平均0.2回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（自事業所から）は平均0.9回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（他事業所から）は平均0.0回、中央値は0.0回であった。

図表 4-2-40 退院後3週の利用状況

単位：回

	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
通いの回数	177	3.3	2.5	3.0
泊まりの回数	177	1.8	2.7	0.0
訪問（介護）回数	177	5.8	13.6	0.0
看護職による訪問回数	177	1.8	3.9	0.0
リハビリ職による訪問回数	177	0.2	1.0	0.0
医療保険による訪問看護回数（自事業所から）	177	0.9	3.2	0.0
医療保険による訪問看護回数（他事業所から）	177	0.0	0.2	0.0

3. 退院直後の利用者

退院後4週（退院後21日～27日）のサービス利用状況について、通いの回数は平均は3.3回、中央値は3.0回であった。泊まりの回数は平均1.8回、中央値は0.0回であった。訪問（介護）回数について、退院直後の利用者では平均6.0回、中央値は0.0回であった。看護職による訪問回数は平均2.0回、中央値は0.0回であった。リハビリ職による訪問回数は平均0.5回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（自事業所から）は平均0.8回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（他事業所から）は平均0.0回、中央値は0.0回であった。

図表 4-2-41 退院後4週 of サービス利用状況

単位：回

	回答 利用者数	平均	標準偏差	中央値
通いの回数	177	3.3	3.2	3.0
泊まりの回数	177	1.8	3.3	0.0
訪問（介護）回数	177	6.0	14.1	0.0
看護職による訪問回数	177	2.0	4.7	0.0
リハビリ職による訪問回数	177	0.5	2.2	0.0
医療保険による訪問看護回数（自事業所から）	177	0.8	3.1	0.0
医療保険による訪問看護回数（他事業所から）	177	0.0	0.2	0.0

泊まりの回数の回答利用者数が7泊以上の場合、泊まりの回数が多くなる理由について、退院直後の利用者では、「介護のニーズが高く自宅での介護が困難」が36.2%、「心身の状態が不安定で常時観察を必要とするため」が29.0%、「自宅での療養生活を送れるよう調整している時期のため」と「利用者本人・介護者から泊まりの要請が強いため」が27.5%であった。

図表 4-2-42 泊まりの回数の回答利用者数が7泊以上の場合、泊まりの回数が多くなる理由
 (複数回答)

	回答利用者数	介護のニーズが高く自宅での介護が困難	介護ニーズは高くないが介護できる人がいないため	医療処置が高度で介護者が担うことが難しいため	自宅での療養生活を送れるよう調整している時期のため	心身の状態が不安定で常時観察を必要とするため	看取り期のため	利用者本人・介護者から泊まりの要請が強いため	その他
退院直後の利用者	69 100.0%	25 36.2%	12 17.4%	12 17.4%	19 27.5%	20 29.0%	10 14.5%	19 27.5%	2 2.9%

	回答利用者数	無回答
退院直後の利用者	69 100.0%	16 23.2%

3. 退院直後の利用者

③ 退院直後の利用者の状態

利用者の状態について、退院直後の利用者では、「服薬援助」が 66.8%、「浣腸・摘便」と「心理的支援」が 26.2%、「精神症状の観察」が 24.3%であった。

図表 4-2-43 利用者の状態（複数回答）

	回答利用者数	点滴の管理	中心静脈栄養	透析	stomach の処置	酸素療法	人工呼吸器	気管切開の処置	疼痛の管理
退院直後の利用者	202 100.0%	13 6.4%	4 2.0%	2 1.0%	6 3.0%	23 11.4%	2 1.0%	2 1.0%	26 12.9%

	回答利用者数	経鼻経管栄養・管理	胃ろう・腸ろうからの栄養・管理	持続モニター測定	褥瘡の処置	カテーテル	常時頻回の喀痰吸引	創傷処置	浣腸・摘便
退院直後の利用者	202 100.0%	7 3.5%	22 10.9%	0 0.0%	22 10.9%	33 16.3%	16 7.9%	11 5.4%	53 26.2%

	回答利用者数	インスリン注射	導尿	精神症状の観察	心理的支援	服薬援助	いずれもなし	無回答
退院直後の利用者	202 100.0%	12 5.9%	3 1.5%	49 24.3%	53 26.2%	135 66.8%	7 3.5%	22 10.9%

④ 利用者の使用していた薬剤

利用者の使用していた薬剤について、退院直後の利用者では、「その他」が 42.6%、「降圧薬」が 35.1%、「睡眠薬・抗不安薬」が 26.2%であった。

図表 4-2-44 利用者の使用していた薬剤（複数回答）

	回答利用者数	β ¹ ブロッカー	免疫抑制剤	ステロイド	抗がん剤	抗精神病薬	睡眠薬・抗不安薬	利尿剤	降圧薬
退院直後の利用者	202 100.0%	9 4.5%	0 0.0%	13 6.4%	6 3.0%	14 6.9%	53 26.2%	39 19.3%	71 35.1%

	回答利用者数	狭心症治療薬	心不全治療薬	抗血栓薬	抗不整脈薬	輸血	その他	無回答
退院直後の利用者	202 100.0%	11 5.4%	19 9.4%	35 17.3%	6 3.0%	0 0.0%	86 42.6%	37 18.3%

⑤ 退院直後の利用者の症状

利用者の症状について、退院直後の利用者では、「不安」が 29.2%、「便秘」が 27.7%、「疼痛」が 22.3%であった。

図表 4-2-45 利用者の症状（複数回答）

	回答利用者数	疼痛	易疲労	混乱	摂食・嚥下障害	食思不振	うつ	不安	脱水
退院直後の利用者	202 100.0%	45 22.3%	34 16.8%	28 13.9%	42 20.8%	36 17.8%	9 4.5%	59 29.2%	14 6.9%

	回答利用者数	呼吸苦	不眠	便秘	浮腫	その他	いずれもなし	無回答
退院直後の利用者	202 100.0%	34 16.8%	28 13.9%	56 27.7%	31 15.3%	26 12.9%	14 6.9%	30 14.9%

3. 退院直後の利用者

⑥ 退院直後の利用から4週間に提供したケア

退院直後の利用から4週間に提供したケアについて、退院直後の利用者では、「入浴介助」が67.8%、「服薬指導・管理」が67.3%、「排泄の援助」が53.5%であった。

図表 4-2-46 退院直後の利用から4週間に提供したケア（複数回答）

	回答利用者数	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	輸血	カテーテルの管理	ストーマの管理	喀痰吸引	ネブライザー
退院直後の利用者	202 100.0%	23 11.4%	6 3.0%	4 2.0%	0 0.0%	29 14.4%	4 2.0%	29 14.4%	5 2.5%

	回答利用者数	酸素療法	気管切開のケア	人工呼吸器の管理	静脈内注射	皮内、皮下及び筋肉内注射	簡易血糖測定	インスリン注射	疼痛管理(麻薬なし)
退院直後の利用者	202 100.0%	21 10.4%	2 1.0%	1 0.5%	9 4.5%	4 2.0%	10 5.0%	9 4.5%	25 12.4%

	回答利用者数	疼痛管理(麻薬使用)	服薬指導・管理	医師と連携した服薬調整	創傷処置	褥瘡処置	褥瘡予防のための介護用品の導入	浣腸	摘便
退院直後の利用者	202 100.0%	10 5.0%	136 67.3%	82 40.6%	19 9.4%	25 12.4%	34 16.8%	39 19.3%	59 29.2%

	回答利用者数	排泄の援助	導尿	口腔ケア	身体機能維持を目的とした付き添いや見守り	経口栄養へ向けたリハビリテーション	呼吸理学療法	四肢の自動運動及び関節可動域維持のリハビリテーション	その他のリハビリテーション
退院直後の利用者	202 100.0%	108 53.5%	3 1.5%	106 52.5%	72 35.6%	20 9.9%	8 4.0%	60 29.7%	38 18.8%

第4章 看護小規模多機能型居宅介護事業所調査の結果の詳細
 第1節 看護小規模多機能型居宅介護事業所 利用者調査票

	回答利用者数	清拭浴・陰部洗浄	入浴介助	本人の精神的な状態の変化への対応	家族等への認知症の症状に合わせた関わり方の指導	家族等への介護に関する技術的な指導	在宅看取りへ向けた本人・家族との調整	ターミナルケア	睡眠のためのケア
退院直後の利用者	202 100.0%	96 47.5%	137 67.8%	99 49.0%	45 22.3%	77 38.1%	25 12.4%	20 9.9%	18 8.9%

	回答利用者数	意欲向上や気分転換を促すケア	外出の支援	本人への療養指導	家屋の改善・療養環境整備の支援	その他	無回答
退院直後の利用者	202 100.0%	78 38.6%	57 28.2%	40 19.8%	44 21.8%	2 1.0%	22 10.9%

3. 退院直後の利用者

⑦ 通いサービスにおいて看護職が実施したリハビリテーション

通いサービスにおいて看護職が実施したリハビリテーションについて、退院直後の利用者では、「基本的動作訓練」が26.7%、「機能回復訓練」が25.7%、「コミュニケーション訓練」が13.4%であった。

図表 4-2-47 通いサービスにおいて看護職が実施したリハビリテーション（複数回答）

	回答利用者数	機能回復訓練	基本的動作訓練	応用的動作訓練	社会適応練習	コミュニケーション訓練	自己訓練練習	無回答
退院直後の利用者	202 100.0%	52 25.7%	54 26.7%	26 12.9%	20 9.9%	27 13.4%	16 7.9%	137 67.8%

⑧ 通いサービスにおいてリハビリ職が実施したリハビリテーション

通いサービスにおいてリハビリ職が実施したリハビリテーションについて、退院直後の利用者では、「機能回復訓練」と「基本的動作訓練」が22.8%、「応用的動作訓練」が12.9%、「コミュニケーション訓練」が9.9%であった。

図表 4-2-48 通いサービスにおいてリハビリ職が実施したリハビリテーション（複数回答）

	回答利用者数	機能回復訓練	基本的動作訓練	応用的動作訓練	社会適応練習	コミュニケーション訓練	自己訓練練習	無回答
退院直後の利用者	202 100.0%	46 22.8%	46 22.8%	26 12.9%	17 8.4%	20 9.9%	14 6.9%	152 75.2%

⑨ 利用者への効果

利用者への効果について、退院直後の利用者では、「ADLの維持改善」が42.1%、「生活習慣の維持」が29.2%、「QOLの維持改善」が25.2%であった。

図表 4-2-49 利用者への効果（複数回答）

	回答利用者数	ADLの維持改善	社会性維持改善	IADLの向上	生活習慣の維持	機能回復	記憶認知機能の改善向上	BPSDの軽減適応	QOLの維持改善
退院直後の利用者	202 100.0%	85 42.1%	38 18.8%	11 5.4%	59 29.2%	42 20.8%	16 7.9%	12 5.9%	51 25.2%

	回答利用者数	その他	無回答
退院直後の利用者	202 100.0%	7 3.5%	88 43.6%

⑩ 医療機関が作成した診療情報提供書や退院時連携シート等

医療機関が作成した診療情報提供書や退院時連携シート等について、退院直後の利用者では、「医療機関から提供を受けた」が77.2%、「外部のケアマネジャーから提供を受けた」が6.4%、「提供されていない」が5.4%であった。

図表 4-2-50 医療機関が作成した診療情報提供書や退院時連携シート等

	回答利用者数	医療機関から提供を受けた	外部のケアマネジャーから提供を受けた	提供されていない	その他	無回答	非該当
退院直後の利用者	202 100.0%	156 77.2%	13 6.4%	11 5.4%	1 0.5%	27 13.4%	0

3. 退院直後の利用者

⑪ 医療機関が作成した看護サマリー

医療機関が作成した看護サマリーについて、退院直後の利用者では、「医療機関から提供を受けた」が81.2%、「外部のケアマネジャーから提供を受けた」が3.5%、「提供されていない」が1.5%であった。

図表 4-2-51 医療機関が作成した看護サマリー

	回答利用者数	医療機関から提供を受けた	外部のケアマネジャーから提供を受けた	提供されていない	その他	無回答	非該当
退院直後の利用者	202 100.0%	164 81.2%	7 3.5%	3 1.5%	2 1.0%	28 13.9%	0

⑫ 退院・退所情報記録書

退院・退所情報記録書について、退院直後の利用者では、「事業所のケアマネジャーが作成した」が46.5%、「分からない」が15.8%、「外部のケアマネジャーが作成し、提供を受けた」が9.9%であった。

図表 4-2-52 退院・退所情報記録書

	回答利用者数	外部のケアマネジャーが作成し、提供を受けた	事業所のケアマネジャーが作成した	分からない	その他	無回答
退院直後の利用者	202 100.0%	20 9.9%	94 46.5%	32 15.8%	11 5.4%	46 22.8%

⑬ 退院後の最初のケアプラン

退院後の最初のケアプランについて、退院直後の利用者では、「事業所のケアマネジャーが作成した」が84.7%、「外部のケアマネジャーが作成した」が1.5%であった。

図表 4-2-53 退院後の最初のケアプラン

	回答利用者数	事業所のケアマネジャーが作成した	外部のケアマネジャーが作成した	その他	無回答
退院直後の利用者	202 100.0%	171 84.7%	3 1.5%	0 0.0%	28 13.9%

⑭ 退院後1か月間の訪問診療・往診または外来受診の状況

退院後1か月間の訪問診療・往診または外来受診の状況について、退院直後の利用者では、「訪問診療を利用した」が42.1%、「外来受診した」が40.6%、「往診を利用した」が17.3%であった。

図表 4-2-54 退院後1か月間の訪問診療・往診または外来受診の状況

	回答利用者数	訪問診療を利用した	往診を利用した	外来受診した	いずれも利用していない	無回答
退院直後の利用者	202 100.0%	85 42.1%	35 17.3%	82 40.6%	5 2.5%	26 12.9%

3. 退院直後の利用者

⑮ 主に訪問診療を行った場合

主に訪問診療を行った場所について、退院直後の利用者では、「自宅」が44.7%、「事業所」が42.4%であった。

図表 4-2-55 主に訪問診療を行った場所

(退院後1か月間の実績)

	回答利用者数	自宅	事業所	無回答
退院直後の利用者	85 100.0%	38 44.7%	36 42.4%	11 12.9%

訪問診療の利用回数について、要介護者では平均は平均2.3回、中央値は2.0回であった。

図表 4-2-56 訪問診療の利用回数

(退院後1か月間の実績) 単位：回

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
退院直後の利用者	82	2.3	1.5	2.0

⑯ 主に往診を行った場合

主に往診を行った場所について、退院直後の利用者では、「事業所」が48.6%、「自宅」が42.9%であった。

図表 4-2-57 主に往診を行った場所

(退院後1か月間の実績)

	回答利用者数	自宅	事業所	無回答
退院直後の利用者	35 100.0%	15 42.9%	17 48.6%	3 8.6%

往診の利用回数について、退院直後の利用者では平均は 2.4 回、中央値は 2.0 回であった。

図表 4-2-58 往診の利用回数

(退院後 1 か月間の実績) 単位：回

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
退院直後の利用者	33	2.4	2.2	2.0

⑰ 外来を受診した場合

外来受診した回数について、要介護者では平均は 1.7 回、中央値は 1.0 回であった。

図表 4-2-59 外来受診した回数

(退院後 1 か月間の実績) 単位：回

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
退院直後の利用者	81	1.7	1.9	1.0

4. 看取りを行った利用者

4. 看取りを行った利用者

(1) 看取りを行った利用者の利用状況

① 死因

死因について、看取りを行った利用者では、「がん」が 36.5%、「老衰」が 28.8%、「心疾患」が 10.9%であった。

図表 4-2-60 死因

	回答利用者数	がん	肺炎	心疾患	脳血管疾患	老衰	その他	無回答
看取りを行った利用者	156 100.0%	57 36.5%	11 7.1%	17 10.9%	1 0.6%	45 28.8%	17 10.9%	8 5.1%

② 死亡場所の本人の意向

死亡場所の本人の意向について、看取りを行った利用者では、「事業所内」が 37.2%、「自宅」が 21.8%、「自宅または事業所内のいずれか」が 16.7%であった。

図表 4-2-61 死亡場所の本人の意向

	回答利用者数	自宅	事業所内	自宅または事業所内のいずれか	病院・有床診療所	その他	不明	無回答
看取りを行った利用者	156 100.0%	34 21.8%	58 37.2%	26 16.7%	11 7.1%	8 5.1%	15 9.6%	4 2.6%

③ 死亡診断した場所

死亡診断した場所について、看取りを行った利用者では、「事業所内」が62.8%、「自宅」が21.2%であった。

図表 4-2-62 死亡診断した場所

	回答利用者数	自宅	事業所内	その他	無回答
看取りを行った利用者	156 100.0%	33 21.2%	98 62.8%	23 14.7%	2 1.3%

④ 余命の見込みに関する説明の状況

余命の見込みに関する説明の状況について、看取りを行った利用者では、「有」が85.9%、「無」が10.9%であった。

図表 4-2-63 余命の見込みに関する説明の有無

	回答利用者数	有	無	無回答
看取りを行った利用者	156 100.0%	134 85.9%	17 10.9%	5 3.2%

4. 看取りを行った利用者

⑤ ターミナル期であるかの主治医による訪問看護指示書への記載状況

ターミナル期であるかの主治医による訪問看護指示書への記載状況について、看取りを行った利用者では、「有」が62.2%、「無」が28.2%であった。

図表 4-2-64 ターミナル期であるかの主治医による訪問看護指示書への記載の有無

	回答利用者数	有	無	無回答
看取りを行った利用者	156 100.0%	97 62.2%	44 28.2%	15 9.6%

⑥ ターミナルケア加算・ターミナルケア療養費の算定状況

ターミナルケア加算・ターミナルケア療養費の算定状況について、看取りを行った利用者では、「(介護保険)ターミナルケア加算の算定」が42.3%、「(医療保険)ターミナルケア療養費の算定」が29.5%、「無」が23.1%であった。

図表 4-2-65 ターミナルケア加算・ターミナルケア療養費の算定の有無

	回答利用者数	(介護保険)ターミナルケア加算の算定	(医療保険)ターミナルケア療養費の算定	無	無回答
看取りを行った利用者	156 100.0%	66 42.3%	46 29.5%	36 23.1%	8 5.1%

⑦ ターミナルケア加算・ターミナルケア療養費の算定がない理由

ターミナルケア加算・ターミナルケア療養費の算定がない理由について、看取りを行った利用者では、「死亡日前14日以内に2日以上ターミナルケア未実施」が30.6%、「その他」が22.2%、「ターミナルケア体制の届出をしていない」と「他の事業所が算定したため」が11.1%であった。

図表 4-2-66 ターミナルケア加算・ターミナルケア療養費の算定がない理由

	回答利用者数	ターミナルケア体制の届出をしていない	死亡日前14日以内に2日以上ターミナルケア未実施	医療機関への搬送後24時間以上経過後に死亡	利用者負担が高額になるため	他の事業所が算定したため	その他	無回答
看取りを行った利用者	36 100.0%	4 11.1%	11 30.6%	3 8.3%	3 8.3%	4 11.1%	8 22.2%	4 11.1%

⑧ 死亡前1か月間の訪問診療・往診または外来受診の状況

死亡前1か月間の訪問診療・往診または外来受診の状況について、看取りを行った利用者では、「訪問診療を利用した」が71.8%、「往診を利用した」が46.8%、「外来受診した」が11.5%であった。

図表 4-2-67 死亡前1か月間の訪問診療・往診または外来受診の状況

	回答利用者数	訪問診療を利用した	往診を利用した	外来受診した	いずれも利用していない	無回答
看取りを行った利用者	156 100.0%	112 71.8%	73 46.8%	18 11.5%	3 1.9%	5 3.2%

4. 看取りを行った利用者

⑨ 訪問診療を行った場合

主に訪問診療を行った場所について、看取りを行った利用者では、「事業所」が53.6%、「自宅」が41.1%であった。

図表 4-2-68 主に訪問診療を行った場所

(死亡前1か月間の実績)

	回答利用者数	自宅	事業所	無回答
看取りを行った利用者	112 100.0%	46 41.1%	60 53.6%	9 8.0%

訪問診療の利用回数について、看取りを行った利用者では平均3.3回、中央値は2.0回であった。

図表 4-2-69 訪問診療の利用回数

(死亡前1か月間の実績) 単位：回

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
看取りを行った利用者	103	3.3	2.3	2.0

⑩ 往診を行った場合

主に往診を行った場所について、看取りを行った利用者では、「事業所」が 52.1%、「自宅」が 46.6%であった。

図表 4-2-70 主に往診を行った場所

(死亡前1か月間の実績)

	回答利用者数	自宅	事業所	無回答	非該当
看取りを行った利用者	73 100.0%	34 46.6%	38 52.1%	3 4.1%	83

往診の利用回数について、看取りを行った利用者では平均 3.4 回、中央値は 2.0 回であった。

図表 4-2-71 往診の利用回数

(死亡前1か月間の実績) 単位：回

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
看取りを行った利用者	68	3.4	4.8	2.0

⑪ 外来受診をした場合

外来受診した回数について、看取りを行った利用者では平均 1.8 回、中央値は 1.5 回であった。

図表 4-2-72 外来受診した回数

(死亡前1か月間の実績) 単位：回

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
看取りを行った利用者	18	1.8	1.2	1.5

4. 看取りを行った利用者

⑫ 本人による意思決定を基本に人生の最終段階における医療・ケアが行われたか

本人による意思決定を基本に人生の最終段階における医療・ケアが行われたかについて、看取りを行った利用者では、「はい」が 52.6%、「どちらともいえない」が 29.5%、「いいえ」が 15.4%であった。

図表 4-2-73 本人による意思決定を基本に人生の最終段階における医療・ケアが行われたか

	回答利用者数	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答
看取りを行った利用者	156 100.0%	82 52.6%	46 29.5%	24 15.4%	4 2.6%

⑬ 人生の最終段階における医療・ケアを実践するうえでの困難な点

人生の最終段階における医療・ケアを実践するうえでの困難な点について、看取りを行った利用者では、「利用者本人の意思表示ができない等」が30.8%、「急激な状態変化による死亡」が23.1%、「利用者本人よりも家族等の意思が尊重される」が23.1%、「事前に利用者本人等が方針の決定ができない」が17.9%であった。

図表 4-2-74 人生の最終段階における医療・ケアを実践するうえでの困難な点（複数回答）

	回答利用者数	利用者本人等へ情報の提供と説明がなされていない	医療・ケアチームが形成できない	利用者本人等と十分な話し合いができない	事前に利用者本人等が方針の決定ができない	利用者本人の意思表示ができない等	急激な状態変化による死亡	家族等が不安を抱き救急要請する	臨時対応した医師が話し合いの内容を把握していない
看取りを行った利用者	156 100.0%	19 12.2%	7 4.5%	25 16.0%	28 17.9%	48 30.8%	36 23.1%	10 6.4%	5 3.2%

	回答利用者数	利用者本人よりも家族等の意思が尊重される	家族等との連携・調整が上手く図れていない	医療職と介護職の連携・調整が上手く図れていない	介護力、医療資源不足により自宅での看取りが困難	その他	無回答
看取りを行った利用者	156 100.0%	36 23.1%	5 3.2%	4 2.6%	26 16.7%	20 12.8%	32 20.5%

4. 看取りを行った利用者

⑭ 「死亡日」の前4週のサービス利用の状況

看取りを行った利用者の死亡前1週（死亡日～死亡前6日）のサービス利用の状況について、通いの回数は、平均3.7回、中央値は4.0回であった。泊まりの回数は、平均3.0回、中央値は2.0回であった。訪問（介護）回数は、平均6.6回、中央値は0.0回であった。看護職による訪問回数は、平均3.6回、中央値は0.0回であった。リハビリ職による訪問回数は、平均0.1回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（自事業所から）は、平均2.4回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（他事業所から）は、平均0.4回、中央値は0.0回であった。

図表 4-2-75 【看取りを行った利用者】死亡前1週のサービス利用状況

単位：回

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
通いの回数	123	3.7	2.8	4.0
泊まりの回数	123	3.0	3.0	2.0
訪問（介護）回数	123	6.6	13.8	0.0
看護職による訪問回数	123	3.6	8.7	0.0
リハビリ職による訪問回数	123	0.1	0.7	0.0
医療保険による訪問看護回数（自事業所から）	123	2.4	4.6	0.0
医療保険による訪問看護回数（他事業所から）	123	0.4	2.1	0.0

看取りを行った利用者の死亡前2週（死亡前7日～13日）のサービス利用の状況について、通いの回数は、平均3.6回、中央値は4.0回であった。泊まりの回数は、平均2.8回、中央値は2.0回であった。訪問（介護）回数は、平均6.5回、中央値は0.0回であった。看護職による訪問回数は、平均2.7回、中央値は0.0回であった。リハビリ職による訪問回数は、平均0.1回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（自事業所から）は、平均2.3回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（他事業所から）は、平均0.2回、中央値は0.0回であった。

図表 4-2-76 【看取りを行った利用者】死亡前2週のサービス利用状況

単位：回

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
通いの回数	123	3.6	2.8	4.0
泊まりの回数	123	2.8	3.0	2.0
訪問（介護）回数	123	6.5	15.3	0.0
看護職による訪問回数	123	2.7	9.3	0.0
リハビリ職による訪問回数	123	0.1	0.7	0.0
医療保険による訪問看護回数（自事業所から）	123	2.3	4.7	0.0
医療保険による訪問看護回数（他事業所から）	123	0.2	1.1	0.0

4. 看取りを行った利用者

看取りを行った利用者の死亡前3週（死亡前14日～20日）のサービス利用の状況について、通いの回数は、平均3.3回、中央値は3.0回であった。泊まりの回数は、平均2.6回、中央値は1.0回であった。訪問（介護）回数は、平均5.9回、中央値は0.0回であった。看護職による訪問回数は、平均2.2回、中央値は0.0回であった。リハビリ職による訪問回数は、平均0.1回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（自事業所から）は、平均2.2回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（他事業所から）は、平均0.2回、中央値は0.0回であった。

図表 4-2-77 【看取りを行った利用者】死亡前3週のサービス利用状況

単位：回

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
通いの回数	123	3.3	2.9	3.0
泊まりの回数	123	2.6	3.0	1.0
訪問（介護）回数	123	5.9	14.5	0.0
看護職による訪問回数	123	2.2	6.3	0.0
リハビリ職による訪問回数	123	0.1	0.7	0.0
医療保険による訪問看護回数（自事業所から）	123	2.2	4.7	0.0
医療保険による訪問看護回数（他事業所から）	123	0.2	1.2	0.0

看取りを行った利用者の死亡前4週（死亡前21～27日）のサービス利用の状況について、通いの回数は、平均3.0回、中央値は2.0回であった。泊まりの回数は、平均2.3回、中央値は0.0回であった。訪問（介護）回数は、平均5.8回、中央値は0.0回であった。看護職による訪問回数は、平均0.1回、中央値は0.0回であった。リハビリ職による訪問回数は、0.1回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（自事業所から）は、平均1.6回、中央値は0.0回であった。医療保険による訪問看護回数（他事業所から）は、平均0.2回、中央値は0.0回であった。

図表 4-2-78 【看取りを行った利用者】死亡前4週のサービス利用状況

単位：回

	回答利用者数	平均	標準偏差	中央値
通いの回数	123	3.0	2.9	2.0
泊まりの回数	123	2.3	3.0	0.0
訪問（介護）回数	123	5.8	14.9	0.0
看護職による訪問回数	123	0.1	0.7	0.0
リハビリ職による訪問回数	123	0.1	0.7	0.0
医療保険による訪問看護回数（自事業所から）	123	1.6	4.2	0.0
医療保険による訪問看護回数（他事業所から）	123	0.2	1.3	0.0

4. 看取りを行った利用者

泊まりの回数の回答利用者数が7泊以上の場合、泊まりの回数が多くなる理由について、退院直後の利用者では、「看取り期のため」が83.3%、「心身の状態が不安定で常時観察を必要とするため」が66.7%、「利用者本人・介護者から泊まりの要請が強いため」が50.0%であった。看取りを行った利用者では、「看取り期のため」が59.1%、「介護のニーズが高く自宅での介護が困難」が50.0%、「心身の状態が不安定で常時観察を必要とするため」が43.9%であった。

図表 4-2-79 泊まりの回数の回答利用者数が7泊以上の場合、泊まりの回数が多くなる理由
(複数回答)

	回答利用者数	介護のニーズが高く自宅での介護が困難	介護ニーズは高くないが介護できない人がいないため	医療処置が高度で介護者が担うことが難しいため	自宅での療養生活を送れるよう調整している時期のため	心身の状態が不安定で常時観察を必要とするため	看取り期のため	利用者本人・介護者から泊まりの要請が強いため	その他
看取りを行った利用者	66 100.0%	33 50.0%	9 13.6%	24 36.4%	2 3.0%	29 43.9%	39 59.1%	19 28.8%	4 6.1%

	回答利用者数	無回答
看取りを行った利用者	66 100.0%	10 15.2%

⑮ 事業所が死亡までの4週間に提供したケア

事業所が死亡までの4週間の間に提供したケアについて、看取りを行った利用者では、「口腔ケア」が76.3%、「清拭浴・陰部洗浄」が71.8%、「排泄の援助」が64.1%であった。

図表 4-2-80 事業所が死亡までの4週間に提供したケア（複数回答）

	回答利用者数	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	輸血	カテーテルの管理	ストーマの管理	喀痰吸引	ネブライザー
看取りを行った利用者	156 100.0%	8 5.1%	3 1.9%	9 5.8%	0 0.0%	32 20.5%	3 1.9%	57 36.5%	7 4.5%

	回答利用者数	酸素療法	気管切開のケア	人工呼吸器の管理	静脈内注射	皮内、皮下及び筋肉内注射	簡易血糖測定	インスリン注射	疼痛管理(麻薬なし)
看取りを行った利用者	156 100.0%	46 29.5%	0 0.0%	2 1.3%	34 21.8%	13 8.3%	5 3.2%	3 1.9%	22 14.1%

	回答利用者数	疼痛管理(麻薬使用)	服薬指導・管理	医師と連携した服薬調整	創傷処置	褥瘡処置	褥瘡予防のための介護用品の導入	浣腸	摘便
看取りを行った利用者	156 100.0%	30 19.2%	83 53.2%	76 48.7%	21 13.5%	21 13.5%	39 25.0%	41 26.3%	54 34.6%

	回答利用者数	排泄の援助	導尿	口腔ケア	身体機能維持を目的とした付き添いや見守り	経口栄養へ向けたリハビリテーション	呼吸理学療法	四肢の自動運動及び関節可動域維持のリハビリテーション	その他のリハビリテーション
看取りを行った利用者	156 100.0%	100 64.1%	9 5.8%	119 76.3%	39 25.0%	13 8.3%	12 7.7%	28 17.9%	11 7.1%

4. 看取りを行った利用者

	回答利用者数	清拭浴・陰部洗浄	入浴介助	本人の精神的な状態の変化への対応	家族等への認知症の症状に合わせた関わり方の指導	家族等への介護に関する技術的な指導	在宅看取りへ向けた本人・家族との調整	ターミナルケア	睡眠のためのケア
看取りを行った利用者	156 100.0%	112 71.8%	88 56.4%	69 44.2%	26 16.7%	45 28.8%	77 49.4%	99 63.5%	26 16.7%

	回答利用者数	意欲向上や気分転換を促すケア	外出の支援	本人への療養指導	家屋の改善・療養環境整備の支援	その他	無回答
看取りを行った利用者	156 100.0%	31 19.9%	25 16.0%	12 7.7%	14 9.0%	4 2.6%	21 13.5%